

〔茅舍〕 パウシヤ かやぶきの家、自宅の謙稱。  
 〔茅店〕 パウテン 田舎の茶店。  
 〔茅芽〕 パウガ 草の名、つばな。  
 〔茅花〕 パウクラ つばな、草の名。  
 〔茅門〕 パウモン かやぶき屋根の門。  
 〔茅室〕 パウシヤ 粗末なる室。  
 〔茅屋〕 パウラ 茅舎に同じ。  
 〔茅柴〕 パウチヤ うすい酒、悪酒。  
 〔茅軒〕 パウケン 茅舎に同じ。  
 〔茅茹〕 パウジヤ 人が互に共同して進むことの喩。  
 〔茅圃〕 パウロ はいかり、雪隠。  
 〔茅栗〕 パウリツ 栗の一種。  
 〔茅茨〕 パウハイ 茂りたるかや。  
 〔茅堂〕 パウダウ 茅室に同じ。  
 〔茅堵〕 パウト 田舎の家の形容。  
 〔茅塞〕 パウツク 欲のために心が蔽はるゝと。  
 〔茅蚘〕 パウチウ 蟬の一種、ひぐらし。  
 〔茅蒲〕 パウホ 竹の皮の笠。  
 〔茅廝〕 パウシ かはや、せついでん。  
 〔茅廬〕 パウロ 茅室に同じ。  
 〔茅澤〕 パウサク 魚の名、くろだいの。  
 〔茅柴酒〕 パウシヤシユ にごりざけ。  
 〔茅茨不レ草〕 パウハイラス 屋根をかやにて葺

きしまゝにてそるへぬこと、儉約實素の形容。  
 〔茅塞二子之心一矣〕 パウシノココロヲサダ 茅塞に同じ。  
 〔菀〕 ボウ かや(茅)のぬなは(蓴)  
 〔菱〕 ハツ ハツ、バツ  
 〔菱〕 ハツ やどる、野宿す(こゆ)の(跋)  
 〔菱舎〕 バツシヤ 野宿すること。  
 〔菀〕 シ  
 〔菀〕 シ 山野に自生する一年草、むらさきぐさ。菀は蔓生花樹の一、のうぜんかづら。  
 〔菀〕 シ 薬草の一、あまあかな。  
 〔菀〕 シ 菀(草)のさつ、むらさき草。  
 〔菀〕 シ 茉莉は花卉の一

〔茗〕 メイ ミヤウ ちや、茶の芽、又其飲物(特に晚く採取した茶(ばんぢや))  
 〔茗坊〕 メイバウ 茶みせ。  
 〔茗汁〕 メイジツ 茶を煎じた汁。  
 〔茗具〕 メイグ 茗器に同じ。  
 〔茗香〕 メイカウ 茶のかをり。  
 〔茗圃〕 メイホ 茗園に同じ。  
 〔茗宴〕 メイエン 茗園に同じ。  
 〔茗話〕 メイワ 茶のみ話、一寸した話。  
 〔茗飲〕 メイイン 茶をのむこと。  
 〔茗園〕 メイエン 茶ばたけ。  
 〔茗肆〕 メイシ 茶を賣る店。  
 〔茗器〕 メイキ 茶器、茶道具。  
 〔茗髓〕 メイヱン 茶の湯の會。  
 〔茗荷〕 メイカ 多年生草本の一。  
 〔茗溪派〕 メイセイハ 東京高等師範学校の卒業者又は其學校に關係ある人々。  
 類語  
 佳茗 カイメイ 奇茗 キメイ 薄茗 ハクメイ  
 濃茗 ノウメイ 翠茗 スイメイ 新茗 シンメイ 茶苦 チャク  
 好茗 コウメイ 山茗 サンメイ 苦茗 クメイ

〔菀〕 ジュウ 蒲に似た一種の草。菀枝は關廣地方に生ずる木。菀枝はまさきのかづら。國訓わいし(菀枝、瓜の一種)  
 〔菀〕 ジュウ 菀枝の實。  
 〔菀〕 ジュウ 字解の(菀)及び(菀)を見よ。  
 〔菀〕 ジュウ 香草の一、おぼにら。  
 〔菀〕 ジュウ 前に同じ  
 〔菀〕 ジュウ 菀枝は大豆の一種。葵の一種、からあふひ  
 〔苻〕 コン 毛苻は原野に自生する毒草、きんぽう  
 〔苳〕 セン  
 〔苳〕 セン 蔓草の一、あかれ(苳)あかいろ、緑色  
 〔苳〕 ヒツ ヒツ  
 〔苳〕 ヒツ 俗に筆と同じく用ゐる(苳)一種の草

〔苳〕 シ 川苳に屬する一種の香草、よろひぐさ  
 〔苳〕 シ あしのほ(葦秀)  
 〔苳〕 シ ふく(か)かや、屋根を葺くかや(う)ばら、いばら(地)に布き生ずる一種の蔓草、はまびし(つむ)積  
 〔苳〕 シ 苳草(草) 草ぶき屋根に用ゐる草。  
 〔苳〕 シ 苳草(草) いばら。  
 〔苳〕 シ 苳草(草) いばらのかき。  
 〔苳〕 シ まぐさ、乾したくさ(水澤の中に生ずる一種の草)なは、つな  
 〔苳〕 シ 遠くひろきさま(う)つとりした貌、ぼんやりしたさま(ぼ)つとせるさま  
 〔苳〕 シ 芒洋(芒)洋に同じ。

〔苳〕 シ ばつとして判然しがたき(苳々) (バウバウ) 遠くひろくとせる貌。  
 〔苳然〕 バウゼン ぼんやりとせるさま。  
 〔苳惚〕 バウボツ ぼんやりとせる貌。  
 〔苳漢〕 バウハン ぼんやりとしてばつきり分らぬ貌。  
 〔苳濛〕 バウマウ はつきりせぬこと。  
 〔苳邈〕 バウバウ 遠くはるかなる貌。  
 〔苳〕 フク 苳は松の根に寄生する菌類  
 〔苳〕 ユ 茶更は樹木の名  
 〔苳〕 シ 茶更は喬木の一(國訓ぐみ(灌木の一、胡頹子))  
 〔苳〕 シ ます(む)しろ(席)の(苳)この、これ、こゝ、こゝに(苳)とし(年)  
 訓讀

【苳に年あり】苳有年矣。こゝにとしあり。年ひさし、ながねん。

苳

苳は川芎の苗  
【苳芒決明】カウバクツノイ山野に自生の蔓草。いたちさゝげ。

苳

苳香は香草の一、うゐきやう

茵

しきもの、しとね

【茵席】インセキ 次と同じ。  
【茵蔯】インジョク しとね、車中にしく敷物。  
【茵褥】インジョク 前に同じ。

茶

【茶】マサ チャ  
【茶】ちや、灌木の一、ちやの木、ちやのめ、茶の若葉、それを飲物の原料に製したものを【しんちや】、特に早く採取した茶【茶巾】マサチ ちやぶきん、茶碗を拭くふきん。

【茶色】マシヨク ①ちやいろ、茶の如き色。②茶の種類。  
【茶臼】マキウ ちやうす、茶磨。  
【茶技】マキギ 茶道に同じ。  
【茶伯】マキハク 茶道に通達したる人。  
【茶具】マキク 茶道具、茶器。  
【茶果】マキクワ ちやとくだもの。  
【茶店】マキテン ①かけちやム、ちやム茶を賣る店。  
【茶烟】マキエン 茶を沸かす煙。  
【茶宴】マキエン 茶の湯。  
【茶壺】マキエン 茶をいれるつば、ちやつば。  
【茶梅】マキバイ 花樹の一、さいんくわ。  
【茶船】マキセン 茶托に同じ。  
【茶焙】マキハイ 茶を製する具、ほいろ。  
【茶匙】マキシ 茶の湯に用ゐる匙、ちやさじ。  
【茶菓】マキクワ 茶果に同じ。茶と菓子。  
【茶道】マキダウ 茶の湯のわざ。  
【茶會】マキカイ 茶宴のあつまり。  
【茶話】マキワザ 茶のみばなし。  
【茶肆】マキシ 茶店の【】に同じ。  
【茶津】マキツ 茶の煎じかす、茶かす。  
【茶課】マキカ 茶の税金。  
【茶權】マキケン 政府が茶の專賣によつて利益を占めること。  
【茶儀】マキギ 茶の湯に關する作法。

【茶磴】マキダイ 茶臼に同じ。  
【茶磨】マキマ 前に同じ。  
【茶壚】マキロ 茶の湯を煮る壚。  
【茶人】マキジン 風流の人。  
【茶目】マキメ 俗におどけたることをいふ。  
【茶托】マキタク 茶碗をのせる臺。  
【茶食】マキシヨク 茶菓子。  
【茶室】マキシツ 茶の湯を催す室。  
【茶亭】マキテイ 茶店の【】に同じ。  
【茶師】マキシ 茶を賣る人。  
【茶湯】マキタウ 佛に供へる茶。たてた茶。  
【茶筌】マキセン 茶をかきまはす道具。  
【茶碗】マキワン ①茶を飲むに用ゐる器。②飯を盛る器。  
【茶粥】マキガユ 茶の汁を加へて煮たる粥。  
【茶番】マキバン 茶を出す役、おどけ役、狂言。  
【茶園】マキエン 茶ばたけ。  
【茶縞】マキジマ 織物の色の合の一、茶色の縞。  
【茶寮】マキレウ すきや、茶室。  
【茶器】マキキ 茶具に同じ。  
【茶飯事】マキハンジ ありふれたる事柄。  
【茶話會】マキワザカイ 親睦又は相談等の爲めにする簡單なる會合。  
【茶博士】マキハカセ ①茶を賣る人。②茶道に

精通せる人。  
【茶褐色】マキカクシヨク 黒味が、つた茶色。  
【茶香狂言】マキカクシヨク 遺化たるしぶり。をなす狂言。

類語

好茶マキリ 喫茶マキリ 苦茶マキリ 名茶マキリ  
焙茶マキリ 殘茶マキリ

苳

【苳】しげり(茂)②そろつてゐる鏡③はた(施)

茸

【茸】しげし、しげる②草や毛などの亂れたるさま③鹿茸は薬の一④賤しき者、おろかなもの⑤國訓たけ(茸)、又たけの如く生え出るもの。  
【茸茂】マキモウ 草のしげれるさま。  
【茸々】マキマキ 草の茂るさま。

茹

【茹】草木の根の連なるさま、又其根はかる(度)②くらふ(食)③くさる(腐)④

あかね(茜)②ゆびく、ゆでる、うでる  
①ひたしもの、ゆびきな  
【茹哀】マキアイ 心中のかなしみ。  
【茹慮】マキリョ あかね、茜。

苳

苳蒿は野菜の一、しゆんぎく

荀

人の姓(春秋戰國趙の人)  
【荀活】マキカクワ 假初めに生きながらへること。

荃

【荃】香草の一②ふしづけ(荃)魚を捕へるしかけ③ほそぬの

荻

【荻】カイ ガイ ね、草の根

荅

【荅】あたる(當)②ますめの名(合)③荅の俗字

荊

【荊】うばら(芙)いばら②しもと(刑杖)③自分の妻の謙稱④地名(古九州の一)  
【荊尸】マキシ 楚國の陣法。  
【荊妻】マキイメ 我妻の謙稱。  
【荊棘】マキキヨク いばら、雜木雜草。  
【荊榛】マキシ しばらとはしばみ。  
【荊關】マキケン 宋の名畫工、荆浩と關仝。  
【荊叙布裙】マキシキヨク 婦人の粗末なる服装の形容。

訓讀

【荊を負ふ】マキシヲオムル 謝罪の意を表すこと。

荇

【荇】水草の一、あさい

荇

【荇】コウサイ あさい

草

【草】植物の二類別の一、くさ②あらし、そまつ③いやし(鄙)④詩文のしたがき⑤書體の一⑥うれへるさま⑦いそがしきさま

【草人】オウジン 教育のなき人、みなかの人。  
 【草子】オウシ 筆のまゝに書き記した書物。  
 【草木】オウモク くさとき。  
 【草止】オウレ 野原等にともる、野宿。  
 【草本】オウホン ①草質の植物 ②文章等のし  
 たがき。  
 【草水】オウスイ いそがはしきこと。  
 【草色】オウシキョク 草のいろ、又くさいろ。  
 【草具】オウグ さまつたる膳部。  
 【草花】オウカク くさばな。  
 【草芥】オウカイ くさとあきた、轉じて取る  
 に足らぬ物。  
 【草服】オウフク 賤しい人の著物。  
 【草卒】オウソツ あわたし、倉卒。  
 【草味】オウマイ ①物事のまだ能く整はぬさ  
 ま ②世のはじめ、天下統一の初期。  
 【草芥】オウカイ くさとちがや、轉じて民間、  
 草芥。  
 【草臥】オウダツ 疲労すること。  
 【草屋】オウヤク 草ぶきの家。  
 【草書】オウショ 書體の一。  
 【草紙】オウシ ①手習をする紙 ②書畫文章  
 等のしたがき ③草子に同じ。  
 【草々】オウオウ ①愛へるさま ②忙しき貌。  
 【草案】オウアン 草案に同じ。  
 【草結】オウキツ くさとわら。

【草庵】オウアン くさぶきのいほり。  
 【草堂】オウダウ 田舎家の室。  
 【草野】オウヤ ①粗野のさま ②民間、在野。  
 【草展】オウケン 粗末なるはきもの、草履。  
 【草葉】オウエ ①草葉に同じ ②くさむらの  
 茂り荒れたる土地。  
 【草座】オウザ 草を編みて作りたる席、粗  
 末なる座席。  
 【草宿】オウシュク 草止に同じ。  
 【草莽】オウマウ ①草叢に同じ ②草野、在野。  
 【草創】オウソウ 粗略につくりはじめ。  
 【草間】オウカン 草ぶかき山野の土地。  
 【草賊】オウソク こねすびと、又百姓一揆。  
 【草聖】オウセイ むなかの家。  
 【草履】オウリ 草書の名人。  
 【草履】オウリ わらのはきもの、草履。  
 【草鞋】オウサイ 草のはきもの、わらぢ、わ  
 らんぢ。  
 【草寮】オウリョウ 草ぶきの家。  
 【草頭】オウトウ はずふ、くさばの上。  
 【草履】オウリ 草履に同じ。  
 【草齋】オウシヤ 虫の名、はたし。  
 【草録】オウリク 書體の名、草書と隷書。  
 【草書】オウショ やぶいしや、田舎いしや。  
 【草案】オウアン 詩文のしたがき、原稿。  
 【草蟲】オウチュウ 草原に棲むし。

【草叢】オウソウ やぶ、くさむら、草莽。  
 【草廬】オウロ 草庵に同じ。  
 【草竊】オウセツ 草賊に同じ。  
 【草露】オウロ 草葉のつゆ、はかなきもの  
 にとふ。  
 【草主】オウシュ 菊の別名。  
 【草繪】オウエ コマ繪の一種。  
 【草石置】オウセキチン 野菜の一、ちよろぎ。  
 【草莽区】オウマウク 民間に居るもの。  
 【草鞋錢】オウサイゼン 旅費の一部、行脚僧の  
 旅費。  
 【草薙劍】オウダゲノツルギ 三種の神器の一。  
 【草食動物】オウシヨクドウブツ 馬・牛・羊等の如  
 く草を常食とする哺乳動物。  
 【草木俱朽】オウモクトモニクツ 草木ともにもく  
 ちる如く無爲無能にて終ること。  
 【草根木皮】オウコンモクヒ ①草の根と木の皮  
 ②粗食の形容 ③漢方醫の藥の原料。  
 【草間求活】オウカンモウカツ 無慾無爲にして  
 生きること。  
 【草廬三顧】オウロサンコ 蜀の劉備が三たび諸  
 葛孔明の宅を訪問して出仕をすゝめし  
 故事。

類語

甘草 オウカン 仙草 オウセン 靈草 オウレイ 行草 オウリョウ

【醫草】オウイ 芳草 オウハク 豐草 オウボク 水草 オウスイ  
 蔓草 オウマン 茂草 オウモウ 腐草 オウフ 神草 オウシン  
 萬草 オウマン 百草 オウハク 香草 オウカウ 春草 オウシュン  
 翠草 オウスイ 碧草 オウヒキ 青草 オウセイ 藥草 オウヤク  
 秋草 オウシュ 露草 オウロ 遺草 オウイ 霜草 オウシュウ  
 庶草 オウシロ 雜草 オウザ 善草 オウゼン 美草 オウミ  
 淺草 オウセン 野草 オウヤク 蕪草 オウワ 遊草 オウユ  
 奇草 オウキ 珍草 オウチン 異草 オウイ 糧草 オウリョウ  
 諫草 オウカン 吟草 オウイン 詠草 オウエイ 碩草 オウシヤク  
 山草 オウサン 眞草 オウシン 兒草 オウジ 黃草 オウワウ  
 豐草 オウボク 荒草 オウカウ 砂草 オウサ

菽

ケウ 葵の一種、こあふひ、せにあふひ

荏

ジン ①まめ(豆) ②紫蘇の一種(え) ③やはら

【荏子】ジンシ エごま。  
 【荏苒】ジンゼン 物事のよびよくなること。  
 【荏弱】ジンジャク よわきこと、懦弱。  
 【荏桐】アブラギリ 桐油のとれる木、油桐。

荐

セン ①しきりにくさ(草) ②すゝむ(薦)

萑

タイ ①茅の初生のもの、つばな、又茅の類  
 ②稗の一種、いぬびえ

荒

クワウ ①ある、蕪穢、穀物果類などがみのら  
 ぬ、物事が亂れて整頓せぬ、あらず  
 ぶける、又すさむ、おろそかにす ②國  
 のはて ③畿内を中心とし五百里づみに  
 區別したる五等地のうち最外周の地  
 おほいなり(大) ④おほふ(掩) ⑤うつと  
 りするさま ⑥國訓あらし(てあら、亂暴  
 勇猛、風雨等のはげしきこと、粗大な  
 ること) ⑦あれ、又あれ  
 【荒亡】クワウバウ 狩獵酒色などにふけると  
 【荒土】クワウツ あれはてたる土地。  
 【荒天】クワウテン あれ、しけ、暴風雨。

【荒民】クワウミン 凶年の不運に遭ふ人民。  
 【荒田】クワウテン あれたる田地。  
 【荒戌】クワウジユ 遠國にそなへるまもり。  
 【荒服】クワウフク 王畿の外圍の五つの地域  
 【荒外】クワウグワイ 國の外、蠻地。  
 【荒安】クワウアン いつはりあること。  
 【荒怠】クワウタイ おこたりなまける。  
 【荒郊】クワウカウ あれたる町はづれの所。  
 【荒地】クワウチ であれたる土地。  
 【荒政】クワウセイ 凶年に人民を救ふ政治。  
 【荒放】クワウハク 心がすさみわがまよふこと  
 【荒原】クワウゲン あれの、あれたのはら。  
 【荒陋】クワウロウ あれはてゝむさくろし。  
 【荒神】クワウジン 悪人を罰する神の名。  
 【荒涼】クワウリョウ あれてさびしき貌。  
 【荒唐】クワウタウ 言辭のよりどころなきこと  
 【荒淫】クワウイン 酒色にふけりおぼれること  
 【荒敗】クワウハイ 土地があれ物事の破れ  
 亂れること。  
 【荒畦】クワウケイ 荒疇に同じ。  
 【荒陬】クワウソウ 荒邊に同じ。  
 【荒替】クワウタイ すたれる、あれてかはる  
 【荒野】クワウヤ 荒原に同じ。  
 【荒瀆】クワウダク 荒亡に同じ。  
 【荒遐】クワウカ 非常に遠きこと。  
 【荒惑】クワウワク 深く迷ひおぼれる。

【荒殘】クワウゼン あれてそこなはれること  
又そのもの。  
【荒遊】クワウイウ ふけりあそぶ、耽溺。  
【荒肆】クワウシ 我まゝにしてなまけること  
【荒裔】クワウエイ 遠きはてにあるくに。  
【荒誕】クワウタン よりどころなし。  
【荒歲】クワウサイ 穀物のみのらぬ年。  
【荒徑】クワウケイ 荒れたる小道。  
【荒遠】クワウエン 遠く離れた土地、へんぴ。  
【荒醉】クワウスイ 非常によひてみだる。  
【荒瘠】クワウセキ 土地がやせてあれたと  
【荒擾】クワウゼウ あれみだれる。  
【荒蕪】クワウワ 土地があれはてる。  
【荒廢】クワウハイ 時刻外に鳴く鶏。  
【荒邊】クワウヘン 片寄りて遠く離れた土地。  
【荒饑】クワウキ 荒饑に同じ。  
【荒穢】クワウタイ 荒蕪に同じ。  
【荒嶋】クワウシマ あれて耕作されぬ田地。  
【荒嶺】クワウリョウ 穀物のみのらぬと、凶作。  
【荒海】クワウカイ 波のあらし海洋。  
【荒布】クワウフ 海中に産する草、食用にす。  
【荒行】クワウキョウ 信者行者等のなす苦しき  
修業。  
【荒壁】クワウヘキ 壁の下ぬり。  
【荒磯】クワウイソ 波あらしいそ。

【荒唐之言】クワウタウケイノゲン 廣大にしてしまり  
なき言。  
【荒唐無稽之言】クワウタウケイムキノゲン よりどこ  
ろなき言、とりとめもなき語。  
類語  
凶荒クワウクワウ 要荒クワウクワウ 四荒クワウクワウ 洪荒クワウクワウ  
燕荒クワウクワウ 殊荒クワウクワウ 窮荒クワウクワウ 酒荒クワウクワウ  
豊荒クワウクワウ 淫荒クワウクワウ 色荒クワウクワウ  
七畫  
【荳】トウヅ  
①まめ(豆)②荳蔻は草の一  
【荷】カ  
①はす②蓮荷は藥草の一③になふ、引  
きうける、恩をありがたく感ず④にな  
ひ物、に、にもつ⑤怒み怒る聲、又し  
わがれ聲の形容⑥國訓に(にもつ、じや  
まもの、荷物を敷へる語)

【荷月】カゲツ 六月の異名。  
【荷包】カハウ ぜにいれ、財布。  
【荷負】カフ にもつを背におふこと。  
【荷香】カカウ 蓮の花のかをり。  
【荷氣】カキ 前に同じ。  
【荷々】カカ かわがれ聲の形容。  
【荷葉】カキヨ 蓮の花の異名。  
【荷聲】カケン みこしをかづく。  
【荷擔】カタン ①物を添へる②になふこと  
とかづくこと。  
【荷札】ニフダ 荷物につけるしるしの札。  
【荷車】ニグルマ 荷物を運搬する車。  
【荷物】ニモノ 持ちはこぶべき物品。  
【荷前】ノゼキ 古昔年末に十段八墓に幣帛  
を奉られし公事。  
【荷爲替】ニゴハセ 荷送人がその荷を擔保と  
して銀行より金を受取り荷受人は同額  
の金を銀行に拂ひて荷を受出す方法の  
爲替手形。  
【荷葉披麻】カエフヒマ 蓮の葉又麻の葉の開  
きし如く石の皺を畫く畫法。  
類語  
池荷カチ 紅荷カコウ 枯荷カコ 衰荷カス  
露荷カキ 碧荷カキ 綠荷カキ 初荷カシ  
蒲荷カホ 探荷カシ 薄荷カク 萬荷カバ

負荷カ 擔荷カ 重荷カ  
【荻】テキ  
葦の類、をぎ  
【茶】トタダ 茶  
①一種の野草、のげし②茅の一種にて  
白色の花を著けるもの③あれくさ④物  
事をそこなふもの⑤いつはる(借)  
【茶毒】トドク そこなひ破ること。  
【茶靡】トビ 薔薇科の落葉灌木の一。  
【茶毗】トビ 葬儀の一、火葬。  
【萎】スキ  
香草の一、ここにし  
【莉】リ  
茉莉は花卉の一  
【莅】リ  
のぞむ(澄)其位に即く、君臨する  
【莅決】リケツ 其位によりて決す、又出席

して物事を定める。  
【莅務】リム 事務に當る、つとめにのぞむ。  
【莅臨】リリン 其位局にあたること。  
【莊】ジャウ サウ 莊  
①おごそか(嚴)②かざる(飾)③つじ、  
六連の街④しもやしき、ひかへやしき  
⑤るなか、むらざと⑥みせ、店肆、田  
地⑦臺灣の行政区劃の一⑧國訓しやう  
(莊園の略)  
【莊士】サウシ 行儀作法の正しき人。  
【莊列】サウレツ 莊子と列子。  
【莊老】サウラウ 支那の莊子と老子、又君子  
の道。  
【莊妙】サウミョウ おごそかにしてたへなり。  
【莊重】サウチュウ おごそかにしておもみが  
ある。  
【莊姝】サウシュ おごそかにしてうるはし。  
【莊敬】サウケイ おごそかにしてつゝしむ。  
【莊慄】サウリョウ おそれてぞつとするさま。  
【莊語】サウゴ 正しき言葉。  
【莊椿】サウチン わか／＼しきこと、又極め  
て長生すること。  
【莊潔】サウケツ おごそかにして清らかなり  
【莊嚴】サウエン 莊子と離騷。

【莊戸】シヤウコ 農家、百姓家。  
【莊司】シヤウシ 昔莊園所有者の指揮を受け  
て其莊園の事務を取扱ひしもの。  
【莊園】シヤウエン ①中古皇子諸臣等に賜は  
りたる田園②しもやしき、別莊。  
【莊課】シヤウカ 小作米の類、領地たる田  
畠の收入。  
【莊嚴】シヤウエン けだかく立派にかざりて  
おごそかに見えること。  
【莎】サ  
①海邊に生ずる草の一、はますげ②莎  
雞は蟋蟀の屬、はたをりむし  
【莎草】サウソウ 野生植物の一種、かやつり  
ぐさ。  
類語  
岸莎サシ 青莎サイ 綠莎サキョク 碧莎サヘキ  
叢莎サソウ 露莎サロ  
莒 ①いも(芋)②周の國(今の山東省莒州)  
【莓】バイ メ 莓  
①こけ(苔)②いちごの一種、きいちご



毒を得るといふ。流水に菊を配したる紋所。

【菊月】 陰曆九月の異名、きくづき。

【菊秋】 前に同じ。

【菊判】 紙形の稱、巾二尺一寸長さ三尺一寸の大きの洋紙を十六片に切つた大きき、もと其洋紙の包被に菊花印を附したるより起る。

【菊婢】 鳳仙花のこと。

【菊節】 九月九日重陽の節。

【菊綴】 衣服の組紐を菊の形にして取りつけたるもの、古來の式服にあり。

【菊重】 衣服の重ねの名。

【菊半裁】 菊判の二分の一の大きき。

【菊花酒】 菊花を入れて造つた酒。

【菊一文字】 菊花を銘に表はしたる名刀。

【菊花大綬章】 菊花の模様ある最高勳章にして大勳位の者に賜はるもの。

類語

佳菊 秋菊 芬菊 芳菊

黄菊 白菊 丹菊 雲菊

殘菊 籬菊 露菊 霜菊

盆菊 陶菊 露菊 紫菊

菌

キン

菫

① たけ、きのこ、くさびら(蕈) ② 極めて微細なる下等植物

【菌毒】 菌類に含有する毒草。

【菌傘】 たけの頭、かさの蓋に似るよりいふ。

【菌褶】 菌の傘の下にあるひだ。

【菌草】 たけ、きのこ。

【菌類】 キンルキのこ類の總稱。

菫

コ

① 香草の一種 菫蕈、菫蕈

【菫蕈】 コニヤク 植物の一種にして食用に供す。

【菫蕈版】 コニヤクパン にはか・寒天・アラビヤゴム等にて水平に作りこれに文字を書き印刷する器械。

菝

シサイ

① 耕さぬ田地、あれち、又雑草の生えてゐる田地、開拓して未だ種をまかぬ田、開拓後一年目の新田(たち)がれ、たちがる(樹が立つたまゝ)かれること

菓

クワ

菘

① くだもの、このみ、果實 ② 食事以外に用ゐる娛樂性の食品、くわし

【菓子】 クワレ 字解の(同)に同じ。

【菓樹】 クワジュ くだもの木。

菔

フク

菔蕈はだいこん(蘿蔔)

菖

シヤウ

菝

① 水邊に生ずる香草の一種、しやうぶ、あやめぐさ ② あやめ草の一種、あやめ

【菝蒲】 シヤウブ あやめ、あやめぐさ。

菝

シユウ スウ

野菜の一種、たうな

【菝菜】 レユウサイ 菜の一種、たかな。

菝

サイ

菝

菝

タウ

真若は毒草の一種、とりかぶと

【菝菜】 キンサイのせり。

【菝々】 キンカン わづかなること、少きこと。

菝

キン

① 原野に自生する草、すみれ ② 毒草の一種、とりかぶと

【菝菜】 キンサイのせり。

【菝々】 キンカン わづかなること、少きこと。

華

クワゲ

華

① はな(花の古字)花さく ② はなやか、うるはし、盛んなり ③ うはべ(しらし(白)又白き粉)支那人が自國を稱する語 ④ 山の名(陝西省華陰縣所在)

【華下】 クワカ 花のさく下、はなかげ。

【華文】 クワブン はなやかなる文章。

【華甲】 クワカフ 年齢の六十一歳、還暦。

【華名】 クワイイ よきほまれ。

【華夷】 クワイ 支那と外國。

【華足】 クワソク 臺の足に花飾を刻みしものこと。

【華言】 クワゲン うはべのみで實なき言葉。

菝

トツ

① 菝絲は蔓草の一種、ねなしかづら

あをもの、な、やさい ② さかな、おかぢ

【菜瓜】 サイクワ あをうり。

【菜豆】 サイトウ 豆の一種、其軟莢を食用に供す。

【菜色】 サイレキ あをなの如き青い色、飢ゑたる顔つき。

【菜菔】 サイン なのつけもの。

【菜根】 サイコン 芋や大根などの粗末なる食物。

【菜肆】 サイレ 青物市、あをものや、八百屋

【菜蔬】 サイツ やさいもの。

【菜食者】 サイレキヤ 食しい生活をする人 ② 野菜類のみを食ひ肉食せぬ人。

【菜葉服】 ナツバフク 労働者の著る青色の服のこと

【菜薪之憂】 サイレノウレヒ 我が病、又疲勞する意。

【菜食療法】 サイレキョウホフ 肉食をさげ主として野菜を食して病氣を治する療法。

類語

蔬菜 ツイ 水菜 スキ 美菜 ビ 葎菜 タン

秋菜 シウ 莧菜 ツイン 芹菜 セン 苣菜 ヲイ

【華侈】クラシ はでにしておごる。  
 【華押】クラアツ 花押に同じ、かきはん。  
 【華表】クラヘウ ①神社の門、とりゐる。②墓所にたてる楕圓形の柱。  
 【華美】クラビ 花やかにして美しくし。  
 【華英】クラエイ 目ざましくすぐれて居ること。  
 【華屋】クラヤク 立派なる家。  
 【華客】クラカク 花客に同じ、とくる。  
 【華洛】クララク 花洛に同じ。  
 【華首】クラシュ 華顔の①に同じ。  
 【華食】クラシヨク 食をおごること、美食。  
 【華容】クラシヨウ 貴族の子弟をいふ。  
 【華時】クラシヨウ 花容に同じ。  
 【華時】クラジ 花のさくころ、花ざかりの時節。  
 【華軒】クラケン 貴人が乗用する立派な車。  
 【華夏】クラカ 支那本土の美稱。  
 【華紳】クラシン はでやかなる帯、紳士。  
 【華彩】クラサイ 美しきいろどり。  
 【華族】クラゾク ①公・侯・伯・子・男の五爵をいふ。  
 【華紳】クラケン はなやかなるいろあひ。  
 【華奢】クラシヤ はでなること。  
 【華間】クラカン 花間に同じ。  
 【華發】クラハツ 花の咲くさま。

【華鋼】クラテン 花管、はなかんざし。  
 【華景】クラケイ 陰曆一月の異名。  
 【華箋】クラセン ①美しき料紙。②華墨に同じ。  
 【華煥】クラクワン きらびやかなるさま。  
 【華實】クラジツ 外部となかみ、花と實、詞章と操行。  
 【華棧】クラスキ 彩り飾りたる柱。  
 【華墨】クラボク 他人の手紙の敬稱。  
 【華髮】クラハツ しらが、白髮。  
 【華篇】クラヘン 美しい文章、人の作文をほめていふ語。  
 【華舖】クラホ 立派なる商店。  
 【華燈】クラトウ 美しく飾つた燭臺。  
 【華意】クラケン 立派なる儀式。  
 【華翰】クラカン ①華墨に同じ。②よき筆。  
 【華燭】クラレク 花燭に同じ。  
 【華瑤】クラタウ 美しい耳かざり。  
 【華顔】クラガン 花顔に同じ。  
 【華粧】クラゼン 美しい模様ある毛布のこと。  
 【華麗】クラレイ 華美に同じ。

【華辭】クラジ うはべを飾りたる言葉。  
 【華饌】クラゼン みごとなる飯食。  
 【華瞻】クラゼン 文章の美しくして實あること。  
 【華鑿】クラマン 佛像の頂に垂れる造花の飾のこと。  
 【華清宮】クラセイキョウ 唐代の宮殿の名。  
 【華陽巾】クラヤウキン 隱者のかぶる頭巾。  
 【華文綾】クラモンリョウ 花の模様あるあやぎぬ。  
 【華鬘草】クラマンサウ 草花の一、荷包牡丹。  
 【華嚴宗】ケゴンシヨウ 佛教宗派の一。  
 【華胥之夢】クラシヨクノユメ ひるね。  
 【華燭之典】クラレクノテン 結婚式。  
 【華管茅束】クラクワンバウツク 夫婦相扶けて初めて用を爲す意、華管を束ねる時必ず茅を以てすることを夫婦の離れ難きことに譬へし語。  
 【華而不實】クラニシテヒナラズ ①花のみで實なし。②見かけ倒し。  
 類語  
 法華クワ 水華スイカ 素華ソウカ 朱華シュカ  
 荷華カ 黃華ワウ 節華セツカ 女華メウカ  
 銀華ギン 繁華ハン 京華キョウカ 物華モノカ  
 國華クニカ 英華エイカ 國華クニカ 榮華エイカ  
 浮華ウヅカ 優華ユウカ 玄華ゲンカ 聲華セイカ  
 纖華センカ 豐華トウカ 鮮華センカ 閑華カンカ

【菰】コ 池沼に生ずる水草の一、まこも(菰)。  
 【菰米】コベイ まこもの實。  
 【菰蒲】コホ まこも。  
 【菱】リョウ ①水草の一、ひし。②ひしがた、扁平なる四角形。  
 【菱荷】リョウカ ひしとはす。  
 【菱菱】リョウキ ひし。  
 【菱唱】リョウシヤウ ひしを探る者のうたふ歌。  
 【菱歌】リョウカ 前に同じ。  
 【菱蕨】リョウケツ ひしのみとはすのみ。  
 【菱蕨】リョウケツ よもぎ。  
 【菲】ヒ ①うすくす、うすし。②ざり(草履)。③菜の一、かうばしきさま。④花の美しき。

【葎】ハク 説、又草の茂るさま。①亂雑なるさま。②才能のぶきこと。  
 【菲才】ヒサイ 才能のぶきこと。  
 【菲食】ヒシヨク 粗末なる食物。  
 【菲々】ヒヒ ①かんばしきさま。②美しい貌。  
 【菲德】ヒトク 徳が人に劣れること。  
 【菲儀】ヒギ 薄謝の意、うすい御禮。  
 【菲質】ヒシツ にぶい性質。  
 【菲薄】ヒハク うすし、又うすくす。  
 【菴】アン 庵に同じ。  
 【葦】アシ 實の多きさま、草木のしげれる貌。  
 【葦】アシ ①つけもの、かうのもの、鹽や酢に漬けたる生の菜蔬果實。②草の深き澤。③鹽肉にすること。  
 【葦蘆】アシロ すにてつけたる菜の進物。  
 【葦蘆】アシロ つけ菜とし、びしほ、轉じて誅戮。  
 【葦酢醃】アシソノチウ 人を斬ること。  
 【莢】タン

あしの一 種  
 【菽】シユク まめ(豆類の總稱)  
 【菽麥】シユクバク 豆とむぎ。  
 【菽腐】シユクフ 豆腐。  
 【菽藿】シユククワ まめ。  
 【菽醬】シユクシヤウ まめのしほづけ。  
 【菽水飲】シユクスイノクン 豆や水を飲食し貧しく、らしながら孝行すること。  
 【其】キ ①まめがら。②菽の一種。  
 【萃】スイ ①あつむ、あつまる、あつまり(衆)。②あつむ(薈)。  
 【萃集】スイシツ あつめる。  
 【萃惡】スイアク やせたるさま。  
 【萃聚】スイシュウ 方々よりあつめる。  
 【萃萃】スイスイ うつくしくかやくこと。  
 【萃萃】スイスイ 廻旋するさま。  
 【萃曠】スイクワウ 廣く大なり。  
 訓讀

【萃を抜く】拔萃すをぬく、多くの中よりぬけてる。

【萄】 タウ ドウ 葡萄は蔓生果樹の一、葡萄

【萐】 ヘイ ヒ ①おほふ(蔽)②萐蔽は蔓生野草の一、ところ

【莖】 チャウ 蔓草の一、いららぐさ

【菜】 ライ ①あかざ(藜)②くさむら③地味不良にして年々植付の出来ぬ田④草を除くと⑤菜蕪はだいこん

【菜蕪】 ライ ヤ えばすの名。【菜蒸】 ライ ジャウ あかざを蒸して食料とすること、即ち粗食なること。

【菜妻】 ライ ツイ りなか育ちの妻、自分の妻。【菜蕪】 ライ ヲウ 野菜の一、大根。【菜蕪】 ライ ヲウ 雑草のしげれる土地。

【萑】 セイ サイ ①草木の盛んに茂る貌②妻の行くさま③美しき模様④うやくしきさま、つしむ

【蒨】 セイ ヒ 美しき模様。【蒨々】 セイ セイ 雲の動く貌②草木のしげれる貌。

【萌】 ハウ ミヤウ ①きざし、めげえ、めざし、おこりきざす、もゆ、芽を出す、又おこる、はじまる②たみ(民)③動かざるさま④たがやす(耕)

【萌生】 バウ セイ めげえ、種子より芽が出る。【萌手】 バウ コ 動かざる貌。【萌兆】 バウ テウ 兆候、きざし。【萌芽】 バウ ガ ①めぐむ、芽を出す②おこる、始まる、きざす③めげえ。

【萌動】 バウ ドウ 草木が芽をふき始めること又物事のおこり。【萌漸】 バウ シン いとぐち、物事のきざし。【萌隸】 ハウ レイ 広く臣民のこと。【萌蘖】 ハウ ケツ 芽とひこげえ、又物の生ずること。

【萌潰】 バウ クヰ くづれて破れること。【萌黄絨】 セイ ヤウ シ もえぎ糸にて綴り合せたる毳。

【萍】 ヘイ ビヤウ 水草の一、うきくさ

【萍水】 ヘイ スキ 水にうき草。【萍泊】 ヘイ ハク 次に同じ。【萍寓】 ヘイ グ 一時身を他によせること、又さまよふ。【萍藻】 ヘイ サウ うきくさ。【萍蹤】 ヘイ ショウ 四方に奔走して一處に定住せぬさま。

【萍泛】 ヒヤウ ハン よるべなくうき草のながれたじよふが如くさすらふこと。【萍流】 ヒヤウ リウ うき草の如くさすらひ流るること。【萍水相逢】 ヘイ スキ セウ ヒョウ うきくさと水とが出あふこと、旅行中などに偶然知己になること。

類語

枯萍(ヘイ) 沼萍(セウ) 密萍(ヒツ) 浮萍(フイ) 白萍(ハク) 流萍(リウ) 漂萍(ヒョウ) 新萍(シン) 紫萍(シ) 疎萍(ソ) 雙萍(ソウ)

【萎】 キ ①草木が衰へしぼむ、しほれる②支へる力が無くなる、なゆ③衰微する、衰へ疲れる④病氣になる、やみつ⑤草の

【萎木】 キ ボク しほれたる木、枯木。【萎死】 キ シ しほれて死す、しほれ枯れる。【萎凋】 キ テウ しぼむ、しなびる。【萎縮】 キ ショク なえちじまる、衰へる。【萎靡】 キ ビ つかれうえる。【萎靡】 キ ビ 活氣が無くなる、なえしぼむ。

【菑】 タン 齒菑はす(蓮) 菑(菑) クワン

【萩】 シウ ①はぎ、自生の灌木②よもぎ(蕭)くさよもぎ③ひさぎ(萩)

九畫

【萬】 マン ①よろづ、千の十倍、多い数を示す語②舞樂の名③もし、まんに一つも、ばん、決して

【萬人】 マン ニン すべての人、多数の人。【萬千】 マン セン さまじく、千萬、数の多いこと。【萬口】 マン コウ 多数の人のこと。【萬方】 マン パウ ①種々の方法②萬邦に同じ

【萬水】 マン スイ 多くの河川。【萬化】 マン カワ 萬物が天地の氣により帝王の徳をうけて成育すること。【萬古】 マン コ ①太古、おほむかし②としへ、いつまでも。

【萬仞】 マン ニン 深さ又は高さの甚しきと。【萬民】 マン ミン あらゆるたみ、萬姓。【萬死】 マン シ 死の免れがたき危き場合。【萬有】 マン イウ 萬物に同じ。【萬全】 マン セン 少しのおちもなく全きと

【萬安】 マン アン 間違ひのなきこと。【萬邦】 マン パウ 多くのくに、萬國。【萬別】 マン ベツ さまじく、くさく、多くのわかち。

【萬物】 マン ヲツ 天地間の總てのもの、森羅萬象。【萬狀】 マン ジョウ いろ／＼の状態。【萬事】 マン ジ あらゆる事、すべてのこと、萬事萬端。【萬金】 マン キン 多くのかね、又その高。【萬卒】 マン ソウ 多くの兵卒。【萬姓】 マン セイ ①あらゆる役人②萬民。【萬重】 マン チョウ 多くかさなり合ふこと。【萬派】 マン パ 多くのえだ川。【萬乘】 マン ジョウ 一萬の兵車、轉じてそれを自由に出し得る土地を有する君主、又天子のこと。【萬般】 マン パン かず／＼、いろ／＼。【萬殊】 マン シュ さまじく異なること。【萬能】 マン ノウ ①あらゆる事にきよめがある②何にても出来る才能。【萬望】 マン ボウ 何事をおいてもものぞむ、是非にのぞむ。【萬國】 マン コク 萬邦に同じ。【萬頃】 マン ケン 水面・土地等の廣き形容。【萬域】 マン イキ 色々のくに、もろ／＼の國。【萬幾】 マン キ すべてのもつりごと。【萬尋】 マン ジン 非常に深きさま。【萬象】 マン ショウ ありとあらゆるもの、森羅萬象。



【萬衆】バンシユウ 衆庶、多數の人。  
 【萬感】バンカン 次々と起るいろ／＼の感じ。  
 【萬々】バンバン ①数の非常に多きこと、又その数②決して、とても。  
 【萬雷】バンライ 多くのかみなり、大聲を形容する語。  
 【萬福】バンフク ①おほくの幸福②人に挨拶する時の敬語。  
 【萬障】バンシャウ あらゆる障害。  
 【萬壽】バンシユウ 長命を祝することば。  
 【萬態】バンタイ さま／＼の有様、千態。  
 【萬端】バンタン ①すべての事②種々さまざま③あらゆる手段方法。  
 【萬殊】バンシユ 萬態に同じ。  
 【萬億】バンイック 極めて多き數。  
 【萬機】バンキ 一國の政事。  
 【萬難】バンナン 厚く禮をのべる、平に詫る。  
 【萬壑】バンガク 多くの谷。  
 【萬性】バンセイ さま／＼の形。  
 【萬難】バンナン あらゆるくるしみ。  
 【萬類】バンレイ すべて之物。  
 【萬變】バンベン いろ／＼に變る、千變萬化。  
 【萬類】バンレイ 風及び他のすべての音響。  
 【萬一】マンイツ 萬分の一、萬に一、ひよつと。  
 【萬目】マンメク 衆人の見る所。  
 【萬馬】マンバ たくさんの馬。

【萬劫】マンゴフ 極めて長き時間。  
 【萬卷】マンダワン 澤山の書物。  
 【萬病】マンビヤウ あらゆる病氣。  
 【萬鈞】マンケン 非常に重きこと。  
 【萬歲】マンサイ ①昔正月五日に行はれた公事、まんざい②祝賀の時上下一般に用ゐる語③萬代、よろづよ。  
 【萬燈】マントウ 多くの燈明。  
 【萬雨】マンウ 小灌木の一。  
 【萬戶侯】マンコウ 一萬戸の土地を領する大名。  
 【萬世功】バンセイノコウ 末代まで残るてがら。  
 【萬世則】バンセイノノリ 萬代の末までのりとなること。  
 【萬世業】バンセイノゲフ いつまでも續く事業。  
 【萬里任】バンリニニ 王都を離れて遠國を守る役目。  
 【萬事休】バンシキウス 如何ともし難くなる。  
 【萬物靈】バンブツノレイ 萬物中最も靈智なるもの、即ち人間。  
 【萬歲後】バンサイノチ 天子の死後、又臣下の場合にもいふ。  
 【萬歲攝】バンサイノハタ 即位式に立てる旗。  
 【萬壽節】バンシユセツ 支那の天子の誕生日。  
 【萬鐘祿】バンシユノロク おほくの俸祿。  
 【萬三屋】マンシツヤ 千三屋と同意。

【萬年床】マンネンドコ 一高寄宿舍の名物とせざる敷きはなしの寢床。  
 【萬分一】マンブツノイチ 澤山の中のひとつ。  
 【萬年青】マンネンサイ 多年生草の一、おもと。  
 【萬々一】マンマンイチ ごくまれに、まんいち。  
 【萬歲樂】マンサイラク ①古代正月に宮中にて行はれたる舞樂②唐の則武后のはじめたる舞樂の名③地震の時に唱へる呪詞  
 【萬夫之望】バンフノノゾ 萬人に仰ぎ慕はれること。  
 【萬夫不當】バンフタウ 萬人の多勢にて向つてもかたぬ。  
 【萬世一系】バンセイイツクイ 永久に血すぢが變らずして帝位を嗣ぐこと。  
 【萬世不刊】バンセイイカシ 萬世までもけづりとなることのできぬこと。  
 【萬世不易】バンセイイフキ いつまでも變らぬ  
 【萬有神教】バンイウシノクウ 神物は同一體であると説く教義。  
 【萬里同風】バンリドウフウ 天下統一のさま、到る所風俗が同じい。  
 【萬國部落】バンコクブツク 相州輕井澤の異名  
 夏期には避暑の爲め諸外國人が集まるよりいふ。  
 【萬葉一統】バンエフイツトウ 萬世一系に同じ。  
 【萬有引力】バンイウインリキ 物體の互に引合

ふ自然力。  
 【萬不レ失レ一】マンニイチャウシナハズ 少しも間違ひなき意。  
 【萬劫末代】マンガゴマゴダイ 永遠の後、萬代の後。  
 【萬年新造】マンネンシゾ 年とつても老いない婦人のこと。  
 【萬綠叢中紅一點】バンリョクサウチュウコウイッテン あを／＼と茂るくさむら中に唯だ一つ赤い花が開いてゐる、多くの男子の中にたゞ一人の婦人がまじること。

【萱】ケン クワン  
 ①宿根草の一、わすれぐさ②國訓かや(葦に似た一種の宿根草)  
 【萱艸】ケンサウ 草の名、わすれぐさ。  
 【萱堂】ケンタウ 母親のこと。

【萵】ワ  
 萵苣は菜蔬の一、ちさ、ちしや

【萸】ガク  
 萸に同じ

花被の外側の部分、うてな

【落】ラク  
 ①おつ、草木の葉や花が散る、さがる、くだる、へる、少くなる②手にはひる、其人の物となる③はまる、落込む、死ぬ、たふれる、ぬける、脱却する④しづむ、かくれる、又くづれる、衰へる⑤おとす、さげる、くだす、攻めとる、ぬきとる⑥くだく、あらす、やぶる⑦うしなふ、なくする⑧おちぶれる⑨家を新築する時に行ふ儀式⑩竣工するできあがる⑪むら、人のあつまり⑫へい、まがき⑬雨だれのしづく⑭國訓おつ(やむ、静まる、なくなる、わかる、會得する、白狀する、逃げ延びる)おとす(にがす、話の結果をしやれで附ける、籠の火を消す)おち(おとしばなしの結末、おちること)

【落日】ラクジツ ゆふひ、夕陽。  
 【落手】ラクシュウ けとる、入手。

【落下】ラクカ 落ち下ると、又其他動詞。  
 【落木】ラクボク 葉のおちた樹木。  
 【落句】ラクク 漢詩の起句又は結句。  
 【落外】ラクグワイ 京都の市外、洛外。  
 【落札】ラクサツ 入札物件を落し取ること。  
 【落字】ラクジ 書きおとしたる文字。  
 【落托】ラクタク 落寢に同じ。  
 【落伍】ラクゴ 兵士が其隊よりはづれること。  
 【落成】ラクセイ 家屋等が新しく出来あがること。  
 【落拓】ラクタク 心のひろきさま。  
 【落泊】ラクハク 落魄に同じ。  
 【落命】ラクメイ 死ぬこと、いのちをおとす。  
 【落花】ラクカ 落華に同じ。  
 【落居】ラクキョ 落ちつくこと。  
 【落後】ラクゴ 人におとりおくれること。  
 【落英】ラクエイ 落華に同じ。  
 【落首】ラクシュ 諷刺滑稽などの意を含め故意に路傍等におとしておく歌。  
 【落胤】ラクイン 貴人の私生兒、おとしだね。  
 【落紅】ラクコウ 紅き花の散ること。  
 【落城】ラクギョウ 戦ひに敗けて城が落ちること。

【落宴】ラクエン 新築落成の祝宴、俗に座敷びらき。  
 【落馬】ラクバ 馬からおちる。  
 【落書】ラクショ ①門又壁などのいたづらが



①世又は時代●わかれ、すえ、末端●かみふだ●紙敷を敷へるにいふ語●春秋時代の楚國の邑

- 【葉子】エフシ 草木の葉又はよろひのさね。
- 【葉片】エフヘン 葉の廣く開展したる部分。
- 【葉肉】エフニク 葉の葉脈以外の部分の稱。
- 【葉仔】エフレ 草木のわかば。
- 【葉托】エフタク 葉脚の左右に附著せる一子葉。

- 【葉序】エフジヨ 葉の莖幹に排列して生じたる状態。
- 【葉柄】エフヘイ 葉のくき。
- 【葉脈】エフメイ 葉の表面に分布する條脈。
- 【葉腋】エフエキ 葉と莖との間の稱。
- 【葉菜】エフサイ 葉を需要する菜類の總稱。
- 【葉鐵】エフテツ 薄き鐵板に錫をめつきたるもの、ぶりき。
- 【葉月】エフゲツ 八月の別名。
- 【葉書】エフシヨ 端書ともかく、郵便はがき。
- 【葉綠體】エフリョクトイ 葉肉中にあり植物體の營養分をつくる綠色の小球體。
- 【葉綠素】エフロクソ 植物の葉肉中にある綠色の色索。
- 【葉鞘部】エフセウブ 植物の並行脈葉の下部にあり葉柄の管状をなして莖を包む部分。

【葉櫻藝者】ハゲクラゲイシヤ 花の美しさも年増のあてやかさも過ぎたる老妓、又新開地に來る藝者のこと。

【葉公好龍】セフコウリョウコノム 賢者を優待するに名のみにて其實なき喩。

訓讀  
 【葉に歩す】 歩し葉をよみず 落葉を踏みてあるく。

**莖** ジウ

**莖** フク

**莖** リツ

**莖** ホウ  
かぶら、かぶ、蕪菁

**莖** 苗に同じ

**莖** ジン

**莖** カツ

山野に自生する蔓草の一、くず【葛布】カッパ くずおり、葛絲のおりもの。【葛衣】カクイ くず絲にて織つた著物。【葛衣】カクキョウ 葛は夏の衣服、衣は冬の衣服、かはごろも●なつふゆ一年間の稱。

- 【葛根】カラコン 藥の名、葛の根。
- 【葛溝】カワコウ 古代喪禮を知らざりし時代葛にて尸體を包み溝の中に棄てし故事
- 【葛藤】カクドウ ①くずとふぢ②こみいりてごた／＼すること。
- 【葛藟】カクライ ①葛の類のつる草②身にまつはる困難。
- 【葛籠】カクワウ ①くずの蔓にて編みしかご、つぼら。

①葡萄は蔓生果樹の一②歐洲の國名、葡萄牙の略

**莖** 蓋に同じ

**董** トウ

●たいす、監督する、特に法務又は佛寺内の大衆を監督すること●はかる●はすのね、蓮根●骨董は古道具

- 【董正】トウセイ たいす、匡正す。
- 【董巨】トウキョ 宋の有名な畫工董源と巨然
- 【董理】トウリ 正しくをさめること。
- 【董骨】トウボネ トリしまりて世話す。
- 【董々】トウトウ 毛髪の短き貌。
- 【董狐之筆】トウコフデ 董狐は晉の歴史家にしして趙宣子が其君靈公を弑したることを歴史に直筆せし人、轉じて歴史を直筆して忌み懼らぬ意。

**葦** キ

葦

①莖の大きなもの、あし、一説に蘆と同物ともいふ●小さき舟

- 【葦巢】アシヤ 不安のさま、定まらずふらふらと身のおきどころなきをいふ。
- 【葦籥】アシヤク 葦にて作れる笛のこと。
- 【葦手】アシテ 文字の書き方の名、あしてがき。
- 【葦毛】アシゲ 馬の毛色の稱、白色に黒色の毛のまだらに入りたるもの。

**葩** ハ

- 【葩卉】ハクイ 草花、花卉に同じ。
  - 【葩經】ハクイ 詩經の異稱。
  - 【葩葉】ハクエフ 花びらと木のめばえ。
- 類語
- 紅葩ハコウ 奇葩バキ 葩葩ハハ
  - 殘葩ハザン 紫葩シ 群葩ハクン
  - 靈葩ハレイ 春葩ハシュン 蓮葩ハレン 天葩ハテン
  - 重葩ハチュウ 繁葩ハフク

①莖菜の一、おほひる、にんにく●蒔藪はふくべ

**蒔** サウ

●はらむる、轉じて見えなくなる貌●はらむり(葬儀)

- 【葬穴】サウケツ 尸を埋めるあな、塚穴。
- 【葬式】サウシキ 葬儀に同じ。
- 【葬具】サウグ 葬式に用ゐる佛具。
- 【葬送】サウソウ とむらひ、送葬。
- 【葬祭】サウサイ はらむること、まつると。
- 【葬儀】サウギ 葬送の儀式。
- 【葬禮】サウレイ 前に同じ。
- 【葬儀社】サウギシヤ 營業的に葬式のことを取扱ふ所。
- 【葬魚腹】サウイブクニハラムラメ 水に投じて死すこと、轉じて水葬の意。
- 【葬儀電車】サウギデンシャ 特に葬式用に充てる電車にて名古屋市にて初めて運轉せしもの。

類語

- 合葬カガツ 改葬カカイ 薄葬ハク
- 厚葬コウ 收葬シュウ 反葬ハン
- 會葬カイ 檢葬ケン 水葬スイ
- 土葬ド 烏葬ウ 斂葬レン 附葬フ
- 火葬カ 奢葬シャ 送葬ソウ

葎

カ 葎

①あし、よし ②笛の一種、あしぶえ  
【葎葎】カク あしの葎中の薄き膜、轉じて極めて薄き物事。

葎

カキ よし、あし。

葎

カク テキ

①葎の略字 ②白芷の葉 ③植物の生殖器にして雄蕊の先端にあり花粉を藏するもの ④まとふ(纏)

葎

スキ シュン

①葎の一種 ②草木の大いに茂ること

葱

ソウ サウ

①菜蔬の一、ねぎ ②草木の青々と茂るさま ③にぐるま、輜車

葱

ソウヘキ 非常に浅き藍色。

①葱青(ソウヘキ) ②あを(葱)としたるさま ③野菜の一、ねぎ。

【葱味】ソウマイ 暗愚なること。

葎

キ 葎

①葎は草木の花、又葉などの茂る貌 ②盛んに垂れさがる貌 ③草の名、あまどころ ④此葎はのうぜんかつら

【葎葎】キレン 草のしげれるさま。

【葎葎】キスキ さかんなる形容。

葵

キ 葵

①花卉の一、あふひはかる(葵) ②國調あふひ(花卉の一、紋所の名)

【葵心】キレン 人をしたふ心。

【葵傾】キケイ 向日葵の花が日光に向ふこと、轉じて君主又は長上を尊敬してまごころを盡すこと。

【葵權志】キケンシ 君主又は長上にまごころをつくす心。

葎

シジ 葎

①葎は茴香の一種(ラウ) ②國調まく(たねを下す、播種する、粉末を散らす)

【葎種】シシヨク 種子をまきうる、耕作すること。

【葎繪】シシヨク 漆にて畫などを畫きて夫れがまだ乾かぬうちに金・銀粉をまきつけ更に夫れにみがきをかけて光澤を出したるもの、まさる。

蒙

ボウ モウ 蒙

①つける、かうむる、かうむらす、うけたまはる ②をかす、進んでひきうける ③いたぐ、かふる ④おほひかくす、つゝむ ⑤あざむく(欺) ⑥くらし(暗) ⑦こども(小兒)無智 ⑧自己の謙稱 ⑨せらる(被)らる ⑩易の卦名 ⑪蒙古の略稱 ⑫まじりばね(雜羽)

【蒙士】モウシ おろか者、無智の人。

【蒙戎】モウジユウ 蒙茸の ②に同じ。

【蒙耳】モウジ 耳をつゝむ、人の言を聞かぬこと。

【蒙古】モウコ 支那の西北部にある國名。

類語

山葵(サンカイ) 楚葵(チカイ) 露葵(ロカイ) 戎葵(ジュカイ)  
綠葵(リョウカイ) 防葵(ボウカイ) 旅葵(リョウカイ) 傾葵(ケイカイ)  
黃葵(ワウカイ)

葎

クン コン

①葎・葱等の如き味のからき菜及香の臭い菜の總稱 ②肉食、なまぐさきもの ③人種の名

【葎肉】クニク なまぐさきもの。

【葎酒】クニシユ なまぐさきものと酒。

【葎菜】クニサイ くさみある野菜の總稱。

葎

シフ 葎

①ふく、つくるふ、おほふ ②重疊する、かさなる

【葎葎】シフバク かやにて屋根をふく。

【葎葎】シフシフ かさなるさま。

葎

モウマイ 愚昧、おろか。

【蒙茸】モウジヨウ ①雜草の生ずるさま ②物事の亂れる貌。

【蒙辜】モウコ 無實の罪をかうむること。

【蒙叟】モウソウ 莊子の別稱。

【蒙鳩】モウキウ 鷓鴣の異名。

【蒙々】モウモウ ①さかんなる貌 ②くらし貌

【蒙塵】モウジン 天子が難を避けて逃れると樹木がぐらき程に上げれるをいふ。

【蒙衝】モウシュウ いくさぶね、鐵籠。

【蒙羅】モウロウ おほひかぶさるさま。

【蒙絡緜緜】モウラクニニ 蒙絡は蔓草などのはびこりからみつこと、緜緜は枝葉のつらなり動くこと。

【蒙落】モウラク 發蒙落(もつとまひし) 物事の甚だやすき形容。

葎

サン

宿根草で葎菜の一、にんにく、おほびる

葎

ク

葎

ク

蒭

蒭蒭は宿根草の一、こんにやく、蒭蒭  
ハウ ベウ  
午蒭は蔬菜の一

蒭

①あかね(茜)②草の盛んなるさま③あ  
ざやかなる貌  
【蒭々】センセン ④鮮明なるさま⑤草の盛ん  
に茂るさま。

蒭

茅に似たる植物、又それにて織りし席

蒭

芻の俗字

蒭

菅の一種、あぶらがや

蒭

①標捕はぐち②がま(蒲)

蒭

ホ プ フ ゴ  
蒭

①水草の一、がま、かば、かま②かは  
やなぎ(楊)③はらばら(芻)  
【蒲伏】ホフク はらばら、芻芻。  
【蒲服】ホフク 前に同じ。  
【蒲柳】ホリウ ④柳の一種、かはやなぎ⑤  
身体のよわきに喩ふ。

【蒲節】ホセツ 五月五日端午の節句。  
【蒲博】ホハク 標捕と博奕。  
【蒲葦】ホキ がまとよし。  
【蒲葵】ホキ 木の名、檳榔。

【蒲團】ホタン ふとん、しとね。  
【蒲褥】ホジュク がまのむしろ、ふとんに同  
じ、粗末なるしとね。  
【蒲輪】ホリン 老人を乗せる車、蒲の葉に  
て輪を包みしもの。

【蒲盧】ホロ がまとあし、共に生長し易き  
より政治の行はれやすきに喩ふ。  
【蒲鞭】ホメン がまのむち、打たれても痛  
くないことに喩ふ。

【蒲公英】ホコウエイ 野草の一、たんぽぽ。  
【蒲團蒸】フンジュウ 蒲團を何枚も重ね上  
りおさへ付けて苦しめる制裁。  
【蒲柳之姿】ホリウノスガタ 體質のよわくし

類語

き姿をいふ。  
翠蒲ホキ 東蒲ホク 深蒲ホシ 蕉蒲ホウ  
茅蒲ホウ 網蒲ホシ 葛蒲ホキ 菘蒲ホコ  
莞蒲ホク 戰蒲ホシ 葦蒲ホキ

蒭

植物の種子を包める殻

蒸

シヨウ  
ジヨウ

①たみぐさ、多くの人民②細いしばの  
木③むす、ふかす、湯氣をあてゝ煮る  
④すゝむ(進)⑤冬の祭禮の名  
【蒸民】ジヨウミン もろくの民、庶民。  
【蒸炊】ジヨウシキ むしかしぐこと。  
【蒸氣】ジヨウキ ゆげ、蒸發した氣體。  
【蒸炮】ジヨウパウ むしやきすること。  
【蒸發】ジヨウハツ 液體又は固體が氣體とな  
りて發散する現象。  
【蒸祭】ジヨウサイ ふゆの祭記。  
【蒸暑】ジヨウシュ むしあつし、溽暑。  
【蒸庶】ジヨウシロ たみぐさ、人民。  
【蒸々】ジヨウジヨウ ①向上する貌②物事の多  
くあるさま。

意、あをし②草木の茂れるさま③髪  
白髪まじりの貌④あわてるさま⑤老い  
たる貌  
【蒼天】サウテン ①あをぞら、蒼空②春の空。  
【蒼生】サウセイ あをひとぐさ、人民。  
【蒼朮】サウジュツ 藥草の一、をけら。  
【蒼官】サウカン 松の異名。  
【蒼空】サウクウ あをぞら。  
【蒼昊】サウカウ 前に同じ。  
【蒼穹】サウキウ 同上。  
【蒼卒】サウソツ あわてるさま。  
【蒼曼】サウマン あをぞら。  
【蒼苔】サウタイ 蒼蘚に同じ。  
【蒼皇】サウクウ あわてる貌。  
【蒼海】サウカイ あをうなばら、大海。  
【蒼茫】サウマウ あをく廣々したさま。  
【蒼浪】サウラウ みだれるさま。  
【蒼莽】サウマウ ①あをく々と遙かに離れて  
見えるもの②あをく々と茂る草むら。  
【蒼涼】サウリウ ものさびしきこと。  
【蒼黃】サウクウ ①蒼卒に同じ②物事に變  
化多く一定せぬ貌。  
【蒼然】サウゼン ①あをくとしたるさま②夕  
方の景色③古びたる色。  
【蒼溟】サウメイ 蒼海に同じ。  
【蒼翠】サウスイ あをみどり色。

【蒼々】サウサウ ①老いたるさま②青々とせ  
る貌、又その色③茂り生ずるさま④髪  
の白くなりかゝりたるさま  
【蒼蒼】サウサウ 青々としげりたる草、又其所  
の白くなりかゝりたるさま。  
【蒼惶】サウクウ あわておそれること。  
【蒼頡】サウケツ 黄帝の臣にして鳥跡を見て  
始めて文字を製作したる人。  
【蒼頭】サウトウ ①我國の足輕の類、青頭巾  
にて頭をつゝむ兵隊②やつこ、しもべ。  
【蒼龍】サウリウ ①老いたる龍、老松の形  
容②東方七宿の星の名。  
【蒼頽】サウタン 老衰したる顔色。  
【蒼蠅】サウリウ あをばへ、人を讒言する小  
人に喩ふ。  
【蒼蘚】サウゼン あをごけ、蒼苔。  
【蒼鷹】サウリウ 羽毛が蒼白色を帯びたる  
鷹、しらたか。

蒭

蒭蒭は藥草の一、たうごま  
【蒭麻子油】ヒマシユ 蒭蒭の實より絞り取り  
たる油。

蒼

あを、草のあをき色、一般に青色の  
たる油。

蒼

あを、草のあをき色、一般に青色の  
たる油。

【蒿目】カウモク 心配して視るさま。  
 【蒿矢】カウシ よもぎにて作りたる矢。  
 【蒿里】カウリ ①葬式の時にうたふ歌。②泰山の南にありて人の死後魂魄が來り留まるといふ山。③墓地の意。  
 【蒿萊】カウライ よもぎやむぐらの繁茂するさま。

【蒿雀】カウシヤク 候鳥の一、あをじ。  
 【蒿蘆】カウロ よもぎの家、自分の家、茅屋。  
 【蒿藜】カウレイ よもぎやきび、粗末な食物。

蓀

蓀の一、はなあやめ

蓼

【蓼】シ 物事の多く集まるさま。①葉の盛んに茂るさま。

蓐

【蓐】ベイミヤウメイ 蓐はめでたきしるしの草、月の朔日より毎日一葉づゝ葉を出し十六日目よ

【蓐】チク キク ①たぐはふ(蓄)やしなふ(養)蔵する、かこふ。②たぐはへ(冬)の野菜。

【蓄念】チクネン つもる思ひ、平生よりの考へ。  
 【蓄妾】チクセツ 妾をおくこと。  
 【蓄財】チクサイ 財物をためること。  
 【蓄髮】チクハツ 髪をのばすこと。  
 【蓄積】チクセキ ①たぐはへる、ためる。②たぐはへ、たくはへ集める。

【蓄音機】チクオンキ 音響をたくはへ置きて必要の場合にその音を發せしめるしかけの機械。  
 【蓄財家】チクサイカ 金銭や財物をたくはへふやす人。  
 【蓄電機】チクデンキ 電氣をたくはへる器。

蓆

【蓆】セキ ①しきもの、むしろ(席)。②おほいなり

蓆

【蓆草】シヤウ はごろも草の異名。  
 【蓆龜】シキ 筵竹や龜の甲、うらなひの意。

蓐

【蓐】ジヨク ①しとね、敷物の總稱。②月経の出産をする月。  
 【蓐食】ジヨクシヨク 早朝ねどこにて食事する。  
 【蓐裡】ジヨクリ 床の中、ねどこ。  
 【蓐瘡】ジヨクサウ とこずれ、長く病床にある時皮膚に生ずるすれきず。  
 【蓐醫】ジヨクイ 産科婦人科の醫師。

蓑

【蓑】サ ①雨具の一、みの。②おほふ(覆)。③蓑衣。④サウ、みのとかさ。  
 【蓑笠】サウリツ みのとかさ。  
 【蓑蟲】ミノムシ 枯葉にもぐり込みてその中に住む蟲。

【蓆戸】セキコ むしろの戸、粗末なる。門戸。  
 【蓆薦】セキセン 座におくもの、轉じて人の下に居る者。

蓆

【蓆】セキ 花の莖に細かい葉のむらがり生ずるもの、たう。①草木のさかんに茂るさま。  
 【蓆々】セキセキ 草木の茂るさま。  
 【蓆蔚】セキウ 草木の盛んに茂る貌。  
 【蓆鬱】セキウツ 前に同じ。

蓆

【蓆】カイ ガイ ①がぶせる、おほふ。②かさ、傘の形したもの。③ふた、口のおほひ。④とま(苦)推量することば、又婉曲に言ふことば、又發語の詞。⑤なんぞ何々せざると讀返す意を表はす。⑥地名。  
 【蓆衣】ガイイ よもぎ、おほひもの。  
 【蓆世】ガイセイ 英氣さかんにして一世を歴

蓋

【蓋】カイ カフ ①がぶせる、おほふ。②かさ、傘の形したもの。③ふた、口のおほひ。④とま(苦)推量することば、又婉曲に言ふことば、又發語の詞。⑤なんぞ何々せざると讀返す意を表はす。⑥地名。  
 【蓋衣】ガイイ よもぎ、おほひもの。  
 【蓋世】ガイセイ 英氣さかんにして一世を歴

十一畫

蓀

【蓀】テウ デウ 土と運ぶ農具、あじか

蓬

【蓬】ホウ ①艾の一種、よもぎ。②物事の盛んなさま。③風の吹く貌。④生え亂れたる貌。  
 【蓬戸】ホウコ 貧者の門、よもぎにて編みたる戸。  
 【蓬丘】ホウキウ 蓬萊に同じ。  
 【蓬矢】ホウシ 四方に奔走して功名を立てんとする意。  
 【蓬舍】ホウシャ 次に同じ。  
 【蓬門】ホウモン 貧家又は隱者の居宅の意。  
 【蓬勃】ホウボツ 雲などの盛んにおこる貌。  
 【蓬首】ホウシュ 髪を亂したる頭。  
 【蓬宿】ホウシュク 露宿すること。  
 【蓬室】ホウシツ 蓬門に同じ。

蓀

【蓀】ホウ ①艾の一種、よもぎ。②物事の盛んなさま。③風の吹く貌。④生え亂れたる貌。  
 【蓀戸】ホウコ 貧者の門、よもぎにて編みたる戸。  
 【蓀丘】ホウキウ 蓬萊に同じ。  
 【蓀矢】ホウシ 四方に奔走して功名を立てんとする意。  
 【蓀舍】ホウシャ 次に同じ。  
 【蓀門】ホウモン 貧家又は隱者の居宅の意。  
 【蓀勃】ホウボツ 雲などの盛んにおこる貌。  
 【蓀首】ホウシュ 髪を亂したる頭。  
 【蓀宿】ホウシュク 露宿すること。  
 【蓀室】ホウシツ 蓬門に同じ。

【蓬眉】ホウロビ 長くのびて亂れたる眉。  
【蓬茨】ホウロビ よもぎといばら。  
【蓬庵】ホウロビ 蓬門に同じ。  
【蓬果】ホウロビ 所定せず轉々するさま、一説に頭に物を載せ兩手にて之をたすけ行くさま。

【蓬壺】ホウロコ 神仙の居處、蓬萊と方壺。  
【蓬萊】ホウライ 三神山、神仙のすむといふ島。  
【蓬蒿】ホウカウ 雑草のしげみ。  
【蓬葆】ホウボウ よもぎの盛んに生え繁る貌。  
【蓬々】ホウホウ 風の吹く貌、又盛んなるさま。

【蓬塵】ホウロ 草莽のいほり、又自分の家の謙稱。  
【蓬瀛】ホウエイ 神仙の居處、蓬萊と瀛洲。  
【蓬頭垢面】ホウトウコウメン 容貌の無頓着なるさま、亂髮の頭やよごれた顔。  
【蓬戸蹙眉】ホウコウソウメイ 貧者の家の形容。  
【蓬生三麻中一不扶而直】ヨモギサマノウチニシラヤスレバタスクズレナホシ 假令その性質の悪しき者も善良なる人の中に居れば自然と正しき人になることの喩。

類語 枯蓬ホウロ 屏蓬ホウロ 霜蓬ホウロ 轉蓬ホウロ 飛蓬ホウロ 頭蓬ホウロ 方蓬ホウロ

【蓮】レン 水草の一、はちす、はすはすのみ。  
【蓮子】レンシ 美人のあるきぶり。  
【蓮步】レンボ 富士山の異名。  
【蓮岳】レンガク 大臣のやしき。  
【蓮府】レンフ 蓮の實の外苞。  
【蓮房】レンバウ 蓮の實の外苞。  
【蓮花】レンカワ 蓮華の形に作りたる臺座。  
【蓮座】レンザ 蓮華の形に作りたる臺座。  
【蓮根】レンコン はすのね、蓮藕。  
【蓮塘】レンタウ 蓮花に同じ。  
【蓮華】レンゲワ 蓮花に同じ。  
【蓮葉】レンエフ 蓮の葉、處女等の行狀が輕はづみなるに譬ふ。  
【蓮華草】レンゲサウ 野草の一、紫雲英。

類語 蓮華草レンゲサウ 蓮華草レンゲサウ 蓮華草レンゲサウ

【蓴】レン 水草の一、はちす、はすはすのみ。  
【蓴子】レンシ 美人のあるきぶり。  
【蓴步】レンボ 富士山の異名。  
【蓴岳】レンガク 大臣のやしき。  
【蓴府】レンフ 蓴の實の外苞。  
【蓴房】レンバウ 蓴の實の外苞。  
【蓴花】レンカワ 蓴華の形に作りたる臺座。  
【蓴座】レンザ 蓴華の形に作りたる臺座。  
【蓴根】レンコン はすのね、蓴藕。  
【蓴塘】レンタウ 蓴花に同じ。  
【蓴華】レンゲワ 蓴花に同じ。  
【蓴葉】レンエフ 蓴の葉、處女等の行狀が輕はづみなるに譬ふ。  
【蓴華草】レンゲサウ 野草の一、紫雲英。

類語 蓴華草レンゲサウ 蓴華草レンゲサウ 蓴華草レンゲサウ

【蓴】レン 水草の一、はちす、はすはすのみ。  
【蓴子】レンシ 美人のあるきぶり。  
【蓴步】レンボ 富士山の異名。  
【蓴岳】レンガク 大臣のやしき。  
【蓴府】レンフ 蓴の實の外苞。  
【蓴房】レンバウ 蓴の實の外苞。  
【蓴花】レンカワ 蓴華の形に作りたる臺座。  
【蓴座】レンザ 蓴華の形に作りたる臺座。  
【蓴根】レンコン はすのね、蓴藕。  
【蓴塘】レンタウ 蓴花に同じ。  
【蓴華】レンゲワ 蓴花に同じ。  
【蓴葉】レンエフ 蓴の葉、處女等の行狀が輕はづみなるに譬ふ。  
【蓴華草】レンゲサウ 野草の一、紫雲英。

類語 蓴華草レンゲサウ 蓴華草レンゲサウ 蓴華草レンゲサウ

【蓴】レン 水草の一、はちす、はすはすのみ。  
【蓴子】レンシ 美人のあるきぶり。  
【蓴步】レンボ 富士山の異名。  
【蓴岳】レンガク 大臣のやしき。  
【蓴府】レンフ 蓴の實の外苞。  
【蓴房】レンバウ 蓴の實の外苞。  
【蓴花】レンカワ 蓴華の形に作りたる臺座。  
【蓴座】レンザ 蓴華の形に作りたる臺座。  
【蓴根】レンコン はすのね、蓴藕。  
【蓴塘】レンタウ 蓴花に同じ。  
【蓴華】レンゲワ 蓴花に同じ。  
【蓴葉】レンエフ 蓴の葉、處女等の行狀が輕はづみなるに譬ふ。  
【蓴華草】レンゲサウ 野草の一、紫雲英。

類語 蓴華草レンゲサウ 蓴華草レンゲサウ 蓴華草レンゲサウ

豈菟は熱帯地方に生ずる草

【藪】ゲイ 草の一、たて藪の長大なる貌。  
【藪花】レウカワ たて藪の花。  
【藪々】レウカウ 草の長大なるさま。  
【藪我之詩】レウカノシ 孝子が親を養はんとして養ひ得ざる悲を詠じたる詩。  
【藪蟲不知苦】レウカユラニカクシラズ 人の嗜好の種々雑多なることのとたとへ、たて食ふ蟲もすきん。

類語 枯蓬ホウロ 屏蓬ホウロ 霜蓬ホウロ 轉蓬ホウロ 飛蓬ホウロ 頭蓬ホウロ 方蓬ホウロ

【藪】ゲイ 草の一、たて藪の長大なる貌。  
【藪花】レウカワ たて藪の花。  
【藪々】レウカウ 草の長大なるさま。  
【藪我之詩】レウカノシ 孝子が親を養はんとして養ひ得ざる悲を詠じたる詩。  
【藪蟲不知苦】レウカユラニカクシラズ 人の嗜好の種々雑多なることのとたとへ、たて食ふ蟲もすきん。

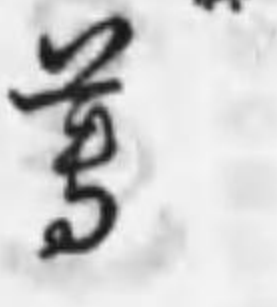
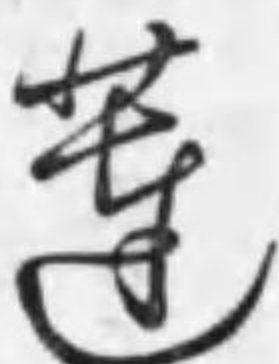
類語 枯蓬ホウロ 屏蓬ホウロ 霜蓬ホウロ 轉蓬ホウロ 飛蓬ホウロ 頭蓬ホウロ 方蓬ホウロ

【藪】ゲイ 草の一、たて藪の長大なる貌。  
【藪花】レウカワ たて藪の花。  
【藪々】レウカウ 草の長大なるさま。  
【藪我之詩】レウカノシ 孝子が親を養はんとして養ひ得ざる悲を詠じたる詩。  
【藪蟲不知苦】レウカユラニカクシラズ 人の嗜好の種々雑多なることのとたとへ、たて食ふ蟲もすきん。

類語 枯蓬ホウロ 屏蓬ホウロ 霜蓬ホウロ 轉蓬ホウロ 飛蓬ホウロ 頭蓬ホウロ 方蓬ホウロ

【藪】ゲイ 草の一、たて藪の長大なる貌。  
【藪花】レウカワ たて藪の花。  
【藪々】レウカウ 草の長大なるさま。  
【藪我之詩】レウカノシ 孝子が親を養はんとして養ひ得ざる悲を詠じたる詩。  
【藪蟲不知苦】レウカユラニカクシラズ 人の嗜好の種々雑多なることのとたとへ、たて食ふ蟲もすきん。

類語 枯蓬ホウロ 屏蓬ホウロ 霜蓬ホウロ 轉蓬ホウロ 飛蓬ホウロ 頭蓬ホウロ 方蓬ホウロ



【蔞】果實が枝又莖に結びつく所、へたとげ、わづかのさしきはりねもと、もと  
【蔞芥】タイカイ ①とげやあくた、些細の物事 ②小さきとげ。

類語

蔞芥 タイカイ ①とげやあくた、些細の物事 ②小さきとげ。

蔗

【蔗】暖地産の禾本草、さたらきび、甘蔗。うまし、よし  
【蔗稈】シヤクン さたらきびの莖。  
【蔗塊】シヤクヤウ 談話・文章其他事件等の面白き所。  
【蔗糖】シヤクウ 甘蔗より製したる砂糖。

シヤ ショ

蔗

蔚

【蔚】草木の盛んなるさま ①くさむら ②をそこよもぎ ③模様細かにして美しきさま ④地名(直隸省所在) ⑤鬱に通ず  
【蔚然】カフゼン 蔚香の ①に同じ。  
【蔚煥】カフワン 盛んにしてかどやく貌。  
【蔚興】キョウ 盛んにこころ。  
【蔚香】キョウイ 草木の茂るさま ②雲のお

キ ウツ

蔚

【蔞】ソホ やさいばたけ、又果樹園。  
【蔞菜】ソラ 菜と瓜、蔬菜類。  
【蔞塊】ソジヤウ 野菜類を作る土地。  
【蔞圃】ソレイ 粗末なる食物。

類語

家蔞 ソホ 嘉蔞 ソホ 園蔞 ソホ 野蔞 ソホ  
氷蔞 ソホヨウ 草蔞 ソホ 菜蔞 ソホイ 冬蔞 ソホ  
肴蔞 ソホ 豊蔞 ソホ 魚蔞 ソホ 青蔞 ソホ  
霜蔞 ソホ 柔蔞 ソホ 美蔞 ソホ 百蔞 ソホ

蔞

【蔞】次に同じ

十二畫

蔞

蔞

【蔞】かげ、こかげ ①おかげ、たすけ ②日かげ、日暮 ③かばふ、おほふ  
【蔞子】イシシ 父祖のおかげで官位に上る。  
【蔞林】イシリン 樹木のおほひたる林。  
【蔞室】イシシツ 漆を乾す室。  
【蔞補】イシボ 父祖のお蔞で官位を賜ふ。  
【蔞遮】イシシヤ 遮りふさぐこと。  
【蔞蔚】イシキ 草木の繁りたる貌。  
【蔞蔽】イシヘイ おほひかくす。

【蔞】次に同じ

蔞

【蔞】ろす(殺) 蔞の名、又姓

蔞

蔞

【蔞】寄生性の蔓草、つた

テウ

蔞

【蔞】草の一、はきぐさ

セイ スキ

蔞

【蔞】かふる(蔞) ①生育する貌

サン

蔞

【蔞】な、あをもの、食用になる草の稱

シヨツ

蔞

蔞

【蔞】陰蔽イシ 侵蔽イシ 欺蔽イシ 壅蔽イシ

蔞

【蔞】蔞薬ははまびし

リ レイ

蔞

【蔞】地名、楚の地、又姓

タン ジン

蔞

【蔞】しげる(繁) ①おほし(多)しげし ②かき(蔞) ③えびす

蔞

【蔞】【蔞】【蔞】【蔞】【蔞】【蔞】【蔞】【蔞】



【蕨行】ハンセン はびこる、しげりひろがる。  
 【蕨食】ハンシク 蕨人のかしら、酋長。  
 【蕨神】ハンシン 外國のかみ。  
 【蕨書】ハンシヨ 外國の書物。  
 【蕨息】ハンシツ 茂りふえること。  
 【蕨萃】ハンシン 次と同じ。  
 【蕨椒】ハンセウ たうがらしの異名。  
 【蕨滋】ハンジ 草木の繁茂せる貌。  
 【蕨境】ハンキョウ 野蠻人の住む土地。  
 【蕨賊】ハンゾク 蕨人をいやしみていふ語。  
 【蕨薯】ハンシヨ さつまいも。  
 【蕨殖】ハンシヨク ふやす、ふえる。  
 【蕨熟】ハンジユク 繁茂してみゆること。  
 【蕨南瓜】ハンナンクワ 南瓜の別名。  
 【蕨務署】ハンムシヨ 臺灣總督府の一部局にして生蕨に關する事務を司る所。  
 【蕨】 テン  
 そなふ、いましむ、用意する。  
 【蕨】 ジン  
 たけ、きのこ(蕨)くさびら  
 蕨

【芭蕉】は草の一。たきい(薪)あくた(芥)變れたる貌。  
 【蕨紗】セウサ 芭蕉の織緯を原料として製したる薄ぎぬ。  
 【蕨萃】セウスイ 憔悴に同じ。  
 【蕨鹿夢】セウロクノユメ 利害得失の夢の如くはかなきをいふ。  
 【蕨】 ブキ  
 ①花の生殖機官、しべ。つぼみ、花の開かぬもの、又花  
 【蕨】 ケウ  
 蕎麥は穀類の一、そば  
 【蕨】 カン  
 華に同じ  
 【蕨】 ウン  
 秋草の一、ふぢばかま

【蕨】 イウ  
 蕨藁はあぶらな、なたねな  
 臭氣ある草、草に對して臭きもの、又は惡人に喩ふ  
 【蕨】 キョ  
 芙蓉は、す(蓮)  
 【蕨】  
 ①草の一、つるむらさき。かんざう(甘草) ②國訓ふき(萩冬)  
 【蕨】 セウ  
 たきど、しば。しばかり  
 【蕨】 ケイ  
 香草の一、蘭の一種  
 【蕨】  
 ①蕨交(イイコウ) 親密なる交際。  
 【蕨】  
 ①蕨香(イイコウ) 香を入れたるひたしもの。  
 蕨

【蕨】 蕨蕨ハク 蕨蕨ヘク 蕨蕨ケク 蕨蕨ケク  
 【蕨】 蕨に同じ  
 【蕨】 セツ セイ  
 芽をたて、席次の表示とするもの  
 【蕨】 サイ セツ  
 ①小さき貌。蕨に同じ  
 【蕨】 サイロ 小さき貌。  
 【蕨】 チョ  
 粘りつく  
 【蕨】 フン  
 ①あさのみ(麻實) ②草木が果實を多く結ぶ貌  
 【蕨】 キ クワイ  
 蕨

【蕨】 シユン  
 ①木の名、むくげ(木槿) ②國訓あさがほ(舜)  
 【蕨】 スキ  
 ①花又は葉等の垂れさがるさま。垂れ下りたる花。草の名、あまどころ  
 【蕨】 ケツ  
 草の一、わらび  
 【蕨】 ケツ  
 わらびとぜんまい。  
 【蕨】 タウ  
 ①廣大なるさま。おだやか(穩) ②うごく(動) ③ゆるぐ、うごかす。ほしいま(志) ④酒色にふける。はらふ(掃) ⑤ばらばらになる、こはれてなくなる。みだれる(亂)  
 【蕨】 タウ  
 道樂もの、酒色に溺れる者。

【蕨】 タウ  
 ①蕨心(タウシン) 心をとろかす、溺れ迷ふ。  
 【蕨】 タウ  
 ①蕨平(タウヘイ) 蕨定に同じ。  
 【蕨】 タウ  
 ①蕨汰(タウタイ) よなげ去る、淘汰。  
 【蕨】 タウ  
 ①蕨佚(タウイフ) 蕨逸に同じ。  
 【蕨】 タウ  
 ①蕨定(タウテイ) はらひ定める、亂を平げる。  
 【蕨】 タウ  
 ①蕨没(タウボツ) やぶれ沈む。  
 【蕨】 タウ  
 ①蕨析(タウセキ) さまよひうつる、流浪。  
 【蕨】 タウ  
 ①蕨婦(タウフ) 品行のをさまらぬ女子。藝妓の類。  
 【蕨】 タウ  
 ①蕨逸(タウイツ) 節制なくほしいまなる貌。  
 【蕨】 タウ  
 ①蕨搖(タウエウ) うごく、うごかす。  
 【蕨】 タウ  
 ①蕨持(タウチ) おしのけること。  
 【蕨】 タウ  
 ①蕨滌(タウテイ) 洗ひ清める、あらひそぐ。  
 【蕨】 タウ  
 ①蕨盡(タウジン) 残らず使ひはたす。  
 【蕨】 タウ  
 ①蕨摩(タウマ) 互ひに動きすれあふこと。  
 【蕨】 タウ  
 ①蕨淡(タウタン) たいよふ、水の動き漂ふ貌。  
 【蕨】 タウ  
 ①蕨々(タウタウ) ①廣大なる貌。②穩かなる貌。③亂れるさま。  
 【蕨】 タウ  
 ①蕨覆(タウフク) 破れくつがへる。  
 類語  
 播蕨(タウ) 浩蕩(タウ) 坦蕩(タウ) 板蕩(タウ)  
 震蕩(タウ) 掃蕩(タウ) 胎蕩(タウ) 波蕩(タウ)  
 播蕩(タウ) 疎蕩(タウ) 紛蕩(タウ) 動蕩(タウ)  
 放蕩(タウ) 遊蕩(タウ) 焚蕩(タウ) 撲蕩(タウ)  
 虛蕩(タウ) 豁蕩(タウ) 漂蕩(タウ) 豪蕩(タウ)

# 蕪

【蕪】 **ア**  
 ①野菜の一、かぶ、かぶら、かぶな、かぶな、雑草が生ひ茂る、荒地に生ひける(繁)②亂れる

- 【蕪外】 **ア** 順序なく減茶苦茶に亂れたがふ貌。
  - 【蕪没】 **ア** 雑草の中にかくれる。
  - 【蕪味】 **ア** 雑草が茂りてうす暗きと。
  - 【蕪淺】 **ア** 學問見識等があさはかて亂雜なること。
  - 【蕪草】 **ア** 亂れて繁茂したる草。
  - 【蕪菁】 **ア** かぶらな、かぶら。
  - 【蕪廢】 **ア** 土地があること。
  - 【蕪雜】 **ア** 物事が入り亂れて順序なきさま。
  - 【蕪穢】 **ア** 土地があれやせて雜草が茂る。
  - 【蕪辭】 **ア** 粗末なることば。
- 類語**  
 蕪蕪 **ア** 荒蕪 **ア** 綠蕪 **ア** 繁蕪 **ア**  
 榛蕪 **ア** 青蕪 **ア** 蒼蕪 **ア** 薇蕪 **ア**  
 碎蕪 **ア** 野蕪 **ア** 霜蕪 **ア** 靡蕪 **ア**

# 蕭

【蕭】 **セウ**  
 ①よもぎ(蒿)②馬のなく聲③風の聲④淋しく静かなるさま⑤忙しく疲れるさま⑥つゝしむ(蕭)

- 【蕭寺】 **セウジ** 梁の武帝が佛を信じて其造りたる寺に己の姓蕭を冠せしめし故事轉じて寺院の意。
- 【蕭索】 **セウソク** ①もの淋しきさま②めぐりまつはるさま。
- 【蕭殺】 **セウソツ** ものすごきさま。
- 【蕭寂】 **セウシキ** 淋しく静かなること。
- 【蕭條】 **セウテウ** 蕭索に同じ。
- 【蕭曹】 **セウソウ** 漢の高祖を扶けた功臣、蕭何と曹參。
- 【蕭疎】 **セウソ** 木の葉が落ちまばらになりてもひさびしきこと。
- 【蕭森】 **セウシン** ①もの淋しき貌②樹木の多き貌。
- 【蕭颯】 **セウソツ** 夜雨の淋しきさま。
- 【蕭然】 **セウゼン** ①しんとして静かなる貌②いそがしく疲れるさま。
- 【蕭散】 **セウサン** しづかにしてひまである。
- 【蕭瑟】 **セウシツ** 秋風の淋しく吹く貌。
- 【蕭颯】 **セウソツ** 秋風などの淋しき聲。

# 蕭

【蕭々】 **セウセウ** 馬の鳴く聲、又風の聲。  
 【蕭牆之憂】 **セウキヤウノウレ** 蕭牆は朝廷の屏憂ひが内よりおこること。

## 十三畫

# 蕪

# 蕪

# 蕪

# 蕪

# 蕪

【蕪】 **ア** 水草の一、金魚が卵を生みつけるもの②つむ(蕪)つみ重ねる

- 【蕪結】 **ウツクツ** 思ひのむすばれたるさま。
- 【蕪著】 **ウツチク** つみたたくはへること。

# 薄

【薄】 **ハク**  
 ①漚木の一、ゆすらうめ②蕪莫は植物の名、えびつる

- ①うすし、うすくす、すくなくなる、又それ等のもの、いやしむ、かろんず②ちかづく、せまる、おしつめる、至りとよくまぶし(附)③くさむら④すだれ(簾)⑤つく(附)⑥馬を走らせる聲⑦しばらく、いさゝか⑧薄荷は藥草の一⑨ひろし(博)⑩國調すまき(茅に似た草)
- 【薄才】 **ハクサイ** 才能の劣れると、又その者。
- 【薄夫】 **ハクフ** 輕薄なる人。
- 【薄田】 **ハクテン** 穀物のよくみのらぬ田地、やせた。
- 【薄皮】 **ハクヒ** うすかは、薄き皮。
- 【薄氷】 **ハクヒヤウ** うすごぼり、薄氷。
- 【薄行】 **ハクコウ** 輕薄で冷淡なる行爲。
- 【薄技】 **ハクギ** 取るに足らぬわざ。
- 【薄材】 **ハクサイ** 才能の劣れること、又其者。
- 【薄志】 **ハクシ** 志がよわい、いくぢが無
- い⑩少しばかりの御禮。
- 【薄利】 **ハクリ** 僅かの利益、又僅かな利息。
- 【薄命】 **ハクメイ** ふしあはせ、不運。
- 【薄幸】 **ハクコウ** うんが無い、まはりあはせ

# 薄

【薄官】 **ハククワン** 薄給の官吏。

- 【薄明】 **ハクメイ** 微明、うすあかり。
- 【薄夜】 **ハクヤ** ①ゆふぐれ、夕暮②うすくのべたる餅。
- 【薄待】 **ハクタイ** 粗末なるもてなし。
- 【薄俗】 **ハクソク** 浮薄なる風俗。
- 【薄倖】 **ハクコウ** 薄幸に同じ。
- 【薄俸】 **ハクホウ** 薄給に同じ。
- 【薄酒】 **ハクシュ** 水くさくて薄き酒。
- 【薄弱】 **ハクジャク** かよわし、しつかりして居ない。
- 【薄脆】 **ハクセイ** うすくしてもろし。
- 【薄情】 **ハクジヤウ** 人情がうすい、無情。
- 【薄給】 **ハクキョウ** 給金の少きこと、又其給金。
- 【薄祿】 **ハクロク** ①前に同じ②薄幸に同じ。
- 【薄曇】 **ハクトム** 少しの曇り、又初夏の氣候。
- 【薄運】 **ハクウン** 薄命に同じ。
- 【薄葬】 **ハクソウ** 粗末なる葬式。
- 【薄遇】 **ハクウ** 薄待に同じ。
- 【薄福】 **ハクフク** 薄幸に同じ。
- 【薄徳】 **ハクトク** 徳のうすきこと、菲徳。
- 【薄暮】 **ハクモ** ゆふぐれ、日ぐれ、薄夜。
- 【薄暎】 **ハクマク** うすかは、うすきあまかは。
- 【薄儀】 **ハクギ** 心ばかりの御禮。
- 【儀學】 **ハクガク** 未熟なる學問。

# 薄

【薄々】 **ハクハク** ①馬を走らせる聲②物の味のうすきこと③ひろし、廣大である。

- 【薄斂】 **ハクレン** 穀物が十分みのらぬこと。
  - 【薄謝】 **ハクシャ** 薄儀に同じ。
  - 【薄霧】 **ハクモ** うすくかゝる霧。
  - 【薄植】 **ハクシキ** ますがた、梁の上の短い柱。
  - 【薄志弱行】 **ハクシヤクカウ** 意志が弱く事を行ふ力の乏しきこと。
- 類語**  
 輕薄 **ハク** 菲薄 **ハク** 鄙薄 **ハク**  
 卑薄 **ハク** 儉薄 **ハク** 貧薄 **ハク** 厚薄 **ハク**  
 鮮薄 **ハク** 僂薄 **ハク** 脆薄 **ハク** 林薄 **ハク**  
 飛薄 **ハク** 拙薄 **ハク** 劣薄 **ハク** 疎薄 **ハク**  
 淺薄 **ハク** 涼薄 **ハク** 身薄 **ハク** 漂薄 **ハク**  
 空薄 **ハク** 低薄 **ハク** 旁薄 **ハク** 深薄 **ハク**  
 激薄 **ハク** 愚薄 **ハク** 懦薄 **ハク** 邪薄 **ハク**  
 陋薄 **ハク** 寡薄 **ハク** 長薄 **ハク** 嘲薄 **ハク**  
 修薄 **ハク** 儉薄 **ハク**

# 薇

【薇】 **ビ**  
 ①山野に自生する草、ぜんまい②紫薇は喬木の一、さるすべり③薔薇はばら

- 【薇蕨】 **ビクワ** ぜんまいとわらび。



が共に同居するに譬ふ。

【遠】

キ エン ラン

●人の姓(春秋時代の楚人)◎遠志は薬草の一、ひめはぎ

【藎】

埋に同じ

【藎】

タイ

●藎藎はあぶらな◎すげ(菅)●たう(野菜類の花茎の立ち出るもの)

【薺】

セイ ザイ

菜の一、なづな

【藎】

ギ ギヨク

穀物の茂る貌

【藎】

藎に同じ

藎

【藎人】カウジン わら人形。

【藎舎】カウシヤ わらや、又自分の家の謙稱。

【藎藉】カウシヤ わらをあみて作りし敷物。

【藎葬】カウチウ 假埋葬の義。

【藎】

シヨ ヨ

●藎藎はやまのいも◎美しきさま

【藉】

シヤ セキ

藎

●しく、しきもの◎かる(借)口實とする、かす◎なぐさむ◎おだやか(藉)◎たとへ、もし◎ふみにじる、ふむ◎亂れるさま◎天子親ら耕し給ふ田◎なは(總)

【藉口】シヤコウ 口を借る、口實をつくつていひわけをする。

【藉手】シヤレユ 他人の助力をかること。

【藉草】シヤサウ 草を敷く、草を藉とする。

【藉甚】セキジン 名聲の盛んにひろまること

【藉々】セキセキ 縦横に論ずること。

【藍】

ラン

藎

●草の一、ある◎あざやかな青色◎ほろ(藍)◎かんがみる(藍)

【藍白】ランバク 酒精に溶解し易き無色針状の結晶體。

【藍田】ランテン 山の名、陝西省西安府藍田

縣にあり名玉を産するを以て名高し。

【藍本】ランポン もとのほん、原本。

【藍面】ランメン ある色の顔、色の青き顔面。

【藍袍】ランパウ ある色の長き下著。

【藍線】ランセン 静脈管の異稱。

【藍錠】ランテイ あみだま。

【藍錠】ランテイ やぶれごころも、ぼろ。

【藍尾酒】ランビシユ 藍はのこりを食る義にて最後に飲む酒のこと。

【藍田生れ玉】ランテンマシヤウズ 名門から名士が出て賢夫は賢子を産む義。

【藍綬褒章】ランシユハウシヤウ 公共の利益をかりたる功勞者に對して賜はる褒章。

【藎】 シン ジン

【藎】

シン ジン

●すむ(進)◎もえさし(進)◎草の一かりやす

【藎臣】ジンシン 忠誠なる家來。

【藎】

サウ ザウ

藎

●かくれる、姿をくらます◎かくす、をさめる◎くらはらわた(藎)◎國名、西藏の略

【藎六】サウロク 龜の異名。

【藎】

リヨ

茹蘆はあかね(藎)

【藎】

ソク

水草の一、おもだか

【藎】

レイ

草の一、あかざ

【藎杖】レイシヤウ あかざのつゝ。

【藎藎】レイカウ 藎の葉の吸物、粗食の意。

【藎藎】レイカウ あかざの葉と豆の葉、粗食の意。

【藎】

ゲイ

藎

●わざ◎うる、植付け◎はて、きはまり◎めあて、のり、準法

【藎人】ゲイジン ◎道徳學術等に長じたる臣

◎遊藝にて生活する人。

【藎文】ゲイブン 技術と學術、又美術と文學。

【藎妓】ゲイキ うたひめ、藝者、妓女。

【藎林】ゲイリン 學術の社會、又技藝の社會。

【藎苑】ゲイエン 學術の社會。

【藏王】サウワウ 忿怒の相をなし右足を擧げ左手に三鈷を持つ佛。

【藏本】サウホン 所有せる書物。

【藏板】サウバン 藏版に同じ。

【藏弄】サウリョウ 書畫等を所有すること。

【藏版】サウバン 書物の板木を所蔵すること

【藏相】サウシャウ 大藏大臣の別稱。

【藏書】サウショ 藏本に同じ。

【藏匿】サウニク かくすこと、かくれること。

【藏蓄】サウチク をさめ貯へる。

【藏經】サウキョウ 大藏經の略。

【藏隱】サウイン かくれる、かくす。

【藏置】サウチ 筆鋒をかくして字を書くこと。

【藏窠】サウソ 筆鋒をかくして字を書くこと

【藏人】サウジン 昔殿上に於て機密の文書又は訴訟を掌り且つ小事を奏宣せし職。

【藏修遊息】サウシユウシツ 藏修は正課として學業を修める、遊息は正課以外の時間に於て心神を樂しましめつゝ自ら學業の補助となるべき事物を見聞する。

【藏魄之地】サウハクノチ 埋骨の地、死屍を埋める所。

類語

三藏サウサン 内藏サウナイ 白藏サウハク 包藏サウハク



にて見識せまき人物にたとへる。

藪落 ハヤク 大落 ダイ 重落 ジュウ 離落 リ  
外落 ガイ 名落 メイ 遠落 エン 舊落 キウ

藪 ソウ ス

①さは、大なるさは②くさむら、やぶ  
③物事の多く集まる所④國訓やぶ(たけやぶ、竹林)  
【藪澤】ソウタク さは、雜草・雜木の生え茂る所。  
【藪淵】ソウエン 物事の群集せる所。

藪落 ハヤク 大落 ダイ 重落 ジュウ 離落 リ  
外落 ガイ 名落 メイ 遠落 エン 舊落 キウ

藪 ソウ ス

藪落 ハヤク 大落 ダイ 重落 ジュウ 離落 リ  
外落 ガイ 名落 メイ 遠落 エン 舊落 キウ

藪 ソウ ス

藪落 ハヤク 大落 ダイ 重落 ジュウ 離落 リ  
外落 ガイ 名落 メイ 遠落 エン 舊落 キウ

藪 ソウ ス

藹 アイ アイ

①しげくして多し、さかんなり②おだやかなる貌  
【藹々】アイアイ ①盛んにして多きさま、草木のさかんなるさま②香氣の起るさま  
③力を盡す④ほんのりと照す月光⑤穆かなるさま。

藹 アイ アイ

藹 アイ アイ

藹 アイ アイ

藹 アイ アイ

藹 アイ アイ

藹 アイ アイ

藹 アイ アイ

藹 アイ アイ

藹 アイ アイ

藹 アイ アイ

藹 アイ アイ

藹 アイ アイ

藹 アイ アイ

藹 アイ アイ

藹 アイ アイ

藹 アイ アイ

藹 アイ アイ

藹 アイ アイ

藹 アイ アイ

藹 アイ アイ

藹 アイ アイ

藹 アイ アイ

藹 アイ アイ

藹 アイ アイ

藹 アイ アイ

藹 アイ アイ

藹 アイ アイ

藹 アイ アイ

藹 アイ アイ

藹 アイ アイ

藹 アイ アイ

藹 アイ アイ

藹 アイ アイ

藹 アイ アイ

藹 アイ アイ

藹 アイ アイ

藹 アイ アイ

藹 アイ アイ

藹 アイ アイ

藹 アイ アイ

藹 アイ アイ

藹 アイ アイ

藹 アイ アイ

藹 アイ アイ

藹 アイ アイ

藹 アイ アイ

藹 アイ アイ

藹 アイ アイ

藹 アイ アイ

藹 アイ アイ

藹 アイ アイ

藹 アイ アイ

藹 アイ アイ

藹 アイ アイ

藹 アイ アイ

藹 アイ アイ

藹 アイ アイ

藹 アイ アイ

藹 アイ アイ

藹 アイ アイ

藹 アイ アイ

藹 アイ アイ

藹 アイ アイ

藹 アイ アイ

藹 アイ アイ

藹 アイ アイ

藹 アイ アイ

藹 アイ アイ

藹 アイ アイ

藹 アイ アイ

藹 アイ アイ

藹 アイ アイ

藹 アイ アイ

藹 アイ アイ

藹 アイ アイ

藹 アイ アイ

藹 アイ アイ

藹 アイ アイ

藹 アイ アイ

藹 アイ アイ

藹 アイ アイ

藹 アイ アイ

藹 アイ アイ

藹 アイ アイ

藹 アイ アイ

藹 アイ アイ

藹 アイ アイ

藹 アイ アイ

藹 アイ アイ

藹 アイ アイ

藹 アイ アイ

藹 アイ アイ

藹 アイ アイ

藹 アイ アイ

藹 アイ アイ

藹 アイ アイ

藹 アイ アイ

藹 アイ アイ

藹 アイ アイ

藹 アイ アイ

藹 アイ アイ

藹 アイ アイ

藹 アイ アイ

藹 アイ アイ

藹 アイ アイ

藹 アイ アイ

藹 アイ アイ

藹 アイ アイ

藹 アイ アイ



【蘿衣】ライ こけの一種、さるをがせ。  
 【蘿徑】ラテイ つたかづら等の生え茂りたる小みち。  
 【蘿箕】ラク 葛にてつくりたる箕。  
 【蘿菊】ラフク だいこん、すいしろ、大根。  
 【蘿蔞】ラヘイ かづら。  
 【蘿藤】ラフク 前に同じ。  
 【蘿藤】ラマ 山野に自生する宿根蔓草の一種、がよいも。

類語

幽蘿ライウ 女蘿ラクヂョ 松蘿ラクヨウ 長蘿ラクチヤウ  
 藤蘿ラクワ 深蘿ラクシ

葦

セイ サイ  
 あへもの、なます、又あへる

藁

ルキ ラ  
 ① つる、草木の茎② ふと、もっこ  
 【藁裡】ラリ もっこ、ふと。

薺

薺に同じ

虎部

虎

虎の皮のもやう②國訓とらんむり

二畫

虎

猛獸の一、とら②とらの如くわる強  
 く荒きこと

【虎子】コレ ① 虎の子② 便器、おまる。  
 【虎口】ココウ 非常に危きところの形容。  
 【虎心】コシン 猛悪なるこころ。  
 【虎穴】コケツ 危険にして恐しき所をいふ。  
 【虎臣】コシシ 強勇なるけらい。  
 【虎耳】コジ 草の名、ゆきのした。  
 【虎杖】コヂヤウ 多年生草の一、いたどり。  
 【虎威】コキ づよき勢、虎の威。  
 【虎狼】コウワウ とらとおほかみ、轉じて残酷なる者。  
 【虎吻】コワン 害意を有する人。  
 【虎豹】コヘウ ① とらとへう② 虎豹の形したる岩石などをいふ。  
 【虎符】コフ 銅にて虎の形に作つたわりふ銅虎符の略。

【虎步】コホ ① あゆみ方のたけきこと、進むさまの堂々たること② 又強き勢力を持つて一方に雄視すること。

【虎魚】コギョ 魚の名、をこぜ。  
 【虎眼】コガン 眼疾トラホームの俗稱。  
 【虎賁】コホン 勇士のこと。  
 【虎落】コラク 虎を防ぐ垣、竹やらい。  
 【虎榜】コハウ 進士の試験に及第した者の姓名をかゝげた板。  
 【虎魄】コハク 樹脂のながく地中に埋もれて石と化したるもの。  
 【虎踞】コキョ 地勢の雄偉なることを形容したる語。  
 【虎鬚】コゼン 硬く張つた鬚鬚。  
 【虎頭】コトウ 虎に似たる頭を有する者、その頭、尊貴の相なりといふ。  
 【虎嘯】コセツ 虎がうなる、とらがうそぶく、英雄の活躍するさま。  
 【虎噬】コセイ 虎がふみつくこと。  
 【虎韜】コタウ とらのまき、太公望の著した兵法書六韜の一篇。  
 【虎薊】コケイ 草の一、をにあざみ。  
 【虎鬚】コシユ ① 虎のひげ② 虎のひげの如くあらしひげ③ 燈心草の別名。  
 【虎蹲】コツシ 虎の如くうづくまる、又虎のうづくまること。

【虎鬚】コヘン 虎の皮の斑文の如く物事が明かにかはること。

【虎卷】トラノマキ ① 兵書六韜の② 秘密文書。

【虎皮下】コロキ 虎の皮の敷物のもと、主に學者軍人にいふ、手紙等の臨付。  
 【虎列刺】コレラ 恐るべき傳染病の一種。  
 【虎耳草】コジヤウ 草の名、ゆきのした。  
 【虎翼吏】コキヤクシ 虎につばさをつけた官吏残酷なる役人。  
 【虎而冠】トラニシテタワニス 外面は人にして内心虎の如き兇惡なるもの。  
 【虎斑竹】シヤコタン はちくの一種、又斑竹ともいふ。

【虎負レ綱】トラダウライウ 虎が山の角に據ることとく英雄が一地方にたてこもること  
 【虎傳レ翼】トラニツバカフク 勢力ある者がさらに一層つよくなる喩。  
 【虎御前】トラゴゼン 虎之門女學館の學生をいふ。  
 【虎狼之秦】コウワノシン 虎や狼の如く暴虐なる秦といふ意。  
 【虎視眈々】コシタシタン 虎が恐ろしき目つきにてねらふ、強力が機會をねらつて居ることをいふ。  
 【虎狼狼啖】コソウラウタン 虎狼の如く貪り食

【虎標龍紋】コチキリヨウダ 兩雄が相たゝかひ一ゆづらぬ形容。

【虎之門式】トラノモンシキ 虎之門女學館には名門の息女が集り通學にも化粧を施して行くより女學生の麗なる容姿を之になぞらへていふ語。

訓讀

【虎尾を履む】履ニ虎尾ニヒキセム 甚だ危險なことを行ふ喩。  
 【虎を防ぎて狼に逢ふ】防レ虎逢レ狼 ① 虎を起りて際限なきさまをいふ。  
 【虎を畫きて成らざれば反つて狗に類す】畫レ虎不レ成反類レ狗也 ① 虎を畫かざればかへつていぬに類す 表面相似て其實の異なることに喩ふ。

類語

逸虎イツ 伏虎フク 猛虎マウ 畫虎コウ  
 市虎シ 臥虎ゴウ 暴虎ボウ 龍虎リウ

三畫

虐

ギヤク 虐

① しへだく、そこなふ② あらい、むごい③ わざはひ(災禍)

【虐刃】ゲキケン むごたらしく殺すこと。  
 【虐使】ゲキシ 人を無慈悲につかふこと。  
 【虐待】ゲキタイ むごく取扱ふこと。  
 【虐勢】ゲキセイ あつさの極めて厳しきと  
 【虐政】ゲキセイ 人民をしへだける政事。  
 【虐遇】ゲキウ むごくとりあしらふ。  
 【虐殺】ゲキカツ むごたらしく殺すこと、なぶりころしにす。  
 【虐網】ゲキマウ 慘酷なる法律。  
 【虐暴】ゲキバウ しへだけそこなふ。

類語

淫虐イン 苛虐カ 侵虐ケン 首虐シュ  
 凶虐ウ 貪虐オン 狂虐キヤク 肆虐シヤク  
 殘虐ゼン 毒虐ドク 亂虐ラン 頑虐ガン  
 執虐シツ 大虐ダイ 暴虐ボウ 横虐ワヤク  
 厲虐レイ 威虐イ 賊虐ゾク 害虐ガイ  
 邪虐ジャ 五虐ゴ 方虐ハウ 酷虐コ

四畫

虍

カウ なく、ほえる、虎がなく



【威怒】カウヤ ①虎のいかりほえること ②勇猛なる態度の喩へ。  
 【威吼】カウケウ さげほえる。  
 【威關】カウカン 將士の勇猛なる勢を虎の怒りてほえることに喩へし語。

【處】ケン 変

①こるす(殺) ②つゝしむ(敬)  
 【處格】ケンカク つゝしむさま。  
 【處恭】ケンキョウ つゝしみてうやくし。  
 【處々】ケンケン つゝしみあるさま。  
 【處敬】ケンケイ つゝしみやまふ。  
 【處勤】ケンキン つゝしむこと。  
 【處肅】ケンシュク つゝしむこと。  
 【處誠】ケンセイ たゞしくまことなること。  
 【處劉】ケンリウ そこなひ殺すこと。  
 【處信主義】ケンシンシユイ 感情的信心を以て宗教の生命なりとする主義。

類語

嚴處ケン 恪處ケン 恭處ケン 精處ケン  
 矯處ケン 敬處ケン 肅處ケン

【處】シヨツ

五畫

①すむ、をる、其境遇にある、その位置を占める ②安んずる、おちつく ③おく、其地位におく、その場所にすまはせる ④とりはからふ、とりきめる ⑤あてる(當) ⑥ところ、場所 ⑦國訓ところ(何々したれども、雖も、然るに等の意)  
 【處子】シヨシ ①をとめ、きむすめ ②官に仕へず家に居る人。  
 【處女】シヨヂョ ①をとめ、おほこ、未通女 ②はつ、かはきり、初めて爲すこと ③おとなしきこと。  
 【處士】シヨシ ①官に仕へず家に居る人、浪士 ②星の名。  
 【處分】シヨブン ①處置する、とりはからふ ②法律にそむくものを制裁すること。  
 【處方】シヨハウ 病氣に應じて藥をもると。  
 【處世】シヨセ ①よすぎ、よわたり。  
 【處次】シヨジ 居る所、場處、又居ること。  
 【處守】シヨシュ ①守る、罪にあてる。  
 【處刑】シヨケイ 罰す、罪にあてる。  
 【處前】シヨゼン 人の上へ立つこと。  
 【處決】シヨケツ ①とりはからふ、處斷 ②覺悟をきめる。  
 【處所】シヨショ ①むどころ、居る所。  
 【處待】シヨタイ 待遇、もてなし。  
 【處理】シヨリ ①しまつする、處理する。

【處務】シヨム 事務を處理する。  
 【處々】シヨシヨ ①むどころ ②どこもかしこも、各處 ③そこ、こゝ、ところ々々。  
 【處裁】シヨサイ 物事をとりさばくこと。  
 【處暑】シヨシュ 二十四氣の一、八月二十三日頃。  
 【處置】シヨチ ①しまつする、きまりをつける ②それ〴〵の位置をとりきめると  
 【處罰】シヨバツ 處刑に同じ。  
 【處辨】シヨベン 各所、どこもかしこも。  
 【處斷】シヨダン 取りはからひきめる。  
 【處女林】シヨヂョリン ①まだ一度も木を伐りしことのなき山林。  
 【處女地】シヨヂョチ ①未だ一度も土工を加へざる土地。  
 【處女作】シヨヂョサク ①初めて公表する文藝上の作品。  
 【處女會】シヨヂョクワイ 青年團と並行して婦人の品性を高め且つ社會奉仕の目的にて組織されたる處女の團體。  
 【處女飛行】シヨヂョヒコウ 或る地點の上空を始めて飛行する、又はつの飛行。  
 【處女航海】シヨヂョカウカイ 船舶が初めて航海すること。  
 【處女出版】シヨヂョシュツパン 出版物にして初めて公表されるもの。

【處女演説】シヨヂョエンゼツ ①初めて演壇に立ち公衆に向つて演説すると、又其演説。

類語

遊處シヨウ 異處シヨウ 居處シヨウ 出處シヨウ  
 獨處シヨド 燕處シヨエン 自處シヨジ 風處シヨフ  
 托處シヨタク 巷處シヨウ 與處シヨウ 安處シヨアン  
 定處シヨテイ 移處シヨイ 寢處シヨシン 雜處シヨザツ  
 隱處シヨイン 暴處シヨバウ 偶處シヨグ  
 寡處シヨカ 幽處シヨウ 窮處シヨキウ 特處シヨトク  
 妙處シヨミョウ 急處シヨキウ 要處シヨエウ

【處】

處の俗字

【處】

コク

【處】

虚の俗字

【處】

虚の俗字

【處】

虚の俗字

【處】

虚の俗字

①處に同じ ②伏に同じ

【虚】キヨ

六畫

虚

①からである、むなし ②むなしくす、からにする ③天竺、そら ④すさま、準備のないこと ⑤そらごと、うそ ⑥よわし(弱) ⑦しろあと(墟)  
 【虚心】キヨシン こゝろをむなしくす、無心。  
 【虚丸】キヨワン それだま。  
 【虚左】キヨサ 尊き位をあけて賢者を遇すること。  
 【虚中】キヨチュウ 空腹、はらがへる。  
 【虚文】キヨブン ①實用に適せぬ文辭規則など ②虚日 ③虚事のなき日。  
 【虚日】キヨジツ 漢文にて動詞・形容詞などの稱。  
 【虚字】キヨジ 漢文にて動詞・形容詞などの稱。  
 【虚名】キヨメイ ①むなしき評判。  
 【虚舟】キヨシュ ①からの舟。  
 【虚妄】キヨウワウ ①いつはり、うそ。  
 【虚冲】キヨチュウ ①心にわだかまりのなきこと ②虚受 ③虚受 ④虚受 ⑤虚受 ⑥虚受 ⑦虚受 ⑧虚受 ⑨虚受 ⑩虚受 ⑪虚受 ⑫虚受 ⑬虚受 ⑭虚受 ⑮虚受 ⑯虚受 ⑰虚受 ⑱虚受 ⑲虚受 ⑳虚受 ㉑虚受 ㉒虚受 ㉓虚受 ㉔虚受 ㉕虚受 ㉖虚受 ㉗虚受 ㉘虚受 ㉙虚受 ㉚虚受 ㉛虚受 ㉜虚受 ㉝虚受 ㉞虚受 ㉟虚受 ㊱虚受 ㊲虚受 ㊳虚受 ㊴虚受 ㊵虚受 ㊶虚受 ㊷虚受 ㊸虚受 ㊹虚受 ㊺虚受 ㊻虚受 ㊼虚受 ㊽虚受 ㊾虚受 ㊿虚受  
 【虚位】キヨイ ①空虚なる地位 ②名のみ

て實權の伴はぬ地位 ③空名又は虚名の意。  
 【虚言】キヨゲン そらごと、うそ。  
 【虚泊】キヨハク 私慾なくして無爲なる貌。  
 【虚所】キヨショ 野市、原中の交易場。  
 【虚空】キヨウクウ ①大空、おほざら ②無住にしてひつそりした所。  
 【虚洞】キヨドウ うつつ、ほらあな。  
 【虚威】キヨキ ①からむばり、虚勢。  
 【虚耗】キヨウカウ ①虚勢 ②へる、空になる。  
 【虚弱】キヨジュク ①身體のよわきこと ②勢力や権力の弱きこと。  
 【虚病】キヨビヤク ①にせ病、けびやう。  
 【虚脱】キヨダツ ①心臓が急に弱つて脈搏が衰へること、身體の冷卻する症状。  
 【虚發】キヨハツ ①發射したる彈丸等の中らぬこと。  
 【虚勞】キヨラウ ①精力體力等の衰弱すること  
 【虚喝】キヨカク おどかし、そらおどし。  
 【虚無】キヨム ①何物もなくむなし。  
 【虚勢】キヨセイ ①虚威に同じ。  
 【虚想】キヨウキョウ ①實行不能の考へ。  
 【虚傳】キヨデン ①虚聞に同じ。  
 【虚飾】キヨシヨク ①みえ、うはべのよそほひ。  
 【虚蒂】キヨテイ ①無根のこゝろをしらべる。  
 【虚聞】キヨブン ①ねなしごと、無根の喩。

【虚廓】キョクワク 空しくしてひろきこと。  
 【虚偽】キョキ 虚妄に同じ。  
 【虚説】キョセツ 虚言。  
 【虚属】キョレイ 虚は居宅に人なきこと、属は人死して後なきこと。  
 【虚榮】キョエイ 虚は居宅に人なきこと、其場かぎりの名譽、みえ。  
 【虚誕】キョタン ねなしごと、でたらめ。  
 【虚語】キョゴ 虚言に同じ。  
 【虚辭】キョジ 虚言に同じ。  
 【虚實】キョジツ ①うそとまこと ②相手の用意のなき所とあるところ ③からとみ。  
 【虚談】キョタン 虚説に同じ。  
 【虚論】キョロン 前に同じ。  
 【虚蕩】キョタウ 言語などの實なくして妄りに大なること。  
 【虚器】キョキ ①役にたぬ道具 ②實なくして名ばかりのもの。  
 【虚静】キョセイ 老莊の唱へた倫理説にして心に一物をも留めず外來物の爲めに心身を亂されぬこと。  
 【虚聲】キョセイ 虚勢をはるための言ひふらし。虚名。  
 【虚證】キョショウ 事實なき證據、いつはりのあかし。  
 【虚證】キョレイ 形式のみにて精神の副はぬ

禮式。  
 【虚濠】キョガウ からぼり、壑深。  
 【虚譽】キョヨ 實なくして世間よりほめられること。  
 【虚懷】キョクワイ 虚心に同じ。  
 【虚無説】キョムセツ 一切の事物の眞理及び可能を否定する見解。  
 【虚無黨】キョムタク 現在の社會組織を打破して共產主義を實現せんとする秘密團體のこと。  
 【虚業家】キョゲツカ 實業家の對、實行力なくして一時の景氣に乘じ實業家を氣取る人々。  
 【虚空藏】コウクザウ こんごう、天の如き廣大な慈悲心・智慧を有する菩薩。  
 【虚無僧】キョムソウ 普化宗の僧侶の稱、ぼるんじ。  
 【虚心平氣】キョシンヘイキ 次に同じ。  
 【虚心平意】キョシンヘイイ 公平無私にして愛憎好惡の念なき態度。  
 【虚室生白】キョシツハクワシヤウ 室内を開放すれば自から光線が入り来るが如く人心も無念無想であれば自ら眞理に到達する意。  
 【虚々實々】キョキョウジツツ 互に虚實の秘術を盡して相戦ふこと。

【虚無因應】キョムインオウ 老莊の唱へた倫理説にして自然を樂しみ人爲を脱することとをいふ。  
 【虚掌實指】キョシヤウジツ 書道にて筆を持つに掌を廣くして指先に力を入れる心得  
 【虚靈不昧】キョレイフマイ 心體の明かにして鏡の如き状態。  
 訓讀  
 【虚に乗ず】乗レ虚キニチヤ 敵の防備の薄弱なる所をねらひてうつ、油断につくこむ。  
 類語  
 廣虚キヨク 晴虚キヨク 充虚キヨク 空虚キヨク  
 清虚キヨク 太虚キヨク 平虚キヨク 碧虚キヨク  
 崇虚キヨク 庸虚キヨク 恬虚キヨク 靜虚キヨク

虜

【虜】ロ リヨ  
 ①いけどり、とりこ、とりこにす、いけどる ②めしつかひ、やつこ ③えびす  
 【虜囚】ロリウ ①とりこ、俘虜。  
 【虜掠】ロリヤク 人をとりこにして財物をかすめる。  
 【虜將】ロリヤウ 敵の大將。  
 【虜獲】ロリウワク ①とりこにすること。

虞

𠂔

【虞】リョウ 敵のやつばら、野蠻人ども、えびすども。  
 【虞衆】リョウジュン 敵の兵衆。  
 七畫  
 ①前以て用意する、はかる ②そなへたのしむ(樂) ③山澤をつかさどる官 ④しんばい、おそれ ⑤父母の葬式を終へし當日に行ふ祭 ⑥朝の名(舜が堯の禪を受けて建てたもの) ⑦國名(今の山西省平陸縣)  
 【虞人】リョウジン 山林池沼を司る吏。  
 【虞初】リョウショ 前漢武帝時代の小説家、轉じて一般に小説の意味。  
 【虞意】リョウイ 心をたしなめること。  
 【虞唐】リョウタウ 虞舜と唐堯。  
 【虞淵】リョウエン 昔太陽が没する所と想像せし地、轉じてゆふがた、黄昏。  
 【虞説】リョウセツ 人をよろこばしめる説話。  
 【虞衡】リョウケウ 山林を司る吏。  
 【虞美人艸】リョウメイジンカウ 草花の一、ひなげし、美人草。

號

號

【號】カウ ゴウ  
 ①さけぶ(叫) ②なく(泣) ③なまへ、となへ ④本名・字・通稱等の外に附ける雅名 ⑤なづく、となへる ⑥言ひふらす、宣傳す、又公言する ⑦さしづ、いひつけ、命令 ⑧しるし(記號) ⑨商店の名稱 ⑩船舶の名の下に添へる語 ⑪數詞の下に添へて等級をあらはす語  
 【號令】カウレイ ①命令、さしづ ②大聲にて命令すること。  
 【號外】カウゲイ ①定期刊行物にして臨時發行するもの。  
 【號叫】カウケウ なきさけぶ。  
 【號泣】カウキツ 大聲にてなく。  
 【號哭】カウクウ 大聲をあげてなきさけぶ。  
 【號砲】カウハウ 合圖の爲めに發する大砲の音。  
 【號旗】カウキ 信號旗、あひづのはた。  
 【號嘯】カウセウ らそぶく。

虜

𠂔

【虜】キヨ  
 音樂用の鐘をかける臺の柱  
 【虜】カク  
 國名西魏(今の陝西省寶雞縣魏城)南魏(西魏が上陽に移つたもの)東魏(河南省滎陽縣)北魏(今の山西省平陸縣)  
 【虧】キ  
 ①かく(缺)損す、へらす、へる、かける ②かけ、へること、缺損  
 【虧損】キツン かける、そこなふ。  
 【虧盈】キエイ ①かけるとかちる ②満ちた

るもの、缺けること。  
【虺缺】ケケツ かけること。  
【虺喪】ケケウ 缺けうしなふ。  
【虺蔽】ケヘイ かける、又物におほはれる。  
類語 盈虺ケエイ 漸虺ケゼン 光虺ケクワウ 傾虺ケエイ 中虺ケチュウ 覆虺ケフク 類虺ケライ

【虺】ケキ  
おそれる貌  
虺の俗字

【虺】ケキ  
おそれる貌  
虺の俗字

虫部

【虫】キ

①俗に蟲の略字②魚介類の總名③まむし(虺の古事)

一一二畫

【虺】キ  
次に同じ

【虺】キウ  
みづち(龍の子にて角あるもの)

【虺】キウゼン みづちの如く曲りたるひげ  
【虺】キウヨウ みづち。  
【虺】キウ 蟲に同じ

【虺】シラヒ  
德川時代に發行されたる細字の假名のみ  
【虺】シラヒ 多數の者を一つくあし  
【虺】シラヒ 草の名、ほととぎす草

【虺】シラヒ 德川時代に發行されたる細字の假名のみ  
【虺】シラヒ 多數の者を一つくあし  
【虺】シラヒ 草の名、ほととぎす草

【虺】シラヒ 德川時代に發行されたる細字の假名のみ  
【虺】シラヒ 多數の者を一つくあし  
【虺】シラヒ 草の名、ほととぎす草

三畫

【虺】カン

①ぼうふり(子子)②をかす(犯)

【虺】カウ  
蛇の俗字

【虺】カウ  
次に同じ

虺

①にじ(太陽の光線が空中の水蒸氣に分解せられて生ずる色彩ある橋状の現象、又空中の水蒸氣に映じて生ずる白氣)②はし(橋)③みだす(虹)

【虹】コウ 貫きとほる貌。  
【虹】コウ 眼球の瞳孔をかこみて放散輪狀に列せる筋織維。  
【虹】コウ たき、飛瀑。  
【虹】コウ にじ、橋の形せるよりいふ。  
【虹】コウ にじ、霧虹。

【虹】コウ 貫きとほる貌。  
【虹】コウ 眼球の瞳孔をかこみて放散輪狀に列せる筋織維。  
【虹】コウ たき、飛瀑。  
【虹】コウ にじ、橋の形せるよりいふ。  
【虹】コウ にじ、霧虹。

類語

【虹】コウ 貫きとほる貌。  
【虹】コウ 眼球の瞳孔をかこみて放散輪狀に列せる筋織維。  
【虹】コウ たき、飛瀑。  
【虹】コウ にじ、橋の形せるよりいふ。  
【虹】コウ にじ、霧虹。

【虺】キクワイ  
①まむし(蝮蛇)②小さきへび③雷の轟く音④疲れる貌

【虺】キクワイ  
①まむし(蝮蛇)②小さきへび③雷の轟く音④疲れる貌

【虺】キクワイ  
①まむし(蝮蛇)②小さきへび③雷の轟く音④疲れる貌

【虺】キクワイ  
①まむし(蝮蛇)②小さきへび③雷の轟く音④疲れる貌

【虺】キクワイ  
①まむし(蝮蛇)②小さきへび③雷の轟く音④疲れる貌

類語

【虺】キクワイ  
①まむし(蝮蛇)②小さきへび③雷の轟く音④疲れる貌

【虺】キクワイ  
①まむし(蝮蛇)②小さきへび③雷の轟く音④疲れる貌

【虺】キクワイ  
①まむし(蝮蛇)②小さきへび③雷の轟く音④疲れる貌

【虺】キクワイ  
①まむし(蝮蛇)②小さきへび③雷の轟く音④疲れる貌

【虺】キクワイ  
①まむし(蝮蛇)②小さきへび③雷の轟く音④疲れる貌

四畫

【虺】ブン  
次に同じ

【虺】ブン  
次に同じ

か(子)の羽化したもの

【虺】ブン 蚊のむれ。

【虺】ブン 小蟲の名、か。

【虺】ブン 蚊の足、細字などの形容。

【虺】ブン 編蝠の異名。

【虺】ブン 蚊の集まり鳴く聲の形容。

【虺】ブン 蚊の集まり鳴く聲の形容。

【虺】ブン 蚊の集まり鳴く聲の形容。

【虺】ブン 蚊の集まり鳴く聲の形容。

【虺】ブン 蚊の集まり鳴く聲の形容。

【虺】ブン 蚊の集まり鳴く聲の形容。

【虺】キクワイ  
①まむし(蝮蛇)②小さきへび③雷の轟く音④疲れる貌

【虺】キクワイ  
①まむし(蝮蛇)②小さきへび③雷の轟く音④疲れる貌

【虺】キクワイ  
①まむし(蝮蛇)②小さきへび③雷の轟く音④疲れる貌

【虺】キクワイ  
①まむし(蝮蛇)②小さきへび③雷の轟く音④疲れる貌

【虺】キクワイ  
①まむし(蝮蛇)②小さきへび③雷の轟く音④疲れる貌

【虺】キクワイ  
①まむし(蝮蛇)②小さきへび③雷の轟く音④疲れる貌

【虺】キクワイ  
①まむし(蝮蛇)②小さきへび③雷の轟く音④疲れる貌

【虺】キクワイ  
①まむし(蝮蛇)②小さきへび③雷の轟く音④疲れる貌

【虺】キクワイ  
①まむし(蝮蛇)②小さきへび③雷の轟く音④疲れる貌

【虺】キクワイ  
①まむし(蝮蛇)②小さきへび③雷の轟く音④疲れる貌

【虺】キクワイ  
①まむし(蝮蛇)②小さきへび③雷の轟く音④疲れる貌

【虺】キクワイ  
①まむし(蝮蛇)②小さきへび③雷の轟く音④疲れる貌

【虺】キクワイ  
①まむし(蝮蛇)②小さきへび③雷の轟く音④疲れる貌

人の名

蚘 フン

●歌の名、むぐらもち●人の名(西漢武帝代時の宰相)  
【蚘組】フンシ 音聲の亂れたるさま。

蛭 コウ

娛蛭はむかて

蚤 サウ ソウ

蚤

●害蟲の一、のみ●はやし(早)つとに  
●つめ(爪)つめきる

【蚤世】ツウセイ わかじに、早世。  
【蚤死】ツウシ 前に同じ。  
【蚤起】ツウキ はやおき、夙起。  
【蚤秀】ツウシュ 年若くして秀でてゐると。  
【蚤莫】ツウモク 朝夕、あさばん。  
【蚤歳】ツウサイ 若き年ごろ。  
【蚤知之土】ツウチノチ 先見の明ありて早く機會を知る人。

蚪 トウ ツ

蚪蚪は蛙の子、おたまじやくし

蝮 ハウ

蝮調あはび(海産貝の一、蝮)  
蝮蛸は蝮の名、みず

蚋 キウ

蚋蚋は蝮の名、みず

蚨 ケン

蚨蚨は蝮の一、はた

蚻 フ

蚻蚻は蝮のうろこ

蛭 テウ

蛭の、つくくぼうし

蚤 コ

蚤の俗字

蛭 蛭

蛭蛭は蝮の一、けら(蟻)●蛭蛭はな

蚘 セン

蚘蚘は蝮の幼蟲、けむし

蚘 ショソ

●蝮の幼蟲、うじ●蚘蚘は娛蛭の別名

蝮の一種、にしきへび

蚘 シ

●おろか(愚)みだれる(亂)●あなどる(侮)●蚘尤は古代君王の名●兵亂の前兆をなす星

【蚘々】シシ おろかなるさま。  
【蚘眩】シシ 侮りてだます、ばかにしてだますこと。  
【蚘痴】シシ おろかなること。  
【蚘戲】シシ ふざける、たはむれる。  
【蚘眩】シシ 蚘痴に同じ。

蚪 トウ ツ

蚪蚪は蛙の子、おたまじやくし

蝮 ハウ

蝮調あはび(海産貝の一、蝮)  
蝮蛸は蝮の名、みず

蚋 キウ

蚋蚋は蝮の名、みず

蚨 ケン

蚨蚨は蝮の一、はた

蚻 フ

蚻蚻は蝮のうろこ

蛭 テウ

蛭の、つくくぼうし

蚤 コ

蚤の俗字

蛭 蛭

蛭蛭は蝮の一、けら(蟻)●蛭蛭はな

蚘 セン

蚘蚘は蝮の幼蟲、けむし

蚘 ショソ

●蝮の幼蟲、うじ●蚘蚘は娛蛭の別名

●蝮の幼蟲、うじ●蚘蚘は娛蛭の別名

蚘 イウ

蚘蚘は蝮の一、げぢく

蚘 チ

●ありのたまご●人の姓

蚘 カ

●蚘蚘は蝮の一、とかげ●蚘仔は臺灣語にてかき(牡蠣)

蚘 カン

淡水の注流する海濱に産する貝、あか

蚘 キヨ

商蚘はむかでに似て小さき一種の蟲、やすで

蚘 ゲン

馬蚘はやすで

蚘 シユ

蚘

蚘蚘は蝮の一、はた

蚻 フ

蚻蚻は蝮のうろこ

蛭 テウ

蛭の、つくくぼうし

蚤 コ

蚤の俗字

蛭 蛭

蛭蛭は蝮の一、けら(蟻)●蛭蛭はな

蚘 セン

蚘蚘は蝮の幼蟲、けむし

蚘 ショソ

●蝮の幼蟲、うじ●蚘蚘は娛蛭の別名

●蝮の幼蟲、うじ●蚘蚘は娛蛭の別名

【蛋白】タンパク 卵のしろみ。  
 【蛋殼】タンカク 卵のから。  
 【蛋黃】タンクワク 卵のきみ。  
 【蛋白質】タンパクシツ 動植物の成分をなし炭素・水素・窒素・硫黄より成る物質。

六畫

蚌

ボウ

蚌蚌はがざみ

蝸

クワイ

寄生蟲の一、はらのむし、蝸蟲

蛭

クワイ

はらのむし(蝸)

蛙

ワア

●兩棲動物の一、かへる、かはづ(みだり(淫))  
 【蛙市】ワシ 蛙が集合して鳴くと、又其貌。  
 【蛙吹】ワスキ 蛙のなきごゑ。  
 【蛙吹】ワハイ 次に同じ。

【蛙吹】ワハイ 次に同じ。

【蛙鼓】マコ かへるの鳴く聲、蛙聲。  
 【蛙葉】アエフ おほばこ草の異名。  
 【蛙聲】アセイ ①みだらなる音楽②蛙鼓に同じ。  
 【蛙鳴】アイイ 蛙が鳴くこと、轉じて非常にさわがしきにいふ。  
 【蛙鳴蟬噪】アイトナワ 無用の口論、又は陋劣なる文章。

際會して賑起するに喩へる語。  
 類語 墨蚊カワ 濇蚊カワ 虎蚊カワ  
 水蚊カワ 雄蚊カワ

蛛

チュ

蜘蛛はくも、蟲の一

蚊

カウ

龍の類、みづち、大蛇、おろち。

【蚊蟻】カウレン みづち、龍の屬。

【蚊蟻】カウレン みづちとたつ。

【蚊蟻】カウレン みづちとたつ。英雄が風雲に

珠

蚊

蛤

カフ

海産貝の一、はまぐり

【蛤丁】カフダイ 貝の柱の異名。

【蛤仔】カフシ あさりの異名。

【蛤灰】カフクワイ 貝殻を焼きたる灰。

【蛤蜊】カフケン はまぐりらしいがひ。

【蛤蜊】カフケン 海産貝の一、しほふき。

【蛤蜊】カフケン 蛙の異名。

蛞

パウ マウ

蛞蝓は山川木石の怪物、すだま

蛭

キヨウ

●こほろぎ(蛭)①いなご(蛭)②獸の名  
 ●うれへ思ふさま  
 【蛭聲】キヨウセイ こほろぎの鳴く聲。

蚕

キヨウ

きりくす、こほろぎ(蚕)

蛭

シツ チツ

池溝田沼等に生ずる水蟲の一、ひる

【蛭蝨】シツイン ひるとみ、小人輩に譬

【蛭蝨】シツイン ひるとみ、小人輩に譬

【蛭蝨】シツイン ひるとみ、小人輩に譬

七畫

蛞

サウ セウ

蛞蝓はあしたかぐも、蛞蝓は烏賊の

蛹

ヨウ

一種の國調たこ(海産の軟體動物の一、

【蛹壺】タコウ 蛹を捕ふる漁具の一。

【蛹配當】タコウハイツ 實際には無き利益を有

るが如くつくるひて配當すること、又

その配當の金。

蛻

ゼイ

①もぬけ、ぬけがら②蟲類が外皮を脱

【蛻】ゼイ ぬけがら②蟲類が外皮を脱

【蛻】ゼイ ぬけがら②蟲類が外皮を脱

【蛻】ゼイ ぬけがら②蟲類が外皮を脱

山高くと雲霧が多くて目を見ることが少きより偶々日が出る時は犬が怪しみてほえたといふ故事、見識の狭き者が他の卓絶なる言行に對して懷疑を起して非難攻撃すること。

### 蜂

ホウ

【蜂屯】ホウトン 蜂の如く多くむらがりあつまること。

【蜂出】ホウシュツ 物の多く出る貌。

【蜂房】ホウバウ 蜂の巣、蜂窠。

【蜂起】ホウキ 蜂の群りたつ如く兵などの多くおこるさま。

【蜂衙】ホウガ 蜜蜂が朝夕巢を出入するさまを役所に見立て、いふ語。

【蜂腰】ホウエウ 細きこし、柳腰、悪詩のこと。

【蜂窠】ホウサ 蜂房に同じ。

【蜂蜜】ホウミツ 蜜蜂の巣より採取した甘味粘稠の液、はちみつ。

【蜂蟻】ホウセイ 蜂のはり。

【蜂窠】ホウサ 蜂のはりとさそり、小さくとも畏るべきものゝ喩。

【蜂目射聲】ホウモクタイセイ 蜂の如き目つきと

射の如き聲、凶暴なる人の相。

【蜂房水渦】ホウバウスイキョウ 天井がいくくみて蜂の巢又は水の渦の如く見えること。

【蜂準長目】ホウシュンチヤウモク 蜂の如き鼻筋と細長い目。

【蜂高生活】ホウクワセイクワフ 一つの大きな建築物に多数の家族が分居して住むこと

### 蜎

シン

【蜎】はまぐり、蛤の大きなもの、蚊の一種

【蜎市】シンシ 蜎氣樓に同じ。

【蜎蛤】シンカフ はまぐり、おほはまぐり。

【蜎樓】シンロウ 次に同じ。

【蜎氣樓】シンキョウ 空氣と光線との關係によりて遠地の風物が海上又は沙漠の上空に映つて見える現象。

### 蜎

ケン

淡水産の貝の一、しほみ

### 蜈

イ

蜈蚣は毒蟲の一、むかで

【蛸】はおほあり(蛸)蛸蛸はかげろふ、時間の短いこと、又は人生のはかないことに喩へる

【蛸蛸】フイウ かげらふ、夏秋の間に出て敷時間にて死する小蟲。

### 蛸

フ

【蛸蛸】はまぐりの一種、しほふき、國訓あさり(淺蛸)

### 蛸

ラウ

【蛸蛸】はかまきり、蛸蛸はくそむし

### 蛸

ショ

【蛸蛸】はひきがへる、日月の異名

### 蛸

エン

【蛸】の動く貌、ばうふり(子子)たむ(掬)まがる、うるはし(蛸)

【蛸々】エンエン、いもむしの動く貌。

【蛸々】エンエン、いもむしの動く貌。

### 蚧

ケフ コフ

石蚧は海蟲の一、かめのて

### 蜚

タン

【蜚】南方野蠻人の一、國訓あま、海人

【蜚丁】タンテイ 南國の海人のわかもの、あまびと、あま。

【蜚月】タンコ 南國海人の家、あまの家

【蜚舎】タンシヤ 前の①に同じ。

### 蜎

エン

【蜎】小蟲の一、げち、うねうねと長き貌

【蜎々】エンエン、うねうねと長きさま。

### 蛸

テイ テン

【蛸】蛸蛸はとんぼ(蛸蛸)蛸蛸はやも

【蛸】(蛸)

### 蛸

チ

蜘蛛は昆蟲の一、くも

### 蜚

ヒ

【蜚】稻の害蟲、蜚蟻は害蟲の一、あぶらむし、とぶ(飛)

【蜚禽】ヒキシ 飛禽、とぶとと。

【蜚語】ヒゴ 誰いふとなく傳へし喩、流言。

【蜚零】ヒレイ 土蜂の異稱。

【蜚瘴】ヒバウ あぶらの異名。

【蜚鴻】ヒコウ 蟲の一、かつをむし。

【蜚騰】ヒトウ 飛びあがること。

### 蜜

ビツ ミチ

【蜜】はちみつ、さたらみつ

【蜜月】ミツゲツ 歐米諸國の風俗で新婚後三

十日間の稱、ホネームーン。

【蜜汁】ミツジュ はちみつ、みつ。

【蜜蟻】ミツアリ 昆蟲の一、みつばち。

【蜜樹】ミツツツ 蜜蜂の巢より製したる蠟。

【蜜柑】ミカン 果樹の一、又その果實。

【蜜】(蜜)

### 蛸

サシヨ

十二月に萬神をまつる祭

【蛸祭】サシヨ 十二月に萬神をまつる祭事。

【蛸蟻】サシヨ 歳の暮に行ふ祭の名。

【蛸月】サシヨ 十二月の異名。

### 蛸

キヨウ

くそむし

### 蛸

セキ

【蛸】はよりもりに似た蟲、とかげ

### 蛸

テウ

せみ(蛸の總名)ひぐらし(茅蛸)つくつくぼうし(寒蛸)おほせみ(馬蛸)

### 蛸

ヨク キキ ヨク

【蛸】馬蛸、秋蛸、青蛸

【蛸】(蛸)

いさごむし、水中の怪蟲、人を害する者に喩へる

蜻・蛭・蜂・蝶・蟻・蜚・蠅・蠊・蝨・蟻・蠅・蟻・蠊・蝨・蟻・蠅・蟻・蠊・蝨・蟻

**蜻**

蚪に同じ

**蛭**

エキ

蛭類はとかげ

**蝮**

ケン

①蝮のうねり匂ふさま ②國訓にな、みな(田螺に似た貝)

**蝟**

セイ セツ

【蝟局】ケンキョク 蝟のうねり行くが如く歩行のゝろきと、又志の伸張せぬさま。

**蛭**

セイ セツ

①か(蚊)②國訓ぶと、ぶよ(草間に棲む小なき羽虫)

**蛭**

ゲイ

【蛭】ゲイ

**類語**

了蛭ゲイ 珥蛭ゲイ 雲蛭ゲイ 妖蛭ゲイ

**蜻**

セイ

蜻

蜻蛉の一、とんぼう、とんぼ、あきつ

【蜻蛉】セイレイ 蝟の一、とんぼう、とんぼ。

【蜻蛉洲】フキワシマ 我國の異名。

**蝟**

キ

をながざるの一種、くもざる

**蝟**

リヤウ

【蝟】リヤウ 蝟はすだま

**蜚**

クラ

蜚蠊は蜂の一種、すがる、じがばら

蜚

**蛭**

エン

①龍蛇などのうねり行く貌 ②蛭は蜚の異名 ③山勢などの屈して長くつゞくさま ④山蛇などのよちよちとなるさま

【蛭】エンエン うねうねと曲りくねる貌。

【蛭々】エンエン うねうねと曲りくねる貌。

**類語**

蝟蛭エン 龍蛭リョク 蝟蛭エン

**蝟**

トウ

蝟はにじ(虹)

**蝟**

ナイ

にじ(蝟) 虹に比して男女の淫奔又は淫悪の意

蝟

**蝟**

蝟に同じ

**天虫**

眞に同じ

九畫

**端**

セン

うごめく、蠢動する

**蛭**

クラ

①蛙の幼蟲、おたまじやくし(蛭類) ②支那古代の文字の書體 ③蛭の幼蟲、おたまじやくし。

蛭

【蛭類文字】クラトモシ 支那古代の文字の書體。

**蛭**

シヨク

蛭類はむかて、百足蟲

**蝮**

カツ

木を食ふ蟲、きくひむし、すくもむし

**蝮**

ユ

なめくぢら

**蝮**

シヨク

①日食・月食(日が月に遮られ又は月が地球の影をうけて光を失ふこと、又その現象) ②むしばむ、むしくひ ③くひこむ、侵す

【蝮既】シヨクキ 月食・日食等の全くかけたるもの。

**蝮**

クラウ

害蟲の一、いなご

蝮

蝮

**蝮**

エン

人家の壁・樹木等に棲む益蟲、やもり

【蝮】エン

**蝮**

ヘン

小獸の一、かうもり、かはぼり(編蝠) ①編蝠政黨(カウモリ、セイヤウ) 形勢を觀望して有利なる方につく政黨。

**蝠**

フク

①かうもり、かはぼり(編蝠) ②まむし

**蝮**

エン

いなごのこ(蝮子)

**蝮**

キ

鼠に似た小獸、はりねずみ

【蝮毛】キモウ はりねずみの毛、物の多きに喩へる。

【蝮集】キレツ 蝮の毛の如く物事が一時に集まること。

**蝮**

セン ジュン

うごめく、蠢動する

【蝮蛇】センジ 蛇の一種、木食のへび。

【蝮々】センセン 蟲がうごめく貌。

**蝮**

イウ

蟲の一、かげらふ(好蝮)

**蝮**

シウ イウ

①きくひむし、木の中に生じて木のしんを食ふ害蟲 ②蟹の一種、がぞみ ③かげらふ ④婦人の頸の美しき形容

**蝮**

ボウ バウ メウ

①稻の根を食ふ害蟲、ねきりむし ②他に害を及ぼす者に喩へ用ゐる ③毒蟲の名

【蝮賊】ボウゾク ねきり蟲、又人に害をなすもの。

**蝮**

カ

蝮

①えび(蝦)海老②蛙の一種(蝦蟇)がまから奥羽・北海道地方までに居住した種民、えみし、えぞ(蝦夷)

【蝦蟇】カコ 近海の沙泥中にすむ貝の一、しやこ。  
【蝦魁】カクワイ かまくら蝦。  
【蝦虎魚】カコギョ 鯊の異名。  
【蝦蟇仙人】オマセニシ 蝦蟇を使ふことに上達したる仙人。

【蝮】 シツ

寄生蟲の一、しらみ(虱)  
【蝮處二禪中】シラミコシチユウニナル 虱が禪の中にひそみて一時の生命をむさぼる如く人の見識の狭隘なる喩。

訓讀  
【蝮を捫る】捫レ蝮しらみをひる。うはべの事物に頓着なく時世を放談するさまにいふ語。

【蝮】 フク

毒蛇の一、まむし(普通の蛇より體が太く短く背に圓形の斑文あるもの)  
【蝮處】フクキ まむしの異名。

【蝮蛇】 フクキ まむし。

①蠚の一種、あぶ草の一、あみがさゆり

【蠚】 バウ

てふ(蝴蝶)  
【蝴蝶夢】コトバユメ 莊子の寓言に因み人生のはかなきと、又彼我の區別なきと。

【蝶】 テフ

こてふ、てふく、毛蟲類の羽化したるもの  
【蝶貝】テフバイ あこや貝の異名。  
【蝶兒】テフジ 蝶、てふく。  
【蝶夢】テフム 莊周が夢に蝴蝶となりて彼の別を忘れしといふ故事。  
【蝶蟻得志】テフギココロシテラウ 悪人どもが勢力をふるふこと。

類語  
異蝶テフイ 狂蝶テフキヤウ 孤蝶テフコ 蝴蝶テフコ  
風蝶テフフ 戲蝶テフキ 蜂蝶テフホ 雙蝶テフフ

【蝮】 ゲン

①ふもり②蠚の一種、なつこ

【蝮】 フウ

蝮蟻は蜂の一種、じがばち

【蝮】 ハン

蝮蟻は毒蟲の一、はんめう、斑猫

【融】 ユウ

①とく、とかす、とける、固體が液状になること②とほる、とほり③やはらぐ(和)④甚だ明かなるさま  
【融和】ユウワ 從來互ひに相反してゐたものが溶合して或新物となること、融け合ひて新らしき物を生ず。  
【融合】ユウゴウ とかして一つにする、とけて一つになる。

【融和】ユウワ 前に同じ。  
【融風】ユウフウ 北東の風。

【融然】ユウゼン 相和らぐ貌。  
【融通】ユウツウ ①滞りなくとほる②有無相通ず、やりくり。  
【融齋】ユウサイ 音聲を長く引く貌。  
【融解】ユウカイ とかす、とける。  
【融會】ユウクワイ 溶けて一つに集まる、とかし集める。

【融暢】ユウチャウ 融和に同じ。  
【融々】ユウユウ 和らぐさま。  
【融融】ユウユウ 融和に同じ。  
【融釋】ユウシヤク 融解に同じ。  
【融通物】ユウツウブツ 流通し得られる目的物  
【融通手形】ユウツウテガタ 私人が情實關係上權利義務を作つて發行する手形。  
【融通念佛宗】ユウツウネンブツユウ 崇徳天皇の頃良忍の創めたる佛教の一派。

【蝮首】シレシユ 色の白き類。

【蝮】 シン

蝮の一種、なつぜみ、又美人のひたひの形容

【蝮】 ハイ

だに、牛・馬・犬などにたかつて血を吸ふ害蟲

素蝶テフ 粉蝶テフ 野蝶テフ 彩蝶テフ  
黄蝶テフ 白蝶テフ 雄蝶テフ 雌蝶テフ

【蝮】 クワ

軟體動物の一、かたつむり、かたつぶり(蝸牛)  
【蝸篆】クワテン 蝸牛の這ひし跡のぬめりを篆書の形に見たて、いふ。  
【蝸髻】クワケツ 小供の髻の形容。  
【蝸蟲】クワチュウ かたつむり、蝸牛。  
【蝸廬】クワロ かたつむりの殻の如き小さな家屋。  
【蝸角之爭】クワカクテラウ 蝸牛の角の上にある二國が互に争つたといふ比喩、甚だ小さき争。

十畫

【蝮】 ハウ

蟹の一種、どろがに

【蝮】 ケイ

蝮の一種、どろがに

【蝮】 タウ

蝮の一種

【蝮】 ベイ

①稻の莖を食ふ害蟲、くきむし、ずるむし②あをむし(螟蛉)  
【螟蛉】ノイレイ 桑の害蟲。  
【螟蛉】ノイコウ 稻の害蟲、ずるむし。  
【螟蟻】ノイトク 作物の害蟲の總稱。

【蝮】 イ

①蟲の一、いちよ(益女)②國調い(海邊の沙泥中にすむ蟲)ゆむし

【蝮】 ケイ

初夏の頃水邊に生ずる飛蟲、ほたる  
【螢火】ケイコウ ほたるのひかり。  
【螢石】ケイセキ 一種の鏡物、ほたるいし、暗處にて熱すれば燐光を發す。  
【螢光】ケイコウ 特殊の物體に日光を受け





【蜻蛉】大なるもの、うはぐみ、をろち

【蜻蛉】ハシラ、三年に一度花が咲いて實

類語

巨蜻蛉、怪蜻蛉、修蜻蛉、毒蜻蛉

蜻

スキ

【蜻】一種、うみがめ、正覺坊

蝻

シ

【蝻】

蟻

ケウ

蝻

【人名(舜の祖父)】天蟻は類りに伸びるさま、龍のわたかまるさま

蟻

レウ

【蟻】蟻の一、つくくぼうし

蟻

ハンベン

蟻

【蟻】わだかまる、かぐみ伏す  
【蟻】ハシラ、かぐみわだかまる  
【蟻】ハシラ、かぐみわだかまる  
【蟻】ハシラ、かぐみわだかまる

蟻

キ

【蟻】前にかかるもの、しらみの子

蟻

ケイ

【蟻】蟻の一種、なつぜみ

蟻

ケイ

【蟻】蟻の一種、なつぜみ

蟻

ケイ

【蟻】蟻の一種、なつぜみ

蟻

セン

【蟻】蟻の羽化したる昆虫の總稱、せみ

蟻

セン

【蟻】蟻の羽化したる昆虫の總稱、せみ

【蟻】蟻の一種、なつぜみ

【蟻】蟻の一種、なつぜみ

【蟻】蟻の一種、なつぜみ

【蟻】蟻の一種、なつぜみ

【蟻】蟻の一種、なつぜみ

【蟻】蟻の一種、なつぜみ

【蟻】蟻の一種、なつぜみ

【蟻】蟻の一種、なつぜみ

【蟻】むし、人、禽獸・魚介を除いた他の動物の總稱  
【蟻】むし(愛らしい聲で鳴く虫、物を損ふむし、病氣のもととなる虫、心を支配するもの、出産時の腹痛)  
【蟻】むし(別字)  
【蟻】むし(別字)  
【蟻】むし(別字)  
【蟻】むし(別字)

【蟻】水中又は水陸兩方に棲む一種の蟲、かに、無腸公子  
【蟻】かに(子は助字)  
【蟻】生れたての赤子の糞  
【蟻】かにのゆくこと、轉じて横

【蟻】昆蟲の一、あり  
【蟻】ありのあな  
【蟻】蟻が甘い物にたかる如く物事又は人の集まり來ること  
【蟻】ありづか、又土の小高き所  
【蟻】前に同じ  
【蟻】むらがる蟻

【蟻】 ヲモリ 孵化したばかりの蟻。  
【蟻】 ヲモリ 孵化したばかりの蟻。  
【蟻鼻】 ヲモリ 古銭の一名。  
【蟻地獄】 ヲモリ 蟻を食する虫、うすば  
かげろくの幼虫。

### 蟾

① 蛙の一種、ひきがへる(蟾蜍)② 月の  
異名

### 蟹

① 蟹の一種、はた／＼(蟹)② 月の  
異名

### 蟹

酒や醋にたかる一種の小虫、さし、し  
やうじやう

### 贏

① 蟹の一種、じがばち(螺贏)② 蚌の  
一種

雨後などに亂れ飛ぶ小虫、かつをむし  
【蠃】 ヲモリ あをむし。

### 蠕

① うごめく、虫などの動くさま、蠢動  
② 人種の名(匈奴の一名にして今の内蒙  
古地方に住居したもの)③ はふ(這)  
虫がはふ

【蠕動】 ヲモリ 食物が腸を通過する時腸壁  
を構成する筋肉が伸縮して動く貌。

### 蠖

① 蠖に似た虫、しやくとりむし② 暗く  
亂れるさま③ 退きかくれる貌

#### 十五畫

### 蠮

虫の一種、かつをむし

### 蠽

### 蠹

組の羽化した小さき飛虫、はへ

【蠹】 ヲモリ 蠹のむらがり集まる所。  
【蠹】 ヲモリ 蜘蛛の一種、はへとりぐも。  
【蠹散】 ヲモリ はへ取り薬。  
【蠹拂】 ヲモリ はへたゞき。  
【蠹々】 ヲモリ うごめく貌。  
【蠹集】 ヲモリ 蠹の如く群り集まること。  
【蠹頭】 ヲモリ はへのあまた、細かきもの  
に譬へる。

若蠹 ヲモリ 青蠹 ヲモリ 飛蠹 ヲモリ 朝蠹 ヲモリ  
蠹蠹 ヲモリ 撲蠹 ヲモリ

### 蠹

① 蠹の一種、さそり② 蟻の幼虫、た  
いこむし(水蠹)

### 蠹

蠹類の幼虫、いもむし

### 蠹

① いなご(蠹)② 昆蟲の一種、へひりむし

① 蜜蜂の巢、黄蠹の穴、重油等より採る  
硬性の脂肪にして蠹燭の原料又塗料等  
に用ゐる② らふの如き性状あるもの、  
總稱③ らふをひく、らふを塗る④ らふ  
そく

【蠹丸】 ヲモリ 秘密の漏洩又は濕氣を防  
ぐため書状を蠹のたまの中に封じこみ  
しもの。

【蠹石】 ヲモリ 滑石の一種にして柔滑なる  
質を有し光澤蠹の如く印材・文具・石  
筆などに造る。  
【蠹展】 ヲモリ 蠹びきのくつ。  
【蠹炬】 ヲモリ 蠹燭の異稱。  
【蠹書】 ヲモリ 蠹丸の中に入れてたる手紙。  
【蠹珀】 ヲモリ 琥珀の異名。  
【蠹池】 ヲモリ 蠹燭の強弱、消燈後もな  
ほ強弱すること。  
【蠹梅】 ヲモリ 梅の一種、からうめ。  
【蠹涙】 ヲモリ 蠹のたれ、蠹燭の蠹の流  
れ垂れたるもの。  
【蠹蜂】 ヲモリ みつ蜂の異名。  
【蠹燭】 ヲモリ 紙・燈心・絲を心として周囲

### 蠹

蜘蛛類の毒虫、さそり、忌み嫌はれる  
もの、譬に用ゐる

### 蠹

蟹の本字  
十四畫

### 蟻

① 蟻の幼虫、ちむし② 蟻はきくひむ  
し

### 蟻

蟻は① 水陸に兩棲する虫、ももり②  
やもり、守宮

### 蟻

蟻の異名  
ボウ

に厚く蠹を塗りて點燈用に供するもの  
【蠹燈】 ヲモリ 燈臺の異名。  
【蠹色】 ヲモリ 漆を塗りて磨き立てしもの  
又その色。

【蠹を嚼む】 ヲモリ 蠹を嚼む。平凡にして趣  
味なき詩文を評する語。

### 蠹

① 木をかむ虫② 蠹がくふ、むしばむ③  
ひさご(蠹)④ 皮膚病の名、ひぜんがさ

【蠹々】 ヲモリ 行列する貌。  
【蠹測】 ヲモリ ひさご、ふくべ。

### 蠢

① うごめく、虫のうごくさま② おろか  
(無智)

【蠢戻】 ヲモリ 理に戻る、道理にそむく。  
【蠢動】 ヲモリ 虫がうごめく、力無くし  
て騒がたてる意。  
【蠢愚】 ヲモリ ばか、おろか、愚物。  
【蠢爾】 ヲモリ おろかにして悪事を恥とも  
思はぬさま。

【蠢蠢】 ヲモリ ぐづ／＼して態度が決めぬ

【蠹々】シユシユン ①動き乱れるさま ②蟲の動くさま ③無作法なるさま

【蠢々漢】シユンガカン 愚かなる男。

**蠹**

レイ

貝の一種、かき

【蠹粉】レイフシ かがらの灰。

【蠹黄】レイクワツ 蠹の肉を鹽漬にしたるもの。

【蠹殼町】カキガラチヤウ 東京米穀取引所の異名、蠹殼町にあるよりいふ。

十六―十七畫

**蠹**

蠹に同じ

**蠹**

セウ

蠹は蜘蛛の一種、あしたかぐも

**蠹**

蜂に同じ

**蠹**

エツ

**蠹**

コ

**蠹**

蠹は蜂の一種じがばち。

腹の蟲、又穀の中の蟲、轉じて物事をそこなふもの(コ)こと(事)ことがら(蠹)まどはす(惑)まじなひ(禁呪)みこと(易)の卦の名

【蠹疾】コレフ 精神の惑亂する一種の病氣

【蠹惑】コワク たぶらかす、まどはす。

【蠹誘】コイワ おびき出すこと、だます。

**蠹**

ケン ケイ

①あきらか、あきらかにす(明)(明)いさ(ぎよし)(蠹)

【蠹放】ケンハウ 除き去ること。

【蠹免】ケンメン 租税を免除すること。

【蠹省】ケンセイ はぶきのぞく、省略。

【蠹除】ケンヂウ やめる、のぞく、斥ける。

【蠹蒸】ケンジウ 潔よく進み出るさま。

【蠹降】ケンカウ 租税の負擔を軽くすること

【蠹租】ケンソ 前に同じ。

【蠹減】ケンゲン 負擔を軽減すること。

【蠹救】ケンキウ 租税を免じて救助すること

【蠹潔】ケンセツ 除き清める。

【蠹賦】ケンフ 貢物を免除すること。

【蠹潔】ケンセツ 物事に潔白なること。

十八畫

**蠹**

ケイ キ

蠹はうみがめ

**蠹**

サン

**蠹**

①蟲の一、かひこ(コ)かひこを飼ふ、又其わざ

【蠹豆】サントウ 豆の一種、そらまめ。

【蠹具】サンゴ かひこを飼ふ器物。

【蠹兒】サンジ かひこ。

【蠹室】サンシツ ①かひこを飼ふ室 ②宮刑を受けし者を收容する所。

【蠹食】サンシヨク かひこが桑の葉を端より食ふ如く他人の土地等を漸次に我物とする。

【蠹桑】サンサウ かひこを飼ひ桑を植付けける

【蠹滓】サンサイ 蠹の糞。

【蠹婢】サンビ 美蠹の世話をする雇ひ女。

【蠹綿】サンメン まわた。

【蠹婦】サンフ かひこを養ふ女。

【蠹種】サンシユ ①蠹の卵 ②蠹の種類。

【蠹館】サンクワン 養蠹をする家、蠹室。

【蠹繭】サンキウ かひこを飼ひ繭をとる、又そのわざ。

【蠹繭】サンキョウ 農業に同じ。

【蠹漢】サンカン 古代の蜀王の名、轉じて蜀の國の異名。

【蠹薄】サンハク まぶし、十分に成長せしか

ひこを入れて繭を作らせるすだれ。

【蠹卵紙】サンロウシ かひこの種紙。

**蠹**

ト

**蠹**

①木のしんを食ふ蟲、きくひむし ②衣服や書物を食ふ蟲、しみ、きらゝむし ③むしばむ、蟲が食ふ、又そのこと ④物事を害する者をいふ

【蠹毒】トドク 蠹害に同じ。

【蠹患】トクワン わづらひ、なやみ。

【蠹害】トガイ ①蟲が物を食ひそこなふこと ②物事をそこなひやぶること。

【蠹魚】トゴロ ①しみ ②活用を知らぬ讀書家を嘲りていふ語。

【蠹賊】トゾク 物事を害すること、又其者。

【蠹蝕】トシヨク 木くひ蟲が木をくひ損ふこと、むしばむ。

【蠹居】トキウ 木喰ひ蟲。

【蠹居】トキウ 木くひ蟲が木中に居る如く又碁石が盤面に散布せるが如くすべて悪事の敷在する形容。

類語

邪蠹トヤ 狹蠹トウ 國蠹トク 桑蠹トウ

腐蠹トク 汚蠹トウ 書蠹トウ 老蠹トウ

殘蠹トウ 朽蠹トウ

【蠹】トキウ 蠹に同じ

**蠹**

十九畫

**蠹**

**蠹**

①えびす、南方のえびす(コ)文化の開けぬと、暴勇を好み道理にくらきと(古)古く外國の意味にも用ゐる(鳥)鳥の鳴く聲

【蠹人】バンジン 野蠻人の稱。

【蠹子】バンシ 田舎者の稱。

【蠹力】バンリキウ 蠻勇に同じ。

【蠹行】バンカウ 非文明なる行爲。

【蠹夷】バンイ えびす、野蠻人。

【蠹音】バンオン えびすの言葉。

【蠹會】バンエウ えびすのかしら。

【蠹勇】バンユウ 亂暴なる勇氣。

【蠹梯】バンシ さんごじゆの異稱。

【蠹風】バンフウ ①蠻夷の風俗 ②賤しき風俗 非文明の風習。

【蠹荒】バンクワウ 蠻地と荒服、えびすの地。

【蠹舶】バンハク くるふね、外國船。

【蠹野】バンヤ 文物のひらけぬと。

【蠹族】バンゾク 野蠻の民族、未開民の種族

【蠹國】バンコク えびすの國。

【蠹宿】バンシュク えびす。

【蠹歌】バンカ えびすの歌。

【蠹境】バンキョウ えびすの土地、未開の地。

【蠹語】バンゴ 蠻夷の言葉又外國人の言葉

【蠹隸】バンレイ 蠻地より徴發する人夫。

【蠹觸】バンシヨク 小事に力を出して争ふと

類語

群蠹バン 南蠹バン 遠蠹バン 百蠹バン

血部

**血**

ケツ ケチ

**血**

①(體内の脈管に流動循環する赤色液体)ちしほ(コ)ちをつける、ちぬる

血を分けし間柄①強く盛んにして生氣あること。

【血色】タワシヨク ①血いろ②かほいろ。  
【血祀】タワシ 血食に同じ。  
【血判】タワシ 神文誓約などの記名の下にその證として指を切り血を印すると。  
【血食】タワシヨク 祭の時犠牲の獸を神が召しあがること。

【血相】タワシヨク かほいろ、血色。  
【血胤】タワシ 血統に同じ。  
【血氣】タワシ ①血のかよひ、ちのけ②年わか事にはやるいきほひ。

【血球】タワシヨク 血液中にある球状の固形體  
【血脈】タワシヨク ①血の通ふ脈管②ちすぢ、血統③佛法の奥義を傳へるもの。  
【血書】タワシ 血で書く、又その文字。  
【血涙】タワシヨク 非常に悲しき時出る涙、血のなみだ。

【血痕】タワシヨク 血の附いたあと。  
【血清】タワシヨク 血液から析出する帯黄色に澄みたる液汁。  
【血族】タワシヨク 同じ先祖より分れたる親族  
【血液】タワシヨク ちしほ、ちしる。  
【血祭】タワシヨク いけにへを殺して神を祭ること、又まつり。  
【血税】タワシヨク 徴兵に服する義務の異稱。

【血統】タワシヨク 血つゞき、血縁。  
【血痢】タワシヨク 赤い糞便を下す傳染病の名、せきり。

【血路】タワシヨク 危險よりのがれて逃出す路  
【血暈】タワシヨク 婦人が産後に於て血の道にて身のふるふ病氣。  
【血嗣】タワシヨク 統嗣、ちすぢ。  
【血塊】タワシヨク 血のかたまり。  
【血管】タワシヨク 血の通ふ脈。  
【血漕】タワシヨク 血流し、刀剣類の刃に刺んだ溝。

【血縁】タワシヨク 血統に同じ。  
【血漿】タワシヨク 液中にある透明な濃き水様液にして血液の成分をなすもの。  
【血戦】タワシヨク 死物狂ひになつてたゞかふ  
【血點】タワシヨク 血がしたゝつた痕。  
【血屬】タワシヨク 血族に同じ。  
【血壓】タワシヨク 血管内の血液の壓力。  
【血忌】タワシヨク 曆に記されたる日に鍼灸嫁娶等に忌むべき日。

【血筋】タワシヨク ①血液の循環するみち②血統、血すぢ。  
【血迷塵】タワシヨク 血まみれになりたる貌。  
【血清療法】タワシヨク 免疫性となりたる動物の血清を同病の患者に注射して或種の病氣を治療すること、血清注射。

訓讀  
【血に啼く】啼レ血をこたく血の出るやうな悲痛な聲にて鳥のなくこと。  
【血を喋む】喋レ血をこたく戰場へ出かけること。

【血を敵る】敵レ血をこたく 誓の時にけにへを殺して其血をすゝり證據とするをあらふ①身内同士にて争ふこと②悪事を處分するため卻つて又悪事をなすこと。

類語

- |      |      |      |      |
|------|------|------|------|
| 膏血ケツ | 飛血ケツ | 腥血ケツ | 熱血ケツ |
| 泣血ケツ | 流血ケツ | 劍血ケツ | 赤血ケツ |
| 丹血ケツ | 出血ケツ | 碧血ケツ | 青血ケツ |
| 久血ケツ | 地血ケツ | 汗血ケツ | 鮮血ケツ |

三十四畫

郵

郵の誤字

益

タワウ

ち(血)

衄

ゲク

①はなぢ、鼻の穴より出る血②やぶる、軍に負ける、挫ける。  
【衄血】ゲクツク はなぢ。

衸

衸の俗字

六十一畫

衆

シユウ シユ

①おほし(多)②もろもろ、多くの人の衆人の心  
【衆人】シユウジン ①たゞの人、普通の人②多くの人の。  
【衆口】シユウコウ 多くの人の言葉。  
【衆中】シユウチュウ 多人数の中、大ぜいの中。  
【衆目】シユウモク 衆人が見てゐること。  
【衆生】シユウセイ 多くの人の、あらゆる人。  
【衆多】シユウタ 多数、おほし、又多勢。  
【衆物】シユウブツ もろ／＼の物。  
【衆芳】シユウハウ 多くの花。  
【衆怨】シユウエン 多くの花より受ける怨恨

心

【衆徒】シユウト 多くの僧侶。  
【衆辱】シユウジュク 多勢にて人をはぢしめること。  
【衆庶】シユウシヨ 多勢の民、億兆。  
【衆評】シユウヘイヨク 多数の人のうはさ。  
【衆愚】シユウヨク 大勢の愚人。  
【衆寡】シユウカク ①多きこと②少きこと③多勢と無勢。  
【衆説】シユウセツ 多くの人の議論。  
【衆議】シユウギ ①多人数の議論②多人数の評議。  
【衆議院】シユウギエン 帝國議會の一部にて一般の國民より選舉せられたる議員とす  
【衆口鑠金】シユウコウシヨク 多くの人の議論は金の如き堅いものをもとかす意誹言の恐るべきをいふ語。  
【衆寡不敵】シユウカクナキセキ 多勢に無勢にて敵しがたきこと。  
【衆賢茅茹】シユウケンボロヂヨ 多くの賢人が茅の根の相連なる如く互にひきあひて朝廷に進み仕へるをいふ。

穢

ベツ

①けがす、よごす、はづかしめる②きたなき血③はなぢ(衄)  
たなき血③はなぢ(衄)  
キヨク  
うれへる(憂)いたむ(痛)

盡

キヨク

行部

行

カウ ギヤウ

行

アン

①ゆく、歩む、あるく、進む、至る、去る②めぐる(巡)へる(經)③やる、ゆかす、ゆく、みちすがら、ゆいて  
④たび、かどて⑤みち(道)⑥漢詩の一體⑦書體の一、ぎやう⑧おこなふ、おこなひ、ふるまひ、なされる、おこなはる⑨もてる、利く、うける⑩まさに身口意の三業に因つてなす一切の所業、僧侶又は修験者の修めるぎやう  
⑪つら、ならび(列)⑫古代の兵制にて二十五人一組の稱⑬くんだり文字のならび、又涙にいはふ⑭年齢の順序⑮つよき

行部 行

さま(剛健)位と職との間に置きて位が  
高く職が卑きことをあらはす語  
【行人】カウジン ①外國に使する官 ②賓客の  
接待役 ③道ゆくひと、旅人。  
【行子】カウシ 旅客、たびひと。  
【行火】カウキョウ ①火を使ふこと ②持ち歩か  
れる炬燵、あしあぶり。  
【行水】カウスイ ①水を治めること ②水を  
巡視する ③流れる水 ④舟で水上をゆく  
⑤古潔齋のため湯水にて身體を洗ひし  
こと、後世は盥にて湯沐すること。  
【行文】カウケン ①文章にて文字のくばりか  
た、筆づかひのこと ②官文書の往復。  
【行止】カウジ ①ゆくこと ②止まること、  
出處進退 ③みもち、品行。  
【行戌】カウジツ ①國境に赴きまもる、又其人。  
【行色】カウシキョク ①出立の時のやうす、又そ  
の意氣。  
【行伍】カウゴ ①いくさのれつ、軍列。  
【行々】カウカウ ①剛健なるさま ②みちすが  
ら、ゆくゆく。  
【行次】カウジ ならびつらなる。  
【行吟】カウイン ①あるきながら歌ふ、行く行  
く歌ふ、行歌。  
【行李】カウリ ①つかひ ②旅行の仕度又荷  
物 ③荷物を入れる編箱 ④軍隊の必需品

を積む輻重。  
【行作】カウサク ①粗製濫造せし貨物 ②行動  
に同じ。  
【行役】カウエキ ①政府から命ぜられた土木  
事業、又は國境を守護すること ②旅行、  
たび。  
【行伴】カウバン みちづれ、同伴。  
【行歩】カウホ ①あし、又あゆむ。  
【行具】カウグ 旅のしたく、旅装。  
【行巻】カウマク 官吏登用試験の及第者が  
其提出せし文章を巻物として試験主宰  
者に閱覽せしめるもの。  
【行店】カウテン ①はたごや、旅館。  
【行夜】カウヤ 宮中の夜まはり。  
【行路】カウロ ①みちすぢ、往來 ②世わた  
り、世路 ③道をゆく人、自分と何の關  
係もなき人。  
【行客】カウカク 旅人、たびひと。  
【行業】カウゲツ 品行、ふるまひ、おこなひ。  
【行賣】カウバウ 行商に同じ。  
【行装】カウサウ たびのしたく、旅装。  
【行臺】カウダイ 魏・晉時代に臨時に設けた  
る地方の役所にして征伐の事を掌る、  
明・清時代の總督・巡撫等は此官制より  
變じたるもの。  
【行府】カウフ ①わりご、べんたう。

【行誼】カウギ 正しきおこなひ。  
【行樂】カウラク 心ゆたかに楽しむこと。  
【行賞】カウシヤウ ほうびを興へる。  
【行餘】カウヨ ①實験射行の餘暇。  
【行官】カウカン 唐代官職の一、地方へ出  
張し行役することを掌りし者。  
【行使】カウシ ①外國に使する官 ②使用する。  
【行事】カウジ ①旅行に關係する事實 ②實  
行せし事柄 ③昔朝廷の儀式・佛事など  
の事を取扱ひし役、又商人・町内の組  
合等にて輪番に各組合を代表管理し又  
は公邊に關係せし事などを取扱ひし役  
【行星】カウセイ 恆星の周圍を運行する星、  
遊星又は惑星。  
【行軍】カウケン 軍隊の進むこと、又其旅行。  
【行徑】カウケイ 往來のこみち、小徑。  
【行馬】カウバ ①うまつなぎ、こまよせ ②敵  
の侵入を防ぐため釘をうちつけたる杖  
【行能】カウノウ 品行と才能。  
【行旅】カウリョ 行子に同じ。  
【行商】カウシヤウ たびあきんど、行商人。  
【行通】カウツウ ①ゆきかよひ、交通。  
【行理】カウリ ①使者 ②旅の仕度。  
【行酒】カウシュ ①さかもりすること。  
【行動】カウドウ ①おこなひ、ふるまひ。

【行貨】カウカウ ①賄賂をつかふ ②貨物を運  
搬する ③品物を運送する。  
【行第】カウダイ 年次、としじゆん。  
【行爲】カウギ ①ふるまひ、しかた。  
【行進】カウシン ①ゆきすすむ、進行。  
【行間】カウカン ①軍中又は陣中 ②文書の  
行と行の間。  
【行貨】カウカウ ①物品をもらひあるく、乞食。  
【行童】カウドウ ①寺のちご、僧徒。  
【行歌】カウカ ①歩みつゝうたふこと。  
【行媒】カウバイ ①なかうど、媒介人。  
【行程】カウテイ ①道程、みちのり。  
【行雲】カウウン ①たいよふくも。  
【行旅】カウリョ ①はたづみ、路上のみづた  
まり。  
【行棄】カウタク 旅行する時につふる。  
【行贖】カウジツク ①むかばき、きやはん。  
【行器】カウキ 旅行用具。  
【行詣】カウケイ ①ゆきいたること。  
【行營】カウエイ 陣營、又陣營を巡り視ること。  
【行觴】カウシヤウ ①人に盃をさすこと。  
【行檢】カウケン ①品行がよくてひきしまるゝ  
【行囊】カウナウ ①郵便物を運送する袋。  
【行蔵】カウソウ ①世に出て技術を揮ふこと、  
世にかくれて才能を示さぬこと。  
【行纏】カウテン ①きやはん、婦人用のもの。

【行司】カウジ 劍道・相撲等の勝負を審判  
する人。  
【行年】カウネン ①其人の現在の年齢 ②生  
存せし間の年數。  
【行列】カウレツ ①ならぶ、なみ、又其のもの  
【行狀】カウジヤウ ①みもち ②人の經歷を記  
した文章の一體。  
【行者】カウカ ①佛道の修行者。  
【行幸】カウキョウ ①天子の御車の至る所は皆  
幸を受ける意、みゆき。  
【行政】カウセイ ①法規に従ひて取行ふ國家  
の政事。  
【行迹】カウシキ ①操行、みもち。  
【行啓】カウケイ ①啓はさきばらひの意、皇  
太后・皇后・皇太子のおたまし。  
【行書】カウショ ①書體の一、楷書を少しく  
づしたるもの。  
【行實】カウジツ ①其人の行ひたる事實。  
【行儀】カウギ ①たちあふるまひ、進退舉動  
及び之に關する禮式作法。  
【行宮】カウクウ ①行在所に同じ。  
【行脚】カウキョク ①僧侶が諸國をめぐるつて佛法  
を修めること。  
【行燈】カウテウ ①燈火を點じて据置く家具。  
【行誦書】カウショ ①記憶力強くして博識な  
る人。

【行路人】カウロノヒト 道をゆく人、あかの他  
人、無關係の人。  
【行路樹】カウロジツ ①道に沿ひて植ゑる並木、  
街路樹。  
【行幸啓】カウキョウケイ ①行幸と行啓。  
【行在所】カウシヤウ ①天子の御巡幸中一時の  
おやすみにあてたる所、かりみや。  
【行人征馬】カウジンセイバ 往來の人馬、即ち  
旅の有様。  
【行尸走肉】カウシソウニク ①あるく死骸や走る  
肉、無能遊食の者。  
【行爲能力】カウギノチカラ ①法律上權利を行使  
する資格。  
【行云流水】カウウンリウスイ ①一定の形なくさま  
ざまに變るさま。  
【行住坐臥】カウジュザウキ ①歩くこと、止ま  
ること、日々の行爲。  
【行文流麗】カウブンリウレイ ①文章がすらく  
として美しき形容。  
【行政訴訟】カウセイソウシヨウ ①行政上の處分が  
人権を侵害したるとき其の處分に對し  
て訴訟の形式にて行政廳の裁判を経尚  
不服なるとき更に其の處分又は裁判に  
對して訴を以て救済を求めること。  
【行政事務】カウセイシヨウ ①國政をとる仕事。  
【行政官廳】カウセイクワンシヤウ ①行政上の事務

行部 行

をとる役所。  
【行政裁判】ギョウセイサイバン 行政官廳の違法處分によつて人民が權利を害されし時、起す訴訟を裁判すること。  
【行政整理】ギョウセイセイレイ 行政費を節約する目的にて冗員の淘汰又は局課の廢合をなすこと。  
【行政區劃】ギョウセイイクワク 行政の都合により土地を區分すること。  
【行政機關】ギョウセイキクワン 各大臣・自治體等の如く行政事務を取扱ふところ。  
【行不自由徑】ユクニコモチニヨラズ 此みちを通らずに大道を行く、品行の方正なるをいふ。

### 訓讀

【行雲を過む】過ニ行雲 マウランを過る 歌ふ聲の美しき形容。  
【行に隨ひて入る】隨ニ行而入 マヤウにしたがひても行列の中に加はりてはひる、多數と進退を俱にすること。

### 類語

借行カイ 五行ゴク 宵行セウ 夜行ヤウ  
力行リキョク 勉行ベン 眞行シン 一行イコウ  
微行ビ 倒行タウ 連行レン 水行スイ  
山行サン 平行ヘイ 間行カン 鼓行コウ

通行カウツ 中行チュウ 運行ウツ 方行ハウ  
獨行ダク 單行タン 同行ドウ 師行シ  
端行タン 並行ヘイ 直行チョウ 周行シュウ  
公行コウ 攝行セツ 轉行テウ 逆行ギャク  
徐行ジヨ 流行リョウ 踐行セン 退行タイ  
吉行キツ 群行グン 衆行ジュウ 星行セイ  
歩行ホ 飛行ヘイ 貫行クワン 躬行クウ  
苦行ク 啓行キ 數行スウ 雁行ガン  
陣行チン 前行ケン 單行タン 諸行シュウ  
履行リョウ 善行ゼン 孝行コウ 施行シヤウ  
急行キウ 奉行ヘイ 修行シュウ 修儀キウ

### 三―五畫

## 衍

【衍】エン エン  
① 充ちひろがる、はびこる。② よけいてある、まちがつて多い。③ ひろげる。④ 肥えたる土地。  
【衍大】エンダイ ひろげて大きくす、又廣大。  
【衍文】エンブン 文章中のむだな文句。  
【衍字】エンジ 文章中のむだな文字。  
【衍沃】エンゴク こえたる土地。  
【衍盈】エンエイ 餘り滿つ、一ぱいになる。  
【衍義】エンギ 意味を廣めて説きあかすこと。

と、又そのもの。  
【衍曼】エンマン はびこること。  
【衍溢】エンイッ 一ぱいになる、充あふれる。  
【衍輝】エンキ 意味をのべひろめて説明す類語  
奧衍オウ 豐衍ブ 昭衍セウ 紛衍フン  
普衍フ 由衍ユ 高衍コウ 連衍レン  
多衍タ 平衍ヘイ 富衍フ 華衍カ  
蔓衍マン 曼衍マン 敷衍フ 充衍ジュ  
肥衍ヒ 廣衍クワ 推衍スシ 登衍トウ  
流衍リウ 遊衍ユ 曲衍キョク

## 衍

【衍】カン  
① たのしむ(樂)② たしかにして正し【衍々】カンカン ③ 剛直なるさま④ たのしむこと。

## 衍

【衍】ケン ゲン  
① ひけらかす、てらふ。② 自ら自分をとりもつ、自ら宣傳す  
【衍才】ゲンサイ 才能を自らほこる。  
【衍女】ゲンジョ 自分の美貌をじまんすること。  
【衍士】ゲンシ 自らほこる男。  
【衍言】ゲンゲン 自慢していふことば、てら

ふことば。  
【術妻】ゲンサイ 權妻に作る。① よたか、ちご。② 人の妻を罵り呼ぶ語。  
【術氣】ゲンキ てらひ高ぶる心もち。  
【術異】ゲンイ すぐれてことなること。  
【術張】ゲンチャウ 物を誇張していふ。  
【術婦】ゲンブ 淫賈婦、よたか、ちごく。  
【術學】ゲンガク 學者ぶること。  
【術辭】ゲンジ てらひたることば。  
【術機】ゲンキ 自分の才學をてらひ誇ると  
【術爾】ゲンニ 自ら才能をほこりて人に採用せられんことを求める。  
類語  
女術オン 估術ゴン 媒術バイ 誇術ゴウ  
女術オン 估術ゴン 媒術バイ 誇術ゴウ  
術 ジュツ スキ 術 術

【術中】ジュチュウ はかりごと、謀術のうち。  
【術知】ジュチ だて、ちゑ。

【術計】ジュツケイ てだて、はかりごと。  
【術策】ジュツサク たくらみ、はかりごと。  
【術智】ジュツチ たくみ、はかりごと。  
【術業】ジュツゴウ わざ、技能。  
【術語】ジュツゴ 専門學上の特殊のことば。  
【術數】ジュツスウ ① はかりごと、術策。② 筮家・陰陽家などの術。  
【術藝】ジュツゲイ 技術文藝。  
【術學】ジュツガク 技術と學問。  
【術藝場】ジュツゲイヂヤウ 文學を研究する所。  
類語  
危術キ 奇術キ 方術ハウ 儒術ジュ  
劍術ケン 相術サウ 經術ケイ 道術ダウ  
數術ジュ 藝術ゲイ 法術ホフ 異術イ  
兵術ヘイ 學術ゲク 性術セイ 技術ギ  
算術サン 政術セイ 古術コ 上術ジョ  
占術セン 智術チ 醫術イ 秘術ヒ  
衆術ジュ 支術シ 鉞術セン 吏術リ  
才術サイ 他術タイ 書術ショ 星術セイ  
權術ケン 妖術ヨウ

## 術

【術】トウ  
六―七畫

## 術

【術】カイ ガイ  
ちまた、通街 巷に同じ

## 街

【街】カイ ガイ  
① ちまた、まち、まちの大通り。② 臺灣の行政區劃  
【街上】ガイジャウ 街頭に同じ。  
【街市】ガイシ まち、市街。  
【街巷】ガイカウ まち、ちまた、街衢。  
【街區】ガイク まちの中の區劃。  
【街道】ガイダウ 町のみちすぢ。  
【街道】カイダウ 市中のおほどほり、國中に通ずる公道。  
【街談】ガイタン 世のうはさ、まちのはなし。  
【街塵】ガイジン 市中にたつちりやごみ。  
【街頭】ガイトウ まちのとほり、街上。  
【街燈】ガイトウ 市中をてらすともしび。  
【街衢】ガイク 街巷に同じ。  
【街衢】ガイク 市中をみまはる兵士。  
【街路樹】ガイロジュ 都市の道路面に沿ひて植ゑたる樹木。

## 街

【街】ガ  
一四四七

①やくば、やくしよ ②天子の護衛兵きたる、まゐる(參)  
 【衛内】オナイ 禁中を守る兵 ③唐末から宋初にかけて貴族の子弟を多く禁兵に用ゐたることに因み後にはそれ等の子弟をいふ。

【衛兵】オヘイ 御所を守る兵。  
 【衛官】オクワン やくにん、主として屬官をいふ。  
 【衛員】オケン やくにん、官吏。  
 【衛門】オモン 兵營の門、又兵營のひろく一般の役所。  
 【衛前】オゼン 宋代の賦役の名。

九畫

衛

シヨウ

衛

シヨウ

おほぢ、大なるみちぢぢ、又其所につきあたり ①つく(突)ぶつかる、つき

衛

やぶる、つき上げる ①いくさぐるま、兵車 ②兵船、敵艦に突貫するやうに作つたいくさぶね  
 【衛斗】シヨウト 北斗星に突きあたる意、勢氣のはげしく起れる形容。  
 【衛天】シヨウテン 天をつく、勢の盛んなる形容。  
 【衛北】シヨウホク 敵の背面を攻め突く。  
 【衛心】シヨウシン 脚氣の病勢が進み内臓を痙攣せしめ心臓を、かすこと。  
 【衛角】シヨウカク 軍艦の艦首に装置したる鋼鐵の尖角。  
 【衛突】シヨウトツ ①ぶつかる、つきあたる ②意思合はずして相抵抗すること。  
 【衛風】シヨウフウ はやて、疾風。  
 【衛動】シヨウドウ ①つきうごかすこと ②目的を意識することなく単に何等かの行動をなさんとする心的活動。  
 【衛排】シヨウハイ つきしりぞけること。  
 【衛路】シヨウロ ①敵の攻めよせる道 ②物事の多くあつまる所。  
 【衛激】シヨウゲキ 激しくつきあたる。  
 【衛撃】シヨウゲキ つきうつこと。  
 【衛動弾力】シヨウドウダンリキ 意志を動かす力のある動機中の感情的要素。

衛

カウ

十一—十八畫

衛

①はかりざを、はかり(重さを計る器) ②はかる(物の輕重をめたかたにかける) ③たひらか、ひとしい(均) ④馬車の馬をつける横木 ⑤渾天儀の横木、天文を見る器械 ⑥てすり(欄干) ⑦冠を頭にとめる筭の類 ⑧山林を掌る役人 ⑨よこ(横)  
 【衛人】カウジン 戦國時代に連衡説を唱へたる辯士。  
 【衛山】カウサン 支那五嶽の一にして湖南省衡山縣にあり。  
 【衛石】カウシキ はかり、物の重量をはかる器  
 【衛平】カウヘイ つりあひ、平均。  
 【衛字】カウジ 木を横へし軒、粗末なる家。  
 【衛行】カウカウ よこにゆく、わがまゝに勢力をふるふ。  
 【衛門】カウモン 門の一種、かぶきもん。  
 【衛度】カウド はかりとものさし。  
 【衛茅】カウバウ かぶき門とかやぶきの家。  
 【衛宰】カウサイ 天子を相けて百官を統御する役。

【衛鈞】カウケン 衛も鈞も共にたひらか、國家の公平を保つ政治又は其職。  
 【衛軸】カウヂク くるまのよこぎ、又樞要なる場所の義にいふ。  
 【衛湘】カウシヤウ 衡山と湘水。  
 【衛權】カウケン はかりのさをとおもひ。  
 【衛縮】カウシュク 横と縦、はじとながさ。

訓讀

【衛を争ふ】 争い衛をあらそふ 優劣をきそふこと。

類語

台衛カウイ 玉衛カウヨク 平衛カウヘイ 權衛カウケン  
 銓衛カウセン 門衛カウモン 宰衛カウサイ 連衡カウレン

衛

エイ エ

衛

①まもる(守)ふせぐ、まもり ②又その者 ③國のはて、國境 ④明の太祖時代の兵制にて五千六百人一組の稱 ⑤周代の國名(今の直隸省大名府開州以西から河南省の衛輝府懷慶附近に至るまでの地域)  
 【衛士】エイシ ①宮中護衛の兵士 ②昔諸國より徴されて一年更代にて御所を守りし兵士。

【衛矛】エイボウ 木の名、まゆみ、にしきい。  
 【衛生】エイセイ 衣食住に注意して健康を保つこと。  
 【衛戍】エイジュ 軍隊が永住して其地方を守ること。  
 【衛兵】エイヘイ 御所を守る兵、番兵。  
 【衛府】エイフ 禁裡の内外を守る左右近衛府 左右衛門府・左右兵衛府の六つの役所。  
 【衛卒】エイソツ まもりの兵。  
 【衛星】エイセイ 遊星の周圍をめぐりながら其遊星と共に太陽をめぐる星。  
 【衛霍】エイカク 西漢武帝の臣にして匈奴を征して大功を立てし衛青と霍去病。  
 【衛驛】エイエキ 王者の車をまもる。  
 【衛騎】エイキ まもりの騎兵。  
 【衛護】エイゴ まもる、護衛。  
 【衛生林】エイセイリン 都會の附近に在つて空氣を清淨にするに必要な保安林。  
 【衛士府】エイシフ 宮中の宿營・風聲の守護を掌る役所にして左右に府あり後世左右衛門府と改む。  
 【衛生美人】エイセイビジン 顔はみにく、肉體の見事に發達せし婦人。  
 【衛戍病院】エイジュビョウイン 其所在地の陸軍部隊の病傷者を治療し且つ衛生材料の供給保管及び衛生部の下士官以下を教

衛

ク

衛

育する所。  
 【衛生試験場】エイセイケンギョウ 内務大臣の管轄に屬し衛生上の試験に關する事務を取扱ふ所。  
 【衛街】クガイ まち、ちまた。  
 【衛肆】クレイ まちの商店のあるところ。  
 【衛路】クロ よつぢ、まちの通り。  
 【衛構】クワン 諸人の飲むに便するため巷の間に設けおくさかだる。

衣部

衣

イ エ

衣

①ころも、きぬ、きもの、腰より上をおほふきもの ②著物の如く物の表面をおほふ皮 ③僧侶のきる法服、ころも、袈裟 ④きる、きものを被る ⑤きす、きものをきせる ⑥服膺する、行ふ  
 【衣巾】イヤン ①著物と手ふき ②衣服と頭巾。



【衣服】イフク きぬ、きもの。  
 【衣甲】イカフ よろひ、鎧。  
 【衣架】イカ 衣服を懸け置く家具、衣桁。  
 【衣香】イカウ 衣服にしみこみたる佳きかをり。  
 【衣冠】イクワン ①きものとかんむり ②衣冠をつけたる人 ③禮儀正しきことの意。  
 【衣食】イシヨク ①著物と食物、又きることとくふこと ②生計、くらし。  
 【衣袂】イベイ たもと、衣服。  
 【衣衾】イケン こころもとふすま、衣服と夜著  
 【衣桁】イカウ 衣架に同じ。  
 【衣被】イヒ ①あまねくおほふ、一面にかうむる ②きもの、衣服。  
 【衣紋】イモン ①衣服、きもの ②衣服の襟の胸の所にて相合ふ部分。  
 【衣袞】イコン 衣服のしつけ。  
 【衣衾】イタウ 衣服に同じ。  
 【衣帯】イタイ ①おび ②東帯、装束。  
 【衣魚】イギョ しみ、蠹魚。  
 【衣箱】イシヤウ たんす、きものを納めおく箱。  
 【衣鉢】イハツ 衣は袈裟、鉢は應器、禪宗の始祖達磨が其法の奥儀を弟子の慧可に授けし時其證據として此二品をも併せ傳へし故事より法燈をつぐ意、轉じて弟子が師の道を傳へること。

【衣袋】イタイ きものゝかくし、衣囊。  
 【衣裾】イキョ 著物のすそ。  
 【衣裳】イシヤウ ①腰より上のきものと袴 ②一般に衣服の意。  
 【衣袂】イベイ 衣服のひだ。  
 【衣装】イシヤウ 著物、すべて身のまはりのもの。  
 【衣領】イリヤウ 衣服のえり、又衣服。  
 【衣簪】イコウ 衣服に香を焚きこめるに用ゐる籠。  
 【衣纓】イエイ 衣服と冠のひも。  
 【衣襟】イリヤウ 衣服と食物、生活の必需品。  
 【衣囊】イナウ 衣服に取りつけたる袋、ポケット。  
 【衣手】イテ ①きものゝ袖。 ②衣服と食物と住居、共に生活の三大要素。  
 【衣食住】イシヨクヂユウ 衣服と食物と住居、共に生活の三大要素。  
 【衣冠族】イクワンゾク 貴き家筋、貴族。  
 【衣飾之榮】イケンノエイ 飾を故郷に飾る名譽  
 【衣錦歸郷】イキンキョウ 富貴を得又は成功して故郷に歸るをいふ。  
 【衣食足則知二榮辱】イシヨクタラバスナハチエイジヨクニシル 生活が充分になれば自ら禮節を守る意。  
 【訓讀】  
 【衣を典す】典イイをテンサ 衣服を質に入

れる、貧乏の形容。  
 【衣を拂ふ】拂イイをハラフ 衣服の袂をはらつて奮ひ起つさま。  
 【衣を攝す】攝イイをセツ 衣を整へる、服装をととのへる。  
 【衣裳を顛倒す】顛ニ倒衣裳 ①イシヤウをテンタウ ②うろたへあわてる形容。

類語  
 素衣 イソイ 白衣ハクイ 面衣 イメン 玄衣 イゲン  
 錦衣 イキン 青衣 イセイ 黒衣 イコク 采衣 イサイ  
 惡衣 イアク 雨衣 イウイ 朝衣 イチウイ 文衣 イブンイ  
 脫衣 イダツ 更衣 イメイ 羽衣 イウイ 織衣 イオリ  
 牛衣 イウイ 儒衣 イジュイ 織衣 イオリ 征衣 イテイ  
 旅衣 イリイ 弓衣 イキウイ 敗衣 イハイ 重衣 イジュウイ  
 禮衣 イレイ 紫衣 イシイ 好衣 イコウイ 綺衣 イキ  
 故衣 イコウイ 短衣 イダンイ 葛衣 イカクイ 鮮衣 イセンイ  
 温衣 イウンイ 重衣 イジュウイ 林衣 イリンイ 複衣 イフクイ  
 胞衣 イポウイ 油衣 イユイ 端衣 イタンイ 薄衣 イハクイ  
 浴衣 イヨウイ 僧衣 イソウイ 臥衣 イフイ 三衣 イサンイ  
 布衣 イフイ 舞衣 イマウイ 雪衣 イセツ 緑衣 イリョクイ  
 縞衣 イコウイ 宵衣 イセウイ 烏衣 イウイ 斑衣 イハンイ  
 苔衣 イタイ 秋衣 イシュイ 春衣 イシュンイ 萊衣 イライ  
 荷衣 イカイ 寒衣 イカンイ 羅衣 イライ 萊衣 イライ

二一三畫

卒

卒に同じ

表

表

①おもて、うはべ、そと、うはつら  
 ②しるし、目標 ③うはぎ、うはぎを著る  
 ④あらはす ⑤目だつ姿 ⑥時間を計るため目を盛りたる棒 ⑦議論・祝辭・辭職などの意味を記して君主又は政府に上る書 ⑧母方又は妻の方の親類 ⑨混雜せる事物を分類排列し、目してよく分かるやうにしたもの ⑩國訓おもて (おほやけ、外面に取りつけるもの、家の外、相撲の本手、家の勝手の間に対して主たる室、ところ、もと)  
 【表土】ヘウド うはつち、地の表面に在りて耕作に適する土壤。  
 【表子】ヘウシ 遊女のたぐひ、又情婦。  
 【表木】ヘウキ 目じるしとしてたてし木。  
 【表文】ヘウブン 君主又は政府に上る文書。  
 【表左】ヘウサ 上書などの文を書き了りたる餘白別葉などのこと。

【表白】ヘウハク ①申し上げること ②發表して明白にす ③神佛に捧げる願文。  
 【表札】ヘウサツ 門又は入口に掲げる名札。  
 【表式】ヘウシキ ひながた。  
 【表皮】ヘウヒ 生物體の外面を被ふ薄き皮。  
 【表示】ヘウシ ①あらはしめす ②表にししめすこと。  
 【表色】ヘウシキ いろをあらはす。  
 【表決】ヘウケツ 議案の可否を明かにするところ。  
 【表具】ヘウキ かけもの・襖・額などをしたてること。  
 【表的】ヘウテキ めあて、まと、標的。  
 【表々】ヘウヘウ づねけて目にたつきま。  
 【表則】ヘウソク 模範、のり、手本。  
 【表叔】ヘウシヨク 母方のをぢ。  
 【表明】ヘウメイ 思想・感覺等を感官によりて發表すること、又あらはす。  
 【表姪】ヘウシヤウ 母方の従兄弟姉妹の子。  
 【表面】ヘウメン うはべ、おもて。  
 【表記】ヘウキ ①表面にしるす、表に書きあらはす ②あらはし記す。  
 【表率】ヘウスイ ①てほん、又手本となる人物。  
 【表紙】ヘウシ 書物などのおもてがみ。  
 【表章】ヘウシヤウ 明らかにあらはす。  
 【表現】ヘウゲン ①あらはし出す。  
 【表施】ヘウシ 表彰に同じ。

【表情】ヘウジヤウ 顔つき又身振にて思ひをあらはす。  
 【表揚】ヘウヤウ ①あらはし掲げる。 ②表はれたしるし ③外界の刺戟にして現實に感官を通じて知覺せられしもの。  
 【表賀】ヘウガ 表をたてまつりて賀意をあらはす。  
 【表著】ヘウチャウ 公會に其順次を表はすと。  
 【表答】ヘウダウ 上書して返答すること。  
 【表裏】ヘウリ ①おもてとうら、前と後、内と外 ②うらはらになる、表裏をなす。  
 【表彰】ヘウテイ 善行をほめて公衆に知らせること。  
 【表装】ヘウサウ 表具に同じ。  
 【表間】ヘウカン 里門に特行あるものゝ名をあらはして賞美す。  
 【表慶】ヘウテイ 慶事をあらはす。  
 【表徴】ヘウテイ ①あらはれたるしるし。 ②顯はし擧ぐ。  
 【表擧】ヘウキョウ 顯はし擧ぐ。  
 【表題】ヘウタイ ①書物の名目・標題 ②演説・談話などの題目。  
 【表擧】ヘウキョウ 人に見せつける、あらはす。  
 【表顯】ヘウケン 表章に同じ。  
 【表通】ヘウツウ オモテドモリ 市街のおほどほり。  
 【表兄弟】ヘウケイテイ 母の兄弟姉妹の子。

【表現派】ヘウゲンハ 文明や資本や機械的の物事を破壊して自我主義を立てんとする一派。

【表看板】オモテカシバン 或物事を代表してうはべを示すものにて裏面のある意、又表に出す看板。

【表則之地】ヘウソクナチ 宰相の位。

【表面張力】ヘウソクナチヤウリキョウ 液體面の收縮せんとする力。

【表裏山河】サンゴクヘウリニス 前に河を控互後に山を負ふこと、又その地。

【表裏精粗】ヘウリセイソ 表も裏も、細かい所も太い所も、すべての方面。

【表現的教式】ヘウケンテキケウシキ 眼前に實物を出さずとも實際経験せる如く想像せしめて知らしめんとする教授様式。

- 類語
- |    |    |    |    |
|----|----|----|----|
| 意表 | 賀表 | 降表 | 通表 |
| 模表 | 露表 | 門表 | 偽表 |
| 草表 | 宙表 | 碑表 | 詞表 |
| 年表 | 月表 | 日表 | 妾表 |
| 人表 | 師表 | 儀表 | 奇表 |
| 江表 | 八表 | 章表 | 雲表 |
| 銅表 | 華表 | 物表 | 旌表 |
| 符表 |    |    |    |

【衫】サン 帷子類の通稱、單衣。①小さきそてなしじゆばん

【衫衣】サンイ 衣服の一、かたびら。

【衫帽】サンバウ うちす物のかぶりもの。

- 類語
- |    |    |    |    |
|----|----|----|----|
| 汗衫 | 輕衫 | 青衫 | 春衫 |
| 羅衫 | 征衫 | 薄衫 |    |

【袂】サイ サ ①すそ(裾)もすそ②えり(衽)③膝までの衣服

【袂】コン ①天子の御衣にして龍の形をぬひとりしたものを②懇切に説く③引續ぐさま

- 類語
- |       |       |
|-------|-------|
| 引つゞく鏡 | 天子の制服 |
|-------|-------|

【衰】スキ シ ①盛の對、おとろふ、かたむく(傾)勢力がなくなる②そぐ、へらす③喪服の名④みの、衰

【衰亡】スキバウ おとろへほろぶ。

【衰世】スキセイ おとろへたる時代。

【衰日】スキジツ 陰陽家の語にして人の生れたる年の干支により諸事をつしむべき日。

【衰白】スキハク 体力が衰へて頭髮が白くなること。

【衰朽】スキキウ 衰へくちる。

【衰老】スキラウ 年をとつてだん／＼よわる

【衰死】スキシ おとろへて死ぬ。

【衰弛】スキシ 衰へゆるむ。

【衰年】スキネン 年の衰へる意、老年。

【衰門】スキモン おとろへたる家。

【衰征】スキセイ 土地の差等によりて税を取りあげること。

【衰退】スキスイ 衰へていくぢがなくなる。

【衰老】スキラウ 衰老に同じ。

【衰柳】スキリウ 落葉する時のやなぎ。

- 類語
- |    |                   |
|----|-------------------|
| 衰弱 | おとろへよわる、衰微す。      |
| 衰容 | おとろへ弱りたる容子。       |
| 衰條 | 霜枯れの木の枝。          |
| 衰眼 | 視力のおとろへたる目。       |
| 衰経 | 喪服の支度。            |
| 衰荷 | 秋になりてかれんとする蓮。     |
| 衰殘 | 弱りやぶれる、おちぶれる。     |
| 衰莽 | かれたる草。            |
| 衰替 | おとろへすたる。          |
| 衰萎 | おとろへしむ。           |
| 衰敝 | おとろへやぶれる、おとろへつかる。 |
| 衰微 | おとろへてうすくなる。       |
| 衰運 | おとろへたる運勢。         |
| 衰勢 | 前に同じ。             |
| 衰滅 | 衰亡に同じ。            |
| 衰落 | おとろへおちる。          |
| 衰態 | おとろへし容子。          |
| 衰弊 | 次に同じ。             |
| 衰憊 | 衰へつかれる。           |
| 衰頹 | 衰替に同じ。            |
| 衰廢 | 年をとつておとろへる。       |
| 衰軀 | おとろへすたる。          |
| 衰軀 | 瘦せおとろへし身體。        |
| 衰頹 | おとろへたる顔。          |
| 衰齡 | 衰年に同じ。            |

- 類語
- |    |           |    |    |
|----|-----------|----|----|
| 衰壞 | おとろへやぶれる。 |    |    |
| 衰衰 | 蕭衰        | 變衰 | 盛衰 |
| 衰衰 | 斬衰        |    |    |
- 【袂】ケフ ①えり(襟)②すそ(裾)③國調しごき(扱帶)
- 【衽】ダフ ナフ ①ころも(法衣)②僧侶の自稱
- 【衽】ジツ デツ ①はだぎ、婦人のしたぎ②國調あこめ
- 【衷】チュウ ①まごころ、本性②中心、こころ③うち(中)まんなか、うちにす④まこと(誠)⑤かなふ、適當する
- 【衷心】チュウシン まごころ、眞情。
- 【衷甲】チュウカフ よろひした、又くさりかたびら。
- 【衷情】チュウジヤウ 衷心に同じ。

- 類語
- |    |    |    |    |
|----|----|----|----|
| 深衷 | 天衷 | 折衷 | 宸衷 |
| 聖衷 | 清衷 |    |    |
- 【衽】ジン ①よこしま(邪)②なまめ(斜)
- 【衽】ジン ①おくび、おくみ②すそ(裾)③ひとへのしとね④下にしく、しとねにす⑤えりを正す
- 【衽席】ジンセキ ①しきもの、轉じてねま、閨門②自分に接近する場所、眼下。
- 【衽を斂む】セインをまむ えりを正す、

袂

キン

衾

よぎ、ふすま

【衾枕】キンチン ふうすとまくら。

【衾被】キンベ 寝具の一、かいまき。

【衾褥】キンショク ふうすま・ねまきの類。

【衾褥】キンシヨク ふうすまとしとね、夜具。

類語

夏衾 [キン] 孤衾 [キン] 破衾 [キン] 衣衾 [キン]  
布衾 [キン] 被衾 [キン] 覆衾 [キン] 同衾 [キン]  
單衾 [キン] 輕衾 [キン] 重衾 [キン] 綺衾 [キン]  
芳衾 [キン] 薄衾 [キン] 寒衾 [キン] 紙衾 [キン]  
香衾 [キン] 繡衾 [キン] 客衾 [キン]

袷

キン

袷

【袷】(襟)衣服の上部の首筋にあたる所がそびえ帯の如く川が流れて自から要害をなすこと。  
【袷逸】キンイフ 高ぶりて恣なること。

袷

エン

袷

姓(漢末の英雄)

【袷彦道】エンケンダウ 博奕に巧みな人、轉じて博奕の異名。

袂

ベイ

袂

【たもと、袖の下の垂れたる部分、又袖の意】  
【袂】ベイツ 懐中時計。

訓讀

【袂を分つ】分袂(はもとをわか) 人と別れること。  
【袂を攘ふ】攘袂(はもとをはら) 激しく袖をふりはらふさま。  
【袂を投じて起つ】投袂而起(はもとをなげおこ) 怒り又は急ぎて席をたつ鏡。

類語

香袂 [ベイ] 行袂 [ベイ] 襟袂 [ベイ] 華袂 [ベイ]  
短袂 [ベイ] 聯袂 [ベイ] 分袂 [ベイ] 衣袂 [ベイ]

袷

カケ

袷は僧服の名

袋

タイ テイ

袋

【ふくら(囊の類)】  
【袋戸】フクロド 床脇の小さき戸棚の戸。  
【袋叩】フクロタケ 多人数にて一人をめつた打ちに打ち叩くこと。  
【袋町】フクロマチ 行きつまりのまち。  
【袋床】フクロドコ 床の間口の奥の幅より短く其の差だけに壁のある床。  
【袋物】フクロモノ 煙草入・紙入などすべての袋類。  
【袋棚】フクロダナ 床脇の上にある小戸棚。  
【袋貼】フクロバシ 周りにのみ糊をつけて紙を貼ること。  
【袋縫】フクロヌメ 表より浅く縫ひて裏を返し普通の縫代にて縫ふこと。  
【袋戸棚】フクロトダナ 袋棚と同じ。

袍

ハウ

袍

【長きしたぎ、ながじゆばん】  
【わたいれ】古昔束帯用の上着  
【袍帳】ハウチャウ 衣服の異稱。  
【袍袖】ハウシュウ 粗末なる綿入れの着物。

袒

タン

袒

【袒】(褻)禮の二にて左肩をぬぐこと、意思を表す爲に片肌をぬぐこと。  
【袒左】タンサ 左の肌をぬぐこと。  
【袒右】タンウ 右はだをぬぐこと。  
【袒膊】タンハク はだをあらはして踊る。  
【袒膊】タンハク だをぬぐ。  
【袒膊裸程】タンハクカラタイ はだぬぎ、はだか、無禮のふるまひ。

類語

左袒 [タン] 右袒 [タン] 肉袒 [タン] 兩袒 [タン]  
偏袒 [タン] 鉤袒 [タン] 裸袒 [タン] 解袒 [タン]  
鄞袒 [タン] 靈袒 [タン]

袖

シウ

袖

【そで、衣の兩そで】  
【袖口】シウコウ そでうち、衣服の袂。  
【袖手】シウシュウ 何事をもせぬこと(例)袖手傍観す。  
【袖別】シウベツ 人と分れる、離別。  
【袖珍】シウチン 袖に入れる程の小形の書物  
【袖裏】シウリ 衣服のそでの中。

衣部

(五畫)

袒・袖・袂・袖・袂・袂・袂

褌

イ

褌

の身に着けし服、男子の装束の下に着けし服。

袷

チフ

袷

【かたなぶくろ(剣衣)】  
【袷】袷に同じ、ふち、袴給、秩序、ついて

袷

ハン

袷

【ひきしめる】夏の短き着物  
【短き下着、じゆばん】

袷

エイ

袷

【長きふすま】  
【衣の長く被ふさま】  
【そで(袖)】

袷

エイ

袷

**表**

ボウ

【表廣】ヒロサ、ながさ、ひろさ、大きさ。

**袷**

キヨ

【たもと(袂)そで(袖)】①そでぐち(袖口)②そでを擧げる貌

**被**

ヒ

【ねまき(寝衣)】①よぎ、ふすま②婦人の髪飾③かうむる、かぶる、まとい、著る、負ふ、傷をうける④あふ(遺)うける(受)しきおよぶ、ふりみだす⑤かうむらす、かぶせる⑥おほふ(覆)⑦受身の助字、る、らる、せらる

【被毛】ヒモウ からだをおほふ毛。  
 【被衣】ヒイ ①かつぎ②きものをきる。  
 【被告】ヒコウ 告訴せられた方の人、被告人  
 【被官】ヒコワン 其官廳に屬する役所又は役人。

【被服】ヒラフ ①きもの、衣服②實地に行ふこと。

【被酒】ヒレウ 酒をのむこと。

【被風】ヒフ 衣服の一にて表衣の上に著るもの。

【被履】ヒコウ ヤとはるゝこと、被備。

【被袈】ヒケン よぎ、ふすまの類。

【被害】ヒガイ 害をうけること。

【被覆】ヒフク 髪を結ばず振亂せること。

【被選】ヒセン ①おほひかぶせる②ねまきに物をおほふこと。

【被加數】ヒカスウ 數學上の語、寄算にて加へられる方の數。

【被用者】ヒヨウシャ 人に使はれる者。

【被治者】ヒヂシャ 治者の對、治められる者、即ち一國の臣民。

【被服費】ヒフクヒ 著物をつくる費用。

【被除數】ヒジョスウ 數學上の語、除法に於てわられる方の數、即ち實。

【被乘數】ヒジョウスウ 數學上の語、乘法に於て掛けられる方の數。

【被害者】ヒガイシャ 他人の爲めに害を加へられたる者。

【被減數】ヒゲンズウ 數學上の語、減法に於て引かれる方の數。

【被相続人】ヒサウジツクニン 家督・遺産等を譲りて相続を爲さしめる者。

【被後見人】ヒコウケンニン 後見を受ける者。

【被保險者】ヒホケンシヤ 保險會社と保險の契約をなす當事者。

【被教育者】ヒケウイタクシャ 教育を受ける者。

【被選舉權】ヒセンキヨクケン 選舉せらるべき資格ある者が其の資格を認めらるゝ權利

【被髮左衽】ヒハツサジン 夷狄の風俗、髮を振亂して冠をつけず著物を左まへに合はせること。

【被髮纓冠】ヒハツエイクワン 急ぐさま、髮を振り亂したるまゝ冠のひもを結ぶ。

類語  
 布被ヒフ 加被ヒカ 光被ヒクワウ 同被ヒドウ  
 共被ヒヨウ 香被ヒカウ 原被ヒゲン 通被ヒツウ  
 寒被ヒサン 廣被ヒクワウ 錦被ヒキン 横被ヒヨウ  
 覆被ヒフク 繻被ヒジュウ

**袱**

フク

【袱紗】フクシャ ①茶の湯に使用する方八寸ふくさ、ふろしき、物をつむむ巾

ばかりの絹物、絹の小さいふろしき④ちゆうかけ、人に進物などを贈る時に使用する風呂敷様の飾り布。

**袴**

ハカマ

【袴】ハカマ 乗馬用のはかま。  
 【袴者】ハカマギ 男兒五歳のとき始めて袴を著る儀式。

**袷**

ヒ

**袷**

カフ

①衣服の一、あはせ②えり(衣領)

**袷**

ハク

はらあて、はらまき

**袴**

ケツ

つまどる、つまをもつ

**袴**

カク

わき、袖の腋の下の部分

**袷**

ケイ

【うちかけ、しかけ、婦人のうはぎ、編織④國訓うちき(古の婦人の禮服にて裝束の下に著たもの)】

**袷**

イン

【褌】ヒ ①袴の上に敷くもの、しとね(茵)②みごろ(衣身)

**裁**

サイ

【裁】サイ ①たつ、切斷する、きり放す②節減する、適宜にへらす③はかる、見積る④さばき、さばく、きりもりする⑤わづかに(總)  
 【裁可】サイカ ①物事をきりもりする②君主が臣民の申出を聞いてゆるす。  
 【裁成】サイセイ 物事をなしとげること。  
 【裁抑】サイヨク ①押へつける②へりくだる  
 【裁判】サイバン 是非曲直をさばく。  
 【裁決】サイケツ 事件をとりさばく、裁定、裁斷。

【裁答】サイタウ 手紙をしたゝめて答へる。

【裁定】サイテイ 裁決に同じ。

【裁割】サイカキ 分ち割きてとめおく。

【裁制】サイセイ ①衣服などをしたてる②おさへつける。

【裁破】サイハ たちやぶること。

【裁許】サイキョ しばきゆるす。

【裁減】サイゲン けづりへらす、きりへらす。

【裁割】サイカツ 刀にてきりたつ、又物事をきりもりして宜しきに合はさしめる。

【裁量】サイリヤウ 取計らふ、とりさばく。

【裁畫】サイガク 是かり定む。

【裁経】サイキョウ 衣服を仕立てること。

【裁断】サイダン 裁決に同じ。

【裁判官】サイバンクワン 裁判を司る官吏。

【裁判所】サイバンシヨ 天皇の名に於て司法權を執行する官廳。

【裁判籍】サイバンセキ 法律は一定の土地を區別して其の土地の住居者又は土地に關係あるものをして其の所在地裁判所の管轄を受けしむ、此管轄を其の人の裁判籍といふ。

【裁判權】サイバンケン 裁判をなす權利。  
 【裁判確定】サイバンケツタイ 或事件の裁判上の手續をなしたる後上訴期間を過ぎて通常の手續にてはそれを動かし得ない状態

**類語** 應に至りたる時を裁判確定といふ。  
 自裁<sup>サイ</sup> 抑裁<sup>ヨクサイ</sup> 制裁<sup>セイサイ</sup> 奏裁<sup>ソウサイ</sup>  
 風裁<sup>フウサイ</sup> 品裁<sup>ヒンサイ</sup> 討裁<sup>トウサイ</sup> 準裁<sup>ジュンサイ</sup>  
 裝裁<sup>サウサイ</sup> 裂裁<sup>レツサイ</sup> 總裁<sup>サイサイ</sup> 檢裁<sup>ケンサイ</sup>

**袴** 國字  
 昔の禮服、かみしも  
**裾** 國字  
 衣服の背縫より袖口までの長さ、ゆき

**裂** レツ  
 ①さく、ばら／＼にする、破れちぎれる、さきはなす、わかれる②きぬもののきれ、たちあまり  
 【裂果】レツクワ 植物の種子が熟してさけ出るもの。  
 【裂帛】レツパク ①きぬをさく音②ほととぎすの激しく啼く聲の形容。  
 【裂紋】レツモン 鏡物の結晶が一定の方向に沿ひ自然に分離する痕を現はすこと。  
 【裂開】レツカイ さけひろく。  
 【裂背】レツセイ 大いに怒る目つき。  
 【裂傷】レツシヤウ さけきず、皮膚の裂けたる傷。

**裯** テウ  
 しなやか、たをやか(絹)  
 【裯々】テウテウ しなやかなる貌。  
 【裯々】テウテウ ①たをやかにからみつく②音のたえず続くさま。

**類語** 分裂<sup>レツブン</sup> 決裂<sup>ケツレツ</sup> 車裂<sup>シャレツ</sup> 凍裂<sup>トウレツ</sup>  
 【裂隙】レツギキ われめ、すきま。  
 【裂罅】レツカ 地殻に生ずる裂目。

**裯** ジュ  
 破れたる短き衣服  
**裯** テイ  
 はだか(裸體)はだかになる

**裏** リ  
 ①うら、内側、表の反対のかは②なか、うち  
 【裏行】リカウ 正員にあらざる単に列に加はつてゐる役。  
 【裏面】リメン うら、内側、背面。  
 【裏口】ウラグチ 家の後方にある出入口。  
 【裏切】ウラギリ 密に敵に内應し内より味方を切つて出ること。  
 【裏判】ウラハン 書類の裏面に押す證判。  
 【裏門】ウラモン やしきの後口の門。  
 【裏店】ウラテナ うらや、人家の後方に建てたる家。  
 【裏表】ウラオモテ 表裏に同じ、物のうらとおもて。  
 【裏書】ウラガキ ①紙の裏に文字を書くこと②巻物の裏にその由来を記すること③證書爲替などの裏面に金圓の受取を記すこと、又爲替手形の譲渡などに一定の形式に従ひて記すること。  
 【裏金】ウラキン 日本畫にて絹地の裏面より金箔をあてしもの。  
 【裏罨】ウラケイ 印刷に用ゐる亜鉛罨線の太きもの。  
**類語** 内裏<sup>ウチウラ</sup> 心裏<sup>ココロウラ</sup> 肚裏<sup>ハラウラ</sup> 雨裏<sup>アメウラ</sup>  
 花裏<sup>ハナウラ</sup> 門裏<sup>カドウラ</sup> 表裏<sup>ウラオモテ</sup> 禁裏<sup>キンウラ</sup>

**裡** リ  
 裏の俗字  
**裯** シン  
 衣服の身、みごろ  
**裯** ホウ  
 ①おほし(多)②あつまる(衆)あつむ(へらす)(滅)へる  
 【裯次】ホウジ 衆めついでる、集めて編纂す  
 【裯別】ホウベツ 減らして少なくすること。  
 【裯投】ホウテウ あつめひろふ。  
 【裯會】ホウクワイ 集めよせること。

**裯** ユ  
 ①ゆたか、ありあまる②ゆるやか(寛)ゆつくりせる貌  
 【裕々】ユウユウ 心などのゆるやかなる貌。  
 【裕福】ユウフク ゆたかにして富む。

**裔** エイ  
 ①もすそ、すそ②すそ、子孫③はて、邊境④徐行のさま⑤飛び流れる貌  
 【裔土】エイド 僻地、片みなか。  
 【裔民】エイミン 凶惡の民、放たれて荒裔に在る者。  
 【裔夷】エイイ 國のはてに居る蠻人。  
 【裔胄】エイシュ 遠き子孫、末孫。

**裯** キウ  
 けごろも、かはごろも  
 【裯衣】キウイ かはごろも。  
 【裯服】キウフク 前に同じ。  
 【裯葛】キウカク 冬物と夏物、かはごろもとかたびら、轉じて一年の意味にも用ゐる  
 【裯褌】キウコン かはごろもと粗き毛織の短衣。  
**類語** 大裯<sup>キウ</sup> 功裯<sup>キウ</sup> 皮裯<sup>キウ</sup> 羊裯<sup>キウ</sup>  
 良裯<sup>キウ</sup> 狐裯<sup>キウ</sup> 美裯<sup>キウ</sup> 敗裯<sup>キウ</sup>

**裯** クン  
 ①もすそ、下裳②はだぎ、したぎ  
 【裯子】クンシ 僧侶の服。  
 【裯帶】クンタイ ①したぎとおび②うはも、裳の上に著る裳。  
 【裯釵】クンサイ 婦人のしたぎとかんざし、轉じて婦人のこと。  
 【裯帶菜】クンタイサイ 海草の一、わかめ。  
**類語** 長裯<sup>チウクン</sup> 紅裯<sup>コウクン</sup> 風裯<sup>フウクン</sup> 羅裯<sup>ラククン</sup>  
**裯** イフ エフ  
 ①うつり香のからばしき衣服②衣服にうつり香がする③書物を入れるふくろ  
 【裯香】イフカウ にほひぶくろ。  
**裯** テン セフ テフ  
 著物のえり、衣領、一説につま(襟)  
**補** ホ  
 ①おぎなふ、つくるふ、缺けたる所を足す②たゞししく(匡救)③おぎなひ、

うめあはせ、たすけ①官職を授けると  
 【補正】ホセイ 補ひたす、又そのもの。  
 【補任】ホニン 官職を授けること。  
 【補色】ホシヨク 甲の色に混じて白となるべき乙の色を甲の色の補色といふ。  
 【補充】ホジュク 不足をおぎなふ。  
 【補助】ホジュク ①不足をたすける、また其人②人民の窮乏を察して救助すること  
 をいふ。  
 【補角】ホカク 幾何學上の語にて二角の和が二直角に等しき時其の各角を他の補角といふ。  
 【補足】ホツク 不足をおぎなひ充す。  
 【補佐】ホイウ たすけ、補佐。  
 【補苴】ホシヨ 補ひつくらふ。  
 【補車】ホシヤ 車は物を載せるもの、補は車に載せたるものを持つ人、物事が互ひに相待つて用を爲すこと。  
 【補缺】ホケツ 缺員を補ひ任ずること。  
 【補習】ホシフ 一定の課程を終了せし者に對し更に適當なる學科を授けて不足を補ふこと。  
 【補則】ホツク 本則に補ひ加へる規則。  
 【補筆】ホヒツ かきたす、加筆。  
 【補刺】ホセキ 衣服のやぶれたる所をつくらひぬふこと。

【補註】ホナユウ 註釋の足らぬ所をつけ加へて補ふ、又その註釋。  
 【補授】ホジュ 官位をさげつけること。  
 【補填】ホタン 不足を充しうめること。  
 【補綴】ホヒツ 補ひ、補佐。  
 【補綴】ホヒツ ①おぎなひあはせる②先人の字句などをとりあはせて詩文をつくること。  
 【補葺】ホシフ ヤねなどをつくらひふく。  
 【補箋】ホセン つけふだする、手形に附箋すること。  
 【補導】ホダウ ①過を補ひ正道に導く②精力の不足を補ふ。  
 【補劑】ホザイ おぎなひとして用ゐる藥。  
 【補輯】ホシフ 書物などの不足せる部分をおぎなひてまとめること。  
 【補翼】ホシヨク たすけ、たすけ。  
 【補遺】ホセキ もれたる所をおぎなひ足す、又そのおぎなひ。  
 【補償】ホシヤウ ①おぎなひ償ふこと②つぐのひ、おぎなひ。  
 【補闕】ホケツ ①官吏・議員などの闕員となれるをおぎなふ②かけたる所をおぎなふ、過失を正し救ふ。  
 【補綴】ホツク つくらひつぐ。  
 【補藥】ホセキ 補ひのためのくすり。

【補充兵】ホジュウヘイ 事變又は戦時に際し現役兵の補缺として召集する軍隊。  
 【補助金】ホジュキン 入費をたすけるために交附する金。  
 【補資】ホシヨク 衰職をおぎなふ器、即ち宰相の器量。  
 【補習科】ホシフクワ 本科を卒業したる後なほ補習すべき科。  
 【補鑄匠】ホクワシヤウ いかげや、鑄掛師。  
 【補陀落】フダラク 觀世音菩薩の宮殿ありといふ南海の島。  
 【補充命令】ホジュウノイイ 社會公共の安寧秩序を保ち國民の幸福を増進する目的にて發する勅令。  
 【補助貨幣】ホジュクワヘイ 本位貨幣の補助とする貨幣、金貨本位の我國にては銀・白銅・銅貨をいふ。  
 【補助資本】ホジュシホ 生産に於て勞力を補助する一切の財貨。  
 【補缺選舉】ホケツセンキョ 缺員を補ふために行ふ選舉。  
 【補習教育】ホシフケイイク 正式教育を受け能はざる兒童に對し其業務に差支なき時間を以て施す教育。  
 【補過拾遺】ホケツシヨウ 君徳の闕けたるを補ふこと。

類語

小補ホセウ 寸補ホスン 加補ホカホ 完補ホクワン  
 候補ホウホ 修補ホシウ 試補ホシホ 填補ホタン

装

シヤウ サウ 装

①よそほふ、けしやうをする、旅支度をする、しかけをする、又よそほひ、衣服②旅行に必要な物③かくす(藏)に鐵甲テウカフ④鐵をきること⑤物の外部に鐵板をはること。  
 【裝背】サウハイ うちをすること。  
 【裝具】サウグ 化粧道具をいふ。  
 【裝送】サウソウ 嫁入の支度。  
 【裝釘】サウテイ 書冊を綴ちて仕立る、又その仕立。  
 【裝禪】サウチン 書物を装ふこと、そのよそほひ。  
 【裝填】サウテン 銃砲に銃丸をこめる。  
 【裝飾】サウシヨク ①かざりつける、又かざり②身支度してかざること。  
 【裝置】サウチ つくりつけ、しかけ。  
 【裝料】サウレフ よそほひあつめる。  
 【裝演】サウクワウ 書畫などを表装すること。  
 【裝藥】サウヤク 銃砲に彈藥をこめること。  
 【裝束】シヤウツク ①みじたくをする②禮服

類語

女裝サウメ 戎裝サウジユ 行裝サウカウ 男裝サウダン  
 改裝サウカイ 東裝サウトウ 金裝サウキン 服裝サウフク  
 武裝サウブ 表裝サウヘウ 急裝サウキウ 軍裝サウグン  
 船裝サウセン 密裝サウシツ 盛裝サウセイ 寒裝サウカン  
 新裝サウシン 線裝サウセン 道裝サウダウ 飾裝サウシヨク  
 輕裝サウケイ 辨裝サウベン 歸裝サウキ 變裝サウベン

裝

サ 裝は法衣

裓

サ 裓は法衣

八畫

裓

ヒ 裓

①たすく(補)おぎなふ、つくるふ②たすけ、補佐、その人、又利益③ちひさし(小)  
 【裓助】ヒジキ おぎなひたすける。  
 【裓益】ヒニキ おぎなふ、ます④ために

類語

裓海ヒカイ 小ききうみ、小海。  
 裓補ヒホ たすけおぎなふ。  
 裓販ヒハン 小商人、こあきんど。  
 裓將ヒシヤウ 大將をたすける將官、副將。  
 裓ヒ 裓に同じ

裓

チウ タウ 裓

裓

タツ 裓

裓

タツ 裓

裓

ヘウ 裓

補

リヤウ 補

裳 シヤウ

①もすそ、も、下袴(ウ)くしきさま、さかんなるさま

【裳衣】シヤウイ きもの、もすそとうはぎ。  
【裳々】シヤウシヤウ 美しく盛んなる貌。  
【裳纏】シヤウレウ ムヒとりあるもすそ。

類語

衣裳シヤウ 素裳シヤウ 縗裳シヤウ 羅裳シヤウ

褌 ハイ

①人の姓(唐代の名臣)古く俳に通ず  
【褌回】ハイクワイ たちもとほる、徘徊。

褌 エンケン

かしらづみみ、づきん

裸

はだか、はだかになる、はだかにする。  
【裸出】ラレユウ ムキだし、おほひ無きさま。

褌

【裸足】ラツク はだし、すあし。  
【褌麥】ラバク 大麥の一種、はだかむぎ。  
【褌馬】ラバ 鞍をおかぬ馬、はだかうま。  
【褌洗】ラセン はだかと洗。  
【褌蟲】ラチュウ ①はだかむし ②羽毛のなき蟲 ③貧乏人の異名。

【裸體】ラタイ はだか、まるはだか。  
【裸文】ハダカブミ 表包をせざる手紙。  
【褌子植物】ラレユウツツ 松・杉などの如く胚珠が子房内に存せずして全く外に裸出する植物。

類語

赤褌ラツキ 赤褌ラツキ

褌 クワ

①包む(ウ)つみみ、又包みたるもの  
【裏包】クワハク つみみ、袋づみみ。  
【裏括】クワクワツ たばねてつみむこと。  
【裏紫】クワムラサキ 前に同じ。

褌 トク

せぬひ、衣服の存置

褌

セキ テイ

製 セイ

①衣服をしたてる(ウ)つくる(造)こしらへる ②詩文をつくる、特に天子の御作になる詩文 ③かはごるも(ウ)こしらへ、つくり ④雨衣、雨具 ⑤かた、形式 ⑥すがた、容姿

【製本】セイホン 書物をとごこしらへる、又その書物。  
【製作】セイサク 製造に同じ。  
【製品】セイシン こしらへたる品物。  
【製法】セイハフ 物品のこしらへ方、製作法。  
【製版】セイハン 文字・繪などを版に造ると。  
【製造】セイザウ 物品を作る、拵へる、製作。  
【製裁】セイサイ つくる、又つくりかた。  
【製産】セイサン 物品を製しつくること。  
【製絨】セイジュウ 羅紗をこしらへること。  
【製絲】セイシ 絲類を製造すること、特に蠶の繭より生絲をとること。  
【製圖】セイブ 測量して圖に作り上げる事  
【製糖】セイタウ 砂糖を製造すること。  
【製薬】セイヤク 調合した薬、又くすりを製

造すること。

【製鹽】セイエン 食鹽をつくること。  
【製作物】セイサクツツ こしらへ上げたものの總稱。

【製圖家】セイブカ 製圖を業とする人。

類語

工製セイコウ 古製セイコウ 名製セイコウ 自製セイコウ  
作製セイサク 形製セイコウ 官製セイコウ 高製セイコウ  
粗製セイソウ 清製セイコウ 密製セイコウ 御製セイコウ  
聖製セイコウ 新製セイコウ 謹製セイコウ 鐵製セイコウ

裾 キヨ

①すそ、もすそ(ウ)おごる(裾) ②國調すそ(山のふもと)

【裾廻】スリマヘ 山のふもととのめぐり、總て物の下のまはり。

【裾野】スリノ 山の麓の野原。  
【裾金物】スリガネモノ 鍔の袖の草摺の下部の板にうちつけたる金物。

類語

衣裾キヨ 紅裾キヨ 輕裾キヨ

褂 クワイケ

うちかけ、うはぎ、清朝時代の禮服の一

褌 國字

衣服のおくみの腰より下のへり、つま

九畫

複 フク

①かさなる(重)かさね(ウ)一つでない、單一でない(ウ)かさね、二重にする

【複文】フクブン 文法にて附屬句を有する文をいふ。

【複本】フクホン 原本のうつし、副本、謄本。  
【複式】フクシキ 簿記にて收支又は取引毎に貸借をかわけて記入し科目を分類してそれらの座を設ける方法のもの。

【複合】フクガフ 二つ以上相合して一體を成すこと。

【複成】フクセイ ①あるが上にも又できること ②かさねて作る、もう一つ作る。

【複利】フクリ 預金又は貸借に於て毎期の終に其利子を元金に繰込み最後の元利總計より最初の元金を減じたる高。

【複垣】フクケン 二重にしたるかさね。

【複眼】フクガン 無数の單眼の集合して成る眼、昆蟲類・甲殻類などの眼。

【複葉】フクエウ ①一葉柄に數多の小葉を有する植物の葉 ②飛行機の翼の二重になれるもの。

【複道】フクダウ 二階建の廊下。

【複筆】フクヒツ 同一のかき方を再びくりかへす。

【複製】フクセイ 著作物・書畫等を其著者又筆者以外の者が元のものに似せて同じ様にする事。

【複閣】フクカク 二階三階だてのたかどの。

【複線】フクセン 二すぢ以上設けたる線、主に鐵道の線路につきていふ。

【複數】フクスウ 二個以上の數を單數に對していふ。

【複寫】フクシヤ 一度寫したるものをもう一度寫す ②又同じものを幾つも寫す。

【複壁】フクヘキ 二重に圍みたるかべ。

【複本位】フクホンキ 種々物事が込いつてある事、二種のものをも本位とすること ②經濟學にては二種の貨幣を其國の貨幣の本位とすることをいふ。

【複分數】フクブンズ 分子と分母とが分數よりなれる分數、又は分母子の一方が分數より成れるもの。

【複本位制】フクホンキセイ 二種以上の貨幣を共に本位貨幣とする制度。

【複成火山】フクセイクラサン噴火口の上に更に噴火口を生じたる火山。  
【複雑合力】フクザツリキョク 經濟社會に於て各個人が種々の異りたる方面より互に便利を得ん爲めに力を合すこと。

類語  
重複フクヨク 繁複ハン

【褊】ヘン せまし(狭)ちひさし(小)  
【褊小】ヘンセウ せまきこと、狭小。  
【褊心】ヘンシン 氣が短い、かたいぢ。  
【褊性】ヘンセイ 一方にかたよつてへんくつなる性質。  
【褊忌】ヘンキ 心せまくして人をねたむこと。  
【褊急】ヘンキウ 氣の短きこと、短氣。  
【褊陋】ヘンロウ 見識又は學問などの狭小なること。  
【褊狭】ヘンケツ 土地が片よりてせまい。心がせまい。  
【褊頗】ヘンパ かたておち、えこひいき。  
【褊隘】ヘンアイ 褊狭に同じ。  
【褊隘】ヘンアイ 氣質狭小にしてそわくせること。

【褌】ヒトヘモノ(單衣) 褌に同じ  
【褌】コン ふんどし、したおび

類語  
紅褌コウ 緋褌ヒ

【褌】シウイウ ①賤者の服、あらかき毛の著物。②賤しい人。③かち(黄黒にて艶なき色)  
【褌夫】カフツ 褌を着たる賤人。  
【褌色】カフシヨク かちのいろ。  
【褌炭】カフタン 未だ十分に化石せず黒褐色を帯びたる石炭。  
【褌博】カフバク ひろそでの衣、賤者の著物、又それを著る人。  
【褌寛博】カフワンハク 賤しき者の著るもの又それをきたる人。

類語  
紅褌コウ 緋褌ヒ

【褌】カツ ①賤者の服、あらかき毛の著物。②賤しい人。③かち(黄黒にて艶なき色)

【褌】カフツ 褌を着たる賤人。  
【褌色】カフシヨク かちのいろ。  
【褌炭】カフタン 未だ十分に化石せず黒褐色を帯びたる石炭。  
【褌博】カフバク ひろそでの衣、賤者の著物、又それを著る人。  
【褌寛博】カフワンハク 賤しき者の著るもの又それをきたる人。

【褌】カツ ①賤者の服、あらかき毛の著物。②賤しい人。③かち(黄黒にて艶なき色)

【褌】ハウホウ ①褌を解く。②褌を解く。次に同じ。  
【褌を解く】解レ褌カフをどく 次と同じ。  
【褌を釋く】釋レ褌カフをどく 賤衣をぬぎすてる、浪人が官職に就くこと。

類語  
毛褌カウ 布褌カフ 皮褌カフ 短褌カフ

【褌】キキ ①祭祀の時の皇后の衣服。②婦人の持つ香囊。③うつくし(美)。④ひざかけ

【褚】チヨ ①わた(綿)又綿入の著物。②たはふ

十畫

【縵】ウンオン ①ころも(衣)②うはぎ(挂)③そまつなるきもの(褌衣)

【褌】マンカフ ぬのこ。

【褌】ジヨク ①とね、しきもの、ふとん

【褌席】ジヨクセキ ①とね、ふとん

【褌】コウ

【褌】タイ ①ひとへの筒袖。②うでぬき(臂衣)

【褌】ケイ ①夏時日光を防ぐために被る日笠。②事情に通ぜぬ迂闊の人

【褌】ケイ

【褌】トンマイ ①ぬぐ、おろす、衣服をぬぐ。②さむ、あす、色がさめる。③進まんとして卻つて後にさがる

【褌色】タイシヨク 色がさめる。

【褌落】トシラク 前に同じ。

【褌紅色】トシコウシヨク 薄紅色、ときいろ。

【褌】チ ①うばふ(奪)はぐ。②氣をおとす。③ぬぐ(脱)とく(解)

【褌皮】チロ 皮をはぐ。

【褌氣】チキ 心を奪はれる。

【褌奪】チダツ 取りあげる、はがしとる。

【褌】ケン ①かまぐ、衣服をまくりあげる。②はかま(袴)

【褌裳】ケンシヤウ ①もすそをかま上げる。②褌開ケンカイ かま上げ開く。

十一畫

【褶】テフシフセフ ①あはせ(袷衣)②乗馬用の袴。③ひだ、衣服のひだ

【褶曲】シフキョク 横面の壓力を受けて地殻に生ずる皺。

【褌】オウ

【褌】ルロ ①だれかけ(溼衣)

【褌】ルロ つじれ、ぼろ、敝衣

【褌】セツ ①ふだんぎ、平服。②したぎ、はだぎ。③なる、心やすくなる。④押れ侮る。⑤きたない、けがらはし、けがる、又けがす(褌)

【褌】セツ ①ふだんぎ、つねぎ。

【褌】セツ ①なれ(弄)なれ(弄)しきことば。

【褌】セツ ①なれ(弄)なれ(弄)しきことば。

【褌】セツ ①なれ(弄)なれ(弄)しきことば。

【褌】セツ ①なれ(弄)なれ(弄)しきことば。



【褻瀆】セツトク けがす、又けがれる。  
類語 私褻セツ 褻瀆セツ

【褻】キ  
しく(藤)蒲團等をのべる

【標】ヘウ  
表具、表装

【積】セキ  
ひだ、衣服のひだ

【襪】キヤウ  
①むつき(襪)むつきにて小兒を負ふ  
②國訓おしめ、おむつ(小兒の糞尿をしまつする布巾)

【襪負】キヤウフ むつきにておふ。  
【襪褌】キヤウホ むつき。  
【襪屬】キヤウゾク 物事が互に連続すると。

【褻】ハウ ホウ

褻

①ほむ、ほめた、へる②ほめ、はらび③大なるその衣服④あつまる、あつむ  
【褻衣】ハウイ ①かづけもの、はらびの衣服②大なるその衣服。

【褻狀】ハウジヤウ 褻美のかきつけ。  
【褻美】ハウビ ①人をほめる②賞與。

【褻貶】ハウヘン ほめること、むしろすること。  
【褻拜】ハウハイ 足下に伏して拜禮す。

【褻章】ハウシヤウ 奇特の行爲ありし人に褒美として賜はる徽章、紅綬章・綠綬章・藍綬章・黃綬章の四種あり。

【褻揚】ハウヤウ 賞めあげる。  
【褻詞】ハウジ ほめたことば、又其文章。

【褻稱】ハウシヨウ ほめそやす。  
【褻罰】ハウバツ 賞すること、つみすると。  
【褻賚】ハウサイ 褒賜に同じ。

【褻賞】ハウシヤウ 人をほめること。  
【褻諛】ハウエン ほめへつらふ。  
【褻賜】ハウキ 功績をほめて金品をたまふ、又その金品。  
【褻勳】ハウクワン ほめす、める、賞勳。  
【褻顯】ハウケン ほめあらはす。

【褻】シヤウ ジヤウ  
①あがる(上)のぼる②しとげら、なす  
③はらふ(褻)④星がうつる⑤のりもの(褻)⑥たすく(褻)

【褻岸】ジヤウガン 洪水などの岸まで上ること、又高き岸。  
【褻事】ジヤウジ 事をなしとげる。  
【襄王夢】ジヤウワンユノ 楚の襄王の故事に因み美婦と交會すること。

【禪】クワ 國字  
巫女のきる衣、ちはや

十二—十三畫

【襪】クワ 襪に同じ

【禪】タン ひとへ(袷)ひとへもの

【襪】タン 雑に同じ

襪

【襪】ハツ  
①あまぎ、かつばの類②あらおりの丈夫なる衣服、さしこの類、労働者などのきる物

【襪】ヘツ  
はらふ(拂)

【襪】アウ  
①うはぎ(袍)②國訓ふすま(からかみ、ふすましやうじ)あを(昔の衣服、袍の一種、裏のある狩衣)

【襪子】アウシ ぬのこ、又中古に用ひし袷の衣、こそで。

【襪衣】アウイ うはぎ。

【袷】クワイ  
帯の結目、又糸りの出あふ所

【襪】スキ 十一—十五畫

①死者に著せる衣服、又其を贈ること  
②人に衣服を贈ること

【襪衣】スキイ 死者の衣、經かたびら。

【禮】チヨウ  
①顔のわか／＼しきさま②衣服の厚きさま

【檐】セン  
①衣服をきちんと著たる貌②衣などの動く貌③まへだれ(前垂)まへかけ④車の幕⑤短きひとへもの

【檐如】センジヨ 衣服を正しく著たるさま。  
【檐々】センセン 字解の②に同じ。

【襪】ヘキ  
①ひだ、折り疊みて作りたるしわ②たむ(疊)

【襟】キン  
①えり(衿)②こもろ、かんがへ、むね

【襟袍】キンバウ 襟懷に同じ。  
【襟袂】キンベイ えりとそで。  
【襟度】キンド ころも、きまへ、度量。  
【襟帯】キンタイ ①えりとおび、轉じて衣服

③要害のよき土地の形容。  
【襟章】キンシヤウ 軍服の襟につける目印。  
【襟喉】キンコウ えりとめど、土地の要害。  
【襟裾】キンキョ えりとすそ、轉じて衣服をまとふこと。  
【襟領】キンレイ 著物のえり。  
【襟懷】キンクワイ 心の中、かんがへ。  
【襟飾】キンカザリ 洋服のえりにつけるかさり、ネクタイ。  
【襟卷】エリマキ 襟にまとふ防寒具。  
【襟細胞】キンタイハウ 海綿類の一個體。

類語 分襟ケン 正襟セン 披襟ヒ 胸襟キヤウ  
宸襟シン 開襟カイ

【襠】タウ  
①漏襠はうちかけ②したおび、ふんどし③國訓まち(衣服の布の足らぬ所に別の布を添へるもの、袴の内股の部分)

【襠】シヨク トク  
ながじゆばん(長襠)こしまき、包む

【襠】タン テン

【襠】タン

【襠】タン

①かたぬぐ(袒)②しろむく、白くして模樣なき衣服

十四—十五畫

〔襪〕 ラン  
①ついで、ぼろ②へりを取らぬ衣服

〔襦〕 ラン  
〔襦袖〕 ラン  
〔襦袴〕 ラン  
ついで、ぼろ。

〔襦〕 ジュ  
はだぎ、じゆばん

〔襦〕 ジュ  
はだぎ、じゆばん

〔襦〕 ベツ  
たび(足袋)くつした

〔襦〕 パツ  
たび、足袋、履下などの類。

〔襦〕 セキ  
セキ

あまぎ(雨衣)

〔襦〕 ケツ

襦をからげる、つまばさむ

〔襦〕 ハク ホク

①えり(領)ぬひとりあるえり②あらはす、おもて(表)

十六—十八畫

〔襦〕 シン  
①はだぎ②したしむ、ちかづく③ほど

〔襦〕 シン  
はだぎ、したぎ、シャツ。

〔襦〕 ロウ  
袴のもも

〔襦〕 シフ  
おそふ、不意うち、他人の文章等を取りて自分のものとす③服す、衣る④

よる(因)したがふ②つぐ、うけつぐ③かさなる、かさぬ、同様の事を二度行ふ、重疊する④あふ(合)⑤衣服の一そろひ、かさね⑥むらがり集まる⑦國訓かさね(袍の下着)

〔襦〕 シフ  
從來のまももちあふること。

〔襦〕 シフ  
著物をかさねること。

〔襦〕 シフ  
從來の慣例をうけつぐこと。

〔襦〕 シフ  
にはかに攻め來ること。

〔襦〕 シフ  
攻め入りて取ること。

〔襦〕 シフ  
うける、うけつぐ。

〔襦〕 シフ  
美服をかさね珍味を食す、贅澤なる生活。

〔襦〕 シフ  
敵の不意をおそひ殺す。

〔襦〕 シフ  
諸侯が先代の領土を相続すること。

〔襦〕 シフ  
先代の爵位をうけつぐこと

〔襦〕 シフ  
前の事をそのまゝにまねる

〔襦〕 シフ  
討ち入る、おそひうつ。

〔襦〕 シフ  
職をうけつぐこと。

〔襦〕 シフ  
あとをつぐ。

〔襦〕 シフ  
かみなりのつばね、古昔禁中凝華舎の後方にありし御殿の名

〔襦〕 シフ  
世襲

〔襦〕 シフ  
因襲

〔襦〕 シフ  
夜襲

〔襦〕 シフ  
冒襲

〔西〕 セイ サイ  
①四方の一、にし、にしの方、西にむかふ、にしす、西の方に行く②西洋の略

〔西〕 セイ  
春秋時代に於ける周人の稱③宋時代に於ける西夏の人の稱④西洋人。

〔西〕 セイ  
西施に同じ。

〔西〕 セイ  
①西方の國土②西洋、歐米。

〔西〕 セイ  
①西の方②極樂淨土。

〔西〕 セイ  
支那より印度を指していふ

〔西〕 セイ  
唐代の太極殿。

〔西〕 セイ  
西方淨土の主、阿彌陀佛。

〔西〕 セイ  
西洋の歴史。

〔西〕 セイ  
周代に於ける西方の夷。

〔西〕 セイ  
瓜の一、すゐくわ。

〔西〕 セイ  
樂曲の一種③西洋の樂曲。

〔西〕 セイ  
秋に穀物のみること。

〔西〕 セイ  
周の文王の異稱。

西

の洛陽、又遼の大同府④が都の別稱。

〔西〕 セイ  
①周の武王から幽王に至る迄の朝名②周の考王が其弟揭を王城の故地に封じたる國名。

〔西〕 セイ  
西陲に同じ。

〔西〕 セイ  
春秋時代越國の美人の名。

〔西〕 セイ  
西洋の書物、洋書。

〔西〕 セイ  
歐米各國の總稱。

〔西〕 セイ  
市外又は城外の西方にある田舎②秋の郊外。

〔西〕 セイ  
①にしのかぜ②秋の風。

〔西〕 セイ  
太公望が西面して武王に黃帝の書を教へたる故事より師の居るべき所。

〔西〕 セイ  
泰西の賢人、西洋の哲人。

〔西〕 セイ  
中央亞細亞地方の漢代以後の稱にして後には印度をも含む。

〔西〕 セイ  
西方のくに③極樂淨土④九州地方。

〔西〕 セイ  
肥水の役後漢人李嵩の建てし國にして今の甘肅省安州にあり。

〔西〕 セイ  
宮中にある清潔なる西方の廂の意、西側の小座敷③清朝の宮廷内の一室にして翰林學士の出勤した所

〔西〕 セイ  
西洋の宗教、耶蘇教。

〔西〕 セイ  
國土のしのはて、西垂。

〔西〕 セイ  
肥水の役後漢人李嵩の建てし國にして今の甘肅省安州にあり。

〔西〕 セイ  
宮中にある清潔なる西方の廂の意、西側の小座敷③清朝の宮廷内の一室にして翰林學士の出勤した所

〔西〕 セイ  
西洋の宗教、耶蘇教。

〔西〕 セイ  
國土のしのはて、西垂。

〔西〕 セイ  
肥水の役後漢人李嵩の建てし國にして今の甘肅省安州にあり。

〔西〕 セイ  
宮中にある清潔なる西方の廂の意、西側の小座敷③清朝の宮廷内の一室にして翰林學士の出勤した所

〔西〕 セイ  
西洋の宗教、耶蘇教。

〔西〕 セイ  
國土のしのはて、西垂。

〔西〕 セイ  
肥水の役後漢人李嵩の建てし國にして今の甘肅省安州にあり。

〔西〕 セイ  
宮中にある清潔なる西方の廂の意、西側の小座敷③清朝の宮廷内の一室にして翰林學士の出勤した所

〔西〕 セイ  
西洋の宗教、耶蘇教。

〔西〕 セイ  
國土のしのはて、西垂。

〔襦〕 タイ  
日よけ笠

〔襦〕 國字  
たすき、二筋の紐を斜に交叉して袖をからげるもの

〔襦〕 ア  
おほふ(覆)

襦部

討襲シフ 祖襲シフ 掩襲シフ 鈔襲シフ  
勦襲シフ 踏襲シフ 積襲シフ 繼襲シフ  
緇襲シフ

〔襦〕 ラン  
①衣と裳とを聯ねた單衣②國訓らん(織物の一種、錦の類、錦襦)

〔襦〕 ラン  
〔襦〕 ラン  
〔襦〕 ラン

〔襦〕 ラン  
〔襦〕 ラン  
〔襦〕 ラン

〔襦〕 ラン  
〔襦〕 ラン  
〔襦〕 ラン

襦部

討襲シフ 祖襲シフ 掩襲シフ 鈔襲シフ  
勦襲シフ 踏襲シフ 積襲シフ 繼襲シフ  
緇襲シフ

【西歐】セイオウ 西方の片田舎。  
 【西廂】セイオウ 西側にある小座敷。  
 【西極】セイキョク 西のはての國。  
 【西湖】セイコ 浙江省孤山の麓にある湖水にして林和靖の隱遁せし所。  
 【西遊】セイユウ 西國に遊ぶこと、又西洋に行く。  
 【西經】セイケイ 本初子午線を零度としてその西の方百八十度にわたる地球表面上の經度。  
 【西漢】セイハン 西のうみ、西海。  
 【西僧】セイソウ 西域地方の僧侶。  
 【西賓】セイヒン 師傳、師の居るべき所。  
 【西漸】セイゼン 次第に西方に進みうつる。  
 【西端】セイタン 西方のはて、西のはし。  
 【西燕】セイエン 慕容沖の建てし國にして後に秦の符堅の爲めに併せらる、今の山西省路安府。  
 【西銘】セイメイ 宋の張載が書齋の西窓にかかげたる文章にして仁道の根本を明かにしたるもの。  
 【西廠】セイシャ 明の憲宗の時宮廷内に設けられた裁判所。  
 【西樂】セイガク 西洋の音楽。  
 【西曆】セイレイ 西洋の曆にて基督の誕生を紀元とするもの。

【西學】セイガク ①支那周代の小學校②歐米の學術、西洋の學問。  
 【西諺】セイテン 西洋のことわざ。  
 【西魏】セイエイ 西紀五百三十四年魏の孝武帝が大丞相高歡に追はれ長安に奔りて建てし國。  
 【西嚆】セイカウ 西にある田地、又一般に田地の意。  
 【西府】サイフ 九州太宰府の別稱。  
 【西面】サイメン 後鳥羽天皇の時はじめて置かれたる武士にして院の御所に仕へるもの、西面の武士。  
 【西紀】サイキ 西洋の紀元、西曆。  
 【西宮】サイキウ 天子の御廳居所。  
 【西大陸】サイダイリク 北亞米利加と南亞米利加、西半球の大陸。  
 【西王母】サイワム ①神仙の名②桃の一種③西戎地方にあるといふ古の國の名。  
 【西半球】サイハンキウ 陸地の分布の形に依つて地球の表面を東西に平分したる其西半。  
 【西崑崙】サイコンロン 宋人が唐の李商隱の詩體に倣ひ故事を用ひて作つた詩體の稱  
 【西遊記】サイユキ 明の長春真人の作りし小説にして金瓶・水滸傳・三國志と共に支那四大奇書の稱あり。

【西班牙】スペイン 歐洲の西南にある半島國  
 【西方淨土】サイハウジヤウド 西方十萬億土の彼方でありといふ極樂世界。  
 【西國巡禮】サイコクジュンレイ 近畿地方にある三十三箇所の靈場を歴めぐりて其所在の觀音菩薩を禮拜すること、又其人。  
 【西部標準時】セイブヘウジュンジ 東經百二十度の子午線の時を我が國の西部標準時とする。

類語  
 山西セイ 東西トウ 河西セイ 洛西セイ  
 泰西セイ 鎮西ゼン 關西クワン

要 三畫 りめ

【要】エウ ①もとむ②おびやかす(脅)③さへざる(遮)④ちぎる(契)ちぎり⑤正し明かにす⑥まとめる(契)あつめる⑦こしおび⑧こし(腰)⑨王城を去ること五百里の土地⑩かなめ、主たること、かんじん、物事のしめく、り、扇の骨のとぢめ⑪物事をしめ括りていふ語⑫かならず(當

字を下に添へる)⑬金錢の勘定⑭願ふ、欲する  
 【要人】エウジン 要路にある人、権力ある當路者。  
 【要囚】エウリウ 罪人を調べて其罪を定める  
 【要目】エウモク ①大切なる條目、かなめ、眼目②會計、勘定。  
 【要用】エウヨウ ①肝要、必要②重大なる用事  
 【要件】エウケン ①捨ておきがたき用事②或事をなすに必要なる條件。  
 【要切】エウセツ かなめ、眼目。  
 【要地】エウチ ①要害の土地、必要の場所②樞要の地位。  
 【要旨】エウジ かんじんなるところ。  
 【要式】エウシキ 必ず従ふべき法式。  
 【要求】エウキウ 當然請求すべきことをしひて乞ひもとめること。  
 【要扼】エウガク 敵をまちぶせて遮り止める  
 【要言】エウゲン ①要點を捉へよよく的中したこと②約束すること。  
 【要束】エウソク 一束につかねること。  
 【要服】エウフク 王城を去る五百里の土地の稱。  
 【要具】エウグ 必要な道具。  
 【要指】エウシ 肝要なるところ、眼目。  
 【要眇】エウベウ 美しきさま。

【要屈】エウクツ おさへつけて屈せしむ。  
 【要約】エウヤク 約束を取かはす、契りをむすぶ。  
 【要害】エウガイ ①地勢險阻にして味方にはかなめとなり敵には害となる所②人體中生命に關する急所。  
 【要所】エウショ かんじんなるところ。  
 【要荒】エウクワウ 國都を離れた遠地、要服と荒服。  
 【要素】エウソウ 必要にして缺くことの出來ぬもの、物のもと。  
 【要事】エウジ 必要な事柄。  
 【要務】エウム 必要なつとめ。  
 【要區】エウク 重要な場所。  
 【要斬】エウサン 腰より二つにきりはなす、又其刑罰。  
 【要部】エウブ 大切なる所。  
 【要啓】エウキ 要塞に同じ。  
 【要處】エウチュ ①要部②かはや、便所。  
 【要略】エウリョク ①必要な所をとり不必要なる所をはずす②文章及著書などの大體をとりまとめた物。  
 【要途】エウト 肝要なるみちすぢ。  
 【要訣】エウケツ おくの手、かなめなる奥義。  
 【要港】エウカウ 軍事上重要な所として指定せられし軍港に次ぐ港。

【要役】エウヤク ねらひこらす。  
 【要結】エウケツ 約束をむすぶ、又其約束。  
 【要須】エウシュ 必要にして無くてならぬ物事。  
 【要項】エウカウ 主要なる事柄。  
 【要會】エウクワイ かんぢやう、しめ、總計。  
 【要談】エウタン かんじんのはなし。  
 【要道】エウダウ 大切なみち、大事な道、大切なる道。  
 【要塞】エウサイ 要害の所に築き敵を防ぐとりにて。  
 【要盟】エウメイ ちかひ、強制して取り結びたる約束。  
 【要義】エウギ 肝要なるすぢみち。  
 【要路】エウロ ①敵の來さうな油斷のならぬ道筋②權力威勢を握る當路の顯官。  
 【要誓】エウセイ ちかひ、やくそく。  
 【要察】エウサツ たゞして明かにする。  
 【要領】エウリョウ ①こしとくび②事物の肝要なるところ。  
 【要緊】エウケン 大切なること。  
 【要衝】エウシュウ 要害の地、又肝要なる所。  
 【要劇】エウゲキ 重要にして繁忙なる官職。  
 【要請】エウセイ 強ひて求め乞ふこと。  
 【要謁】エウエツ 人に面會をもとめること。  
 【要償】エウシャウ 損害の辨償をもとめる。

【要點】エウテン 大切なる所、眼目。  
 【要學】エウゲキ まちぶせてうつこと。  
 【要論】エウタイ 物事の主要なる點、眞義。  
 【要領】エウテン 要害のところにある兵營又は都市の如くかんじんなるおさへ。  
 【要役地】エウエキチ 地上權の行使によつて利益を得る土地。  
 【要塞地帯】エウサイチタイ 各要塞の周圍を特

類語

大要 エウタイ 小要 エウコウ 凡要 エウボン 久要 エウキウ  
 切要 エウセツ 必要 エウヒツ 肝要 エウカン 典要 エウテン  
 法要 エウハフ 周要 エウウ 重要 エウジュウ 急要 エウキウ  
 指要 エウシ 提要 エウテイ 須要 エウスウ 緊要 エウケン  
 綱要 エウコウ 概要 エウカウ 樞要 エウシュウ 險要 エウケン  
 簡要 エウカン 摘要 エウヂョウ 權要 エウケン 顯要 エウケン

六十二畫

罩

罩子

【罩】ダシ エン  
 ①およぶ(及)ひく②ふかし(深)③のぶ(延)④するどい、とし(利)  
 【罩及】カシキフ ひきおよぼす、ひきおよぶ。  
 【罩思】カシキフ 深く思ふ。

覆

覆

【罩思】カシキフ 深く恩恵を施すこと。  
 【覆】フク フウ フ  
 ①くつがへす、ひつくりかへす、戦に負かす、くつがへる、まける②かへつて、あへこべに③くりかへす(復)④もどる、かへる⑤まうす(白)⑥かぶせる、おほふ⑦普く届く、ゆきわたる⑧おほはる、おほはれる⑨伏兵、ふせといはる、おほはれる⑩はら  
 【覆瓦】フクワ マるがはら  
 【覆考】フクカウ くりかへして調べる。  
 【覆没】フクボツ ①舟がくつがへり沈む②軍に敗北す。  
 【覆育】フイク 天地が萬物をおほひ育てる  
 【覆冒】フクバウ おほひ包む。  
 【覆按】フクアン 繰返してよく取しらべると  
 【覆奏】フクソウ 能く調べて申し上げる。  
 【覆盆】フクボン ①盆をふせる、又ふせばち②冤罪を蒙ることの喩③水鉢をくつがへす、大雨の形容④覆盆子の略。  
 【覆面】フクメン ①顔をおほひかくす、又それを用ふる物②神佛に物を捧げる時息のかみらぬやう鼻より口へかけ紙又布帛にておほふもの。  
 【覆校】フクコウ 覆考に同じ。

【覆啓】フクケイ 返事の文句の始めに置くことば、御返事を申し上げる。  
 【覆敗】フクハイ 戦に負けること、覆没。  
 【覆溺】フクダク 舟がくつがへりおほれる。  
 【覆照】フクシャウ おほひてらす、普照。  
 【覆救】フクキウ 恩を施してすくふ。  
 【覆試】フクシ 試験をやりなほす。  
 【覆掌】フクテイ ①のひらをむける、いと易きこと。  
 【覆載】フクサイ 天は萬物をおほひ地は萬物を載せるより天地のこと。  
 【覆滅】フクメイ くりかへりほろぶ。  
 【覆蓋】フクガイ おほひかぶさる。  
 【覆墜】フクテイ くりかへりおちる。  
 【覆審】フクシン ①一度調べし事件を再び調べなほす②上訴した事件に對し裁判所が更に調べること。  
 【覆講】フクコウ くりかへして講説する。  
 【覆輪】フクリン 金銀などにて細く縁をとりて飾りしもの。  
 【覆履】フクロ ①おほひかくす。  
 【覆履】フクロ 上よりおほひおさへつける  
 【覆幘】フクタク 覆被に同じ。  
 【覆翻】フクハン ひるがへる、ひるがへす。  
 【覆醬】フクシヤウ 醬油の瓶をおほふ義にして著書・文章等が世に行はれず反古紙

となりて瓶の蓋になること。  
 【覆轍】フクテツ 車のくつがへりたるあとの意、前者の失敗をいふ。  
 【覆被】フクヘイ かぶせる、おほふ。  
 【覆盆子】フクボン ①くさいちごの異名。  
 【覆車之戒】フクシャノイセイ 先人の失敗せしことを行ふ時は自分も亦失敗する意。  
 【覆水不返盆】フクスイホクヘンニカヘラズ 一旦こぼした水は再びもとの盆に返らぬ意、離縁となりし妻の再び復縁すること能はざる喩、又時機の再び得難きにもいふ。  
 【覆舟之下無二伯夷】フクシフノシタニハクイナレ 君子は危きに近よらぬことの喩。

十三十九畫

覇

覇の俗字

覇

覈

カク

覈

①しらべる、考へる、あきらかにす②きびしい(嚴)  
 【覈擧】カクキョ 調べて推擧す。  
 【覈論】カクロン ①しらべて批評す。  
 【覈辯】カクベン ①しらべて明かにす。

類語

考察 カクカウ 検査 カケン  
 精覈 カクセイ 細覈 カクサイ 研覈 カクケン 校覈 カクコウ  
 推覈 カクスイ 窮覈 カクキウ 審覈 カクシン 品覈 カクピン

羈

羈の本字

羈

前に同じ

羈

見部

見

見

見

【見】ケン ゲン  
 ①みる、目にとめる、つきとめる、みつける、顔をあはせる、對面②一目みる、あふ③かんがへる、おもふ④みえる、眼に入る⑤らる、せらる⑥みること、みる所、みえ⑦現に同じ、あらはる、ばれる、あらはになる、きざす⑧あらはす、しめす(示)⑨紹介す、ひきあはせる⑩まみゆ、お目にかゝる⑪げんに、まのあたり

【見一】ケンイチ 珠算の二桁以上の割算。  
 【見戸】ケンコ 現在そこに住まへる家、又其の家族。  
 【見印】ケンイン ひとめ、認印。  
 【見米】ケンマイ 現にある米、現米。  
 【見地】ケンチ ①現在の所有地②自分としてのみかた。  
 【見在】ケンザイ ①まのあたり。  
 【見兵】ケンペイ 現在その所に居る兵隊。  
 【見卒】ケンソツ 前に同じ。  
 【見性】ケンシヤウ もろ／＼の安全を拂ひ無我の眞理をさとること。  
 【見刻】ケンコク 晝のあひだ。  
 【見物】ケンブツ ①ながめる、觀賞②觀者、見物人。  
 【見金】ケンキン 手元にある金、現金。  
 【見料】ケンリョウ 物を見る料金、觀覽料。  
 【見員】ケンイン 現在の人員。  
 【見參】ケンサン 而會することの敬稱、拜謁。  
 【見習】ケンシユフ 他人の言行を見聞してそれを學習すること、又その人、みならひ。  
 【見解】ケンケイ ひとめ、意見。  
 【見稱】ケンショウ ひとめ、意見。  
 【見當】ケンタウ みこみ、めあて。  
 【見證】ケンシヨウ 證據、又證據として擧げる  
 【見聞】ケンモン ①見ること、聞くこと、又其

【見】 因つて得たる知識。  
 【見書】 ケンマク 意氣又は顔色の鋭きさま、  
 險毒。  
 【見臺】 ケンダイ 讀書する時に本をのせる臺  
 【見徳】 ケンタク とみくじ、彩票。  
 【見學】 ケンガク 實地を見聞して學問する。  
 【見鏡】 ケンケン 見金に同じ。  
 【見權】 ケンケン 現にその所にある兵糧。  
 【見識】 ケンシキ ①みこみ、識見。②自信ある  
 見込、主義、人に下らぬ意氣。  
 【見説】 ケンセツ みる、見看。  
 【見付】 ミツキ 正面をいふ。  
 【見本】 ミホン 一つを見せて他のすべての  
 標準とするもの。  
 【見込】 ミコイ 思ひつき、めあて、計畫。  
 【見張】 ミハリ 見渡して見る、監視。  
 【見積】 ミツメ 見計ひ、目算。  
 【見返】 ミカヘ 書物の表紙をめくつた裏と  
 その向ひ面の二頁をいふ。  
 【見込客】 ミコイキヤク 通信販賣上の語にて得  
 意となりさらな客の意。  
 【見知之法】 ケンチノハフ 官吏にして人民の犯  
 罪を知りながら之を檢舉せぬ時其官吏  
 をも同罪に處する法。  
 【見二頭角】 トウカクツラハス 衆中より抜き出  
 ること。

【見積價格】 ミツメリカカク 或事項を標準とし  
 て計算したる貨物の概算値段をいふ。  
 【見學旅行】 ケンガクリョウガク 學習上實地につ  
 て見學する爲めの旅行、修學旅行。  
 【見二蛇首一知二長短】 シニヘビイチチヤウ  
 シニチヤウシル 一斑を見て全體を推知すること。  
 類語  
 管見ケン 寡見ケン 省見ケン  
 照見ケン 知見ケン 引見ケン 進見ケン  
 穴見ケン 察見ケン 親見ケン 周見ケン  
 開見ケン 愚見ケン 特見ケン 達見ケン  
 淺見ケン 意見ケン 博見ケン 召見ケン  
 仰見ケン 先見ケン 目見ケン 御見ケン

【規求】 キキウ 食りもとめること。  
 【規佐】 キサ 正したすける。  
 【規那】 キナ 南米に産する植物の一、幾那。  
 【規制】 キセイ きまり、きめ。  
 【規定】 ケイテイ ①とりきめる、又其とりきめ。  
 【規則】 キソク ①正しくして手本とすべき  
 行ひ。②さだめ、のり、法規。  
 【規律】 キリフ 紀律の誤用。  
 【規度】 ケイタク ふんべつす、はかる。  
 【規約】 ケイギョク 規程に同じ。  
 【規益】 ケイエキ いましめたすける。  
 【規旋】 ケンセン ぶんまはしの如くにまどか  
 に正しくめぐる。  
 【規格】 ケイカク 一定せるかた。  
 【規矩】 ケイコ ①ぶんまはしとさしがね。②物  
 事のより、てほん、標準、法則。  
 【規訓】 ケイケン たゞしきをしへ、規誨。  
 【規略】 ケイリョク 規畫に同じ。  
 【規々】 ケイケイ 驚き見る貌。  
 【規程】 ケイレイ 一定せるさだめ、又は約束。  
 【規準】 ケイジュン 法則とする、のつとる。  
 【規畫】 ケイガク はかりごと、又ははかる。  
 【規飭】 ケイチョク 規切に同じ。  
 【規誨】 ケイケイ ①たゞしをしへる。②教へ、  
 訓誨。  
 【規誠】 ケイカイ 規範に同じ。

【規圖】 キト 規畫に同じ。  
 【規模】 キボ ①ぶんまはしと物のかた、後  
 世のてほんとなるべき制度典章の類。  
 物のしくみ、かまへ。  
 【規謀】 キボウ はかりごと、規略。  
 【規箴】 キセシ いさめ、いましめ、規誡。  
 【規範】 キハルン てほん、のり、典範。  
 【規諫】 キカシ たゞしいさめる、規箴。  
 【規繩】 キジヨウ ぶんまはしとすみつば、即  
 ち法則。  
 【規範的】 キハルンチキ 吾人の動作・思想・情緒  
 等が正當の目的を實現するがために服  
 従すべき原理。  
 【規範學】 キハルンガク 倫理學・美學等の如く  
 物事の標準又は規範を研究の對象とす  
 る科學。  
 【規行矩步】 キヨウクブ 品行の正しきをいふ  
 【規矩準繩】 キヨクジュンジュウ 規は圖を作る器具  
 矩は方を作る器具、準は水平を作る道  
 具、繩は直を作るもの、すべて規則正  
 しく物を作る道具、轉じて物事の正し  
 きをいふ。  
 【規約貯金】 キヨクチヨキン 郵便貯金の一にし  
 て組合の規約に基き拂戻に制限を附す  
 るもの。  
 【規範科學】 キハルンカワガク 倫理學・法律學等

の如く人類の法則・規範に關する科學  
 の總名。  
 類語  
 英規エイ 朝規チヨウ 忠規チユウ 清規セイ  
 子規シ 明規メイ 儀規ギ 家規カ  
 神規シン 世規セイ 宏規クワウ 洪規コウ  
 獻規ケン 短規タン  
 【覓】 ベキ もとむ(求)探したづねる  
 【覓】 前の俗字  
 五畫  
 【視】 シ ①みる、注意して見る。②あしらふ、と  
 りしめる。③なぞらへる、くらべる(比)  
 見比べる。④目をくれる、又手本とする  
 ⑤しめす(示)  
 【視力】 シリョク 物を見る力、眼力。  
 【視官】 シクワン 五官の一、目。  
 【視界】 シカイ 視野に同じ。

【視差】 シサ 天文学上の語にて甲乙の二點  
 より同一の或點を見たる時の方向の差  
 【視息】 シソク いきながらへる、生存。  
 【視野】 シヤ 視力の及ぶ範圍。  
 【視準】 シジュン 望見すべき物體の方向に望  
 遠鏡の軸を平行せしめること。  
 【視論】 シロン 正しく物を見ること。  
 【視感】 シカン 視覺に同じ。  
 【視察】 シサツ ながめみる。  
 【視察】 シサツ 現場に臨みて取しらべると  
 氣をつけて美ふこと。  
 【視察】 シサツ 草稿を一覽すること。  
 【視線】 シセン 見るべき物體の方向に目が  
 向ふ線。  
 【視學】 シガク 學事を視察する官、又其事。  
 【視覺】 シカク 物を見る目のはたらき。  
 【視聽】 シテイ ①みること。②きくこと。③見  
 聞又は經驗。  
 【視死如生】 シシニコトイケルゴトシ 莊子に  
 「白刃前に交れども死を視ること生け  
 るが如きは烈士の勇なり」とあり、死  
 を恐れざること。  
 【視死若歸】 シシニコトカヘルゴトシ 大戴禮に  
 「君子は死を視ること歸るが如し」とあ  
 り、前と同意。  
 類語

愛視 アイシ 環視 クワンシ 虎視 コシ 明視 メイシ  
 瞻視 テンシ 疾視 ショクシ 仰視 コウシ 直視 チヨクシ  
 周視 シュウシ 熱視 ネツシ 眇視 ミョウシ 閱視 ゲツシ  
 臨視 リンシ 監視 カンシ 督視 トクシ 親視 シンシ  
 俯視 ブシ 詳視 ショウシ 傲視 コウシ 傍視 ホウシ  
 側視 ソクシ 檢視 ケンシ 聽視 テイシ 安視 アンシ  
 雄視 ユウシ 力視 リキョクシ 麗視 レイシ 騁視 チュウシ  
 久視 キウシ 延視 エンシ 駭視 サイシ 他視 タイシ  
 瞬視 シュンシ 凝視 キョウシ 注視 チュウシ 蔑視 ベツシ

【覘】

のぞく(規)うかゞふ(伺)  
シ

【規】

のぞく、うかゞふ、ひそかに視る  
テン

【規視】アノシ うかゞひ見る。  
 【規候】アノコウ 相手の様子を探り見ると。  
 【規望】アノバウ 規視に同じ。  
 【規覽】アノラン 前に同じ。  
 【規運】アノラン 敵状をうかゞひさぐる、又其者。  
 六―七畫

【覘】

テウ  
周代に諸侯が三年目ごとに會して天子に謁見せし儀式。天子にのみ見え、天子に謁見せし儀式。天子にのみ見え、天子に謁見せし儀式。天子にのみ見え。

【覘】

ケキ、ゲキ  
かななぎ、みこ、男子のみこ、男親(女みこは巫)

【親】

九畫  
うかゞふ、ねらふ  
【親心】ユクシン 欲心、欲望。

【親族】シンゾク みより、みうち、親類、血族(我國の法律上にては六親等内の血族と三親等内の姻族及配偶者との總稱支那にては血族のみをいふ)。  
 【親戚】シンセキ ①前に同じ。②父母、兩親。  
 【親眷】シンケン 親族。③己に親しきもの。  
 【親疎】シンソ 親しきと遠ざかること。  
 【親等】シントウ 親族間の親疎の等級。  
 【親率】シンシュツ 自らひきかふる。  
 【親疎】シンソ 親疎に同じ。  
 【親貴】シンキ ①君主に親任されて貴き地位に上ること。②君主の一族。  
 【親睦】シンボク 親しく仲よきこと。  
 【親遇】シンゴ 親しく待遇す。  
 【親愛】シンアイ 親しみいづくしむ。  
 【親署】シンショ 天子自ら御名を記されるとき、天子のおたまや、特に父より高祖までをいふ。  
 【親廟】シンベウ 天子が陸海軍を閲覽せられること。  
 【親潮】シンテウ カムチャツカ半島の海岸より千島列島にそび本州の東岸を洗ひ金華山沖に至る寒流、おやしほ。

①おや(父母)②みうち、しんるみ③たしむ、いづくしむ、むつまじくす④むつまじ、したし、したしみ、又なじみ⑤ちかづく⑥みづから、まのあたり、われと⑦國訓おや(子を生ずる本、秀て大なるもの)

【親子】シンシ おやこ、親と子。  
 【親王】シンワウ 皇族の稱。清代の封爵の一にて郡王の上に位す。日本にては皇子以下皇孫までの男の子の御稱號。  
 【親切】シンセツ ねんごろ、懇切。  
 【親父】シンフ おやぢ、ちや、ておや。  
 【親主】シンシュ 妻の稱。  
 【親友】シンイウ したしきともだち。  
 【親母】シンボ は、特にうみの母をいふ。  
 【親交】シンカウ 親しきまじはり、又其間柄の人。  
 【親任】シンニン ①親しみ用ふる。②天皇が御自ら官職を御任命になること。  
 【親好】シンカウ 交情の極めてしたしきこと。  
 【親兵】シンベイ 天子直屬の軍隊、近衛兵。  
 【親臣】シンシン 親しく召使ふ臣、近習。  
 【親串】シンクワン したしみなれる、又親類の間柄。  
 【親見】シンケン 親しく目撃すること。  
 【親狎】シンアウ したしみなれる、又其間柄

の人。

【親征】シンセイ 天子身自ら征伐せられること。  
 【親知】シンチ 知合ひて親しき者。  
 【親附】シンブ したしみなづく、心服する。  
 【親朋】シンポン 親友に同じ。  
 【親交】シンカウ 親近して交をうけること。  
 【親和】シンワ 親密、なかよし。②異種の物實が結合して一つとなる現象。  
 【親迎】シンゲイ ①自ら出むかへする。②結婚六禮の一にて婿が嫁の實家に至つて新婚を伴ひ來る儀式。  
 【親近】シンキン ①親しみて近しくする。②親臣に同じ。  
 【親昵】シンニツ したしみなじむ、又其間柄の人。  
 【親政】シンセイ 天子自ら政事をみそなはすこと。  
 【親故】シンコ 親類と古きなじみ。  
 【親軍】シンガン 親兵に同じ。  
 【親家】シンカ しんるみ、姻家。  
 【親展】シンテン ①みづからひろげる、自身て手紙を開封する意。②親しく談話す。  
 【親耕】シンコウ 天子躬ら田を耕される儀式。  
 【親密】シンミツ ①極めて仲のよきこと。②天子に接近すること。  
 【親接】シンセツ ①親しく交はる。②そば近く

みる。

【親族】シンゾク みより、みうち、親類、血族(我國の法律上にては六親等内の血族と三親等内の姻族及配偶者との總稱支那にては血族のみをいふ)。  
 【親戚】シンセキ ①前に同じ。②父母、兩親。  
 【親眷】シンケン 親族。③己に親しきもの。  
 【親疎】シンソ 親しきと遠ざかること。  
 【親等】シントウ 親族間の親疎の等級。  
 【親率】シンシュツ 自らひきかふる。  
 【親疎】シンソ 親疎に同じ。  
 【親貴】シンキ ①君主に親任されて貴き地位に上ること。②君主の一族。  
 【親睦】シンボク 親しく仲よきこと。  
 【親遇】シンゴ 親しく待遇す。  
 【親愛】シンアイ 親しみいづくしむ。  
 【親署】シンショ 天子自ら御名を記されるとき、天子のおたまや、特に父より高祖までをいふ。  
 【親廟】シンベウ 天子が陸海軍を閲覽せられること。  
 【親潮】シンテウ カムチャツカ半島の海岸より千島列島にそび本州の東岸を洗ひ金華山沖に至る寒流、おやしほ。

爲めの機關。  
 【親子月】オキコツキ 陰曆十二月の異名。  
 【親切第一】シネセフタイイチ 人類相愛の實を表はす爲め萬事が親切を第一とすべしとの標語。  
 【親裁外交】シネサイグワイカウ 君主の獨断にて行ふ外交。  
 訓讀

【親を親しむ】親レ親 しんをしたしむ みよりの者に親しみ近づく。  
 類語  
 繼親シキイ 老親ラウ 慈親ジシン 嚴親ゲン  
 和親ワシン 附親フシン 從親ジユウ 睦親ボク  
 近親キン 眞親シン 雙親サウ 宗親ソウ  
 兩親リウヤウ 魚水親イスイヤウ

十一十二畫

【覲】コウ  
 あふ、思ひがけなくあひみる

【覲】キ  
 のぞむ、こひねがふ、低きに居て高き

をのみ願ふ  
 【觀幸】オウキョウ こひねがふ。  
 【觀觀】ケン 字解を見よ。

【觀】シヨツ  
 ねらふ(狙)うかどふ

【觀】ケン  
 みる、まみゆ、謁見  
 【觀禮】ケンレイ 諸侯が天子に朝觀する禮。

【覲】カン  
 うかどふ、みる、まぜる、まじふ(間)

【覲】ラ  
 くはしきこと、つぶさ、委曲

【覽】  
 瞥に同じ  
 十三一十四畫

【覺】カク カウ

【覺】カク カウ

①さとり、察し知る、かんづく、さとり、又さとり、さとりたる人、あらはる(發)あきらかにす、又大なるさま、又まつすぐなる貌、おぼゆ、感ず、さめる、おきる、さます、おぼゆ(感ずる、記憶する、思はれる、想像される)おぼえ(おぼゆの名詞、名望、寵遇、おぼえがきの略)  
 【覺知】カクチ 心にさとりしる。  
 【覺皇】カクワウ 佛陀の異稱。  
 【覺悟】カクゴ ①迷をさまして智慧をひらく、②決心し用意をすること。  
 【覺得】カクトク さとること。  
 【覺察】カクサツ さとる、さとす。  
 【覺醒】カクセイ 目が覺る、今迄の非を覺る。  
 【覺書】カクショ オボエゴキ 重要な事項を忘れざる證として認める書面。

類語

覺覺カクカク 前覺ゼンカク 大覺ダイカク 正覺セイカク  
 至覺シカク 善覺ゼンカク 悟覺ゴカク 發覺ハツカク

先覺シケン 後覺カクエン  
 【觀】  
 觀の俗字  
 十五畫

【覽】ラン  
 ①みる(觀) 廣く見とほす、②かんがへる、考へ察す

【覽】ラン

【覽示】ランシ 明白に示す。  
 【覽古】ランコ 古跡をたづねて當時の有様をおしはかる。  
 【覽歴】ランレキ ながめすぎる。  
 【覽讀】ランドク 目をつけてよむこと。  
 【覽勝】ランショウ すぐれたる景色を見ると  
 【覽觀】ランクワン みる、心をとめて見る。  
 【覽圖】ランシヨウ ながめ見る。  
 【覽揆之辰】ランケンシツ 誕生日のこと。

類語

遊覽ユウラン 展覽ザンラン 察覽サツラン 細覽サイラン  
 臥覽ブイラン 熱覽ネツラン 眺覽テウラン 重覽ジュウラン  
 窺覽クワイラン 傍覽ボウラン 清覽セイラン 稽覽キキラン  
 周覽シュウラン 博覽ハクラン 洽覽カツラン 詳覽シュウラン  
 上覽ジョウラン 審覽シンラン 校覽ギョウラン 披覽ヒラン

【觀】テキ  
 みる、まみえる、面會する、又物を贈りて面謁す

【觀】テキ

【觀目】テキメク 目にみること。  
 【觀武】テキブ たけき徳を他に示す。  
 【觀面】テキメン まのあたり、即座に(例)觀面に聞く。

十八畫

【觀】クワン  
 ①みる、念を入れて見る、見物する、遠くみわたす、②かんがへる、③みもの、すがた、ありさま、人にみせる、しめす、④見解、みかた、城門のやぐら、ものみ、道士の居る所、鳥の名、こふのとりの易の卦の名

【觀】クワン

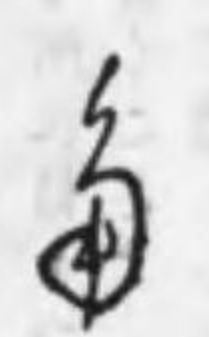
【觀示】クワンシ しめす、みせる。  
 【觀光】クワンクワウ ①他國の文物制度を視察す、②他所の風景をめぐる。  
 【觀念】クワンネン ①心理學の語、知覺又感

覺より一層進みし心的現象にして現在の刺戟なくして起る概念・想像の總稱、目をとち心をおちつけて一心に悟道を思念すること。  
 【觀花】クワンカワ 花を見る、はなみ。  
 【觀客】クワンカク 見物人、看客。  
 【觀相】クワンサウ 人の容貌骨格などによつて其人の性質運命等を判斷すること。  
 【觀者】クワンシャ みる、見物人。  
 【觀玩】クワンガン ながさむ。  
 【觀音】クワンオン 觀世音の略。  
 【觀風】クワンフウ 他所の風俗人情等を視察すること。  
 【觀望】クワンバウ 進退去就を定めんとしして相手の様子を見ること、ひよりみ。  
 【觀書】クワンショ 本を讀む、讀書。  
 【觀測】クワンソク 天文を觀察して天體の運行等を測定すること。  
 【觀視】クワンシ あきらかに知る。  
 【觀象】クワンシヤウ ①天文を見る、②易の占のおもてをみる。  
 【觀照】クワンシヤウ 十分にかんがへて物事を知らること。  
 【觀感】クワンカン 觸れ動く所に目をつけて見る、又目に見心に動くこと。  
 【觀察】クワンサツ 念を入れて能くしらべる

【觀樹】クワンシヤ 四方を見はらすたかどの  
 【觀劇】クワンゲキ しばるを見物すること。  
 【觀樂】クワンラク 心目をなぐさむべきものを見物して嬉しく感ずること。  
 【觀戰】クワンセン 實地に臨みて戦争を見物すること。  
 【觀覽】クワンラン みる、ながめる。  
 【觀經】クワンキヤウ 經文をよむこと。  
 【觀瞻】クワンセン みる、目をとほす。  
 【觀聲】クワンケン 乗すべき隙を窺ふと。  
 【觀世音】クワンゼオン 慈悲の化身と稱せらるる菩薩の名。  
 【觀自在】クワンジヤイ 前に同じ。  
 【觀世流】クワンゼリウ 觀世阿彌が創始したる能の流派。  
 【觀音開】クワンノレビヤ 左右に閉閉するやうに作りたるとびら。  
 【觀念論】クワンニロン 知識を以て主觀的のものとする説、即ち我が知識は我が心の作り出ししものとする哲學論。  
 【觀光團】クワンクワウダン 遊覽の目的にて各地をめぐる團體。  
 【觀兵式】クワンバイシキ 君主みづから軍隊の訓練を見る式。  
 【觀覽料】クワンランリウ 興業物の見物料金。  
 【觀覽席】クワンランシキ 催し物を見る席、見

物席。  
 【觀察使】クワンサツレ 地方を巡視して政事の良否を檢べる役人。  
 【觀艦式】クワンカンシキ 君主みづから軍艦を集めて武威を見る式。  
 【觀念小説】クワンニセウセツ 利功的又は道德的事柄を主材として取扱へる小説。  
 【觀感興起】クワンカンコウキ 目に見心に感動して奮起すること。  
 【觀者如堵】クワンサノトゴトシ 觀者の多き形容詞。  
 【觀を改む】クワンカク 改レ觀くかんをあらたむ 面目をあらためる。

類語  
 遊觀クワン 監視クワン 縱觀クワン 臨觀クワン  
 旁觀クワン 來觀クワン 薄觀クワン 列觀クワン  
 借觀クワン 陪觀クワン 模觀クワン 周觀クワン  
 遠觀クワン 衆觀クワン 容觀クワン 壯觀クワン  
 京觀クワン 高觀クワン 聲觀クワン 偉觀クワン  
 奇觀クワン 道觀クワン 城觀クワン 東觀クワン  
 舊觀クワン 層觀クワン 飛觀クワン 複觀クワン

【角】カク ロク 

①つの、又角の形したものの、又角を工作の材料とする場合にいふ②すみ、かど、物の尖れるさま③ひたひの骨④小兒の髪の方、あげまき⑤くらべる(比)きそふ(鏡)⑥つのあり、つのとる(獸)の角をひつけて生捕る⑦五音の一(宮商徵羽に配するもの)⑧支那量にて四升を容れる容器⑨軍中の樂器⑩幾何學にて一點に交はる兩線にて形づくられたる間隙⑪星の名、すぼし⑫元銀の十分の一(我が拾錢にあたる)⑬人名(商山四皓の一人)⑭かく、しかく、こごちの方形なる材木、將菜の駒の一⑮道の折れ曲がつた所、他人と和合し難き性辭

【角力】カクリキ 力くらべ②すまふ、角抵。  
 【角巾】カクキン 隱者又は處士などのかぶるかどある頭巾。  
 【角牛】カクウ 牛のたゝかひ。  
 【角立】カクツタ 衆を抜いてきはだつさま、かどだつ。  
 【角列】カクレツ ならび競ふこと。

【角々】カクカク 雄の聲の形容。  
 【角材】カクサイ ①小口の四角なる材木②能力をはかる。  
 【角抵】カクタイ すまう、相撲、角觥。  
 【角度】カクダ 二直線が交叉して成る間隙の廣さの稱にして點の周圍を三百六十分したる其一つを一度とし角度の單位とす。  
 【角星】カクセイ 二十八宿の一にして東方にあらはれる星、すぼし。  
 【角逐】カクタク 互に競ひおふ、競争。  
 【角笛】カクフエ 獵師の用ゐる笛、つのだえ。  
 【角帽】カクバウ ①かど立つた造り方の帽子②頂の方形なる帽子③大學生のことを俗に角帽といふ。  
 【角距】カクキョ 牛の角と雞のけづめ、共に禽獸の武器。  
 【角黍】カクシ 團子の一、ちまき、粽子。  
 【角觥】カクコウ 角抵に同じ。  
 【角膜】カクマク 眼球にある白目の皮膜。  
 【角勝】カクショウ 敵にかたんとして争ふ。  
 【角燈】カクトウ 硝子にて周圍を張りたる四角のともしび。  
 【角鴟】カクシ 鳥の一、みづぐ。  
 【角鷹】カクトウ 鷹の一種、くまたか。  
 【角管】カクカン 齊宮の忌詞にて優婆塞のと

【角隱】カクイン ①婦女の佛參に用ゐし昔の一種の頭巾②現時は結婚の式場に於ける新婦の頭飾に用ひらる。  
 【角面堡】カクメンボウ 多角形をなせる堡壘。  
 【角閃石】カクセンシキ 火山岩中に存在し褐色又は綠色の長柱狀結晶をなす礦物。  
 【角矢來】カクヤライ 竹を縱横に組み矩形の透間あるやうに作りし矢來。

訓讀  
 【角を矯めて牛を殺す】矯レ角殺レ牛つゝまためつゝしころす 少しの缺點を改めんとして卻つて大なる弊害を來すこと。

類語  
 一角カク 哀角アハイ 稜角リョウカク 城角シヤウカク  
 屋角カク 牆角カク 塞角サウカク 欄角ランカク  
 折角セツカク 日角ニツカク 滂角ホウカク 犢角トクカク  
 宮角ミヤカク 蝸角カウカク 地角チカク 羊角ヤウカク  
 天角テンカク 頭角トウカク 圭角ケイカク 皮角ヒカク  
 石角セキカク 眼角ガンカク 爪角ツメカク 利角リカク  
 軟角カンカク 總角ソウカク 爪角ツメカク 利角リカク

【角】カク ロク

人名(商山四皓の一人)

【觥】カウ 觥に同じ

【觥】カウ 斤に通ず

【觥】カウ ①あらし(塵)②ほど、あらし、ほど、たいてい

【觥】カウ ①あきたらぬ、不満足に思ふ②あばい(扶)かゝげる、摘發

【觥】カウ ①欠望②ケツバク 不平にたえぬこと。

【觥】カウ ①さかづき(二升を容れるものを觥といひ、一升を容れるものを爵といふ)②古代文字を記したる四角の木札③かど(方)

【觥】カウ ①風稜②コトク 文字をかきしるす木札、轉じて書物。



【解不<sub>レ</sub>解】コナラ君は君ならず臣は臣たらずとの寓意にいふ。

### 觜

【觜】シ  
①うみがめ②星の名、とろき、二十八宿の一③くちばし、はし(嘴)  
【觜爪】シヤウ くちばしとつめ。  
【觜距】シヤウ くちばしとけづめ。

### 解

【解】カイ  
【解排】タイハイ 拒絶す、はねる。  
【解觸】タイシヨウ ふれ犯す。  
【解駁】タイキキ すまふ、相撲。

### 六畫

### 解

【解】カイ  
①とく、ほどく、ばら／＼にす、ぬぐ、ぶわけにする、きりはなす②無事にをさめる、なほす、わかるやうにする③申しひらく、いひわけをする④さとる、をとくする⑤ゆるめる、自由にする、又ゆるまる⑥やめる、免す⑦文章の一

體、又樂曲の一節⑧易の卦の名⑨おこたる(解)⑩あふ(選)⑪やくしよ(解)⑫地方人にして學問德行のすぐれた者を都に送り出して試験を受けさせると、轉じて總て送り出す意。

【解元】カイゲン 官吏登用試験の時その豫備試験を第一番にて及第したるもの。

【解由】カイユウ 宋代にて官吏の赴任に關する公文書をいふ⑬昔國守交替の時前任者が後任者に事務引繼の事に關して文書を交附せしこと。

【解衣】カイイ 衣服をぬぎずること。

【解任】カイニン 其役目をやめさせる、解職。

【解帆】カイハン 巻いた帆をほどく、ふなで、出帆。

【解式】カイシキ 演算の順序を一定せる記號方式によつて書き示したるもの。

【解決】カイケツ もめぐとのとけること。

【解免】カイメン ⑭いひぬける、まぬかれる⑮しりぞけられる、職を免ぜられる。

【解舍】カイシャ ⑯ときゆるす⑰やくしよ、官衙。

【解放】カイハウ ⑱ときはなつ⑲禁遏束縛を除きて許し放す。

【解版】カイバン 活版所にて一旦組みたる版を使用後元の位置に返すこと。

【解體】カイタイ ①ばら／＼になつて離れ去る②動物の體をさきて其組織をしらべる③離れるものをばら／＼にほどく。

【解毒】ゲドク 薬を以て體內の毒をけす。

【解脫】ゲダツ ①ゆるす、ときはなす②世俗の迷をはなれて佛の悟を得ること。

【解尖刀】カイセンタウ 武器の一、鍔どほし。

【解語花】カイゴハナ 唐の玄宗皇帝が楊貴妃を稱したることば、ものいふ花の意、美人の形容。

【解熱劑】ゲネツザイ 熱をさる薬、熱さまし。

【解析幾何】カイセキカ 代数演算を應用する幾何學、解析幾何學の略。

### 類語

瓦解	戸解	半解	枝解
脱解	分解	論解	妙解
講解	了解	申解	調解
理解	精解	領解	略解
見解	義解	動解	和解
明解	曉解		

### 觥

【觥】クワウ ①さかづき(兎牛の角にて造り七升を容れる大杯)②強くしてたいし、剛直

【解明】カイメイ ときあかず、説明する。

【解析】カイセツ くはしくときわける。

【解官】カイクワン 官をやめること。

【解剖】カイボウ ①動物の體をきりさきて組織をしらべること②物事のすぢみちをぶわけて調べる。

【解除】カイヂョウ ときぞく、やめる。

【解骨】カイコツ 離れ叛くこと。

【解紛】カイバン もつれしことをとくこと。

【解紐】カイチュウ 縛りたる紐のゆるむ如く政治の亂れること。

【解組】カイソウ 官を退く、辭職。

【解停】カイテイ さしとめしことを解きゆるす

【解菜】カイサイ 精進の期が終りてなまぐさを食ふことをゆるす。

【解散】カイサン ①ばら／＼に離れちる②會合のやむこと、又會合をやめる③議會にて任期中の議員の資格を解除すること

【解雇】カイコ 解雇に同じ。

【解答】カイタツ 説明しこたへる、又其こたへ

【解詰】カイキョ 古代の書物を現代の言語にてときあかしたるもの。

【解註】カイチュウ ときあかず、又そのもの。

【解悶】カイモン 心配がはれてなくなること。

【解儲】カイヨウ 雇人に暇を出すこと。

【解結】カイケツ むすばれたるをほどく。

### 觥

【觥】クワウ さかづき、酒盃。

【觥船】クワウセン 大なるさかづき。

【觥飯】クワウバン 美事なる料理。

【觥々】クワウクワウ 強くしてたいしき貌。

【觥樽】クワウチウ 酒杯のかずとり。

【觥樽交誼】クワウチウカウサツ 杯と樽とが入亂れること、宴席の盛んなるさま。

### 七十一畫

### 觥

【觥】クワウ さかづき、酒盃。

【觥】クワウ さかづき、酒盃。

【觥】クワウ さかづき、酒盃。

【觥】クワウ さかづき、酒盃。

①うすし(薄)②ます(斛)一斗二升(一説に三斗)を容れるます、又量器の總稱  
 ③つく(盡)とじまる(停)④くらぶ(角)やせる(瘦)餘裕がない  
 【觥抵】カクタイ 力をくらべる、角抵。  
 【觥薄】コウソク 死を恐れるさま。  
 【觥約】コウハク 入費を少くする、生計費を節約する。

觴

シヤウ

酒

①さかづき(酒杯の總名)②盃をさす、酒をすゝめる  
 【觴令】シヤウレイ 次に同じ。  
 【觴杯】シヤウハイ さかづき。  
 【觴政】シヤウセイ 宴會の興を添へる爲に設けたる飲酒の規則。  
 【觴酌】シヤウシヤク さげをのむこと。  
 【觴詠】シヤウエイ 酒をのみ詩歌をうたふ。

類語

空觴シヤウ 盃觴シヤウ 玉觴シヤウ 流觴シヤウ  
 毒觴シヤウ 杯觴シヤウ 金觴シヤウ 壺觴シヤウ

十二—十八畫

觶

觶の本字

觶

さかづき(支那量にて三升入の酒杯)

觸

シヨク

觸

①ふる、さばる、つきあたる、をかす  
 ②心にうつる、感ず③いたる、すぎる  
 ④けがれ(汚濁)⑤國訓ふる(さばる、遭  
 遇する、命を發して廣く告げる、ひろ  
 く言ひふらす、布達する)ふれ(公から  
 の布達、布令)  
 【觸手】シヨクテ 水母の口の周囲にあるもの、如く下等動物の觸覺を掌る手。  
 【觸目】シヨクモク みえるところ、めにつく。  
 【觸角】シヨクカク 蝸牛の角の如く下等動物の觸覺をつかさどる角。  
 【觸發】シヨクハツ 物がさばるとおこると  
 【觸揮】シヨクハク ふれうつ。  
 【觸感】シヨクカン ふれうごく、觸覺。  
 【觸禁】シヨクキン おきてを犯すこと。  
 【觸激】シヨクキヤク 水などが石にあたりては

げしく聲を發すること。  
 【觸飛】シヨクセン 敵に接近してたふかふ。  
 【觸穢】シヨクエ 服忌・産・月經等のけがれを犯しふれること。  
 【觸羅】シヨクラ あみにかゝる。  
 【觸覺】シヨクカク 物にさはりて其大小・形状・硬軟・寒熱などを知る感じ。  
 【觸體】シヨクタイ 蟋蟀・蛾の體の如く下等動物の觸覺をつかさどるひげ。  
 【觸書】シヨクショ 官の觸をかきたるもの。

類語

感觸シヨク 擊觸シヨク 抵觸シヨク 觸觸シヨク  
 犯觸シヨク 接觸シヨク

觸

次に同じ

觸

童子のおび物、くじり

言部

言

ゲン

①ものいふ、いふ、口をきく、ことばで思を發表す②まをす、申し上げること、ことば、いふところ③詩文などの一句の稱④一字の稱⑤有益なることば、善きことば⑥いふこと、いふ意味  
 ⑦語辭にて詩經に多く用ゐる語、こゝに⑧われ(我)⑨高大なる貌⑩和ぎつゝしむ貌  
 【言下】ゲンカ 今いつてすぐ、いふや否や。  
 【言上】ゲンジョウ 長上に申し上げること。  
 【言外】ゲンガイ 言葉に現してはいはぬ所。  
 【言次】ゲンジ 其話のついで。  
 【言行】ゲンカウ いふこととゝすること、言語と行爲。  
 【言志】ゲンシ ①心の思ひをのべる、詩歌を作ること②平生の心がけを言ひあらはす。  
 【言々】ゲンゲン ①高大なるさま②和らぎつゝしむ貌。  
 【言明】ゲンメイ 公言する、いひあかす。  
 【言官】ゲンカン 言職に同じ。  
 【言笑】ゲンセウ ものをいひ乍らわらふと。  
 【言語】ゲンゴ はなしあふこと。  
 【言動】ゲンドウ 言語と舉動、言行。  
 【言責】ゲンセキ ①言論をつくすべき任務又は陳言などをすべき責任②公言したる

ことばについての責任。  
 【言筈】ゲンゴ 言語文字の末に捕はれて物事の根本をゆるがせにすること。  
 【言意】ゲナイ ①言葉とことば②こゝろに思ふ所を語る。  
 【言詞】ゲンシ 言辭に同じ。  
 【言詮】ゲンセン ことば、言語。  
 【言路】ゲンロ 君主又は政府に對して己の意見を申し立てる道。  
 【言貌】ゲンバウ 言語と容貌。  
 【言語】ゲンゴ ①ことば、言辭②ものいふ、口出しをする。  
 【言論】ゲンロン 議論・意見を言語にて表現せしもの。  
 【言談】ゲンタン はなし、又はなしをする。  
 【言質】ゲンシツ 後日の證據となることば、ことばじち。  
 【言職】ゲンシヨク 陳言をする職務。  
 【言辭】ゲンジ ことばづかひ、ことば。  
 【言語學】ゲンゴガク 博く言語の性質・發達・構造などを研究する科學。  
 【言行錄】ゲンカウロク 人の善行嘉言を記したる書物。  
 【言論戰】ゲンロンセン 公開文書又は演説等を以て意見を主張し互ひにいひ争ふと。  
 【言三語四】ゲンサンゴシヨ 彼是と議論あると。

【言文一致】ゲンブンイツチ 言語と文章と同じきこと。  
 【言文深刻】ゲンブンシンコク 他の過失をきびしく論じ立て法律づくめにて深く穿鑿すること。  
 【言行相反】ゲンカウアヘハシ 言ふ所と行ふところと一致せざること。  
 【言行相悖】ゲンカウアヘモトル 前に同じ。  
 【言行一致】ゲンカウイツチ いふことと行ふことと一致すること。  
 【言身之文】ゲンハミブン 言葉は吾身の飾となるものとの意。  
 【言近旨遠】ゲンチカウチエトホシ ことばは卑近にてもその意味は深遠である。  
 【言語道斷】ゲンゴダウダン ①言語に述べつくせぬおくぶかき眞理②以ての外、話しにもならぬ。

訓讀

【言を立つ】ゲンヲタツ 手本となるべき教を後世に残す。  
 【言を知る】ゲンヲシル 言論を聞きて其心術を見ぬく。  
 【言を食む】ゲンヲクム 約束を守らぬ  
 【言を寄す】ゲンヲヨス ①ことばづてをす②一言を與へて人をささとりしめる

類語

惡言 アク 道言 タク 雜言 サツ 快言 クヱ  
 優言 ウ 粗言 ソ 疾言 シツ 迂言 ユ  
 舊言 ク 信言 シン 飾言 セツ 佞言 ネイ  
 偏言 ヘン 正言 テイ 端言 タン 盡言 ジン  
 食言 シツ 流言 リウ 訛言 シ 僞言 ビ  
 大言 ダイ 好言 コウ 無言 ム 過言 カ  
 陳言 チン 遊言 ユ 立言 リツ 直言 ジツ  
 雅言 ヤ 忠言 チュウ 甘言 カン 苦言 ク  
 宜言 イ 嘉言 カ 佳言 カ 宜言 イ  
 妄言 ワ 匡言 クヤウ 狂言 キヤウ 寓言 ユ  
 結言 ケツ 方言 フヤウ 憲言 ケン 奇言 キ  
 俚言 レイ 鄙言 ヒン 前言 ゼン 群言 グン  
 名言 メイ 衆言 シュウ 少言 シウ 多言 タ  
 寡言 カウ 發言 フツ 約言 ヤク 儉言 ケン  
 遺言 ユイ 傳言 デン 知言 チ 怨言 エン  
 放言 フヤウ 片言 ヘン 妖言 ヤウ 空言 クウ  
 虛言 キョ 抗言 コウ 聖言 セイ 苟言 コウ  
 極言 キョク 兼言 ケン 辭言 ジ 溫言 オン  
 格言 カク 至言 シ 美言 メイ 善言 ゼン  
 斷言 ダン 眞言 ジン

二畫

**訂** テイ  
 ①たゞす(文字文章の誤等を正す)②むすぶ、さだむ、とりきめる  
 【訂正】テイセイ 文章字句の誤をなほす。  
 【訂盟】テイメイ ちかひを結ぶ、約束をかはす。  
 つけ、つぐ、人の死去を知らせる  
 【訃音】フオン 死去のしらせ。

**訃** フ  
 大なる聲の形容。

**旬** クワウ  
 【旬然】クワウゼン 大聲の形容。  
 【旬確】クワウケツ 水の激しく流れる聲。

**計** ケイ  
 ①はか、數へる、企てる、見つもの、はかる(謀)②はかるに、おもふに③はかりごと(策略)爲すべき事④かんぢやう、しめ、しめだか、又それを記したる帳簿⑤算術、數學⑥國調はからふ、はからひ(處置、處分)ばかり(ほど、其

のみ、而已)  
 【計省】ケイセイ 會計の府の義、國家の會計を司る役所。  
 【計校】ケイコウ ばかりくらべる。  
 【計度】ケイタク かぞへはかる。  
 【計料】ケイリウ はかる、數へる。  
 【計帳】ケイチャウ ①勘定を書きしるした帳面②租税をとりしらべた帳簿③戸籍簿  
 【計略】ケイリョク 次に同じ。  
 【計畫】ケイワク たくらみ、はかりごと。  
 【計策】ケイサク 前に同じ。  
 【計會】ケイクワイ 會計に同じ、合しあつむ。  
 【計較】ケイカウ ①はかり比べる②争ひ論ず  
 【計算】ケイサン ①かぞへる、勘定する②國家の會計。  
 【車綱】ケイマウ 計略に同じ。  
 【計圖】ケイト ばかりごと、たくらみ。  
 【計數】ケイスウ ①たくらみ、謀計②勘定する、かぞへる。  
 【計謀】ケイボウ はかりごと、たくらみ。  
 【計簿】ケイボ 會計を書き記した帳面。  
 【計議】ケイギ はかり相談す、はかりごと。

類語

陰計 インケイ 會計 ケイ 歲計 サイケイ 日計 ジツケイ  
 月計 ゲツケイ 大計 ダイケイ 便計 ベンケイ 畫計 ワケイ

秘計 ヒケイ 密計 ミツ 完計 カン 彙計 スイ  
 身計 シンケイ 愚計 グ 度計 タク 權計 ケン  
 術計 ジュツ 堅計 ケン 活計 カツ 短計 タン  
 百計 ヒャク 拙計 シュツ 生計 セイ 詭計 クイ  
 智計 チ 算計 サン 良計 リヤウ 邪計 ジャ  
 深計 シン 正計 テイ 善計 ゼン 家計 ケ  
 忠計 チュウ 細計 サイ 謀計 ボウ 合計 ケイ  
 詳計 シュウ 失計 シツ

三畫

**訊** シン ジン  
 ①たづぬ、とふ(問)下の者にたづねる、罪を取調べる②おとづれる(訪)③いさむ(諫)つぐ④せむ(責)とがめる⑤おとづれ(音信)

【訊問】シンモン ①とひたひす②罪人をしらべる。  
 【訊檢】シンケン たづねしらべる。  
 【訊物】シンブツ 罪人を取調べる、ぎんみ。

**討** タウ トウ  
 ①うつ(伐)②たづぬ(訊)きはめる(究)をさむ

【討逐】タウツク うちしりぞける。  
 【討賊】タウタク むほん人をせめうつ、征伐。  
 【討索】タウソク しらべたづねる。  
 【討滅】タウメツ うちほろぼす、撲滅。  
 【討案】タウアン たづねしらべる。  
 【討裁】タウサイ しらべはかる。  
 【討幕】タウバク 幕府をうつて倒すこと。  
 【討探】タウタン さがしめとめる。  
 【討論】タウロン たづねはかる。  
 【討議】タウギ 相談して適當なる處置をつける③多人數にて議論をたよかはすこと。

【討愛】タウアイ 不意に敵をせめうつ。  
 【討議】タウギ 相談して評議す。

**訃** ク コ  
 ①おほいなり(大)又そのさま②かまびすし(豐)

**訃** ケツ  
 あばく、隠れたる事を探り出す  
 【訃陰】ケツイン 隠れたる悪事をあばく。  
 【訃罪】ケツサイ 罪をあばきたてる。

**訃** イ ダ タン  
 得意になりて他人の言を聞きいれぬ  
 貌②ほしいまゝ(謔)③あざむく(欺)

【訃々】イイ 自ら誇りて人言を容れぬ貌。  
 【訃謔】イマン あざむく、たぶらかす。  
**訃** ジン  
 ①かたし(難)②しのぶ(忍)



【訟庭】シヨウテイ 訴訟をさばく役所。  
 【訟師】シヨウシ 辯護士又は代書人。  
 【訟訴】シヨウソ うちたへ、うちたへること。  
 【訟獄】シヨウコク 訴訟をおこす、訴へる。  
 【訟牒】シヨウテウ 訴訟の事を書きし文書。  
 【訟評】シヨウヘウ うちたへあらそふ。

類語

陰訟シヨウ 争訟シヨウ 獄訟シヨウ 豪訟シヨウ  
 新訟シヨウ 水訟シヨウ 滯訟シヨウ

【訴】ケン ギン キ 新合キカラ 物事がむせて一になること。  
 【訴々】ギンギン 和らぎつムしむさま。

【訣】ケツ 訣 わかれる、わかれ、いとまごひのおくぎ、おくので  
 【訣別】ケツベツ 人と水くわかれる時のいとまごひ、わかれ。

類語

辭訣ケツ 色訣ケツ 生訣ケツ 妙訣ケツ  
 道訣ケツ 神訣ケツ 秘訣ケツ

【訥】ドツ トツ 訥 どもる(吃)口が重い、よくしやべられぬ  
 【訥口】トツコウ 辯舌の鈍きこと。  
 【訥舌】トツゼツ 舌のまはらぬこと。  
 【訥直】トツチヨク 口辯よからずして心の正しきこと。  
 【訥言敏行】トツゲンミンコウ 言葉は遅訥にして行為のすばやきこと。

【誦】イウ 誦 とがめ、とが

【訥】キョウ 訥 わざはひ(禍)みだれ(禍亂)やかましく争ふさま、又喧しく騒ぎたてる貌

【訪】ハウ 訪 たづねる、とふおとつれる、人をたづねる、見舞ふ、さがし求む(訪)に(方)やがて、いまや  
 【訪古】ハウコ 古蹟をたづねさぐること。

【設】セツ 設 そなへならべる、まうけ、まうける、こしらへ作る(設)まうけ、こしらへ、そなへ(設)たとひ、もし、萬一  
 【設立】セツリツ 作りたてる、まうける。  
 【設色】セツシヨク 彩色を施す、いろどる。  
 【設定】セツテイ こしらへおく、設け定める。  
 【設計】セツケイ もくろみ、計畫。  
 【設張】セツチャウ まうけはる、施設する。  
 【設問】セツモン 設題に同じ。  
 【設備】セツビ 用意してそなへる、又其そなへ。  
 【設置】セツチ まうけ備へる、つくりおく。  
 【設題】セツテイ 問題又は題目をつくりおく  
 【其問題又は題目】  
 【設令】セツレイ よしんば、或は又。

類語

建設セツ 具設セツ 舒設セツ 開設セツ

豫設セツ 陳設セツ 施設セツ 假設セツ

【許】キヨ コ 許 ゆるす、認可する、承知する、罪過を宥す(許)ゆるし、許可(許)ばかり(幾許)もと、ところ、がり(許)如許と連用して「かくのごとし」と調ず(許)衆人が共に勞働する時のかけご(許)願をきくとける、長上が目下の者にゆるすこと。  
 【許字】キヨジ いひなづけ、許嫁。  
 【許由】キヨユ 堯が天下を譲らんとせしことを謝絶して箕山に隠れたといふ隱者の名。  
 【許多】キヨタ 多くあること、あまた(許)そこばく、こゝら、若干。  
 【許否】キヨヒ ゆるすこと、ゆるさぬと。  
 【許容】キヨウ ゆるす、うけがふ。  
 【許配】キヨハイ 許字に同じ。  
 【許嫁】キヨカ 他日夫婦となるべき約束、いひなづけ。  
 【許質】キヨシツ とひたす。  
 【許諾】キヨダク 許容に同じ。  
 【許邪】キヨジャ 衆人が勞働する時のかけご(許)きやり。

【許々】キヨキヨ きやり、かけご(許)許邪。

【訴】ソ 訴 うつたふ、ぐちをこぼす、不平をもらして同情を求め、又うつたへ(訴)ひつける、讒言する(訴)或物事につき其解決を求めること  
 【訴告】ソコウ そにんする、うつたへ出る。  
 【訴状】ソジヤウ うつたへの文書。  
 【訴枉】ソウカウ 無實を訴ふること。  
 【訴訟】ソシヨウ 是非曲直を法廷にて争ふこと、くじ、うつたへ。  
 【訴願】ソダラン うつたへねがふ(訴)行政官廳の不當處分により権利及利益の侵害せられし時之を其上級官廳にうつたへ出ること。  
 【訴權】ソケン 訴訟を爲し得る權利。  
 【訴訟行爲】ソシヨウコウ 權利義務に對することを裁判所に求める行爲。

類語

哀訴ソイ 讒訴ソレ 仰訴ソヤウ 枉訴ソワウ  
 煩訴ソハン 嘲訴ソカウ 愁訴ソウ 怨訴ソエン

【訶】カ 訶 しかる、なじり責める  
 【訶止】カシ 大聲にてしかりとめる。  
 【訶咄】カトツ しかる、しかりつける。  
 【訶辱】カジヨウ しかりはづかしむ。  
 【訶言】カゴン しかりのよしる。  
 【訶詰】カキツ しかりなじる。  
 【訶譏】カキセメソシる。

【誦】シユツ 誦 いざなふ(誦)いざなはる、誘惑さる

【診】シン チン 診 脈をとる、みる(診)うらなふ  
 【診切】シンセツ 脈搏をみて病状を察すると  
 【診脈】シンミヤク 脈をみること。  
 【診察】シンサツ 病状を見わけること。  
 【診斷】シンダン 病者につきて其病性を見定めること。  
 【診斷書】シンダンシヨ 診察してその病状を記したる書類。

註

文字の意味のときあかし、解釋と  
きあかす、解釋す。書き記す、記入する。  
【註疏】チユウソク ときあかしてはしくす。  
【註解】チユウカイ 本文の間又は欄外等に記  
入したる講義。  
【註釋】チユウセツ 前に同じ。  
【註文取】チユウモンリ 商品その他の註文を  
取りに廻る人。  
【註文繪】チユウモンエ 畫家が自己の藝術心を  
没卻し人の註文次第に描く繪。

類語

【註釋】チユウセツ 前に同じ。  
【註文取】チユウモンリ 商品その他の註文を  
取りに廻る人。  
【註文繪】チユウモンエ 畫家が自己の藝術心を  
没卻し人の註文次第に描く繪。

証

いさむ(諫) 俗に證の略字  
詔に同じ

詢

そしる(勝)又そのさま、わるくちを

シ ヨウ

シ ヨウ

詆

いふおこたる(怠)又そのさまはか  
る(量)ますにてはかる。缺點、短所  
かね、もとして  
【詆怨】シエン 所しりうらむ。  
【詆短】シタン 惡口をいふこと。  
【詆々】シレシレ 所しるさま、又おこたるさま。  
【詆罵】シレイ やまひ。  
【詆薄】シハク 所しりてかるんず。

詈

そしる(誹)おこたる(怠)  
よみ、古語を現代語にて解釋したもの

詒

てらふ(街)うる(賣)  
【詒棄符】レイチフ 拙劣なる文章を名文らし  
く吹聴して恥をさらすこと。  
【詒書】セウショ みことのりのかきつけ。

詆

そしる(勝)しかり告めるはづかし  
める

シ ヨウ

シ ヨウ

詒

あざむく 自らほこる、得意になる

詒

おこる(贈)おこす(遺)あざむく  
(給)

詔

みことのり(古代は一般に上から下  
への命令をいひ秦漢以後は天子の専用  
となる)みことのりす。つぐ(告)を  
しへ告げる。南方の野蠻人の王號。應  
接を掌る役、又その者。  
【詔册】セウサツ 詔勅を記せる文書。  
【詔令】セウレイ 天子の命令。  
【詔可】セウカ 詔してゆるされること。  
【詔旨】セウシ みことのりの要旨。  
【詔武】セウブ 音楽の名(詔は舜の樂・武は  
周の武王の樂)。  
【詔書】セウショ みことのりのかきつけ。

詈

けなす、のゝしる(罵)惡口をいふ、又  
あてこすりをいふ  
【詈辱】レイジヨク のゝしりはづかしむ。  
【詈罵】レイバ のゝしる、罵詈。  
【詈罵】レイバ のゝしる、罵詈。

詔

なんぞ(豈)あに詎幾と連用して  
「いくばく」と訓ず

詎

そしる(勝)しかり告めるはづかし  
める

シ ヨウ

シ ヨウ

詈

そしる(勝)しかり告めるはづかし  
める

シ ヨウ

シ ヨウ

詔

あざむく 自らほこる、得意になる

詒

おこる(贈)おこす(遺)あざむく  
(給)

詔

しなさだめ(物事の是非優劣を定め  
る公平なる議論)しなさだめす  
【評決】ヒヤクケツ 評論して定める。  
【評判】ヒヤウバン 批評して判断す。とり  
また、世間のうはさ。  
【評林】ヒヤウリン 批評を一つに集めたもの  
【評定】ヒヤウテイ 批評に同じ。  
【評註】ヒヤウチュウ 批評と註釋とをあつめた  
るもの。  
【評詮】ヒヤウセン 擇びはかること。  
【評價】ヒヤウカ 品物に相當の値段をきめ  
る、又その値段。美醜善惡をしなさだ  
めすること。  
【評論】ヒヤウロン 是非優劣につきて評論す

【評點】ヒヤウツン 詩文などの眼目妙所などにつける點。教師が生徒の學力を定めるためにつける點數。

【評議】ヒヤウツン 是かる、相談する。

【評釋】ヒヤウツン 詩文を批評して其意味をときあかす、又其ときあかし。

【評定官】ヒヤウツン 司法裁判所にて判事と同一なる職務を行ふ行政裁判官。

【類語】 異評ヒヤウツン 苛評ヒヤウツン 譏評ヒヤウツン 公評ヒヤウツン 細評ヒヤウツン 嘲評ヒヤウツン 月旦評ヒヤウツン

【諛】ヒ けたよる、ねぢける、不正

【諛行】ヒカウツン ねぢくれたる行爲。

【諛辭】ヒカウツン けたよつたる言。

【詞】ケイ ①さぐる(探)うかゞふ②しのび、まはしもの

【詞】クツ チユツ

①かゞむ(屈)②しりぞく(慙) 【諛伸】クワツン 伸びること、縮むと、屈伸。 【諛指】クワツン ゆびをり數へる、屈指。

①のろふ(呪)のろひ②ちかふ(誓) 【詛】シヨソヌ

【詛盟】ソノイ ちかひ、やくそく。

①ことば(辭)あやある言語文章②つぐ(告)③韻文の一種

【詞人】シジン 詩家文人等の稱。

【詞兄】シケイ 詩歌文章の友をいふ敬語。

【詞舌】シセツ ことば、言語。

【詞曲】シキョク 韻文の一種、填詞、又其ふし

【詞伯】シハク 詩文に巧みなる人。

【詞宗】シソウ 文事のあつまり、文苑。

【詞林】シリン 詩章に同じ。

【詞表】シヘウ ことばの上、言外。

【詞客】シカク 詞人に同じ。

【詞契】シケイ 學友に對する尊稱。

【詞律】シリツ ことばの調子、文詞の格。

【詠】エイ エイ ①うたふ、聲を永く引きて詩歌を歌ふこと、又詩歌をつくる、鳥が鳴く②うた(詩歌又は歌ふべき詞章)③國訓ながむ(みわたす、眺望)ながめ(みはらし)よむ(和歌をつくること) 【詠史】エイレ 史實を主題として詩歌を作る、又其詩歌。

【詠】クワウ

①うはごと、ねごと②あざむく(欺)たぶらかす

①ためす、こゝろみる②こゝろみ、ためし③こゝろみに、ためしに④もちゐる

【試才】シサイ 才能をためし見る。

【試用】シヨウ ためしとしてつかふ。

【試作】シサク ためしにつくる、作りためす

【試尾】シビ あとをつけゆく、尾行。

【試卷】シケン 官吏登用試験の應募者の文章をまとめたる卷物。

【試官】シクワン ①試験を行ふ役人②試補に同じ。

【試航】シカウ ためしとして渡海す、又其渡海。

【試涉】シセツ 橋のわたりぞめ。

【試帖】シテツ 支那にて經書の試験に用ゐるふだ、又其試験。

【詠物】エイブツ 鳥獸花月などを主題として詩歌を作る、又その詩歌。

【詠草】エイサウ 歌のしたがり。

【詠絮】エイジュ 詠雪之才に同じ。

【詠進】エイシン 詩歌をつくりて貴人又は神佛などにたてまつること。

【詠歌】エイカ ①詩歌をよむ、又其詩歌②遊説又は淨土宗の信者等が節をつけてうたふ一種の短歌。

【詠嘆】エイタン 次に同じ。

【詠歎】エイタン うたひほめる。

【詠謠】エイラウ うたふ。

【詠歸】エイキ 郊外の風景を詠じてかへる風流なる遊行をいふ。

【詠懷】エイクワイ おもふ所を詩や歌によみあらはすこと。

【詠雪之才】エイセツノサイ 女子の文才あると

【類語】 歌詠エイ 吟詠エイ 朗詠エイ 嘯詠エイ 風詠エイ 高詠エイ 誦詠エイ 賦詠エイ 舞詠エイ 舞詠エイ 短詠エイ 嗟詠エイ 遺詠エイ 賞詠エイ 愛詠エイ 詩詠エイ

【詠】ク ①ほこる(誇)ほらをふく②あまねし

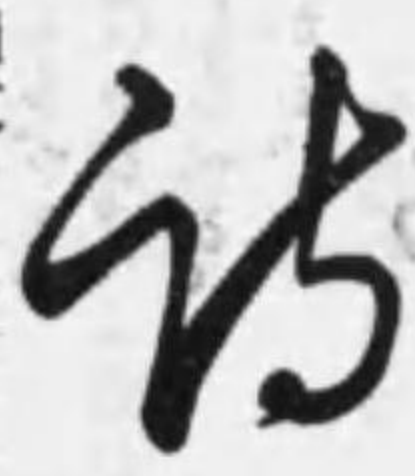
【試験】(シクワ) ①ためしに地をほる。②礦物などをこゝろみに掘り出す。  
 【試筆】(シボウ) 試筆に同じ。  
 【試問】(シモン) 學力をこゝろみること。  
 【試補】(シホ) 見習ひの役人。  
 【試探】(シタン) ためしにさぐる。  
 【試植】(シシヨウ) 草木類をためしに植付ける。  
 【試筆】(シボウ) かきぞめ、試毫。  
 【試業】(シゲツ) 學業をためす。  
 【試業】(シガフ) 音樂を試みかねる。  
 【試較】(シカウ) こゝろみにくらべる。  
 【試験】(シケン) ①こゝろみためす。②學業によりて修めたる力をこゝろみる。  
 【試金石】(シケンシキ) 金銀を其面にすりつけて眞贋をためすに用ゐる黒色緻密の石轉じて物事の眞偽を判断する材料となる物の稱。  
 【試風船】(シフウセン) 飛行機の航空するに先だち氣流の方向をたしかめる爲飛ばす風船玉。  
 【試運轉】(シウシテン) 電車・汽船などを初めてこゝろみに運轉すること。  
 【試験管】(シケンカン) 理化學の實驗用として用ゐるガラス製管狀の容器。  
 【試験地獄】(シケンジゴク) 入學試験に及第することの困苦を言ひ現はす語。

【試験勉強】(シケンベンキヤウ) 平生は怠りながら試験間際になりて一心に勉強すると。  
 類語  
 御試(シコト) 考試(シカウ) 校試(シカウ) 面試(シケン)  
 講試(シカウ) 嘗試(シカウ) 小試(シカウ) 都試(シケン)  
 課試(シカウ) 量試(シカウ) 選試(シケン) 策試(シカウ)  
 閱試(シカウ) 點試(シケン) 覆試(シカウ) 歷試(シケン)  
 殿試(シケン) 鄉試(シカウ) 廷試(シカウ) 按試(シケン)

【詩什】(シジフ) 詩十篇の義、轉じて詩篇。  
 【詩史】(シシ) 詩にて時事をのべしもの。  
 【詩仙】(シセン) ①天才の大詩人、詩の名人。②詩歌にふけりて世事をかへりみぬ人。  
 【詩句】(シク) 詩の文句。  
 【詩伯】(シハク) 詩の大家の敬稱、詩宗。  
 【詩形】(シケイ) からうたの形式。  
 【詩抄】(シセウ) 詩鈔に同じ。  
 【詩材】(シサイ) 詩料に同じ。  
 【詩卷】(シクワン) 詩を書き集めたる巻物、又詩の書物。  
 【詩的】(シテキ) 詩趣ありて美感を動かすさまの形容。  
 【詩宗】(シジュウ) ①詩經の大家。②詩伯に同じ。  
 【詩律】(シリツ) 詩の規則又は格調、即ち詩の調子。  
 【詩思】(シシ) 詩を作るにつきての考案。  
 【詩客】(シカク) 詩を作る人、詩人。  
 【詩料】(シリョウ) 詩を作るたね。  
 【詩格】(シカク) 詩を作る法則、又詩の風格。  
 【詩酒】(シシユ) ①詩と酒。②詩を作りつゝ酒を飲むこと。  
 【詩草】(シソウ) 詩のしたがき、詩の草稿。  
 【詩書】(シショ) ①詩經と書經。②作詩と文字。  
 【詩圃】(シポ) 詩趣に富みたる土地。  
 【詩牌】(シハイ) ①詩をかきしるしたる木の

# 詠

詠の俗字



【詩餘】(シヨ) 詩體の名にして樂府の變じたもの。  
 【詩癖】(シヘキ) 詩を格別にこのむくせ。  
 【詩韻】(シイン) ①詩の韻字。②詩の面白味。  
 【詩課】(シカウ) 作詩の課題。  
 【詩囊】(シナウ) 詩材を入れるふくろ。  
 【詩體】(シタイ) 詩の體裁と形式。  
 【詩懷】(シクワイ) 詩思に同じ。  
 【詩議】(シギ) 作りたる詩が偶然にも後來の事件の前兆となること。  
 【詩有二別才】(シニニベツサイ) 詩を作ることは一の天才であるとの意。  
 【詩中有畫】(シチュウユエ) 詩句の風韻に富みて且つよく實景を描寫したること。  
 【詩酒徵逐】(シシユチウジヤク) 友人と共に詩酒を楽しむこと。

【詩才】(シサイ) 作詩につきての才智。

板②上下平韻三十一字を一枚ごとに記したる札。  
 【詩鈔】(シセウ) 詩をぬきがきしたるもの。  
 【詩集】(シシュフ) 詩をあつめ載せたる書物。  
 【詩債】(シサイ) 作るべき詩を作らずに居る。  
 【詩聖】(シセイ) 古今第一の詩人の意、杜甫をいふ。  
 【詩歌】(シカ) 詩と歌。  
 【詩會】(シクワイ) 作詩の會、詩人のあつまり。  
 【詩話】(シワ) 詩に關するはなし。  
 【詩盟】(シメイ) 詩人の仲間、詩人のまじはり。  
 【詩賦】(シフ) 詩と賦、韻文。  
 【詩豪】(シゴウ) 詩伯に同じ。  
 【詩僧】(シソウ) 詩に巧みな僧侶。  
 【詩箋】(シセツ) 詩をかき紙。  
 【詩篇】(シヘン) 詩の作物、又それをあつめしもの。  
 【詩趣】(シシュ) 詩につくる程の景色又はおもむき。  
 【詩稿】(シカウ) 詩草に同じ。  
 【詩腸】(シチャウ) 詩を作る心情。  
 【詩經】(シキヤウ) 支那古代の詩を集めたもの。  
 【詩境】(シキヤウ) 詩人の社會、詩人のなかま。  
 【詩興】(シキヤウ) 詩のおもしろみ、風流の樂しみをいふ。  
 【詩敵】(シテキ) 詩を作るあいて。

【詠】(シ) 詠の俗字

【詭】(キ) ①あざむく、いつはる(詐)。②いつはり。③むせ(責)。④そむく、たがふ(違)。⑤もとの(戻)。⑥あやし(怪)。又其さま【詭妄】(キバウ) いつはり、うそ。【詭色】(キシヨク) あやしむべき色。【詭形】(キケイ) 怪しく異なるかたち。【詭言】(キゲン) うそ、いつはりのことば。



【詭怪】キクワイ あやし、不思議。  
 【詭計】キケイ 人をいつはるはかりごと。  
 【詭殊】キケシュ めづらしく異なるさま。  
 【詭秘】キケヒ 容易に人にわからぬありさま。  
 【詭異】キケイ 詭怪に同じ。  
 【詭脱】キケダツ 偽りて免がる。  
 【詭詐】キケサ いつはる、いつはり。  
 【詭惑】キケワク まどはす。  
 【詭策】キケサク 詭計に同じ。  
 【詭道】キケダウ 人をあざむくてだて。  
 【詭遇】キケグウ 正道によらず徒らに世に容れられて富貴を得ること。  
 【詭亂】キケラン みだれること。  
 【詭誕】キケタン より所なし、てたらめ。  
 【詭隨】キケズキ 是非を考へず安りに人にしたがふこと。  
 【詭駁】キケハク そしり辯難す。  
 【詭激】キケキキ 中庸を失ひて首行の過激なること。  
 【詭譎】キケキョウ 偽りて神に祈請すること。  
 【詭謀】キケボウ 詭計に同じ。  
 【詭譎】キケキョウ 詭怪に同じ。  
 【詭譎】キケキョウ たがひあやまる。  
 【詭辭】キケジ 詭言に同じ。  
 【詭麗】キケレイ 珍らしくうつくしい。  
 【詭辯】キケベン 巧みに人を惑はす口まへ

【詮】セ ①理非をまげて人を惑はす辯論。  
 【詭變】キケヘン いつはりかはる、だます。  
 【詭術竊奪】キケセツバツ 馬が羈束を受けずして無闇にかけること。  
 【詭辯學派】キケベンガク 紀元前五世紀の中葉にコルキアス等の唱へたる説にして真理は自己の心中にのみ存すとす懐疑的思想。  
 類語 奇詭キケキ 雄詭キョウ 虚詭キョ 怪詭キクワイ 輕詭キケイ 卓詭キョウ

【詰】キツ ①なじる、問ひつめる、責問②をさむ(治)③夜のあけがた④かきむ、まがる 屈曲⑤國訓つむ(滿たし入れる、追ひこめて動かれぬやうにす、ひきしめる、おしちいめる)⑥つまる(いつぱいになる、切迫する、行き止まる、きはまる)⑦め(きは、はし、はて、かぎり)  
 【詰旦】キツタン 詰朝に同じ。  
 【詰問】キツモン とひつめる、なじりとふ。  
 【詰責】キツセキ なじりせめる。  
 【詰朝】キツチウ あくる日のあけがた。  
 【詰訓】キツクン かきむりてのびざるさま。  
 【詰窮】キツキウ 問ひつめる。  
 【詰所】キツショ 役人の勤務する所。  
 類語 究詰キウツツ 窮詰キウツツ 彈詰ダン 面詰メン 辯詰ベン 難詰ナン 密詰ミツ

【話】ワ ①ものがたり、はなし②はなす、はなしをする、かたる、つげる③よき言葉、善言、嘉言  
 【話次】ワジ はなしのついで。  
 【話言】ワゲン 爲になる言葉、よきことば。  
 【話柄】ワヘイ はなしのたね、談柄。  
 【話頭】ワトウ 話のこごち、はなしのいとぐち。  
 【話題】ワダイ はなしの主題。  
 類語 佳話カ 嘉話カ 舊話コウ 言話ゴン 情話ジヤウ 談話タン 俗話ソク 淨話ジヤウ 閑話カン 靜話セイ 歎話ツワン 良話リヤウ 清話セイ 燕話エン 世話セ

【該】カイ ①かね(兼)そなふ(備)博く有す②すべし、べし(俗文に宜の代用をなす)③ある(當)④その(其)  
 【該洽】ガイカフ ①くはしい、該博②ひろくゆきわたる。  
 【該涉】ガイセツ 廣く通ず、あまねくわたる。  
 【該博】ガイハク 學問などに廣く通じて明るきさま。  
 【該通】ガイツウ 該曉に同じ。  
 【該綜】ガイソウ 兼ねあはせ總べる。

【詳】シャウ ①つまびらか、くはしい、細密②つまびらかにす、明細にす、又よく知る③くはしきこと、つまびらかなること④ことごとく(盡)⑤さいはい(詳)⑥いつはる(伴)  
 【詳允】シャウイン 物事にくはしく處置の宜しきに適ふこと。  
 【詳正】シャウセイ 精密にして正し、又細密に調べたこと。  
 【詳平】シャウヘイ 明らかにして正し。  
 【詳明】シャウメイ ①くはしくしてあきらかなること②くはしくあきらかにす。  
 【詳敏】シャウビン 物事にくはしく通じて才智が早くまはること。  
 【詳料】シャウリョウ くはしく考へる。

【詳悉】シャウシツ くはしく知りつくす。  
 【詳細】シャウシユウ つまびらか、くはし、委細  
 【詳略】シャウリョク くはしきとあらきと。  
 【詳解】シャウカイ くはしくときあかす、又そのときあかし。  
 【詳密】シャウミツ ①くはしくこまやかなり②思慮又は注意の深きこと。  
 【詳報】シャウホウ くはしきしらせ。  
 【詳盡】シャウジン くはしくつくすさま。  
 【詳傳】シャウデン 詳細に記したる一代記  
 【詳推】シャウツイ 詳細にしらべる。  
 【詳察】シャウサツ 詳細に考へること。  
 【詳選】シャウセン くはしく及らぶ。  
 【詳說】シャウセツ くはしく説きあかす、又その説明。  
 【詳審】シャウシン くはしくあきらかなること  
 【詳論】シャウロン こまかに論ず、又其論説。  
 【詳確】シャウカク 詳細明確なること。  
 【詳錄】シャウロク つまびらかにしるす、又その記録。  
 【詳綴】シャウツイ 詳密の①に同じ。  
 【詳審】シャウシン あきらかに知る。  
 【詳辨】シャウベン 詳密にわきまへ知る。  
 【詳斷】シャウダン 事こまかにさばく。  
 【詳察】シャウサツ 詳推に同じ。  
 【詳覽】シャウラン くはしくみとほす。

誅

シ ン セ ン  
集まつてむつまじき貌

調

シ ウ

調に同じ①かへし、こたへ②かへす、こたふ、又むくゆ  
【調答】シウタウ 言ひかへす、口返答。

詹

セ ン タ ン

詹

①言葉多きさま②みる(瞻)③いたる(至)④うらなふ(占)⑤たる(瞻)十分である、満足する  
【詹事】センジ 皇后太子家の事を管する官  
【詹々】センセン 多言なるさま。

詠

ク ワ イ

①おどけ、ふざけ、をかしみあること②あざける(嘲)たはむる(戯)からかふ、ふざける  
【詠笑】クワイセウ 戯れ笑ふこと。  
【詠嘲】クワイチウ 詠嘲に同じ。  
【詠諷】クワイキウ 諷刺に同じ。

【詠諷】クワイキウ 諷刺に同じ。

【詠嘲】クワイチウ 皮肉をいふ、じやうだんのうちに人をあざけること。  
【詠諷】クワイキウ おどけ、滑稽、諧謔。  
【詠諷】クワイキウ おどけたはむる。

註

ク ワ イ ケ

あやまる(誤)人をあざむきて悪き方にみちびくこと  
【注亂】クワイラン 世人を欺きみだす。

誅

テ ウ

誅

①いどむ(挑)いざなふ(誘)②にはか(卒然)③國調あつらふ(特に注文して作らせる、又其物)  
【誅戯】テウキ ぶざける、たはむる。

誅

ル キ

誅

①しのびごと、死人の生前の功德を述べる詞、又誅を述べること②神に祈り幸福を求める詞  
【誅】テウキ ぶざける、たはむる。

誅

チ ニ ウ チ ニ

①兵力を以て罪人をせめうつ、罪人を

ころす②とがめる、せむ(責)③とが、つみ、又つみす、罰す④のぞく(除)

【誅夷】チニウイ 討ちたひらげる。  
【誅伐】チニウハツ 罪ある者をせめうつ、又罪人をせめ殺すこと。  
【誅求】チニウキウ 無理に租税を取立て又は財物をむさぼること。

【誅殄】チニウテン 罪をせめてうちほろぼす  
【誅滅】チニウメツ 罪ある者をせめほろぼす  
【誅殺】チニウセツ ころす、ほろぼす。  
【誅罰】チニウハツ 罪人を法律にあてゝ罰すること。

【誅責】チニウセキ 厳しく責めて正す。  
【誅戮】チニウリク 罪にあて殺す。  
【誅賞】チニウシヤウ 悪をせめ善をほめると。  
【誅罰】チニウハツ 大罪にてせめしかる。  
【誅罰】チニウハツ 罪ある者をころしつくす  
【誅罰】チニウハツ 罪ある者をころしつくす  
【誅罰】チニウハツ 罪ある者をころしつくす  
【誅罰】チニウハツ 罪ある者をころしつくす

【誅罰】チニウハツ 罪ある者をころしつくす  
【誅罰】チニウハツ 罪ある者をころしつくす  
【誅罰】チニウハツ 罪ある者をころしつくす  
【誅罰】チニウハツ 罪ある者をころしつくす

【誅罰】チニウハツ 罪ある者をころしつくす  
【誅罰】チニウハツ 罪ある者をころしつくす  
【誅罰】チニウハツ 罪ある者をころしつくす  
【誅罰】チニウハツ 罪ある者をころしつくす

【誅罰】チニウハツ 罪ある者をころしつくす  
【誅罰】チニウハツ 罪ある者をころしつくす  
【誅罰】チニウハツ 罪ある者をころしつくす  
【誅罰】チニウハツ 罪ある者をころしつくす

誇

ク ワ コ

誇

①ほこる、たかぶる、自慢す②ほこり、自負

誓

セ イ

誓

①ちかひ、やくそく(約束)又神佛に告げて信義を守ること②衆人をいましめ注意を與へる、訓誡③ちかふ、約束す、ちぎる、むすぶ④ちかつて、せびとも、かならず、相違なく  
【誓文】セイブン 契約の證文。  
【誓券】セイクエン ちかひの證券、誓約書、誓紙  
【誓命】セイメイ 君主が臣下に對してなすちかひ。  
【誓社】セイヤ 土地の神に對して誓約をなすこと。  
【誓約】セイヤク ちかひ、又ちかふこと。  
【誓紙】セイヤシ 誓文に同じ。  
【誓詞】セイヤジ ちかひのことば。  
【誓書】セイヤシヨ ちかひを記したるかきつけ  
【誓盟】セイヤメイ 誓約に同じ。  
【誓語】セイヤゴ 誓命に同じ。  
【誓願】セイヤガン 神佛に祈願すること、ぐわんがけ。

【誓文拂】セイヤンハラヒ 關西地方にて商家が年末に行ふ賣出し。  
類語  
戒誓セイヤイ 信誓セイヤシ 盟誓セイヤイ 約誓セイヤイ

誌

シ

誌

認

ジ ン ニ ン

認

①事實を記したる文章、記事②しるす(記)かきつける③あざ(患)  
【認】ジンニン

七畫

証

キ ヤ ウ

証

たぶらかす、まどはす、あざむく、かたる

【証言】キヤウゲン いつはり、そらごと。  
【証詐】キヤウサ いつはり、たぶらかし。  
【証惑】キヤウワク 欺きまどはす。  
【証誣】キヤウタン ことばの實なきこと、そらごと。  
【証誘】キヤウイウ 誘惑する、たぶらかし誘ふ

【証言】キヤウゲン いつはり、そらごと。  
【証詐】キヤウサ いつはり、たぶらかし。  
【証惑】キヤウワク 欺きまどはす。  
【証誣】キヤウタン ことばの實なきこと、そらごと。  
【証誘】キヤウイウ 誘惑する、たぶらかし誘ふ

誕

タン

誕

【語義】多シク、うそ、ねなしごと、人を欺く大言(欺)わがま、ほしいま(うまる(生)うむ、まうける(おほいに(大)ひろし(闊)發語の詞、こゝに

- 【誕日】タシヤウ 誕辰に同じ。
- 【誕生】タシヤウ ①生む、生み落す②生れる、出生す。
- 【誕幻】タシヤウ ①つはり、たばかり。
- 【誕妄】タシヤウ ①つはり、たばかり。
- 【誕性】タシヤウ 生れつき、天性。
- 【誕辰】タシヤウ 生日、うまれた日、誕日。
- 【誕章】タシヤウ 大いなる法典。
- 【誕狀】タシヤウ ①つはり、うそ。
- 【誕慶】タシヤウ 誕妄に同じ。
- 【誕辭】タシヤウ 不實にしていつはりの言詞

類語

- 疎誕 背誕 欺誕 縱誕
- 放誕 狂誕 詭誕 虚誕
- 荒誕 妄誕 傲誕 虚誕

誘

イウ

誘

【語義】さそふ、いざなふ、又教へみちびく(つれだす、よびだす(いざなひ、誘引)誘引)イウイン ①いざなふ、さそふ。

- 【誘拐】イウカイ ①かどはかし、かどはかす。
- 【誘致】イウチ ①さそひだす、おびきだす。
- 【誘殺】イウサツ ①さそひ出してころす。
- 【誘益】イウエキ ①導きたすける。
- 【誘掖】イウエキ ①前に前じ。
- 【誘惑】イウワク ①いざなひてまどはす。
- 【誘導】イウタウ ①導きをしへる。
- 【誘導】イウタウ ①誘ひ招く。
- 【誘導】イウタウ ①前に同じ、又道案内すると。
- 【誘導】イウタウ ①のぞみ頼むこと。
- 【誘導】イウタウ ①敵をおびきだす役目の騎兵

類語

- 開誘 招誘 恩誘 誑誘
- 勸誘 導誘 慰誘 誑誘

誑

セウ

誑

【語路】ヨロ 言葉のいひまはし。

- 【語彙】ゴキ 多くのことばを一つに集め載せたるもの。
- 【語意】ゴキ ①いふこと、ことばの意味。
- 【語幹】ゴカン 語根に同じ。
- 【語勢】ゴセイ 言葉のいきほひ。
- 【語勢】ゴセイ ①くちかず、言語のかず。
- 【語勢】ゴセイ ②ことばの上の缺點③誤解を招き易きもの④いひかた。
- 【語學】ゴガク ①外國語の學問②言語學。
- 【語錄】ゴロク 宋明時代儒者の言辭を録したる書物、又高僧の言語を録せし書。
- 【語證】ゴセイ ①はなしごえ。
- 【語釋】ゴシヤク 言語の解釋。
- 【語塞】ゴトバフサム 返答に行きつまること。

訓讀

【語を寄す】寄レ語(ゴキ)ナリ 言ひきかせて注意する、又ことづて。

類語

- 艶語 面語 豪語 怒語
- 寄語 醉語 獨語 立語
- 好語 美語 媚語 低語
- 情語 惡語 古語 目語
- 老語 奇語 綺語 俚語
- 言語 佳語 笑語 傳語

誠

セイ

誠

【語義】まこと、まごころ(赤心)純一にして公平無私なること②まことにす、誠實をあらはす③まことに、眞に、實に(はたして、もし)

- 【誠切】セイセツ 赤心ありて親切なること。
- 【誠心】セイシン 誠意に同じ。
- 【誠忠】セイチュウ 眞心よりいたす忠義。
- 【誠直】セイジツ 正しくまことなり。
- 【誠信】セイシン まこと、まごころあること。
- 【誠烈】セイレツ 信實の心あること。
- 【誠情】セイセイ ①まことのこころ、純心。
- 【誠悃】セイコン ①まごころ、衷心。
- 【誠款】セイカン ①まごころ、衷心。
- 【誠意】セイイ ①まごころ②心をまことにす、誠心あり。
- 【誠敬】セイケイ ①まことにしてつゝしみあ

誑

ギョゴ

誑

【語義】①しかり答める、せむ(誑)せめ、しかり

- 【誑責】セウセキ 罪過をせめること。
- 【誑戲】セウキ ①そしりたはむれる。
- 【誑讓】セウジャウ ①とがめる、せめる。
- 【語】ギョゴ ①かたる(大言を言といひ、小言を語といふ、又自言を言、答言を語といふ)ものがたる、はなしをする、ものいふ、口にす②ことば、言辭、もんく③生物の發する聲④告げる、かたる、をしへる
- 【語句】ゴゴ ①言語、言葉、又ことばのくぎり
- 【語次】ゴジ ①はなしのついで、言次。
- 【語尾】ゴビ ①言葉のいひじまひ②文法上一語のをはりにて語根以下の稱。
- 【語言】ゴゴン ①言語、言葉②相談、話し。
- 【語原】ゴゲン ①言語の起るもと。
- 【語根】ゴコン ①文法上言語を解析し其以上に分つことの出來ぬ部分の稱、又動詞より其語尾をとりわけたる部分。
- 【語格】ゴカク ①ことばづかひの規則。
- 【語病】ゴヘイ ①言語の上に表はれし缺點。
- 【語氣】ゴキ ①ものいひやう、辭氣②語勢、ことばのいきほひ。

誠

カイ

誠

【語義】①いましむ、注意を與へる、警戒させる、注意して慎む、警戒する②いましめ、をしへ、又其ことば或は文書

- 【誑】カイ ①いましむ、注意を與へる、警戒させる、注意して慎む、警戒する②いましめ、をしへ、又其ことば或は文書
- 【誑】カイ ①いましむ、注意を與へる、警戒させる、注意して慎む、警戒する②いましめ、をしへ、又其ことば或は文書

【誣妄】フハク 誣罔に同じ。  
 【誣言】フダシ 無實のいひごと。  
 【誣告】フコク 偽つてつづける。無實の事を以て人を訴へる。  
 【誣染】フセン いつはりけがす。  
 【誣罔】フマウ しひいつはる。  
 【誣証】フタイ しひそしる。  
 【誣枉】フワク 人をしひて罪におとす。  
 【誣訴】フソウ 誣告に同じ。  
 【誣説】フセツ あらぬうはさ、いつはりの風説。  
 【誣欺】フキ いつはりあざむく。  
 【誣誘】フバウ しひそしる。

### 誤

【誤】マヤカス あやまる、あやまつ、まちがへる、しそこなふ、人をまどはす。あやまり、しそこなひ、まちがひ。  
 【誤用】ゴヨウ あやまりもちゐる。  
 【誤字】ゴジ まちがひたる文字。  
 【誤差】ゴサ ちがひ、たがひ。或數量と其觀測上の數との相違。  
 【誤脱】ゴダツ 誤字と脱字、書きあやまりし文字と落したる文字。  
 【誤診】ゴシシ 病氣の見立をあやまる。

### 誣

【誣報】ゴハク あやまりたる知らせ。  
 【誣植】ゴシヨク 活字のうゑあやまり。  
 【誣解】ゴカイ 勘違ひ、意味をちがへる。  
 【誣聞】ゴブン きゝあやまり、きゝちがひ。  
 【誣認】ゴニン みそこなふ、見まちがへる。  
 【誣算】ゴサン 計算の違ひ、又その計算。  
 【誣證】ゴシヨウ あやまりたるし。  
 【誣寫】ゴシヤ 文字のうつしあやまり。  
 【誣謄】ゴビウ あやまり、まちがひ。  
 【誣謄】ゴチウ はかりごとをあやまる。

### 誣

【誣誣】ゴチウ 誣を以て誣ふ、口約束。  
 【誣誣】ゴチウ 誣を以て誣ふ、口約束。  
 【誣誣】ゴチウ 誣を以て誣ふ、口約束。  
 【誣誣】ゴチウ 誣を以て誣ふ、口約束。

### 誣

【誣誣】ゴチウ 誣を以て誣ふ、口約束。  
 【誣誣】ゴチウ 誣を以て誣ふ、口約束。  
 【誣誣】ゴチウ 誣を以て誣ふ、口約束。  
 【誣誣】ゴチウ 誣を以て誣ふ、口約束。

### 誣

【誣誣】ゴチウ 誣を以て誣ふ、口約束。  
 【誣誣】ゴチウ 誣を以て誣ふ、口約束。  
 【誣誣】ゴチウ 誣を以て誣ふ、口約束。  
 【誣誣】ゴチウ 誣を以て誣ふ、口約束。

### 類語

【誣誣】ゴチウ 誣を以て誣ふ、口約束。  
 【誣誣】ゴチウ 誣を以て誣ふ、口約束。  
 【誣誣】ゴチウ 誣を以て誣ふ、口約束。  
 【誣誣】ゴチウ 誣を以て誣ふ、口約束。

### 誣

【誣誣】ゴチウ 誣を以て誣ふ、口約束。  
 【誣誣】ゴチウ 誣を以て誣ふ、口約束。  
 【誣誣】ゴチウ 誣を以て誣ふ、口約束。  
 【誣誣】ゴチウ 誣を以て誣ふ、口約束。

### 誣

【誣誣】ゴチウ 誣を以て誣ふ、口約束。  
 【誣誣】ゴチウ 誣を以て誣ふ、口約束。  
 【誣誣】ゴチウ 誣を以て誣ふ、口約束。  
 【誣誣】ゴチウ 誣を以て誣ふ、口約束。

### 類語

【誣誣】ゴチウ 誣を以て誣ふ、口約束。  
 【誣誣】ゴチウ 誣を以て誣ふ、口約束。  
 【誣誣】ゴチウ 誣を以て誣ふ、口約束。  
 【誣誣】ゴチウ 誣を以て誣ふ、口約束。

### 誣

【誣誣】ゴチウ 誣を以て誣ふ、口約束。  
 【誣誣】ゴチウ 誣を以て誣ふ、口約束。  
 【誣誣】ゴチウ 誣を以て誣ふ、口約束。  
 【誣誣】ゴチウ 誣を以て誣ふ、口約束。

### 誣

【誣誣】ゴチウ 誣を以て誣ふ、口約束。  
 【誣誣】ゴチウ 誣を以て誣ふ、口約束。  
 【誣誣】ゴチウ 誣を以て誣ふ、口約束。  
 【誣誣】ゴチウ 誣を以て誣ふ、口約束。



【諄々】ジュンジュン 懇切なるさま 〇くどくどく 〇教へるさま。  
 【諄復】ジュンフク くりかへすこと。

# 談

タン ダン

①ものがたり、はなし 〇かたる、はなす  
 【談合】タンガフ はなしあふ、相談す。  
 【談吐】タンツ 談論に同じ。  
 【談次】タンジ 是なしのついで、言次。  
 【談助】タンジュ 談話の材料、談話のたすけ。  
 【談判】タンパン かけあひ、又そのこと。  
 【談林】タンリン 佛教の學問所、又寺院。  
 【談空】タンクウ 虚無の理をかたる。  
 【談柄】タンベイ かたりぐさ、はなしのたね。  
 【談笑】タンセウ 話しながらわらふ(例)談笑裡に解決する。  
 【談商】タンシヤウ 相談する、はかる。  
 【談理】タンリ 理を談ず、主として老莊の哲理を論ずること。  
 【談話】タンワ 物語り、はなし、又其のこと  
 【談義】タンギ 〇すぢみちを話す 〇説法、法話。  
 【談説】タンセツ とく話す。  
 【談論】タンロン 話をして種々に論ずること。  
 【談戯】タンギ たはむれはなす。

【談緒】タンシヨ はなしのいとぐち。  
 【談餘】タンヨ 〇はなしのあと 〇話のついで、話次。  
 【談藪】タンソク 話が多くして盡きぬ形容。  
 【談辯】タンベン 〇談論に同じ 〇話しかたること。  
 【談議】タンギ 相談して取計ふこと。  
 【談林風】タンリンフウ 江戸時代西山宗因の唱へし俳諧の一派にして其の用辭の滑稽なるもの。  
 【談天雕龍】タンテンテウリョウ 辯論の宏遠博大なることを喻へし語。  
 【談言微中】タンゲンビチュウ 暗々裡に人の急所を突くが如きはなし。

### 類語

街談ガイ 閑談カン 嘲談チウ 解説カイン  
 説談セツ 通談トウ 盛談セイ 政談セイ  
 玄談ゲン 農談ノウ 縱談ジュウ 横談ワウ  
 美談メイ 戲談ゲイ 劇談ゲキ 清談セイ  
 面談メン 對談タイ 笑談セウ 話談ワ  
 言談ゴン 遊談ユウ 文談ブン 深談シン  
 妄談バウ 虚談キョ 高談カウ 善談ゼン  
 史談シ 時談ジ 厭談エン 快談クワイ  
 講談カウ 相談サウ 軍談Gun 談談タン

### 誣

ツキ  
 ①わづらはす(煩) 〇かさなる、うるさきこと

### 諉

キチ  
 ①めんだうをかける、わづらはす 〇かこつける、ことよせる

### 請

セイ シヤウ  
 ①こふ、ねがひ求める、とひたづねる 〇祈る、許されんことをねがふ 〇人をまねく、お目にかゝる 〇願はくは、どうぞ 〇漢代の制度にて諸侯が秋天子に參内すること 〇國調うく(こひ受ける、ひきうける)  
 【請老】セイラウ 退隱を願ふこと。  
 【請求】セイキウ 〇ひもとめる。  
 【請室】セイシツ 處分されるのを待ちあひる所  
 【請託】セイタク 自分に都合よきやうに權力ある人にたのむ。  
 【請給】セイキツ 上より申し受けること。  
 【請假】セイカ 官吏又は議員等が暇をこひねがふこと。

### 類語

に置く 巡査。  
 懇請ケン 聘請ヘイ 奏請ソウ 造請ソウ  
 懇請ケン 新請シン 群請グン 請請セイ  
 勸請カン 普請フン

### 諍

サウ  
 ①あらさふ(争) 〇いさむ(諫)  
 【諍友】サウユ 互ひに惡を諫め合ふ友。  
 【諍論】サウロン 言ひ争ひ論ずること。

### 諷

シユソウ  
 相談する、はかる  
 【諷訪】シユハツ たづねまはる。すは  
 【諷謀】シユボウ はかりごと。

### 詠

タク  
 意に同じ

### 諒

リヤウ  
 うつたふ(訴) 諍りうつたへる

諒

### 諷

セン  
 上手にそしるさま

### 諉

シユク  
 いつはる(詭)あやし(怪)

### 論

ロンリン  
 ①理を述べる、意志をのべあかす 〇善惡を批評す 〇言ひ争ふ、あげつらふ、とやかくいふ 〇さばく、罪を決す 〇文章の一體 〇すぢみち、條理  
 【論士】ロンシ ぎろんをするもの、論者。  
 【論及】ロンキヤフ 説き及ぼす、論じ至る。  
 【論文】ロンブン 主義主張を述べたる文章、

論説文。  
 【論功】 ロンコウ 功績の大小をとり調べる。  
 【論外】 ロンゲウイ 論ずる價値なきこと  
 【論列】 ロンレツ 是非曲直をならべ論ず。  
 【論旨】 ロンシ ざろんの主意。  
 【論次】 ロンジ 意見をのべて順序をきめる  
 【論告】 ロンコク ①己の意志をのべる ②検事が被告の罪を論定して求刑すること。  
 【論判】 ロンパン ①是非を論じわかつ ②いひあらしひ、口論、争論。  
 【論究】 ロンキウ どこまでも理を推して論じ究める。  
 【論決】 ロンケツ ざろんしてきめる、論定。  
 【論過】 ロンクワ 論理に誤謬ありて推理者自身を欺く推理及三段論法。  
 【論孟】 ロンマウ 論語と孟子。  
 【論定】 ロンテイ 論決に同じ。  
 【論争】 ロンサウ 是非曲直を論じあらしふ。  
 【論建】 ロンケン 官府などに對して自分の意見を辯じたてること。  
 【論者】 ロンシヤ 論士に同じ。  
 【論刺】 ロンシ 缺點を論じせめる。  
 【論客】 ロンカク ざろんをこのみてなす。  
 【論救】 ロンキウ 是非曲直を論じて其者をたすける。

【論奏】 ロンソウ 意見をのべて上奏す。  
 【論破】 ロンパ 説き破る、説破。  
 【論理】 ロンリ ①議論のすぢみち ②論理學の略。  
 【論策】 ロンサク 時事問題等を論じたる文章  
 【論詰】 ロンキツ いひこめる、論じなじる。  
 【論著】 ロンチャ 意見を論説し書を著はす。  
 【論義】 ロンギ 義理を解きあかす。  
 【論罪】 ロンサイ 犯罪を審理し刑罰を定める  
 【論説】 ロンセツ 論じとく、又其文章。  
 【論駁】 ロンパク 論難に同じ。  
 【論鋒】 ロンポウ 議論のいきほひ。  
 【論鋒】 ロンポウ いさかひ、言ひあらしひ。  
 【論敵】 ロンテキ 議論の敵手。  
 【論撰】 ロンセン 意見をのべて書をえらむ。  
 【論談】 ロンタン 論じかたる。  
 【論篤】 ロンドク 言説の丁寧なること。  
 【論據】 ロンキョ 議論のよりどころ。  
 【論戦】 ロンセン 人とざろんをすること。  
 【論壇】 ロンタン 議論をたゝかはす所、又その範圍。  
 【論點】 ロンテン ざろんの要點。  
 【論題】 ロンダイ 議論又は論文の題目。  
 【論斷】 ロンダン 論決に同じ。  
 【論贊】 ロンサン ①功業を論判してほめる ②史傳の記述が終つた後に作者が之に下

す評論。  
 【論難】 ロンナン 議論して缺點を攻撃す、論駁。  
 【論證】 ロンショウ 是非曲直を辯じ立て、證明すること。  
 【論釋】 ロンシキ あげつらひて尋ねる。  
 【論議】 ロンギ いひあふ、議論を戦はす。  
 【論纂】 ロンサン 議論して撰集すること、又其書物。  
 【論辯】 ロンベン 事物の道理を論究しわかつ  
 【論理學】 ロンリガク 思想の法則にもとづき物事を論定する方法を研究する科學。  
 【論功行賞】 ロンコウコウシヤウ 功の大小を銓衡しそれに應じて賞をあてがふこと。  
 【論三大功二者不レ録二小過二】 タイゴウワロズルモノヘテウワラクセメズ 大功を論賞するときには其の小過を問はざる意。

類語  
 異論 ロン 群論 ロン 稱論 ロン 討論 ロン  
 細論 ロン 確論 ロン 定論 ロン 虛論 ロン  
 時論 ロン 評論 ロン 抗論 ロン 衆論 ロン  
 正論 ロン 高論 ロン 奇論 ロン 持論 ロン  
 講論 ロン 辯論 ロン 談論 ロン 議論 ロン  
 放論 ロン 争論 ロン 謔論 ロン 駁論 ロン  
 切論 ロン 佳論 ロン 陳論 ロン 私論 ロン

公論 ロン 謀論 ロン 史論 ロン 警論 ロン  
 萬論 ロン 輿論 ロン 口論 ロン 廷論 ロン  
 【諛】 シン つぐ(告)のべる(述)  
 【諛】 チヤウ 國字、命令、上のいひつけ  
 九畫  
 【諛】 ユ へつらふ(詔)へつらひ、おもねる、追從  
 【諛言】 ユゲン 諛辭に同じ。  
 【諛悅】 ユエツ 諛ひよることばせること。  
 【諛然】 ユゼン へつらふ形容。  
 【諛媚】 ユビ こびへつらふ。  
 【諛詔】 ユシ へつらふことば。  
 【諛辭】 ユジ へつらひのことば。  
 【諛嘆】 ユキヤク へつらひ笑ふ。  
 【諛墓辭】 ユボジ 文士などが利にまよひ筆を曲げて殊更に死者を賞揚する墓誌銘をいふ。

【諛】 テフ うかゞふ(窺)敵の様子をさぐり密かに味方に知らす、しめす ①しのび、まはしもの ②文字を記したるふだ(諜) ③しやべる(喋)  
 【諜人】 テフジン まはしもの、間者。  
 【諜知】 テフチ ひそかに事情をさぐり知る  
 【諜者】 テフシヤ 間者、まはしもの。  
 【諜報】 テフハフ 敵情をさぐり知らせる、又其しらせ。  
 【諜賊】 テフゾク まはしもの、しのびの者。  
 【諛】 ヘン 上手に云ひまはす、巧言  
 【諛】 シ この(是)  
 【諛】 ケン ①わする、忘卻 ②やかまし、かまびすし(喧)  
 【諛呼】 テンコ やかましくよばる、喧呼。

【諛】 シ 大層にてのゝしる。  
 【諛傳】 ケンデン かまびすしくいひ弘めると  
 【諛駭】 ケンガイ がやゝとさわぎ驚く。  
 【諛擾】 ケンゼウ さわぐ、さうろくしい。  
 【諛諛】 ケンケン やかましく言ひ争ふこと。  
 【諛】 シ ①死者に贈るよび名、おくり名(諡號) ②おくり名を附ける、おくりなす  
 【諛】 ゴン コン じやうだん、じやうだんをいふ、又其人  
 【諛名】 コンメイ あだな、綽名。  
 【諛】 ガク 直言する、忌み憚らず正しく言ふ  
 【諛々】 ガクガク 字解を見よ。  
 【諛】 タイ タイ つまびらかにする、あきららかにす ①あきらか、つまびらか ②まこと、佛道のさとり ③國訓あきらむ、あきらめ(思ひきる、斷念する)

【諧思】タイシ 能くかんがふ。  
 【諧料】タイレウ つまびらかに度ること。  
 【諧視】タイシ 諧親に同じ。  
 【諧當】タイタウ たちまち、にはかに。  
 【諧聽】タイチャウ つまびらかに聞く、はつきりときく。  
 【諧認】タイニン あきらかにみとめる。  
 【諧觀】タイクワン 能く見る、明察す。

諧

カイ

諧

①かなふ、調和する、ととのふ。②やはらぐ(和)物價を適當にきめる。③おどけじやうだん、戯談。  
 【諧比】カイヒ したしみ馴れる、やはらぎしたしむ。  
 【諧因】カイイン 心が打ち解けてたよりあふ。  
 【諧和】カイワ ①仲よくす、かなひやはらぐ。②音楽の調子の調ふこと。  
 【諧易】カイイ 戯談を言ひ打ちくつるぐ。  
 【諧捷】カイセツ 能く調ひてはやくこと。  
 【諧語】カイゴ ①うちとけてかたる。②じやうだん、おどけ。  
 【諧暢】カイチャウ やはらぎ調ふこと。  
 【諧緝】カイシツ やはらぎあつまる。  
 【諧嬉】カイキ たはむれ喜ぶ。

諫

カン

諫

【諫諍】カイキヤク じやうだん、だうけ、戯諍。【諫穆】カイボク やはらぎ合ふさま。  
 類語 歡諧カウケン 談諧カウイ 變諧カウイ 嘲諧カウイ  
 【諫】カン ①人の悪事をさとしたとす、いさめる忠告する。②前非を悔い告める。③いさめいけん  
 【諫止】カンシ 諫めて思ひとまらせる。  
 【諫正】カンセイ いさめて不善をたゞす。  
 【諫言】カンゲン いさめのことば。  
 【諫死】カシ 君をいさめてしす、死をもつていさめること。  
 【諫官】クワンカン 君をいさめる役。  
 【諫争】カンサウ いさめ争ふ。  
 【諫垣】カンケン 次に同じ。  
 【諫阻】カンソ いかん、諫言。  
 【諫院】カンエン 諫官の役所。  
 【諫草】カンサウ いさめの文書。  
 【諫疏】カンシ 諫言の上書、諫める文書。  
 【諫鼓】カンコ 昔下民にして君主をいさめんとする者又は訴願ある者に打ち鳴らさしめるために朝廷の門に備へて置きたる太鼓。

諭

ユ

諭

①さとす、教へ悟らしめる。②悟り知るさとる、又さとり。③たとふ、たとへ(喻)④官より人民に言ひきかすこと、ふれしめす、又その文書。  
 【諭示】ユシ 官府から人民に諭し示す、又その文書。  
 【諭旨】ユシ ①いひきかすこと。②清代に於ける天子の勅諭。  
 【諭告】ユコク ①諭示に同じ。②文體の一、諭告文。

【諭教】ユケウ さとし教へる。  
 【諭達】ユタツ 諭示に同じ。  
 【諭德】ユトク 唐代の官名にして皇太子の侍從。  
 【諭旨免官】ユシメンクワン 理由をつけさとして官を免ずる。

類語

申諭 ユン 要諭 ユウ 奏諭 ユウ  
 慰諭 ユイ 教諭 ユキョク 詔諭 ユウ  
 高諭 ユウ 開諭 ユイ 謙諭 ユン 贊諭 ユビ  
 宣諭 ユン

諷

シ

諷

【諷】シ 恐れるさま  
 はかる(香)とふ、上より下に相談すること  
 【諷求】シキウ とひもとめる。  
 【諷決】シケツ 謀り定める。  
 【諷問】シモン 諷詢に同じ。  
 【諷察】シセン 事をはかり命をうける。  
 【諷謀】シボウ たづねはかる。  
 【諷詢】シジュン 意見をたづねる、はかりと

諱

キ

諱

【諱】キ ①かくす、いむ。②よける、さける(避)尊者の本名を呼ぶを避ける。③いみな(嫌)又おそれる、遠慮する。④いみな、生前の本名(生者は名、死者は諱といふ)。  
 【諱忌】キキ ①いむ、又陰陽道などにていみはどかるべき事柄。②恐れはどかる。  
 【諱隱】キイン いみはどかりて隠す。  
 【諱】カン ①そらんず、そらにて覚える、十分心得て居る、熟達してゐる。②そらよみ、ちうよみ、又そのこと。  
 【諱究】カンキウ 諱記して研究す。  
 【諱委】カンイ 諱悉に同じ。  
 【諱記】カンキ ちうにて覚える、そらんず。  
 【諱悉】カンシツ 端から端まで十分に覚えつくす。  
 【諱誦】カンショウ ちうよみ、そらてよむと。  
 【諱算】カンサン めのこざん、胸ざん、暗算。

誦

ダン

誦

よくしやべる、喋々  
 【誦々】ナンナン 多言なるさま。  
 【誦】シン ジン ①まこと(信實)に信ず、あてにす、まことにす。②まことに、ほんたうに  
 【諷】フウ ①そらんず、そらてよむ。②とほまはしいふ、あてこすり、又そのこと。  
 【諷味】フウイ おもむき、あぢ。  
 【諷悟】フウゴ 自ら氣付くやうにさとすとす。  
 【諷判】フウパン それとなくそしる、あてこする。  
 【諷勉】フウベン 其れと明かに言はずして善にす。め従はしめること。  
 【諷規】フウキ 他事によせていさめたす



【諷詠】フウエイ 詩歌をそらんじうたふ。  
 【風意】フウイ せてこすりのこゝろ。  
 【風嘘】フウセウ うたふこと。  
 【諷誦】フウシュウ 書物をそらよみず、誦誦。  
 【諷勸】フウクワン 事によせてさとしすむ。  
 【諷諫】フウカン 夫となく遠廻しに諫めると。  
 【諷諭】フウユ 遠まはしにさとす。  
 【諷刺畫】フウセツガ 物事を諷して描ける繪畫。

類語

諷風 フウ  
 吟風 フウ  
 玩風 フウ  
 微風 フウ  
 傳風 フウ  
 嗟風 フウ  
 朗風 フウ  
 箴風 フウ

諸

①もろ、もろく、衆多②之於の略、これ、「之乎」の略③無意味の助辭、や  
 【諸人】シヨジン もろくの人、衆人。  
 【諸子】シヨシ 諸子百家④尊長者が其目下を呼ぶ第二人稱、おのくがた、きみがた⑤周代の官名にて諸侯の世子の事を掌る者。  
 【諸士】シヨシ 多くの人士。  
 【諸天】シヨテン もろくの天上界、三界二十八天ありといふ佛説、又そこに住する神々。

諸

【諸王】シヨウワ 王孫たち①親王の宣下なき皇子・皇孫の稱。  
 【諸毛】シヨウマウ 筆の異名。  
 【諸父】シヨフ 父の衆兄弟、即ちをち・伯父・叔父・季父等の總稱。  
 【諸方】シヨハウ 諸處、はうく。  
 【諸母】シヨボ 父の姉妹の總稱、をば、小母。  
 【諸司】シヨシ もろくの役人、百官。  
 【諸生】シヨセイ 學生、書生。  
 【諸色】シヨシキ 諸方面、又その部類①もろくの品物。  
 【諸君】シヨクン 文法上の第二人稱、きみたち、みなさん。  
 【諸紀】シヨキ 系圖、事跡。  
 【諸役】シヨエキ 各種の税金又は賦役。  
 【諸事】シヨジ もろくの事柄。  
 【諸侯】シヨコウ 領主、だいまやう。  
 【諸島】シヨタウ もろくの島。  
 【諸彦】シヨゲン すぐれたる多くの人①氏衆に對する敬語。  
 【諸症】シヨシヤウ 多くの病症。  
 【諸家】シヨカ もろくの家の、萬戶②多くの流派。  
 【諸病】シヨビヤウ もろくのやまひ。  
 【諸夏】シヨカ 支那本土のもろくの國、夏は大國、夷狄に對していふ。

【諸策】シヨサク もろくのはかりごと。  
 【諸般】シヨハン それく、各種、百般。  
 【諸許】シヨキヨ もろく、衆多。  
 【諸聲】シヨセイ もろともに呼ぶ聲。  
 【諸道】シヨダウ もろくの方面、又は場所①諸般の技藝、又よろづのこと。  
 【諸賢】シヨケン 多くの賢者②一般人の敬稱。  
 【諸手】シヨテ ふたつの手、兩手。  
 【諸官名】シヨクワンシヤク もろくの役所。  
 【諸陵寢】シヨリョウリン 宮内省の一局にして陵墓に關する一切の事をつかさどる所  
 【諸等數】シヨトウスイ 二つ以上の單位の名數を以て表された數、複命數。  
 【諸子百家】シヨシヒヤクカ 春秋戰國時代に輩出した老・莊・申・韓其他主として儒教以外の學者、轉じて多くの學者と其著書。  
 【諸行無常】シヨギヤウムジョウ 一切の物は皆移り變りて毫も定住せずとの佛説。  
 【諸法無我】シヨホフムガ すべての者は悉く因縁和合のはたらきの現れにして實我の存在を認めずとする佛説。

類語

因諸 シヨ  
 方諸 シヨ  
 扶諸 シヨ  
 偏諸 シヨ

諛

①世俗に言ひ傳へてゐる話、ことわざ②さとびたる言葉、俚言  
 【諛文】ゲンブン 朝鮮にて俗用の文字、諛文。  
 類語  
 古諛 ゲン  
 俚諛 リン  
 野諛 ヤ  
 里諛 リ

諛

①あざむく(欺)いつはる(詐)②わする(忘)③わすれぐさ(萱)  
 【諛草】ケンサウ わすれぐさ、萱草。

諾

①はいと答へること、返答、がつてん、よし、又人に呼ばれたる時ゆつくりと答へる(返答の遅速は敬意の多少による、唯は早くこたへると)②うべなひ、うべなふ、うけひく、うけあふ、承知する③こゝろよく人の言に従ふさま  
 【諾否】ダクヒ うけがふこと、こぼむこと  
 【諾唯】ダクキ はいとへんじすること。

【諾々】ダクダク 應對のことば、はいくはいいくと人の言に従ふ貌。

謀

①はかる、思案する、おもんばかる②問ふ、他に相談す③もくろむ、はかりごとを立てる、企てる④もくろみ、はかりごと、術策  
 【謀士】ボウシ はかりごとにかみなる人。  
 【謀反】ボウハン 君國に仇す、むほん⑤君主を弑逆すること⑥王朝時代の罪名にして君主を弑逆する罪。  
 【謀主】ボウシュ 主となりて謀計を仕組みたる人、參謀長。  
 【謀臣】ボウシン はかりごとに巧みなる臣僚  
 【謀泄】ボウセツ 謀が他にあらはれもれる。  
 【謀判】ボウパン にせいん、にせはん、偽印。  
 【謀計】ボウケイ はかりごと、計略。  
 【謀叛】ボウハン 君國に叛すること②國に背き偽朝に従ふこと③王朝時代の罪名にして本國に背き偽朝に従ふ罪。  
 【謀殺】ボウワツ 豫めはかりて人を殺すこと  
 【謀詐】ボウサ いつはりのはかりごと。

謀

【謀略】ボウリョク 謀計に同じ。  
 【謀將】ボウシヤウ 謀略にたくみなる大將。  
 【謀畫】ボウワツ 謀計に同じ。  
 【謀飲】ボウイン 前に同じ。  
 【謀論】ボウロン はかりごと。  
 【謀圖】ボウト はかりごと、又はかる。  
 【謀慮】ボウリョ よきふんべつ、巧みな考へ。  
 【謀謨】ボウモ はかりごと。  
 【謀議】ボウギ はかる、相談する。  
 【謀及二婦人】ハカリゴトフジニオヨブ 男子が事を成すに當り婦人に謀るときは瀧洩の恐れあるよりその謀を諷りていふ。

類語

宸謀 シン  
 聖謀 セイ  
 權謀 ケン  
 淺謀 セン  
 深謀 シン  
 規謀 ケイ  
 聖謀 セイ  
 沈謀 シン  
 秘謀 ヒ  
 譎謀 ケツ  
 議謀 ギ  
 奇謀 キ  
 雄謀 ユウ  
 軍謀 クン  
 議謀 ギ  
 奇謀 キ

謁

①おめみえ、貴人に面謁する②おめどほり、めどほりす③まゐる、まうづ(詣)④まうす(申)言上す⑤とりつぎ、應接  
 なふだ、名札、名刺

【謁合】 エツシヤ 客をもてなすところ。  
 【謁見】 エツケン 貴人に面接すること。  
 【謁刺】 エツシ 面謁を願ふ爲に出す名刺。  
 【謁詣】 エツグイ 面謁におもむくこと。  
 【謁者】 エツシヤ とりつぎの官、又君命により各國に使する人。  
 【謁請】 エツセイ 面會をこふこと。

### 類語

啓謁 エツクイ 迎謁 エツグイ 典謁 エツテン 請謁 エツセイ  
 私謁 エツシ 朝謁 エツチウ 内謁 エツナイ 拜謁 エツハイ  
 伏謁 エツフツ 入謁 エツニフ

### 謂

①いふ、つげる(告)うはさす、評論す  
 ②名づける、となへ③おもへらく、おもふ、思ふに④いはれ、理由⑤所謂と連用して「いはゆる」と訓み世間で言ふ所の、意に用ゐる、謂何と連用して「いかん」と讀む、又「なんとかいふ」と讀む⑥つとむ(勤)

# 謂

### 諄

諄の俗字

### 十畫

### 謔

トウ

うつす(寫)原本より寫しとる  
 【謔本】 トウホン ①原本より寫す、又其うつし②公文書又は正本のうつし。  
 【謔寫】 トウシヤ うつしとる、謔錄。  
 【謔錄】 トウロク 前に同じ。

# 謔

### 謬

ケン

①どもる(吃)②直言する貌、正言するさま③歎詞、あゝ、又發語の辭  
 【謬謬】 ケンケン 直言してへつらはらず、直言すること。  
 【謬々】 ケンケン 直言すること。

### 諛

カク

すみやか(速)又そのさま

### 諛

歌に同じ

### 謎

ベイメイ

別の意味を藏して人をして迷はしめる詞、なぞ、なぞ

# 謎

### 謔

ビツヒツ

やすらか(泰)しづか(寂)おだやか(穩)

### 謔

ケイ

①のゝしる(嘗)はづかしむ(辱)②不正なる貌

### 謔

キヤクギヤク

①おどけ、じやうだん②じやうだんをいふ、戲言す  
 【謔浪】 キヤクラウ ふざける、たはむれる。  
 【謔笑】 キヤクセフ たはむれわらふ。

### 謔

シユクシヨク

①衣服をとゝのへる貌②ぬきんてるさま③おきあがる、たつ(起)

### 謔

ハウバウ

そしる、そしり、悪口、誹謗  
 【謔言】 ハウケン そしることば。  
 【謔沮】 ハウソウ そしりて反對すること。

# 謔

【謔怨】 バウエン そしりうらむ。  
 【謔排】 バウハイ そしりしりぞける。  
 【謔書】 バウシヨ 人をそしる手紙。  
 【謔毀】 バウキ そしる、誹謗。  
 【謔詆】 バウテイ そしる、けなす。  
 【謔嗤】 バウシ そしりわらふ。  
 【謔譏】 バウキ そしり論ずる②わるくち悪言。

【謔罵】 バウバ のゝしりそしる。  
 【謔嘲】 ハウチウ そしりあざける。  
 【謔譽】 バウヨ そしりとほまれ。  
 【謔謔】 バウタク 誹りにくむ。

### 類語

毀謗 バウキ 誹謗 バウキ 誹謗 バウキ 誹謗 バウキ  
 猜謗 バウイ 誹謗 バウイ 誹謗 バウイ 誹謗 バウイ  
 虛謗 バウヨ 誹謗 バウヨ 誹謗 バウヨ 誹謗 バウヨ

### 謙

ケン

①人に譲る、へりくだる、抑損す、又そのこと②きらひ(嫌)うたがひ(疑)③易の卦の名④こゝろよし(快)あきたる(懐)

【謙己】 ケンコ へりくだること。  
 【謙屈】 ケンクツ へりくだるさま。

# 謙

【謙柔】 ケンジウ たかぶらずしてやさしきと  
 【謙抑】 ケンヨク へりくだり抑制す。  
 【謙卑】 ケンヒ 他を敬ひ己れを卑くす。  
 【謙沖】 ケンチュウ 謙虚に同じ。  
 【謙和】 ケンワ へりくだりて温良なり。  
 【謙長】 ケンチヤウ へりくだりておそれるさま  
 【謙約】 ケンヤク へりくだりてひかへる。  
 【謙厚】 ケンコウ 深くへりくだる。  
 【謙退】 ケンタイ へりくだる、己を屈す。  
 【謙虚】 ケンキョ 謙遜してわだかまりなし。  
 【謙裕】 ケンユウ 驕らずして心のゆるやかなること。

【謙巽】 ケンソン 謙遜に同じ。  
 【謙崇】 ケンシュウ へりくだりたふとぶ。  
 【謙恭】 ケンキョウ へりくだりてつゝしむ。  
 【謙率】 ケンシユツ へりくだりてさつぱりせること。

【謙遜】 ケンソン へりくだりてゆるぶる。  
 【謙慮】 ケンリョ へりくだりてつゝしむ。  
 【謙稱】 ケンショウ へりくだりていふとなへ  
 【謙敬】 ケンケイ へりくだりつゝしむ。  
 【謙德】 ケントク 謙讓なる行爲。  
 【謙廉】 ケンレン へりくだりて心のいさぎよきこと。

【謙默】 ケンモク 謙遜にして言少し。  
 【謙慎】 ケンシン へりくだりつゝしむ。

【謙愚】 ケンゲン 前に同じ。  
 【謙々】 ケンケン へりくだる貌。  
 【謙謙】 ケンケン へりくだりてつゝしむ。  
 【謙辭】 ケンジ 謙遜して發する言葉。  
 【謙讓】 ケンジヤウ 謙遜に同じ。

### 諷

エキ

【諷中】 カウチュウ 神佛の信仰者の組合。

【諷古】 カウコ 昔の道を説く。  
 【諷求】 カウキウ しらべ求める。  
 【諷究】 カウキウ 説きあかし究める。  
 【諷明】 カウメイ 事理を講究して明らかにす  
 【諷和】 カウワ 交戦せる兩國が仲なほりすること。

【諷武】 カウブ 武術を稽古する。  
 【諷席】 カウセキ 講筵に同じ②師に送る書

【諷】 カウ コウ

# 諷

簡に用ゐる敬語。

- 【講師】カウシ ①學術の講義をする人 ②教會にて歌を讀みあげる人 ③昔國分寺にて佛書を講じ又僧尼の事を掌りし僧官
- 【講座】カウジ ①講筵に同じ ②大學教授が其擔任する學科目の爲に定めし地位。
- 【講旅】カウリョ 軍隊の操練を爲すこと。
- 【講堂】カウドウ 學藝道義等を講義する所。
- 【講授】カウジュ 書を講じ教をさづける。
- 【講貫】カウクワン 講習、稽古する。
- 【講帷】カウキ 董仲舒が帷を下して子弟に講義したる故事、講筵と同意。
- 【講道】カウダウ 道理を説き教へる。
- 【講話】カウワ 學術上の説話。
- 【講解】カウカイ ①講和に同じ ②講義に同じ
- 【講試】カウシ 究めさぐる。
- 【講義】カウギ 文章又は學說等の意味を解き明かすこと、又其書物。
- 【講頌】カウショウ 宮中御歌會のとき發聲に次ぎて第二句より同音に其歌を吟唱する役。
- 【講筵】カウイ 稽古しならぶ。
- 【講筵】カウエン 學術道義などの講義をなす
- 【講演】カウエン 講義して口述す。
- 【講説】カウセツ 講義に同じ。
- 【講誦】カウショウ 講讀に同じ。

【講論】カウロン 意味をとき明かして論議すること。

- 【講談】カウタン 講釋の①に同じ。
- 【講學】カウガク 學問を研究すること。
- 【講藝】カウゲイ 學術などをあきらかにきはめる。
- 【講壇】カウタン 講筵に同じ。
- 【講釋】カウシヤク ①軍談實錄情話等を巧みに話すこと、又そのはなし ②講義。
- 【講讀】カウドク 書物を講義してよむ。
- 【講義錄】カウギリク 學藝の講義を編纂して定期に發行するもの。
- 【講東談西】カウトウカウサイ 彼是と講評する ①講和談判】カウワタンパン 交戦國が和睦して平和を克復すること。

類語

- 開講カウカイ 勸講カウカン 研講カウケン 都講カウトウ
- 進講カウジン 廢講カウハイ 代講カウダイ 覆講カウフク
- 聽講カウテイ 畫講カウワ

謝

①御禮をのべる、又おれい ②いなむ、ことわる ③あやまる、わびる ④しばむ、おとろへる、退き去る

類語

- 開謝カウカイ 陳謝カウチン 懇謝カウケン 追謝カウツイ
- 悔謝カウクワイ 深謝カウシン 驚謝カウキョウ 厚謝カウコウ
- 跪謝カウクワイ 伏謝カウフク 辭謝カウジ 報謝カウハウ
- 代謝カウダイ 感謝カウカン 萬謝カウマン

⑤いとまごひす ⑥申し立つ、或事情を言ひ立て、官を辭す。

- 【謝老】シヤラウ 老年に及びて退官を願ふこと
- 【謝金】シヤカン お禮のため贈る金。
- 【謝狀】シヤジャウ 謝禮の手紙、謝罪の書狀
- 【謝表】シヤヘウ 君恩に對するお禮の上書。
- 【謝恩】シヤオン 受けし恩に對して禮をのべる
- 【謝病】シヤビヤウ 病氣と稱してことわる。
- 【謝絶】シヤゼツ いなむ、ことわる。
- 【謝意】シヤイ ①お禮のこゝろもち ②わびをするこゝろ。
- 【謝罪】シヤジ ①わびる、あやまる。
- 【謝遣】シヤケン ことわる、はねつける。
- 【謝儀】シヤギ 次に同じ。
- 【謝禮】シヤレイ 人に世話になつた御禮。
- 【謝辭】シヤジ 御禮を述べること、又禮狀。
- 【謝公之展齒】シヤコウノケンシ 謝靈運が下駄をはきて山に上る時は其前齒を去り下る時は後齒を去りし故事。

謫

さげふ(叫)よぶ、大聲にてよぶ

諂

うたがふ(疑)

謠

うたふ、うた(樂曲樂器に合さず)に歌ふもの ②流言、うばさ ③國調うたひ (猿樂の能に合せて歌ふうたひもの、又其歌詞、謠曲)

- 【謠曲】エウキョク うたひ。
- 【謠言】エウゲン 世間のうはさ、風説。
- 【謠俗】エウゾク 世上の風俗。
- 【謠歌】エウカ うたをうたふ。
- 【謠誦】エウショウ うたふこと。
- 【謠誦】エウショウ うたふこと。

類語

- 歌謠カ 童謠エドウ 謠謠エウワ 風謠エフウ
- 詩謠シ 民謠ミン 吟謠イン 詠謠エイ

十一畫

警

せきばらひ、しはぶき

謨

はかりごと、謀策、大きなはかりごと ②はかりごとを定める、はかる ③なし(莫)

類語

- 英謨エイ 睿謨エイ 高謨カウ 皇謨カウ
- 宸謨シン 宏謨カウ 廟謨ボウ 朝謨チウ
- 淵謨エン 玄謨ケン 嘉謨カ 令謨レイ
- 良謨リヤウ 奇謨キ 忠謨チュウ

謫

とがめる、せめる、譴責する ②役人が官位をおとされて遠方にやられること ③怪しき雲氣

【謫仙】タクセン 天上界より人間界へ鳥流に

謬

あやまる(誤)たがふ(違) ②あやまりましがひ ③いつはる(詐)だます、あざむく

- 【謬字】ビウジ 字畫正しからざる文字。
- 【謬言】ビウゲン あやまれることば。
- 【謬見】ビウケン まちがつた考へ、あやまつた見込。
- 【謬戾】ビウレイ 誤りもとる。
- 【謬辱】ビウジヨウ はづかしめること。
- 【謬悠】ビウイウ まちがひてとりとめなきこと
- 【謬答】ビウタウ いつはりの返説。
- 【謬計】ビウケイ 謬算に同じ。

【謔傳】ビウジン ①きよちがひ、きよあやま  
り。②まちがつたうはき。  
【謔算】ビウサン 間違つたはかりごと。  
【謔錯】ビウサク あやまり。  
【謔誤】ビウゴ あやまり、誤謬。  
【謔濫】ビウラン 誤りて實を失ふこと。  
【謔論】ビウロン まちがひたる議論。

類語

詭謬ビウ 偽謬ビウ 愚謬ビウ 錯謬ビウ  
差謬ビウ 違謬ビウ 舛謬ビウ 迷謬ビウ  
偏謬ビウ 誤謬ビウ 訛謬ビウ 脫謬ビウ

謔

謔に同じ

謳

オウ

①うた(吟歌)②うたふ、口を揃へてう  
たふこと  
【謳吟】オウギン ①歌をうたふ②善行等をほ  
めてうたふ。  
【謳誦】オウシヨウ ①うたふ、うたを歌ふ。  
【謳歌】オウカ 仁徳などをありがたがつて  
ほめてうたふ。

謔

ガウ

謔

前と同じ

謹

キン

①つゝしむ、自ら戒める、恐れかしこ  
む②つゝしみ、かしこみ  
【謹上】キンジヤウ 書状の末尾に用ゐる詞、  
つゝしみたてまつる。  
【謹介】キンカイ つゝしみぶかきさま。  
【謹正】キンセイ 憤み深くして正し。  
【謹守】キンシュ つゝしみまもる。  
【謹言】キンゲン つゝしみ申し上げる。  
【謹状】キンジヤウ 他人の行狀傳記等を記す  
時のことば。  
【謹厚】キンコウ つゝしみありて手あつし。  
【謹直】キンチヨク つゝしみぶかくして正し。  
【謹恪】キンカク 職務を忠實に守る。  
【謹奏】キンソウ つゝしみて君主に言上す。  
【謹救】キンキウ つゝしみぶかきこと。  
【謹参】キンサン いんぎんにかまへてをると

謔

ベンマン

謔

呼の古字

謔



①いつはる、あざむく(欺)②おこたる  
(怠)③あなどる(慢)見さげる④ひろし  
(莫)とりとめなき貌  
【謔者】マンシャ 虚言をいふ人、うそつき、  
又うそを言ふ人。  
【謔易】マンイ みさげる、あなどる。  
【謔侮】マンブ 輕蔑しあなどる。  
【謔語】マンゴ よりどころなきはなし、取  
り止めのない話。  
【謔欺】マンキ あざむく。

十二畫

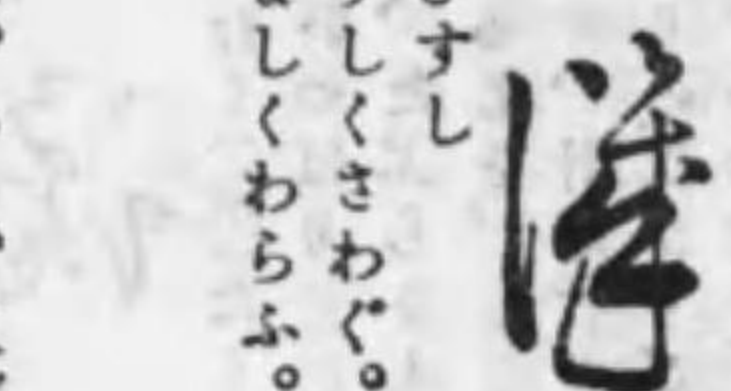
謔

嘲に同じ

譎

クワ

やかましい、かまびすし  
【譎沸】クワフツ かまびすしくさわぐ。  
【譎笑】クワセウ 口やかましくわらふ。



謔

キ

①おそれて發する聲、あゝ、又痛み恨  
む聲②かなしげなる聲の貌  
【謔々】キキ 悲しげなる聲の形容。

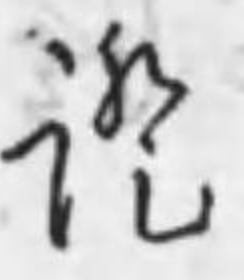
證

タイ

證

シヨウ

①しるしをあげる、あかす②しるし、  
あかし、證據  
【證人】シヨウジン ①裁判所に呼び出され宜  
誓のうへにて事實を證明する人②しよ  
うこにん、又うけにん。  
【證文】シヨウモン 證書に同じ。  
【證引】シヨウイン 證據としてひき出す、又  
其文章事例等のこと。  
【證左】シヨウサ 證人の②に同じ③よりど  
ころ、あかし。  
【證券】シヨウケン てがた、債權の證明書。  
【證明】シヨウメイ ①あかし、證據②證據を  
示してあきらかにす。  
【證書】シヨウシヨ 證據とすべき文書。  
【證票】シヨウヘウ 或事物の證據として受授  
する札。  
【證跡】シヨウセキ 證據となるべき事實。  
【證審】シヨウシン 調べてつまびらかにする  
【證憑】シヨウヒョウ あかしを立てること。  
【證據】シヨウコ 證據とたとへ。



證

シヨウコ

【證據】シヨウコ ①あかし、しるし、證左②  
あかしをたてる。  
【證權】シヨウケン 一般人が信仰し又は服従  
せしむべき權威或は典據。  
【證驗】シヨウケン あかし、しるし。  
【證據金】シヨウコケン 賣買契約の履行を確實  
に保證す爲に當事者の一方より他方に  
供出する擔保の金。  
【證券印紙】シヨウケンインシ 政府より發行して  
證券に貼らしめる印紙。  
類語  
引證シヨウ 古證シヨウ 誤證シヨウ 虛證シヨウ  
無證シヨウ 顯證シヨウ 辭證シヨウ 陰證シヨウ  
申證シヨウ 明證シヨウ 表證シヨウ 根證シヨウ  
典證シヨウ 考證シヨウ 比證シヨウ

謔

ダウ

謔

訛に同じ

謔

オウ

譎

ケツ

①こたふ(答) 應答する ②こたへ、へんじ、應答

①いつはる(詐) あざむく(欺) たくんでだます ②たくらみ、いつはり

【譎妄】 クワバウ 欺きしふること。

【譎罔】 クワバウ 人をだます、計略。

【譎計】 クワバウ 人をだます、計略。

【譎略】 クワバウ 人をだます、計略。

【譎詐】 クワバウ 欺きだます。

【譎欺】 クワバウ 欺きだます。

【譎詭】 クワバウ 譎詐に同じ。

【譎偽】 クワバウ 譎詐に同じ。

【譎諛】 クワバウ 方便策略を以ていさめること。

【譎誑】 クワバウ あざむく、いつはる。

【譎謀】 クワバウ いつはりのはかりごと。

【譎權】 クワバウ 前に同じ。

類語

狡譎 クワバウ 奇譎 クワバウ 諷譎 クワバウ 邪譎 クワバウ

辯譎 クワバウ 怪譎 クワバウ 背譎 クワバウ 詐譎 クワバウ

機譎 クワバウ 權譎 クワバウ 奸譎 クワバウ 詭譎 クワバウ

險譎 クワバウ 智譎 クワバウ

譏

キ

①そしり、そしめる(諷) ②けみする、たいす、とがめる

【譏刺】 キレ 所しる、又そしり。

【譏排】 キハイ 所しり退ける。

【譏詆】 キタイ 所しる、悪口をいふ。

【譏評】 キヒヤウ 非難する、そしる。

【譏管】 キシ 所しること。

【譏指】 キスシ 人の長短を論議してそしる

【譏錄】 キゲン いみきらふ。

【譏摘】 キチキ 所しりあばくこと。

【譏彈】 キダン 所しりたゞす。

【譏嘲】 キチウ 所しりあざむく。

【譏風】 キフウ 事に托してそしること。

【譏謗】 キバウ 所しる、又そしり。

【譏議】 キギ 所しる、非難する。

【譏詰】 キケン 所しりせめる。

【譏讒】 キヤン 所しりつける。

譏

セン

①えらび(揆) ②ほめたゝへる

諧

シン セン

諧

【識域】 シキキヤ 心理学にて人の意識の及ぶ範囲をいふ。

【識量】 シキキヤウ 識度に同じ。

【識業】 シキキヤウ 見識と學業。

【識辨】 シキキヤウ 識辨に同じ。

【識權】 シキキヤウ 物の役に立つべきを見抜きて使用する。

【識察】 シキキヤウ 物事の善悪を見わける能力

【識藝】 シキキヤウ 識見と藝能。

【識讀】 シキキヤウ 不レ識不レ知しレサレサ 思はずしらず、何時とはなく。

類語

淺識 シキキヤウ 明識 シキキヤウ 舊識 シキキヤウ

拔識 シキキヤウ 寡識 シキキヤウ 寐識 シキキヤウ 玄識 シキキヤウ

眼識 シキキヤウ 智識 シキキヤウ 敏識 シキキヤウ 博識 シキキヤウ

遠識 シキキヤウ 深識 シキキヤウ 測識 シキキヤウ 表識 シキキヤウ

標識 シキキヤウ 強識 シキキヤウ 局識 シキキヤウ 見識 シキキヤウ

相識 シキキヤウ 知識 シキキヤウ 有識 シキキヤウ 意識 シキキヤウ

譙

セウ

①とがめる、せめる、しかる、②やぐら、戊樓、城門のみ ③鳥の羽の破れ裂けたる貌

譚

談に同じ

譚

十三畫

譜

フ

譜

①系統の順序に書き記したるもの、系圖、又次第順序をたて、記したるもの、總稱 ②系圖をつくる、系統を立てる ③音樂の曲を記したるもの  
【譜代】 フダイ ④數代同一の君家に事へる ⑤代々引續きて今代に及ぶと。  
【譜曲】 フキョク 音樂のふし、樂譜。  
【譜系】 フケイ けいづ、系譜。  
【譜第】 フダイ 前に同じ。  
【譜牒】 フチウ 事實の順序をたて記したる

識

シキシ

識

①しる、心得る、さとの(悟)おぼえ(覺) ②みとめる ③しりあひになる、しられる、見知られる ④以上の名詞、又ちよ、かんがへ、しりあひ ⑤前生の煩惱により現在を生じたる結生の初念 ⑥しるす(誌) ⑦金屬製の道具にきざみつけたる凹刻の文字 ⑧はたじるし(幟)

【識見】 シキケン かんがへ、見識。

【識別】 シキベツ たしかに見分けると、鑑別。

【識拔】 シキハツ 人物を見わけて用ゐる。

【識果】 シキクワ 果報の理をさとり知る。

【識者】 シキシヤ 物事をよく知れる賢人。

【識度】 シキド 見識と度量。

【識悟】 シキゴ 賢明にして物事をよく心得てゐること。

【識薈】 シキケイ 始めて人に面接すること。

【識悉】 シキシツ しりつくすこと。

【識準】 シキジュン 識度に同じ。

【譜圖】 フウ 譜系に同じ。

類語

樂譜 フウ 歴譜 フウ 花譜 フウ 印譜 フウ

年譜 フウ 世譜 フウ 圖譜 フウ 菊譜 フウ

酒譜 フウ 琴譜 フウ

【諛】 サウ ソウ

さわぐ(騒) がや／＼いふ

狂諛 シキキヤウ 鼓諛 シキキヤウ 驚諛 シキキヤウ 群諛 シキキヤウ

諛諛 シキキヤウ 衆諛 シキキヤウ 譁諛 シキキヤウ 怒諛 シキキヤウ

諛諛 シキキヤウ

【諛】 セン ケン

①わがしこし、又その人の ②さかしらこと(妄言)

【警】 ケウ

①さけぶ(叫) 大聲を出す、疾呼すること ②あばく(訐)

【警】 ケイ キヤウ

警

① いましむ、氣をつける、用心する、注意する。② いましめ、用心、軍事上のそなへ、軍備。③ 非常を知らせいましめる。④ さきばらひ、さきおひ、行幸の時道路を衛り行人をよけさせること。⑤ さとし(敏)⑥ さめる、さます(覺)

【警手】ケイシュ 皇宮を守護する警官。  
 【警世】ケイセイ 世人に注意をあたへる。  
 【警句】ケイク ① 短句短文にて鋭き意味を有する文句。② 眞をうがった奇抜なる句。  
 【警列】ケイレツ 行儀正しくならぶこと。  
 【警吏】ケイリ 警官に同じ。  
 【警守】ケイシュ いましめまもる。  
 【警告】ケイコウ 用心するやうにいましめつげる、告げて注意せしめる。  
 【警戒】ケイカイ 用心する、いましめる。  
 【警夜】ケイヤ 夜を警戒すること。  
 【警固】ケイコ 非常をいましめ防ぐ、又その防備。  
 【警拔】ケイバツ 文章がよく事情をうがつてすぐれて居ること。  
 【警官】ケイカン 警察権を執行する役人、警察官。  
 【警柝】ケイタク 非常に備ふるために打ち鳴らすひやうしぎ。  
 【警枕】ケイシン 寢入るとすぐ倒れて目を覺

ましめる如く作つたまくら。  
 【警急】ケイキツ 急變をいましめて之に備へる用意をすること。② かはりごと。  
 【警保】ケイボ 社會の安寧を保つこと、又其れがため豫め戒める。  
 【警悟】ケイゴ さとりがはやい、才智がはやくまはる。  
 【警部】ケイブ 警察事務に關與する官吏。  
 【警敏】ケイミン 次に同じ。  
 【警起】ケイキ いましめおこす。  
 【警捷】ケイセツ はしこい、さとい。  
 【警備】ケイビ 萬一を注意して用心す。  
 【警報】ケイハウ ① 非常のしらせ。② 暴風雨などの來襲を前もつて告げるしらせ。  
 【警策】ケイサク ① 馬をいましめ走らせるに用ゐるむち、轉じて文章中にて全文を活動せしめる重要な單言雙句。② 詩文等のすぐれたもの。  
 【警視】ケイシ 警官の一、高等官の警察官。  
 【警度】ケイド 非常をいましめて注意すること。  
 【警語】ケイゴ 奇抜にして實際を穿ちたることば。  
 【警察】ケイサツ 國家及人民の安寧幸福をはかる爲め之に對する危害を排除する内務行政機關。

【警聞】ケイブン いましめのしらせ。  
 【警醒】ケイセイ 世人の迷をさめさす。  
 【警勵】ケイレイ いましめはげむ、いましめはげます。  
 【警衛】ケイエイ 非常をいましめ守る。  
 【警蹕】ケイヒツ さきばらひ、さきおひ。  
 【警覺】ケイカク いましめさとする。  
 【警鐘】ケイショウ 非常を知らすかね。  
 【警辯】ケイベン 機敏警拔なる辯口。  
 【警懼】ケイク いましめおそれる。  
 【警護】ケイゴ 警衛に同じ。  
 【警選】ケイセン 非常をいましめるために巡行すること、又その人。  
 【警戒色】ケイカイシキョク 動物が他の動物の迫害を防ぐ手段として特に具有せる體色。  
 【警保局】ケイボキョク 内務省の一局にして行政警察・高等警察・圖書出版・著作権等に關する事をつかさどる役所。  
 【警視廳】ケイシチョウ 内務省に屬して東京府下の警察・消防・衛生・犯罪檢舉などの事務を管理する官衙。  
 【警察署】ケイサツショ 警察事務を行ふ役所。  
 【警視總監】ケイシツカン 警視廳の長官。

類語 奇警ケイ 機警ケイ 總警ケイ 開警ケイ

備警ケイ 軍警ケイ 嚴警ケイ 邊警ケイ 猜警ケイ

【譖】セン タフ たはごと、うはごと、うはごとをいふ

【警】ヒ 解る

① たとへ、たとへる、比する。② さとる、さとす(曉)③ 警使と連用して「もし」と訓む

【警諭】ヒユタとへ、寓言、又たとへる。  
 【警諭】ヒユタとへさとす、又たとへ。  
 【警類】ヒルキ 警諭に同じ。  
 【警諭談】ヒユタン 寓話、たとへばなし。

【譯】エキ ヤク 外国の言語文字を國語になほして意味を通じしめること、又其なほしたる言語文章の稱。② 義理を説く、わけを解く。③ 國訓わけ(むね、ゆゑ、よし、理由、いはれ)

【譯出】ヤクシユツ 文章の意味を譯しあらはすこと。

【譯書】ヤクシヨ ほんやくしたる書物。  
 【譯官】ヤククワン つうべんの役人。  
 【譯述】ヤクジユツ やくし述べること。  
 【譯義】ヤクギ 譯したるわけがら。  
 【譯解】ヤクカイ 翻譯して解く、譯しときあかす。  
 【譯說】ヤクセツ やくしてとく、又その譯。  
 【譯讀】ヤクドク 翻譯してよむ。

類語 九譯ヤク 聖譯ヤク 偏譯ヤク 詳譯ヤク 傳譯ヤク 翻譯ヤク

【議】ギ 相談する、はかる、立案す、かんがへる(慮)① あげつらふ、論ず② 批評す、又其事を周制にて刑罰を斟酌すること

③ 文章の一體、論文  
 【議了】ギレウ はかり終る、相談がすむ。  
 【議估】ギコ ねぶみする、ねだんをつける。  
 【議決】ギケツ 相談がきまること。  
 【議定】ギテイ 相談して事をきめる。  
 【議長】ギチヤウ 議員を統率して議事を整理し又全會を代表する者、議會の長。  
 【議奏】ギソウ 昔武家からの奏聞を天皇に奏上したる公卿の職名。

【議度】ギド 相談する、はかる。  
 【議院】ギエン 帝國議會の一稱、又之を開設する場所。  
 【議事】ギジ 議會に於て議案の發案より議決に至るまでのたらしき。  
 【議員】ギイン 議會を組織する人。  
 【議郎】ギロウ 奏代に始りし論議を掌る官。  
 【議案】ギアン 議會に提出すべき原案。  
 【議會】ギイ ① 主として政事を決議する合議制の機關。② 帝國議會の略稱。  
 【議罪】ギザイ つみを論じてしらべる。  
 【議場】ギチャウ 評議する場所。  
 【議論】ギロン 意見を辯じ述べること、又其意見。  
 【議謀】ギボウ はかり相談すること。  
 【議題】ギダイ 議論・會議・討論などに於ける其題目。  
 【議定書】ギテイショ ① 相談して定めたる文書。② 國家を代表する全權委員に於て決定したる國際間の覺書。  
 【議決權】ギケツケン 會議が決議に與へる權。  
 【議事録】ギジロク 議會に於て議したる事項を記録したるもの。  
 【議院法】ギエンホウ 憲法附屬の法律にして帝國議會の組織作用及議員の權限等を規定したる法律。

【議事日程】ギジニフタイ其日の議事の順序を豫め定めおきたるもの。  
【議論風生】ギロンフウセイ 議論のさかんなる形容。

訓讀

【議論を上下す】上三下議論一をらんをじやうげす互に議論をたゝかはし争ふさま。

類語

- 嘉議 カギ 議議 ギギ 建議 ケンギ 計議 ケイギ
- 謀議 ボウギ 正議 テイギ 論議 ロンギ 輿議 ウギ
- 深議 シンギ 會議 クワイ 奏議 ソウギ 朝議 テウギ
- 廟議 ベウギ 訪議 フウギ 非議 ヒギ 邪議 ジャギ
- 衆議 シュウギ 群議 グンギ 異議 イギ 直議 チキョウギ
- 評議 ヒョウギ 談議 タンギ 審議 シンギ 協議 ギギ

十四畫

讀

ケン

讀

①せむ、しかる、とがめる、訶責する  
②しかり、とがめ、叱責  
【讀告】ケンコウ 罪をとがめつげる  
③鬼神が人生に天變地異を下していましめとがめる。  
【讀怒】ケンド とがめていかる、怒讀。

讀

カウ

讀

大聲にてよぶ、さけぶ(號)  
【譽】ヨ 譽  
①ほむ、ほめ、たゝへる  
②ほまれ、令聞  
③たのしみ  
【譽望】ヨバウ 名譽と人望、ほまれ。  
【譽聞】ヨブン 名譽と令聞。

類語

- 華譽 カウ 空譽 クウ 浮譽 フウ 薦譽 セン
- 稱譽 ショウ 功譽 コウ 德譽 トク 淑譽 シュク
- 高譽 カウ 美譽 メイ 令譽 レイ 廉譽 レン
- 推譽 スイ 面譽 メン

十五畫

讀

讀の俗字

讀

トク ドク トウ

①よむ、文字文章を見つゝ解す、聲を立て、論ず  
②よみ、文章のくぎり  
③國

讀

【讀責】ケンシヤ 過失をせめとがめる  
【職務上失策のありし官吏に加へる懲戒處分の一】  
【讀辱】ケンジヨク しかりはづかしめる。  
【讀訶】ケンカ とがめしかる。  
【讀罰】ケンチキツ 罪過をせめて位階の等級をおとすこと。

類語

- 大讀 ダイ 天讀 テン 呵讀 カ 怒讀 ド
- 罪讀 サイ 微讀 ヒ

護

コゴ

護

①まもる、すくふ(救)たすける、かばふ  
②統轄する、つきそひて警戒す  
③まもり、たすけ  
【護生】ゴセイ 衛生に同じ。  
【護法】ゴハフ 佛法を守護して外教にあたる  
④病氣又は神佛のたゝり等を訓伏して其人をまもる。  
【護軍】ゴダン 秦代創置の軍隊名、護衛兵。  
【護送】ゴソウ 罪人などを護り送ること。  
【護持】ゴヂ 神佛に祈る  
⑤まもりたもつ  
【護短】ゴタン 短所をかばひおほふ。  
【護符】ゴフ おまもり、まもりふだ。

【護照】ゴセウ 外國人が支那内地を旅行する時に支那政府より其人に下付する旅行免狀。  
【護摩】ゴマ 智慧の火にて煩惱の薪を焼きはらふ意味によつて火をもやし佛に祈ること、又その火。  
【護衛】ゴエイ つきそひて守る、又その者。  
【護謨】ゴム ①熱帯地方に産するゴムの木より採集する分泌液を原料として製したものの  
②セルロイドの俗稱。  
【護法神】ゴハフジン 佛法守護の神。  
【護身刀】ゴシントウ 護身の刀。  
【護身符】ゴシンプフ 神佛の守札、おまもり。  
【護憲三派】ゴケンサンバ 大正時代政友會・憲政會・革新俱樂部の三政黨が提携して特權内閣を倒し立憲政治を擁護せんとして起りたる黨派のこと。

類語

- 衛護 エイ 守護 シュ 賑護 ジン 全護 ゼン
- 匡護 クワイ 庇護 ヒ 看護 カン 防護 ボウ
- 愛護 アイ 擁護 ユウ 辯護 ベン

讀

チウ

讀

①たばかる、あざむく  
②はかる(籌)  
【籌張】チウチャウ あざむきて誇張す。

訓よむ(數へる、わかる)よみ(文字通りよみ下すこと、漢字の訓)  
【讀本】トクホン よみかたの書物、よみほん。  
【讀法】トクハフ ①新入の兵卒に言ひ渡す規則  
②周代の制度にて正月に州民を集め法令をよみ聞かせる儀式。  
【讀者】トクシヤ 其書物・新聞等をよむ人々。  
【讀師】トクシ 佛經を講演する僧。  
【讀破】トクハ よみつくす、よみやぶる。  
【讀書】トクシヨ 書物をよくすること。  
【讀經】トクキョウ 佛の經文を讀む。  
【讀畫】トクガフ 繪畫中の詩趣を玩味品評すること。

【讀會】トククワイ 議案の審査討論をいふ。  
【讀誦】トクシヨク よむ、よみ唱へる。  
【讀禮】トクレイ 親の喪に居ること。  
【讀人】トクジン よみて、歌を作りし人。  
【讀賣】トクウリ 珍聞奇事を印刷し讀みながら賣り行くこと。  
【讀解】トクケ 書を讀むに一種の節をつけて讀むこと、又習慣にて一種の異なる讀方をする。

【讀心術】トクシンジュツ 他人の心を見ぬ術  
【讀書人】トクシヨジン 學者のこと。  
【讀時令】トクジレイ 四時ごとに其政令を人民に讀みまきかせる布令。

讀

讀に同じ

讀

讀の俗字

讀

亦に同じ

- 再讀 サイ 快讀 クワイ 玩讀 ワン
- 熟讀 ジュク 誦讀 シュク 諷讀 フウ 覽讀 ラン
- 披讀 ヒ 細讀 サイ 朗讀 ロウ

諷

セン

諷

あさはか、淺薄  
【諷劣】セシヤ あさはかにして劣る。

十六畫

變

ヘン

變

①かはる、うつる、改まる  
【變心】ヘンシン ①今までの考をかへる  
【變心】ヘンシン ②今までの考をかへる  
【變心】ヘンシン ③今までの考をかへる  
【變心】ヘンシン ④今までの考をかへる  
【變心】ヘンシン ⑤今までの考をかへる  
【變心】ヘンシン ⑥今までの考をかへる  
【變心】ヘンシン ⑦今までの考をかへる  
【變心】ヘンシン ⑧今までの考をかへる  
【變心】ヘンシン ⑨今までの考をかへる  
【變心】ヘンシン ⑩今までの考をかへる

【變生】ヘンセイウ うまれかはる、又そのと。  
【變名】ヘンメイウ 姓名をかへる、又その名。  
【變成】ヘンセイウ 風がはりに出来上る。  
【變死】ヘンシ 不慮の災難にて死ぬこと。  
【變色】ヘンシヨウ ①色がかはる、いろがは  
り②色をかへる、驚き又は怒つて顔色  
をかへる。  
【變改】ヘンカイ かはり改まる、かへ改める  
こと。  
【變更】ヘンカウ 前に同じ。  
【變身】ヘンシン すがたをかへる。  
【變言】ヘンゲン 言葉を変る、前言を取消す  
【變形】ヘンケイ 形がはる、又形をかへる。  
【變易】ヘンエキ 變改に同じ。  
【變法】ヘンポフ 法律を改めかへる。  
【變事】ヘンジ 常とかはりたること、かは  
りごと。  
【變故】ヘンコ できごと、かはりごと、椿事  
【變怪】ヘンクワイ ばけもの、ものゝけ。  
【變相】ヘンサウ 淨土又は地獄の種々に變化  
したる相、又其畫圖。  
【變則】ヘンソク 規則に外れてゐること。  
【變狀】ヘンジヤウ 普通とかはりたる容子。  
【變格】ヘンカク ①かたに合はぬ、常とかは  
つたかた②文法上動詞の語尾の變化が

不規則に活用するもの。  
【變造】ヘンソウ つくりかへる、又その物。  
【變衰】ヘンスイ 有様がかはつておとろへる  
【變症】ヘンシヤウ 病状のかはること、又た  
ちのかはりたる病氣。  
【變移】ヘンシ かはりうつる。  
【變容】ヘンヨウ 常とかはりたる形、又かた  
ちをかふること。  
【變通】ヘンツウ 如何なる事物に違ふとも自  
由自在に變化適應して少しも滞らぬと  
【變革】ヘンカク のこらずかへあらたむ。  
【變災】ヘンサイ さいなん、天變地異。  
【變動】ヘンドウ かはりうごく、種々にかは  
る、又かへ動かす。  
【變象】ヘンシヤウ 普通とかはりたる有様。  
【變異】ヘンイ 不思議なることがら、天變  
地異。  
【變換】ヘンカン とりかへる、かへる。  
【變報】ヘンポウ 非常のしらせ。  
【變亂】ヘンラン みだれ、いくさ、兵亂。  
【變置】ヘンチ とりかへて置く、おきかへ  
ること。  
【變說】ヘンセツ 從來の持説をかへること。  
【變稱】ヘンシヨウ となへ方をかへる。  
【變態】ヘンタイ ①普通と異なるありさま②  
昆蟲類が發生の途にて時期により形態

をかへる現象。

【變種】ヘンシュ 動植物の同種類中に在りて  
普通より變りたるもの、かはりだね。  
【變遷】ヘンセン 次から次へとかはりうつる  
【變質】ヘンシヤク 異なりたる性質、性質を變  
へる。  
【變節】ヘンセツ ①季節の變ること②みさを  
をかへる③從來の過を改める。  
【變徵】ヘンチ 音楽の悲壯なるふし。  
【變調】ヘンテウ 調子をかへる、又異なる調子。  
【變體】ヘンタイ かはりたるかたち。  
【變轉】ヘンテン 變り方の甚しき貌、變化し  
轉倒す。  
【變壓器】ヘンアツキ 高壓の電氣を低壓にし  
或は低壓の電氣を高壓にかへる装置。  
【變節漢】ヘンセツカン 節操を賣つて利益のあ  
る方に傾く男。  
【變質者】ヘンシヤクシャ 肉體又は精神が甚しく  
不健全にして病的なるもの。  
【變態假名】ヘンタイガナ 通常の平假名とは形  
の變つた假名。  
【變態性慾】ヘンタイセイヨク 狂的又は病的の心  
理状態に伴ひ起る性慾上の一種の病狀  
【變成男子】ヘンジヤウナシ 女子が未來に於て  
佛となる爲めに性を變じて男子となり

て現はれること。  
【變易生死】ヘンヤクシヤウ 迷より漸次さとり  
に近づき遂に圓滿の佛果に達すること  
をいふ。  
【變換算法】ヘンクワンサンポフ 一國の度量衡を  
他國のものに換算すること。  
類語  
地變ヘン 天變ヘン 事變ヘン 權變ヘン  
禍變ヘン 應變ヘン 千變ヘン 百變ヘン  
萬變ヘン 災變ヘン 移變ヘン 時變ヘン  
【變】セフ  
①おそる(憎)おぢる②ねたむ、いむ(忌)  
【變伏】セフク おそれしたがふ。  
【變服】セフク 前に同じ。  
【變憚】セフタン おそれはいかるさま。  
【變懼】セフク おそれること。  
【變】エン  
【變】エン  
【變】エン

【變坐】エンザ くつろぎて坐ること。  
【變席】エンセキ 酒宴の席。  
【變會】エンクワイ さかもりの集り、宴會。  
【變飲】エンイン 酒宴、さかもり。  
【變樂】エンラク さかもりしてたのしむ。  
【變戲】エンキ 酒宴してたのしむ。  
【變】シウ  
①かたき、あだ(仇)②こたへる、むく  
ゆ、つぐのふ(償)③文章をよみ照し合  
せて字句の誤を正す④あたる(當)⑤ひ  
とし(等)  
【變人】シウジン かたき、あだ。  
【變仇】シウキウ あだ、かたき。  
【變正】シウセイ 彼れと此れとを相對照して  
悪しきをたゞしなほす。  
【變家】シウカ かたき、仲の悪しき相手。  
【變殺】シウヤツ かたきとしてころす。  
【變校】シウカウ 文字をひき合せて誤をたゞ  
す、校正。  
【變寇】シウカウ あだかたき。  
【變敵】シウテキ かたき、あだ。  
【變覆】シウフク てらしあはせてしらべる。  
類語  
校變シウカウ 國變シウク 深變シウシン 寇變シウロウ



讒

讒言シタウ 復讐シタウ 恩讐シタウ 檢讐シタウ  
怨讐シタウ 私讐シタウ 仇讐シタウ 敵讐シタウ  
讐に同じ

讒言

エイ

①いつはり(詐)いつはる、うそをいふ  
②ねごと(寢言)

十七畫

讒

サン ザン

讒

①他の善をにくみ能を忌みてそしる曰  
ざんげんす、告口する  
【讒人】ザンジン わるくちを告げる人。  
【讒口】ザンコウ 人をそしる口、その言葉。  
【讒舌】ザンゼツ 前に同じ。  
【讒臣】ザンシン ざんげんをするけらい。  
【讒言】ザンゲン ある事ない事を上につけて  
人を陥れること、又その言葉。  
【讒佞】ザンケイ 口先がうまくて人をおとし  
いれる、又その人。  
【讒者】ザンシャ 讒人に同じ。  
【讒奏】ザンソウ 天子に讒言を申上げること

(例)忠良を讒奏す。

【讒陷】ザンカン 人を讒言して罪に陥すと。  
【讒問】ザンカン 讒言して人に仲たがひをさ  
せる。

【讒訴】ザンソ 讒言してうつたへる。

【讒毀】ザンキ 讒言し傷つける。

【讒賊】ザンゾク そしりそこなふ。

【讒嫉】ザンシツ そしりねたむ。

【讒路】ザンロ 讒言の入込むみちすぢ。

【讒構】ザンコウ なき事をいろ／＼とこしら  
へて人をそしる。

【讒誣】ザンシツ 無實の事を言ひ立て、人を  
そしる。

【讒詔】ザンシツ 讒言し詔らふ、又其人。

【讒諛】ザンユ 前に同じ。

【讒慝】ザンテイ 人を害せんとする悪心を抱  
く、又其人。

【讒閥】ザンガク 他人のそしりを聞いて兄弟  
などの仲たがひすること。

【讒誘】ザンバウ そしる、又そしり。

讓

ジャウ

讓

①へりくだる、ゆ  
づる②授ける、與へ  
る、わたす③ことわる、辭退④ゆづり、

きづけ⑤詰問する、なじり責める

【讓下】ジャウカ へりくだる、卑下。  
【讓歩】ジャウホ 一步をゆづる、自分の主張  
をまげて相手方に従ふ。

【讓位】ジャウキ 天子が位をゆづられると。

【讓退】ジャウタイ 自分の位置を他人にゆづ  
りて身をしりぞくこと。

【讓渡】ジャウト ユズりわたす、自己の所有  
権を人に移轉す。

【讓路】ジャウロ おのれのゆく道を他人にゆ  
づること。

【讓遜】ジャウソン へりくだる。

【讓與】ジャウヨ ユズりあたへる。

【讓禪】ジャウゼン 天子の在世中に位をゆづ  
られること。

【讓辭】ジャウジ 辭退して他にゆづる。

類語

確讓ジャウ 恭讓ジャウ 辭讓ジャウ 退讓ジャウ  
卑讓ジャウ 敬讓ジャウ 禮讓ジャウ 謙讓ジャウ  
遜讓ジャウ 推讓ジャウ 質讓ジャウ 禪讓ジャウ  
節讓ジャウ 偽讓ジャウ 苦讓ジャウ

讓

ラン

①しふ(誣)②口がすべる、くちばしる  
③てたらめの言

讖

シン

しるし、禍福吉凶の前兆又その豫言、  
又其を記したるもの

【讖文】シンモン 未來記、豫言書。

【讖歩】シンボ 未來を知る術。

【讖記】シンキ 次に同じ。

【讖書】シンショ 讖文に同じ。

【讖緯】シンキ 豫言書、未來記。

十八—二十二畫

讒

クワン

讒

①よろこぶ(歡)②や  
かましい、かまびすし  
【讒迎】クワンガイ 歡迎に同じ、よろこび迎  
へる、厚く迎へる。  
【讒言】クワンゲン かまびすしきことば。  
【讒待】クワンタイ よろこびもてなす、歡待  
する。  
【讒笑】クワンセウ よろこびわらふ。  
【讒然】クワンゼン たのしみ喜ぶ貌。  
【讒喜】クワンキ よろこぶこと。  
【讒歌】クワンカ よろこびのうた、又喜びう

たふ。

【讒諱】クワンクワン さう／＼しい、又がやが  
やと騒ぐこと。

【讒諛】クワンユウ かまびすし、さわがし。

【讒常】クワンジョウ 前に同じ。

讚

サン

讚

①たふへる、ほめ  
る、又其ほめことば②文章の一體にて  
人の功德をほめたふへるもの  
【讚美】サンビ たふへる、ほめそやす。  
【讚揚】サンヤウ ほめたてる、ほめあげる。  
【讚稱】サンショウ ほめたふへる。  
【讚詞】サンジ ほめことば。  
【讚嘆】サンタン 感心してほめる。  
【讚賞】サンショウ ほめはやす、ほめそやす。  
【讚歎】サンタン 讚嘆に同じ。  
【讚辭】サンジ ほめことば、讚詞。  
【讚譽】サンヨ ほめはやす。  
【讚美歌】サンビカ 耶蘇教にて神の徳をほめ  
る歌。

類語

欣讚サン 畫讚サン 研讚ケン 褒讚ハウ  
盛讚セイ 稱讚ショウ 成讚テイ 賞讚ショウ

圓讚ラン 自畫自讚ジジツ

讒

タウ

讒

正直なる言、正言  
【讒正】タウセイ ことばのたゞしきこと。  
【讒言】タウゲン 正しきことば。  
【讒直】タウチョウ たゞし、正直。  
【讒論】タウロン 正しき議論、正論。  
【讒辭】タウジ 正しく善きことば。  
【讒議】タウギ 前に同じ。  
【讒識】ゲツ ゲン  
とふ、はかる、決定したる裁判を更に  
取調べて罪の輕重をはかる  
【讒識】ケンギ 正しき議論。  
【讒々】ケンケン 言論などの正しきさま。  
【讒】トク トク  
そしる、にくみ言ふ  
【讒言】トクケン 人をにくみそしる言。  
【讒誘】トクバウ うらみそしる。

谷部

谷

コク ロク

水

①たに、山間のくぼみ②山間のながれ、溪流③きはまる(窮)④こち、ひがしかぜ、東風⑤谷蠶は匈奴の藩王の封號⑥國の名(青海地方鮮卑族の國)

【谷王】コクワ 海の異名。  
【谷風】コクワ 東風、こち。  
【谷神】コクレン 道の體の空虚なことを谷にたとへし語。

【谷泉】コクセン たにあひより流れ出づる水  
【谷間】コクカン たにあひ。  
【谷量】コクリヤウ 谷てはかる、物品の多き形容。

類語

廣谷コクワ 豁谷コクイ 峻谷コクン 川谷コクン  
陵谷コクワ 百谷コクワ 深谷コクン 窮谷コクキョ  
澗谷コクワ 空谷コクウ

四一十畫

豁

カウ

①大聲の形容②谷中のひびき③ひろし、ふかし

豁

カ

次に同じ

豁

カン

谷が深く開きてうつろな貌

豁

カウ ロウ

①谷のうつろなるさま②山谷の奥深く通れるさま、又長大なる貌

豁

ケイ

水

たに(谷)谷の流(水なきを谷といひ水あるを豁といふ)

【豁水】ケイスイ 谷川に架けわたしたるま  
【豁約】ケイリヤク 谷川に架けわたしたるま  
【豁谷】ケイコク たに、澗谷。  
【豁泉】ケイセン たにがは、澗川。  
【豁澗】ケイケン たにがはのながれ。  
【豁畔】ケイペン たに川のほとり。

【豁間】ケイカン たにま、はざま。

【豁澗】ケイカン たにがは。

【豁壑】ケイコク たに、豁谷。

【豁聲】ケイセイ たにがはの水聲。

【豁邊】ケイヘン たにのほとり。

豁

ケイ

もとの(戻)豁とは別字

豁

クワツ

水

①ひらけたる谷②うつろ、通じたる貌、開きたるさま③廣きさま④さとり、明かに知る、そのさま

【豁大】クワツダイ 廣く大なること。

【豁目】クワツメク 目をみひらくこと。

【豁如】クワツジョ ひろきさま。

【豁然】クワツゼン ①うち開きたるさま②さ  
とるさま。

【豁達】クワツタツ ①四方に向ひ開きたるさ  
ま②度量の大なる貌。

【豁落】クワツラク ひろくしておほいなり。

【豁澗】クワツケン ひろく大なるさま。

【豁二胸襟】クワツキョウケン 打ちとける、心  
の中をうちあけること。

【豁達大度】クワツタツダイド 心胸ひろく度量寛  
大なるをいふ。

類語

開豁クワイ 軒豁クワン 通豁クワツ 深豁クワン  
軒豁クワイ 洞豁クワツ 恬豁クワン 寧豁クワツ  
通豁クワツ 疏豁クワツ 空豁クワツ

豆部

豆

トウヅ

①穀物の一、まめ②たかつきに似たる  
木製の食器③支那古代のますめの稱④  
國訓まめ(特に大豆の稱、すべて豆の形  
したもの、皮膚に生ずる粒状の水腫、物  
事の小さい形容)

【豆人】トウジン 小さい人、又遠方から見た  
る人物の形容。  
【豆乳】トウニウ 大豆より製したる滋養飲料  
【豆鼓】トウコ ミソ、味噌。  
【豆莢】トウキ マメがら、又兄弟相そこな  
ふに喩へる語。

【豆粉】トウコン 豆屑に同じ。

【豆黄】トウワウ 豆の麩。

【豆幹】トウカン マメがら。

類語

大豆トウダイ 小豆トウコ 胡豆トウコ  
菽豆トウシユク 豌豆トウエン 野豆トウヤウ

三一十畫

豈

キ カイ

り

①あに、いかでか、まさか、何とて、  
なんすれぞ、いづくんぞ等の意を表は

す反語②凱又は愷に通ず

豈

カウ コウ

豆の一種、さしげ、大角豆

豉

シ

豆に鹽をまぜて造りし食品、味噌・納豆  
の類

【豉虫】シチュウ 水上を浮游する小蟲、まひ  
まひ虫。

豊

豊の古字

俗に豊の略字として用ふ

登

トウ

水

瓦製のたかつ  
き、瓦豆

豌

ワン エン

豌豆は豆の一種

豎

ジュ

【たつ(立)立てる】たて(縦)のことも、こぞう、轉じて人を輕蔑して呼ぶ語。宮廷内のめしつかひ

【豎子】ジュシ ①めしつかひの小僧。人を輕んじて呼ぶ語、あいつ、彼奴、小豎。

【豎立】ジュリツ まつすぐにたつ、又たてる。

【豎臣】ジュシチン 豎吏に同じ。

【豎理】ジュリ たてのすぢ、たてすぢ。

【豎吏】ジュシ 小吏、こやくにん。

【豎僮】ジュシドウ 豎子に同じ。

【豎儒】ジュシジュ 儒者をのゝしつていふ語、小僧學者。

類語

二豎ジュ 小豎ジュ 買豎ジュ 内豎ジュ  
牛豎ジュ 斜豎ジュ 縱豎ジュ 牧豎ジュ  
群豎ジュ 僕豎ジュ 兇豎ジュ

豎

豎に同じ

豎

なかば成熟した豆

十一—二十一畫

豎

ホウブ

豎

①とよ、ゆたか、さかん(盛)おほし(多)大きい、厚い、肥えてゐる。穀物のてきの良きこと。②ゆたかならしめる、ゆたかにす。易の卦の名

【豎上】ホウジヤウ 豎類に同じ。

【豎下】ホウカ ちよこのこえたる姿、富貴の相をいふ。

【豎大】ホウダイ ゆたかに大なること。

【豎本】ホウホン 蕪の異名。

【豎凶】ホウキヨウ 五穀の出來の良否、豎作と凶作。

【豎功】ホウコウ 大なるてがら、偉功。

【豎年】ホウネン 豎歳に同じ。

【豎足】ホウソク ゆたかにして足る。

【豎作】ホウサク 豎登に同じ。

【豎明】ホウメイ 宮中の御宴會の稱、十一月の中の辰の日に特に豎明會とて行はれしもの。

【豎約】ホウヤク ①ゆたかなること、つじまやかなること。②盛衰又は貧富の意。

【豎肥】ホウヒ ちよ太ること、又その貌。

【豎衍】ホウエン ゆたかにしてあり餘ること。

【豎厚】ホウコウ ちよたかなり、又繁昌。

豎のこゝろ、ぶたの類の家畜

【豎人】ホウジン 慾心なき人。

【豎心】ホウシン 貪慾にして無恥なる心性。

【豎牢】ホウラウ かはや、便所。

【豎突】ホウツツ 豎の如くたけつきかゝる

【豎啖】ホウタン 食ること、ゐのこの如く長く鋭き口ばし。

【豎負塗】ホウフツ 疑念を以て物事を觀察する形容。

【豎交獸畜】ホウカウジュウ 人を禽獸同様に取り扱ふこと。

【豎肥】ホウヒ 封豕フウ 蛇豕シヤ 野豕ヤ 魚豕イ 遼東豕レウトウ

三—四畫

【豎】クワイ

①うつ(聲)②さわがし、かまびすし、又その聲

類語 驚豎クワイ 排豎クワイ 喧豎クワイ

【豎】トン

豎

【豎登】ホウテン 豎登に同じ。

【豎年】ホウネン 豎年と凶年。

【豎祿】ホウロク ちよたかなるふち。

【豎滿】ホウマン ①物事のちよたかなること。②からだの肥えてゐること。

【豎儉】ホウケン 豎約の②に同じ。

【豎賤】ホウセン 物がちよたかて價がやすい。

【豎樂】ホウラク 物がちよたかて庶民が悅樂すること。

【豎熟】ホウジュク 穀物のちよたかに稔ること。

【豎頭】ホウトウ ちよて肉づきのよいあご。

【豎潤】ホウジュン ①ちよたかにうるほひ富むること。②甘き液汁などが多くあること。

【豎類】ホウレイ ちよたかに盛んなり。

【豎爵】ホウシャク 名譽の位。

【豎類】ホウレイ 肉つきのおいひたひ。

【豎澤】ホウタク ちよたかなること。

【豎麗】ホウレイ ちよたかにしてうるほし。

【豎薦】ホウセン ちよたかなる神前などの供物

【豎贖】ホウジュン 十分である、ちよたかに足る。

【豎噴】ホウクワン 大きく廣きさま。

【豎饒】ホウヂョウ 食物の澤山なること。

【豎饒】ホウヂョウ 豊熟に同じ。

【豎饒】ホウヂョウ ちよたかにそなへたる飯食。

【豎饒】ホウヂョウ 肉つきのふつくりして美し

きこと、美人の形容。

【豎宮】ホウキウ 伊勢の外宮のこと。

【豎上殺下】ホウジヤウサイカ 下に同じ。

【豎上銳下】ホウジヤウエイカ 下に同じ。

【豎亨豫大】ホウキョウヨダイ 周易の卦名にして豎は盛、豫は樂、盛んなれば亨り樂なれば大なる義、天下太平にして人民が皆盛んに樂を極めること。

【豎城劍氣】ホウシヤウケンキ 豎城といふ所に埋藏せられた龍泉・大阿の二名劍が光を放つて天象に見はれし故事。

類語 抽豎チユウ 珍豎チン 厚豎コウ 極豎キョク 隆豎リョウ

豎に同じ

豎に同じ

豎に同じ

豎に同じ

豎に同じ

豎に同じ

豎に同じ

豎に同じ

豎に同じ

豎に同じ

豎に同じ

豎に同じ

豕部 (四一五畫) 豕・象

象

シヤウ ザウ

熱地に産する大獸の名。さうのきば。さうげにせる、かたどるのり(法)のつとるすがた、かたちさざし、あらはれたるもの。古代に酒を盛りし具。他國の語を翻譯する者、通辯。周武王の作りし樂曲の名。舜の弟の名(舜を殺さんとして後に感化せられし人)。象人。でく、にんぎやう、偶人。象外。象牙の形を脱却して超然たること。

城門に掲示したるよりいふ。象関。前に同じ。象譯。通譯、通辯。象牙。象牙のきば。象皮。象牙の皮。象牙にて飾りし寢臺。象笏。象牙の笏。象眼。銅鐵等の表面に模様を彫刻しその中に金銀等をはめたもの。古昔布又は紙等に施したる細かき泥畫。鉛版中の一部分を切り抜きて正字をはめこむ細工。

豕部 (四一五畫) 豕・象

象比。かたどりくらべる。象刑。古の刑罰は單に罪人の衣服を異にして其形象によつて恥辱を與へしよりいふ。象背。通譯官、通辯。象教。佛教の異稱、釋迦の歿後諸弟子がその肖像を刻みて崇拜したるよりいふ。象棋。戯具の一、將棋。象尊。酒器、さかだる。象聲。六書の一、漢字の構造を説き明す規則。一人にて同時に各種の聲のまねをすること。象魏。京城の門、古昔法律を高さ

象管。筆の異名。象箸。象牙の箸。象簪。象牙にて作りたるかざとり。象牙塔。文士・藝術家等のひとり居る室をいふ。象山學派。宋の陸九淵の開き。學派にして朱子に反對したるもの。象形文字。物の形をかたどりにて作りし古代の文字。象徴主義。言語・文字を思想の代表者として音樂的に排列し讀者の感情を動かす主義。

豕

ハ

めみのこ、めすのみのこ、又二歳のゐることともいふ。

五十六畫

類語

雞豚 羊豚 河豚 江豚 海豚

類語

大象 生象 死象 巨象 野象 戰象 天象 氣象 形象 印象 現象 對象 星象 想象 萬象 儀象

豕

象の俗字

豕

クワン ゲン

豕

やしなふ(穀物にて動物をやしなふ)轉じて利を以て人をいざなふ。穀物にて飼ふ家畜の總稱。豕養。やしなふ、飼ふ。

豕

ケン

三歳のみのこ、又三歳の獸、大きな豕ともいふ。

七畫

豕

キ

みのこ、大なる豕

豪

カウ ゴウ

豪

藥草の名、みのくそぐさ。稀勇。血氣にはやる勇氣。稀突。この如くつきかゝる、又其如き勇壯なる兵士。豪。すぐれたる、又其人。たけし、つよし(強)又その人、そのこと。野獸の一、やまあらし(毫に通ず)。わづか、すこし。豪力。人にすぐれたる勢ひ又そのもの。

豪士。才力のすぐれたる人。豪奴。力強きめしつかひ。豪右。豪強に同じ。豪民。富みて勢力ある人民。豪臣。勢力ある臣。豪壯。いさまし、さかんなり。豪芒。豪莽に同じ。豪族。非常におごる、豪奢。豪姓。豪族に同じ。豪芥。わづか、すこし。豪放。次に同じ。

豪宕。元氣さかんにして小事にかかはらぬこと。豪英。衆人にすぐれたる者。豪修。豪汰に同じ。豪俠。すぐれて男らしいこと、又その人。豪客。ぬすびと、盜賊。だいに、豪遊する人。豪俊。才徳すぐれたる人。豪氣。才ありて人に屈せぬ意氣。豪家。豪族に同じ。豪志。勢力強くわがまなり。豪族。其地にて名だかくして勢力ある一族。豪習。豪奢なる風俗。豪爽。氣象つよくして快活なり。豪勇。すぐれていさましきこと。豪奢。豪汰に同じ。豪勁。かたくしてつよし。豪雄。豪傑のみに同じ。豪華。盛んに奢りはてやかなり。豪威。他にすぐれたる親戚、權力つよきみうち。豪強。豪強に同じ。豪商。資本のゆたかなる商人。豪傑。才徳すぐれてみらき人。

【豪雋】ガウシュン 智の百人にすぐるを豪と言ひ千人にすぐるを雋といふ。  
 【豪富】ガウフ 勢力ありてとむ、又其者。  
 【豪飲】ガウイン しきりに酒をのむこと。  
 【豪賈】カウコ 大商人、豪商。  
 【豪遊】ガウイウ さかんにあそぶ、又其遊。  
 【豪農】ガウノウ 富み且つ勢力ある農家。  
 【豪猾】ガウクワツ わるづよし、又其者。  
 【豪宦】ガウワン おほきくあらくし、微細ならざること。

【豪猪】ガウチヨ 獸の一、やまあらし。  
 【豪語】ガウゴ おほげさなることをいふ、大言、壯語。  
 【豪銳】ガウエイ すぐれてつよし、又その者。  
 【豪奪】ガウダツ 無理に人の物をうばひとる。  
 【豪篇】ガウヘン すぐれたる詩文。  
 【豪蕩】ガウタウ 豪恣に同じ。思想あらくして細事を省みざること。  
 【豪毅】ガウキ すぐれてつよし。  
 【豪偶】ガウリュン 豪雋に同じ。  
 【豪横】ガウワウ あらくてよこしま。  
 【豪膽】ガウタン きもふとく度量大なり。  
 【豪強】ガウキヤウ すぐれてつよし、又其人。  
 【豪邁】ガウマイ すぐれてあらい、英邁。  
 【豪麗】ガウレイ おほいにしてはてやかなる

【豪學】ガウキョ ①さかんなる計畫。豪傑を氣取ること。  
 【豪蘆】ガウリ 豪莽に同じ。  
 【豪黨】ガウタク 黨派をたて勢力をふるふものども。

【豫】ヨ  
 ①たのしむ(樂)②かねて、あらかじめ③前以て備へる、あらかじめ④疑ひためらふさま⑤古の九州の一(河南省の全部及山東省の曹州、湖北省の襄陽、陝陽等の地方)⑥易の卦の名。  
 【豫占】ヨセン 豫めうらなふこと。  
 【豫兆】ヨチウ 前兆、きざし。  
 【豫告】ヨコウ さきぶれ、前以て知らす。  
 【豫防】ヨバウ 事前にふせぐこと。  
 【豫言】ヨゲン 未来の事をかたる、又其語。

九一十二畫

【豫知】ヨチ 前以てしる、前知。  
 【豫定】ヨテイ 前以てきめる。  
 【豫意】ヨタイ 遊びなまける、樂み怠る。  
 【豫後】ヨゴ 醫者が病人を診察し前もつて断定する今後の病症の経過。  
 【豫約】ヨヤク ①まへもつて約束をする、又其約束②前もつて購求者を募り豫め其員数を知りて製作にかゝること。  
 【豫修】ヨシウ 前以てならひおくこと。  
 【豫料】ヨクワ 豫備料の略、本科に入る豫備の修業。  
 【豫料】ヨレウ 前もつてかんがへはかる。  
 【豫設】ヨセツ 豫めそなへまうける。  
 【豫納】ヨナフ 或行為をなすため官署に對して豫め保證金を納めること。  
 【豫章】ヨレウ 樟樹に同じ。  
 【豫習】ヨシフ まへもつてけいこすると。  
 【豫程】ヨチイ 豫め定めたる仕事の行程。  
 【豫期】ヨキ 前もつて其事を心にきめると。  
 【豫備】ヨビ まへもつて用意する。  
 【豫報】ヨハウ あらかじめ知らすこと。  
 【豫測】ヨクク 前以ておしはかる。  
 【豫想】ヨマウ 前以てその事あるを推量して考へる、又かねて期待した考へ。  
 【豫察】ヨサツ 前以て推察すること。  
 【豫算】ヨサン ①まへもつて立てる見つも

【豫審】ヨシン 犯人のした調べ。  
 【豫價】ヨカ ①かけね②あらづもりの値段。  
 【豫樂】ヨラク たのしむ、その事。  
 【豫選】ヨセン 前以て適當なるものを選ぶ。  
 【豫戒令】ヨカイレイ 社會公共の安寧秩序を紊す行為に出づる處ありと認めしとき其の者の自由を制限して豫め謹慎せしめる命令(但現今は施行されず)。  
 【豫備役】ヨビエキ 常備兵役の一にして現役を終へたる後更に服する兵役。  
 【豫備費】ヨビヒ 豫算費目の不足を補ふため又は豫算外に起る必要の費用に充てるために設ける費用。  
 【豫言者】ヨゲンシャ 事前にその事の吉凶を卜する人。  
 【豫審判事】ヨシハンジ 豫審の事務を扱ふ判事。  
 【豫約出版】ヨカクシユパン 前以て購求者を募り置きて書籍を出版すること。  
 【豫備智識】ヨビチシキ 或事を會得するにつきて準備となるべき智識。

【豨】シ  
 ①野生の豕、ふのし、ふのこ、小さき豕、又豕の子②みづたまり(滯)【猪水】チヌスチ たまりて流れざる水、たまり水。  
 【猪突】チトツ つかみづくに進むさま。  
 【猪肉】チニク 豚のしむの肉。  
 類語  
 山猪チサン 倭猪チニク 野猪チヤ 豪猪チガウ 箭猪チセン 墨猪チボウ

【豨】シ  
 豚の子の生後六箇月を経たもの、又小さき豕ともいふ。  
 【豨】シ  
 牙又は勢を去りたるふのこ。  
 【豨】シ  
 ①家の息②人の名。  
 【豨】シ  
 ①むし、足なきむし②ゆるむ、とく(解)③國訓むじなへん④豨々チチ 獸の背の固くながき貌。  
 【多蟲】チチウ 蛇の如く匍匐する蟲。

【豹文】ヘウモン 豹皮の斑点、轉じて豹皮の如き斑点あるもの。

【豹尾】ヘウビ 豹の尾をかけし車、大將の乗るもの。

【豹斑】ヘウハン 豹の皮にあるまだら。

【豹變】ヘウヘン 豹の斑文の明かに人に見える如く善に遷りて舊惡を改め去ることの著しきこと、惡化する意にも用ふ。

【豹脚蚊】ヘウキョウブン 蚊の一種、やぶか。

【豹死雷皮】ヘウシライヒ 死後に名譽を残すことの喩。

類語 虎豹ヘウ 獅豹ヘウ 文豹ヘン 白豹ヘウ

【豺】サイ 狼の類、やまいぬ。豺の如き惡人又は無慈悲なる人に譬ふ。

【豺目】サイモク するどき目の形容。

【豺虎】サイコ やまいぬとら、奸物に喩へていふ。

【豺狼】サイロウ やまいぬとおほかみ、勢のわるづよきものにいふ。

【豺狼】サイロウ やまいぬとはく、奸物に喩へていふ。

【豺】ガン カン 狐に似た野犬の一、又狸に似たる獸ともいふ。①らうや、ひとや。

類語 四一六畫

【豺】リ 狸に同じ

【豺】イウ 豺に同じ

【豺】イウ 豺の一種、をながさる、又鼠の類ともいふ。

【豺】テウ

【豺】リ たぬきの屬の總稱

【狸奴】リド 猫の異名。

【狸豆】リトウ ぶじまめ。

【貌】ゲイ 貌に同じ、又麤に同じともいふ

【貌】タン 野獸の一、まみ

【貌】ヒ 猫の正字

【貌】ヒ 猛獸の名、形虎に似て熊に類す

【貌】ヒ 猛なる軍隊に喩ふ。

【貌】ヒ 猛獸の名、軍隊に喩へる語。

【貌】ヒ 猛虎に同じ。

十一二十畫

鼠の屬、てん

【貂寺】テウジ 宦者のこと。

【貂璫】テウタウ 漢代中常侍の冠、黄金の耳がねと貂尾との裝飾があるもの。

【貂蟬】テウシェン 身分高き侍臣の冠、轉じて高官の人。

【貂不尾狗尾續】テウブシクウシツク 不義不道をいやしみていふ語。

【貂】キウ 猛獸の名、昔は之を馴らして戦争に用ゐたといふ。

【貂】クワン ケン 貉の類、又貉の子ともいひ又一説に獺ともいふ。

【貉】カク バク 貉の屬、むじな。①支那北方のえびす

【貉】バク 支那北方のえびすの名。①しづかにす

【貉】バク 熊に似たる獸の名、又一種の靈獸なりともいふ。

【獺】チュ 猛獸の名、昔戦争に之を用ゐたるより勇猛なる軍隊又は將士にたとへて言ふ

【獺】チュ 獺は虎の屬、武勇なる兵士に喩ふ。

【獺】アイ 支那東北地方のえびすの名

【獺】クワン ケン ①猛獸の一、おほかみ。②まみ

【獺】クワタ ①おほざるの一種、やまをとこ

貝部

十一二十畫

類語

異貌ヘイ 聲貌ヘイ 體貌ヘイ 姿貌ヘイ

軀貌ヘイ 老貌ヘイ 古貌ヘイ 容貌ヘイ

禮貌ヘイ 形貌ヘイ 玉貌ヘイ 才貌ヘイ

器貌ヘイ 色貌ヘイ 風貌ヘイ 美貌ヘイ

面貌ヘイ 顔貌ヘイ 身貌ヘイ 言貌ヘイ

# 貝

貝 バイ

①かひ、水中の介蟲類にして石灰質の殻を有する頭足動物、かひがら貝殻を鳴り物に造り吹きならすもの、ほらがひ②かね(古代介殻を貨幣として用いたもの)③美しくしい織物の一

【貝子】バイシ 清朝時代皇族の稱④元代雲南省地方にて使用した貝の貨幣。

【貝母】バイモ 薬草の一、はくくり。

【貝甲】バイカウ かひがら、貝殻。

【貝勒】バイロク 貝類にて飾りし馬のくつわ⑤清朝時代の皇族の稱、多羅貝勒の略。

【貝殼】バイカク かひがら、介殻。

【貝葉】バイエフ 貝多羅葉に同じ。

【貝資】バイシ 財産、たから。

【貝錦】バイキン 美しき模様ある一種の錦。

【貝鐘】バイショウ 寺にて鳴らす法螺貝と鐘

【貝鞍】バイアン 青貝などを美しく塗りこめたる鞍。

【貝多羅葉】バイタラエフ 印度に産する多羅樹の葉、その上に經文を書きしるす。

## 二畫

# 貞

貞 テイ チャウ

貞

①たゞし、心が正しい②女子が操を守りて動かぬこと③易のうらなひの内卦(外卦の悔の對)

【貞士】テイシ みを正しき人。

【貞白】テイハク 心正しくして潔白なり。

【貞心】テイシン みを正しき心。

【貞臣】テイジン 貞實なる家來。

【貞方】テイハウ 正し、よこしまならず。

【貞女】テイニョ みを正しき女。

【貞亮】テイリョウ 心正しくまことあると。

【貞壯】テイサウ 正しくてつよし。

【貞固】テイコ たゞしくてかたし。

【貞珉】テイミン かくたくして美しき石。

【貞々】テイテイ 正しき貌。

【貞信】テイシン まこと、誠實。

【貞烈】テイレツ みを守る正しき行ひ。

【貞純】テイジュン 心正しくみをあり。

【貞婉】テイエン 女子が操を守りてしとやかなること。

【貞勁】テイキン 正しくしてつよし。

【貞淑】テイシュク 女子がみを守り善良なること。

【貞婦】テイフ 操の正しき妻。

## 類語

【貞實】テイジツ 正しくしてまめやかなり。

【貞雅】テイガ 正しくして高尚なり。

【貞誠】テイセイ まこと、眞實。

【貞節】テイセツ 貞操に同じ。

【貞靜】テイセイ 女徳正しくしとやかなること

【貞操】テイサウ 女子の正しきみを、一般に節義の意に用ふ。

【貞永式目】テイエイシキモク 後堀河天皇の貞永元年北條氏が源頼朝以來幕府の判決例其他の律令等を本として規定したる制度。

【貞女不更二夫】テイニョハジフカヘズ 貞操を守る妻が再び亭主を持たぬこと。

## 負

負 フウ フ

## 負

負 フウ フ

①おふ、せおふ、になふ②背にす、うしろにす③債務を有す、金を借りてゐる④蒙る、うける⑤以上の物事、おひめ、責任、擔任、義務⑥わすれる、そ

## 財

財 サイ ギ

財

①たから、おかね、しなもの②たつ、きる、きりもりす③はたらき、才能④わづかに(織)

【財力】サイリキョク 金銭のいきほひ又は力。

【費用】エイヨウ 費用、かゝり、又もとて。

【財布】サイフ 財囊に同じ。

【財本】サイホン 財貨を生産すべきもと。

【財利】サイリ まりけ、金銭上の利益。

【財物】サイブツ かね又は價値ある品物。

【財取】サイシュ 裁量して取り用ゐること。

【財幣】サイヘイ かねぐら、金庫。

【財界】サイカイ 金銭の取引に關する社會、經濟界。

【財政】サイセイ 國家又は公共團體の經濟に關する事柄、又はその状態、個人の金藏にもいふ。

【財神】サイシン 福の神のこと。

【財産】サイサン しんたい、資産。

【財貨】サイカウ たから、かね、貨財。

【財欲】サイヨク 財物を得んとする慾心。

【財源】サイゲン 財本に同じ。

【財賄】サイワイ 貨物又は財貨に同じ。

【財團】サイダン 人格ある財産の集合(法律

## 三畫

むく、たがふ、みすてる、はなれる②たのむ、たのみ、たよる③まける(敗)おとる(劣)④恥ぢ入る貌⑤老婦人、老母⑥代數學上で消滅性の數、負數、マイナス⑦國訓まける、まけ(ねびき、減價)

【負非】フヒ たがふ、そむく。

【負版】フハン 國家の地圖又は戶籍をせおひ持つ意。

【負持】フヂ おひ持つ。

【負恃】フヂ たよる、たのみよる。

【負約】フヤク 約束にそむく。

【負々】フフ 恥入るさま。

【負蒺】フケイ 蒺は木の枝にて答刑に用ゐる杖、罪を負ふをいふ。

【負租】フソ 未納の租税をいふ。

【負笈】フヤク 遊學すること。

【負荷】フカ 背におひ肩にゝなふ②子が父の業を受けて其任にたへること、又自分に引き受けてなすべきつとめ。

【負敗】フバイ まげやぶれる。

【負綱】フダウ 虎負綱の略。

【負傷】フシヤウ けが、てきず、きずをうける

【負病】フヤク やまひにかゝる。

【負喧】フケン 昔宋の貧人が冬の日光に背をさらして世の中にこれほど温暖な

上の語)。

【財幣】サイヘイ 財貨に同じ。  
 【財寶】サイハウ たからもの、たから。  
 【財囊】サイノウ ぜにいれ、かねいれ、財布。  
 【財政學】サイセイガク 經濟學の一分科、人類及國家の財政に關して研究する科學。  
 【財產權】サイサンケン 交換し得る價格ある事物に對する權利。  
 【財團法人】サイダンハツジン 一定の目的に供せられた財産の集合體にして學校の寄附金の如きもの。  
 【財産目錄】サイサンモクジク 社會又は個人の財産の價格種類等を書き込みし書類。

類語

貨財カザイ 理財リザイ 公財コザイ 家財カザイ  
 餘財ヨザイ 散財サンザイ 資財シザイ 蓄財シュザイ

貢

コウク

①みつぎ、みつぎもの②みつぎものを上る③夏の時代の税法の稱④すゝむ、薦擧する⑤つぐ(告)  
 【貢士】コウシ ④才學ある者として地方より中央政府にすゝめられる者⑤明治維新の廢藩の際諸藩より選拔して政府へ

薦めたる人物。

【貢物】コウブツ みつぎもの。  
 【貢院】コウエン 支那の貢士を試験する役所  
 【貢御】コウゴ 貢物、みつぎもの。  
 【貢試】コウシ 貢士の試験。  
 【貢賦】コウフ みつぎものと租税としてわりあてる物。  
 【貢舉】コウキョ 州縣から貢士を選抜して推擧すること。  
 【貢獻】コウケン ①みつぎものを上る②世のために力をつくす、又著作などの上にもいふ。

類語

奇貢キコウ 奉貢ホウコウ 供貢コウコウ 納貢ナクコウ  
 輸貢コウコウ 珍貢チンコウ 租貢ソコウ 外貢ゴウコウ  
 雜貢ザコウ

貢

トク

①かりる、かる(借)②たがふ(成)

地

イシ

①かさなる、かさぬ、ます②うつる(移)

四畫

貧

ヒンビン

①まづし、とぼし(乏)少い、才徳學問などが乏しい②まづしいこと、びんばうなること③まづしき人、貧弱なる人  
 【貧乏】ヒンバウ まづしくして乏し。  
 【貧民】ヒンミン まづしき民、貧人。  
 【貧生】ヒンセイ まづしき人、又貧書生。  
 【貧血】ヒンケツ 體中の血液が減少すると、又其病氣。  
 【貧邑】ヒンイフ まづしき村。  
 【貧困】ヒンコン まづしくして難儀すること又其人。  
 【貧居】ヒンキョ 貧しきすまひ、貧しき生活。  
 【貧苦】ヒンク 貧困に同じ。  
 【貧約】ヒンヤク 貧しくして困難す。  
 【貧陋】ヒンロウ まづしくむさくるしい。  
 【貧巷】ヒンカウ 貧乏人の住むまち、貧民窟。  
 【貧相】ヒンサウ 貧乏らしき人相。  
 【貧家】ヒンカ まづしき家。  
 【貧弱】ヒンジャク ①まづしくてよわし、又その人②やつれて元氣なし③みすばらしい。  
 【貧庶】ヒンシヨ 財に乏しき人民、貧乏人。  
 【貧國】ヒンコク まづしき國。

【貧に安んず】安んずるにやすんず 貧乏してよくよ〜思はず平氣であること。

類語

窶貧クウヒン 賤貧ケンヒン 清貧セイヒン 赤貧セキヒン  
 素貧ソヒン 廉貧レンヒン

貨

カワ

①たから、必需品、かね、金品②しるもの、しなもの、又商品③たからにす、たからを贈る、賄賂をつかふ  
 【貨力】カワリキョク 金錢のいきほひ、又其のはたらき、金力。  
 【貨利】カワリ かね、たから、財貨。  
 【貨舍】カワリヤ 荷物を入れる、小屋。  
 【貨車】カワリシャ 鐵道列車の貨物車。  
 【貨物】カワモノ しなもの、物品。  
 【貨財】カワザイ かね、たから、必要な物品。  
 【貨殖】カワシヨク 貨財をふやす、金をまうける。  
 【貨視】カワシ 或物を金と同じくみとめる義にて其を利用して一儲けしようとする事。  
 【貨賄】カワツワイ 賄賂、まひなひ、袖の下。  
 【貨銀】カワギン 商品の代金。  
 【貨賄】カワツワイ かねと布帛(共に民生の必需品)

【貨幣】カワヘイ 政府より發行するかね。

【貨寶】カワハウ たから、貴重品。

【貨糶】カワチャク 米を賣買すること。

【貨幣同盟】カワヘイドウメイ 金銀比價の變動より來る經濟上の不利益を防ぐため數國聯合して同一の貨幣制度を取ること。

類語

良貨リョウカ 貝貨バイカ 奇貨キカ 金貨キンカ  
 物貨モノカ 珍貨チンカ 財貨ザイカ 通貨ツウカ  
 硬貨コウカ 銅貨ドウカ 銀貨ギンカ 錢貨センカ  
 雜貨ザカ 寶貨ホウカ 贓貨ゾウカ

販

ハン

①ひさぐ、うる(賣)安く買ひ高く賣る  
 【販夫】ハンフ あきんど、商人。  
 【販路】ハンロ 物品のはげぐち。  
 【販賣】ハンバイ あきなふ、賣買。  
 【販賣】ハンバイ ①物をやすく買ひ高く賣ること②うりさばく。  
 【販賣】ハンバイ ひさぐ、うりつける。  
 【販路擴張】ハンロクワザウ 得意をひろげる  
 【販賣組合】ハンバイクワミ 産業組合の一にして組合員共同の計算を以て生産品を共

訓讀

【貧富】ヒンフ まづしきこととむこと、又貧者と富人。  
 【貧道】ヒンダウ 道にゆたかならざる意、道士沙門などが自己を稱する謙辭。  
 【貧婦】ヒンフ まづしくして資産乏しきと  
 【貧窮】ヒンキョウ 貧困に同じ。  
 【貧僧】ヒンソウ まづしき僧侶。  
 【貧賤】ヒンケン ①まづしくしていやし②自己の卑辭。  
 【貧薄】ヒンハク まづしきこと。  
 【貧窶】ヒンクウ 貧づしくしてやつれる。  
 【貧餒】ヒンガウ まづしくして飢ゑる。  
 【貧民窟】ヒンミンカク 貧巷に同じ。  
 【貧到骨】ヒンダウクツ 貧乏が骨にしみこむ、極貧の形容。  
 【貧措大】ヒンソウダイ 貧乏書生、窮措大。  
 【貧徹骨】ヒントクボネ 貧到骨に同じ。  
 【貧賤之交】ヒンケンノトモ 貧乏の時分に交際せし友人。  
 【貧者士之常】ヒンシャノツネニ 士は道義を守りて財利を貪らざる故常に貧乏がちであるとの意。  
 【貧賤不能移】ヒンケンニモツラスアタハズ 道義を守る大丈夫の志は如何なる貧乏に陥りても變らぬ。



同販賣する組合。  
類語

沽販ハシ 商販ハシ 負販ハシ 賀販ハシ

### 貪

貪タン トン

むさぼり、むさぼる、又むさぼる人、  
愛し惜しむ

【貪夫】タンフ よく深き俗人。  
【貪色】タンシヨク 色を好むことの甚しき貌

【貪汚】タンウ 慾心ふかくして卑劣なること

【貪吏】タンリ 賄賂等をとる役人。

【貪吝】タンリン けち、慳ぱり。

【貪兵】タンペイ 貨財や土地をむさぼりとする軍隊。

【貪戾】タンレイ むさぼりもとる、慳深くして暴悪なること。

【貪食】タンシヨク むさぼりくらふ。

【貪冒】タンバウ 極めて慾がふかい。

【貪淫】タンイン 甚だしく女色を好む。

【貪虐】タンギヤク 慾ばりて他をさいなむ。

【貪婪】タンラン むさぼる。

【貪惜】タンシキ むさぼりをしむ。

【貪貨】タンカワ たからを妄りに取らんと欲すること。

【貪殘】タンザン むさぼりて他をそこなふ。

【貪廉】タンレン むさぼるとも慾のないこと。

【貪樂】タンラク 安樂をむさぼる。

【貪酷】タンコク 貪殘に同じ。

【貪濁】タンダク 慾深く正しからざること。

【貪慾】タンヨク 慾心ふかくしてむさぼること

【貪鄙】タンヒ 慾ふかくしていやしい。

【貪墨】タンボク 慾心のふかきこと。

【貪橫】タンワウ むさぼりてわがまなり。

【貪競】タンキヤウ 慾ばりて互ひに争ふ。

【貪戀】タンレン 慾に心の迷ふこと①見とれ又は開きとれること。

【貪没】タンボツ 妄りに物をほしがること。

【貪夫徇財】タンフユウサイ 慾ふかい人が貨財の爲に一身をすてることをいひし語。

### 類語

吝貪リンケン 狼貪ロウケン 猛貪メイケン 強貪キヤウケン

### 貫

貫クワン ワン

①ぬく、つらぬく、よこぎる、うがつ(穿)つき通す②まとめる、統べる③達す、しとげる④あてる、あたる、的中する⑤せにさし(繕)⑥なれる、ならはし(慣)⑦すぢみち(條理)⑧にんべつ、

【貫金】クワンキン 金をたくはへる、又其金。  
【貯財】チヨサイ 財産をためること。  
【貯業】チヨウギヤク たくはへたる業。  
【貯蓄】チヨウショク ためる、たくはへおく。  
【貯蓄】チヨウショク 財寶などをたくはへつむと  
【貯積】チヨウシキ たくはへつむ。  
【貯藏】チヨウザウ たくはへしまふ。  
【貯金詐偽】チヨウキンサヒ 貯金を利用してなす詐欺行爲。

### 類語

豐貯トウチヨ 繼貯ケイチヨ 積貯シキチヨ

【貫屬】クワンゾク 前に同じ。  
【貫道之器】クワンダウノキ 道をあらはし述べものなるより文章のこと。  
【貫藏之技】クワンサウノギ 甘蠅といふ弓の名人が遠方から蠅の胸に射あてたる故事から弓術に巧みなること。

### 類語

本貫ホンクワン 名貫メイクワン 魚貫イサクワン 清貫セイクワン  
洞貫ドウクワン 通貫ツウクワン 包貫ハウクワン 朽貫クウクワン  
習貫シヨククワン 盈貫エイクワン 淹貫エンクワン

### 責

責セキ シヤク

①せむ、せめる、とがめる、なじる②當然なすべきことを其人に求めること③せめ、とがめ④つとめ、職務

【責付】セキツキ 豫審判事が豫審中に拘留となつた刑事被告人を何時でも呼出しに應じて出頭させるとの保證をつけしめて其親類又は故舊に預けること。

【責任】セキニン ①當然なすべきつとめ②行爲の結果を引き受けること。

【責務】セキム 前に同じ。

【責問】セキモン せめたづねる。

【責詰】セキキツ せめのしる。

### 貯

貯チヨ

①たくはへ、藏す、積み備へ置く、かこぶ②たくはへ、たくはへたる物

### 貯

貯チヨ

【貯蓄】チヨウショク 貯蓄をせむこと。  
【貯蓄】チヨウショク 貯蓄をせむこと。  
【貯蓄】チヨウショク 貯蓄をせむこと。

名籍①ひく(引)②昔の通貨の單位(錢一千文の稱、徳川時代には九百六十文にして今は金十錢)③重量の單位(千匁)④昔武士の知行高の換算に用ゐる單位(十石を以て一貫とす)

【貫主】クワンシユ ①おもだちたる人②藏人頭の異稱③天台の座主の稱。

【貫目】クワンメ 物のめかた、人の品格。

【貫行】クワンカウ 事を連綴して行ふこと。

【貫的】クワンテキ まと、的。

【貫盈】クワンエイ 罪惡の大きなさま、みちわたる。

【貫首】クワンシユ 貫主の①に同じ。

【貫穿】クワンセン つらぬきうがつ、學問に博く通ず。

【貫流】クワンリウ ぬけ通りながれること。

【貫珠】クワンシュ ①ずいづいなき、玉に緒を通しつらねること②じゆず、珠數、念珠

【貫習】クワンシヨフ 學藝などの道をつらぬきならふこと。

【貫通】クワンツウ ①つきとほる、つきとほす②物事のすぢみちがよくとほる。

【貫魚】クワンギョ 皇后のこと。

【貫衆】クワンシュウ 蕨の一種、おにわらび。

【貫徹】クワンテツ 貫通の①に同じ。

【貫籍】クワンセキ 本籍地、生れ故郷。

### 賈

賈ゲイ

①現金を拂はずに品物を買ふ、かけて買ふ、おぎのる(賒)②ゆるす(赦)③國訓もらふ(譲り受ける、贈られる、迎へ入れて我物とす、助力を受ける、つりこまれる)

【賈財】ゲイサイ たから、財産。  
【賈産】ゲイサン 財産と同じ。  
【賈簿】ゲイボ 金錢などの出納をかきしもの

### 賈

賈ゲイ

貳

①ふたつ(二)に同じ、證書の数字に用ゐる。②両端を持つ、ふたつにす(疑)そふ(副)③かさね(重)ふたがふ(疑)たぐひ(匹敵)④ふたご(二心)二心を持つ(代)⑤はなる(離)ひかへ、そへ(貳室)離宮のこと。

類語

不貳 介貳 副貳 精貳 參貳 違貳 嫁貳 疑貳 應貳 儲貳 離貳

貴



①たつとし、たふとし、たかし(たつとぶ、たふとぶ、うやまひあがめる、重んず、大切にする)ねがふ、のぞむ、欲する(たつときこと、又其人)尊稱の接頭語(貴人)漢代女官の名。(貴下)他人の敬稱、あなたに同じ。(貴女)身分のたかき女、貴婦人

②女子の敬語。【貴札】他人の手紙の敬稱。【貴仕】高き位。【貴地】たかき地位、たつとき身分。③他人の居住地に對する敬語。【貴老】老人の尊稱。【貴价】他人の使者の敬稱。【貴妃】唐代女官の位。【貴臣】官位のたかき家來。【貴庚】他人の年齢を問ふ時の敬語。【貴近】身分高く君主に親しきこと又其人。【貴門】他家の敬稱。【貴客】身分人格ある客、貴賓。【貴要】身分たかく樞要の地位にあること、又其人。【貴重】貴く大切なること。【貴胄】尊貴なる家筋の子孫、華胄。【貴家】貴門に同じ。【貴神】尊き神靈。【貴書】他人の書翰の敬稱。【貴紳】身分たつとき人。【貴息】他人の子の敬稱。【貴庾】物品を貯蓄し物價の高くなるを待ちて賣り拂ふこと。【貴國】他人の國に對する敬語。

【貴族】身分たつとき家柄。【貴買】値をたかくかふ。【貴意】他人の心の敬稱、おぼしめしあなたの御心。【貴戚】貴族の親類。【貴酬】御返事、おこたへ。【貴賓】貴客に同じ。【貴權】女官又女子の敬稱。【貴賈】高く賣ること。【貴賤】價のたかきこと、やすきこと(身分のたつときといやしき)。【貴體】相場よりたかく米を買ひとること。【貴顯】位高きはだつ、又其人。【貴公子】身分たつとき家がらのわかも。【貴老師】人の師の敬稱。【貴金屬】價たかき金屬。【貴高足】人の門人を稱する敬語。【貴婦人】身分貴き婦人。【貴重品】高價で大切なる品物。【貴族院】二院制度の國會に於て貴族を主とし勳功者・多額納税者などを以て組織せられる議院、上院。【貴族制度】貴族が其國の政治上に於て特權を有する制度。

【貴重顯籍】自重してみだりに進まぬこと。

【貴族政治】少數の貴族が國家の主權を握ること。

【貴レ古賤レ今】過去を貴び現在をいやしむ。

訓讀

【貴を挾む】袂に貴をさしはさむ 身分の高きことをほこる。

類語

功貴 至貴 良貴 高貴 盛貴 富貴 隆貴 尊貴 朝貴 榮貴 踊貴 暴貴 窮貴 寵貴 騰貴 權貴

貶



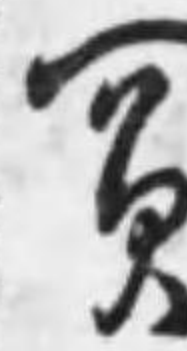
①おとす、官位をさげる、そしる、しりぞける、けなす(少くす、へらす、又それ等のこと)【貶斥】貶黜に同じ。【貶坐】おとして罪すること。【貶流】官位をさげて遠方にながす【貶降】官位をおとす、貶退。【貶退】前に同じ。

【貶秩】官位をさげおとす。【貶匿】身をおとし才をかくす。【貶殺】へらしそぐ。【貶逐】貶流に同じ。【貶損】へらす、又おとす。【貶遷】地位をおとされて他にうつることをいふ。【貶職】地位をさげて罷せらる。【貶黜】地位をさげ退けられる。【貶謫】貶流に同じ。【貶竄】おとしさげること。

類語

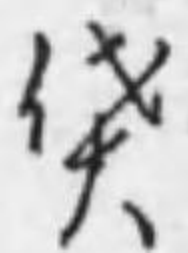
顯貶 裏貶 損貶 抑貶 懲貶 竄貶

買



①かふ、購求する、金にて快樂を求め、求め受ける、招く、來す(かひ、買ひとる)②國訓かふ(ねうちを認める、喧嘩のあひ手になる、買ひとる)【買收】かひとる(金錢を出し或は利を以て人を味方につける)【買禍】わざはひを受けること。【買賣】かふこと、うるること、うりかひ、しやうばい。

貸



①かす、すけてやる、みのがす、ゆるす、おほめに見る(かか、かけて買ふ、又それ等のこと)②國訓勝ち越し【貸假】金錢物品を人にかし與ふ。【貸借】かしとかり。【貸與】かしたる。【貸方】かしぬし、又簿記上自分より出したるものを云ふ。【貸家】家賃をとりて人に貸す家。【貸賣】かけうり。【貸養生】官又は其學校より學資金をかりて修業する學生。

【貨座敷】カシヤシヤ 損料を取りて貸す座敷又遊女屋。

類語

原貸 タイン 恩貸 タイン 容貸 タイク 假貸 タイ  
救貸 タイヤ 粟貸 タイン 稱貸 タイク 賑貸 タイン  
寛貸 タワン 優貸 タイク

祝

祝

① あたふ、たまふ ② 他人に對する敬語、くださる ③ くだされもの、たまもの (賜)

【祝贈】キヤウゾウ おくりもの、又たまもの。

費

費

① つひやす、使用する、つかふ、へらす ② つひえ、つひやす所の金品 ③ いりめ、ものいり ④ つひゆ、金品がへる、缺乏す ⑤ 功用のひろく大なること

【費用】ヒョウ つひえ、いりめ。  
【費金】ヒキキ 費用する金、いりめ。  
【費目】ヒモク 費用の細目。  
【費耗】ヒカウ つひえ、つかひへらすこと  
【費消】ヒセウ つかひつくす。  
【費途】ヒト 金品のつかひみち。

【費額】ヒゴク つかひだか。  
【費隠】ヒイン 聖人の道の至顯なるは費、至細なるは隠、功用の大なるをいふ。

類語

淫費 ヒン 辭費 ヒジ 歳費 ヒサイ 匠費 ヒヤウ  
浪費 ヒラウ 浮費 ヒフ 遊費 ヒユウ 給費 ヒキフ  
経費 ヒケイ 勞費 ヒロウ 官費 ヒクワン 國費 ヒクコク  
邊費 ヒヘン 横費 ヒヨウ 路費 ヒロ 元費 ヒョウ  
學費 ヒガク 工費 ヒコウ 奢費 ヒシャ 衆費 ヒシユウ

貼

貼

① つく、はりつける、寄り附く、粘著する ② 借金のかたに置く、質におく ③ 薬の包みを敷へる數詞

【貼付】テフ はりつける。  
【貼用】テフヨウ はりつけて使用する。  
【貼黃】テフワウ ① 唐代に於て詔敕を改めることをいふ ② 政府又は君主に奏呈する文書の大要を黃紙に記しその末にはりつけるもの。  
【貼錢】テフゼン 金銭を補助す、又つりせん  
【貼墨】テフボク 試験の法にして經書中の一行を示し前後を掩ひ隠して之を通讀せしめしもの。

類語

典貼 テン 販貼 テン 補貼 テン 裝貼 テン

貽

貽

① のこす (遺) 後にとゞめる ② おくる (贈) 歸與す  
【貽則】イツク 法を設けて後世に示し教へることを。  
【貽訓】イツク 父祖が子孫の爲にのこしたるをしへ、遺訓。  
【貽痕】イツク 傷などが癒えて痕が貽ること、又そのもの。  
【貽厥】イツク まご、子孫。  
【貽謀】イツク 子孫のためにのこしたる父祖のはかりごと。

買

買

① かふ、互にうりかひす、交易、互市 ② 又かふ (買) ③ 目のかすむ貌  
【貿易】ボウエキ 財物を交換して有無相通すること、今は外國との商賣をいふ。  
【買販】ボウハン 賣買すること。  
【貿易風】ボウエキフウ 赤道の南北三十度以内の海上に生ずる恆風にして其風向きが

常に一定し貿易船の通航に便利なる故にいふ。

【貿易場】ボウエキヤウ 貿易する場所、主として外國を相手に賣買する所。

【貿易港】ボウエキカウ 外國と貿易する爲めの港。

類語

交買 ボウキ 易買 ボウキ 販買 ボウハン 賤買 ボウセン

賀

賀

① よろこびをのべる、いはひよること ② いはひ、よろこび ③ 物品を贈り祝ふ ④ 賀状 ガシヤウ よろこびの手紙、又祝ひのてがみ。

【賀表】ガヘウ 朝廷又國家に慶事ある時に臣下より上る祝賀の文書。  
【賀客】ガカク 祝賀の客。  
【賀意】ガイ よろこびの心。  
【賀頌】ガシヨウ ほめいはふ、又其詞。  
【賀會】ガクワイ 祝ひの會合。  
【賀筵】ガエン いはひのさかもり、祝宴。  
【賀慶】ガケイ よろこび、慶賀。  
【賀辭】ガジ いはひのことば。  
【賀儀】ガギ 祝ひごと、喜びごと。

類語

參賀 サン 朝賀 タウ 弔賀 タウ 來賀 ライ  
拜賀 ガイ 表賀 ガウ 慶賀 ガク 祝賀 シユウ  
大賀 タイ 年賀 ガン

賁

賁

① かざり、かざる、あや、光彩 ② 易の卦の名 ③ いきどほる (賁) ④ わく (賁) ⑤ はしる (奔) ⑥ 人の名  
【賁育】ホンイク 春秋戰國時代の有名な腕力家、孟賁と夏育。  
【賁來】ヒライ 賁臨に同じ。  
【賁閑】ヒモン いきどほり、又いきどほる。  
【賁臨】ヒリン 他人が自分の所に來ることをいふ敬語。

類語

白賁 ハク 虎賁 フン 孟賁 マウ 褒賁 ハウ  
寵賁 チョウ 顯賁 ケン

六畫

賂

賂

① まひなひ、利益を得んが爲にひそかにおくる贈物、そでのした ② まひなふ

物を人におくる、遺贈す  
【賂謝】ロシヤ おれい、謝禮。  
【賂遺】ロキ まひなふ、わいろをつかふ。

類語

賂賂 ロウ 厚賂 コウ 賄賂 ヲウ 重賂 ジユウ

賃

賃

① やとふ (庸) やとはる ② やとひ、やとはれ、やとひにん ③ やとひ人に與へる給金 ④ 報酬、代價、損料  
【賃作】チンサク 賃銀を受けてはたらくこと  
【賃金】チンキン 勞力に對して受くる報酬、雇れて得る手間賃。  
【賃書】チンシヨ 賃銀を受けて文字を寫す。  
【賃房】チンバウ しやくや、賃店。  
【賃春】チンシュウ 米つきにやとはれる。  
【賃舖】チンポ かりだな、かしみせ。  
【賃銀】チンギン やとひ人に給與する金。  
【賃銀】チンギン 金を出して人をやとふ。  
【賃銀】チンギン 賃銀に同じ。  
【賃貸借】チンタイシヤク 相手方に或物品の使用又は収益をなさしめ他の相手方が之に對して賃金を支拂ふべきことを約束すること。  
【賃貸價格】チンタイカク 賃貸によつて收得



【賓位】ヒンキ 賓客の地位、お客の座席。  
【賓延】ヒンキン 客分として招き優待すること。  
【賓席】ヒンシキ 客の座席。  
【賓服】ヒンフク 賓客に同じ。  
【賓待】ヒンタイ 賓客に同じ。  
【賓客】ヒンカク ①おきやく、まらうど ②太子の侍従をつとめ輔導の任にあたる官  
【賓師】ヒンシ 大名より客分として待遇を受けるけらい。  
【賓貢】ヒンコウ 外國人が入朝して貢物をたてまつること。  
【賓接】ヒンセツ お客を待遇す。  
【賓従】ヒンジュウ 來り服す。  
【賓進】ヒンシン お客をもてなす座席。  
【賓興】ヒンコウ 周代士人を採用するに當り郷飲酒の禮を以て賓客として推舉せしこと。  
【賓禮】ヒンレイ 賓客を待遇する禮式。  
【賓辭】ヒンジ 論理學上に於て命題の主辭の意義を述べることばをいふ。  
【賓頭虛】ヒンシュ 白頭長眉の人相に作られたる羅漢の像。

【賁】ヒン 賓の俗字  
【賁】ヒン 賁の俗字  
【賁】ヒン 賁の俗字

【賈】キウ 賈の俗字  
【賈】キウ 賈の俗字  
【賈】キウ 賈の俗字

【賈】シウ 賈の俗字  
【賈】シウ 賈の俗字  
【賈】シウ 賈の俗字

【賈】ライ 賈の俗字  
【賈】ライ 賈の俗字  
【賈】ライ 賈の俗字

類語

嘉賓カヒン 惡賓アクヒン 雜賓ザヒン 英賓エイヒン  
俗賓ソクヒン 來賓ライヒン 上賓ジョウヒン 衆賓シュウヒン

恩賚オンライ 祥賚ショウライ 賜賚ミライ 賞賚ショウライ  
惠賚ケイライ 惠賚ケイライ 分賚ブンライ 眷賚ケンライ

振賚シンライ 勞賚ラウライ 輸賚コウライ 寵賚チュウライ  
賜賚ミライ 賜賚ミライ 賜賚ミライ 賜賚ミライ

惠賜ケイミ 散賜サンミ 賑賜ゼンミ

【賈】ハイ 賈の俗字  
【賈】ハイ 賈の俗字  
【賈】ハイ 賈の俗字

【賈】シヤウ 賈の俗字  
【賈】シヤウ 賈の俗字  
【賈】シヤウ 賈の俗字

【賈】シヤウ 賈の俗字  
【賈】シヤウ 賈の俗字  
【賈】シヤウ 賈の俗字

【賈】シヤウ 賈の俗字  
【賈】シヤウ 賈の俗字  
【賈】シヤウ 賈の俗字

【賈】シヤウ 賈の俗字  
【賈】シヤウ 賈の俗字  
【賈】シヤウ 賈の俗字

【賈】シヤウ 賈の俗字  
【賈】シヤウ 賈の俗字  
【賈】シヤウ 賈の俗字

【賈】シヤウ 賈の俗字  
【賈】シヤウ 賈の俗字  
【賈】シヤウ 賈の俗字

【賈】シヤウ 賈の俗字  
【賈】シヤウ 賈の俗字  
【賈】シヤウ 賈の俗字

【賈】シヤウ 賈の俗字  
【賈】シヤウ 賈の俗字  
【賈】シヤウ 賈の俗字

【賈】シヤウ 賈の俗字  
【賈】シヤウ 賈の俗字  
【賈】シヤウ 賈の俗字

【賈】シヤウ 賈の俗字  
【賈】シヤウ 賈の俗字  
【賈】シヤウ 賈の俗字

類語

恩賚オンライ 祥賚ショウライ 賜賚ミライ 賞賚ショウライ  
惠賚ケイライ 惠賚ケイライ 分賚ブンライ 眷賚ケンライ

振賚シンライ 勞賚ラウライ 輸賚コウライ 寵賚チュウライ  
賜賚ミライ 賜賚ミライ 賜賚ミライ 賜賚ミライ

【賈】シ 賈の俗字  
【賈】シ 賈の俗字  
【賈】シ 賈の俗字

【賈】シ 賈の俗字  
【賈】シ 賈の俗字  
【賈】シ 賈の俗字

【賈】シ 賈の俗字  
【賈】シ 賈の俗字  
【賈】シ 賈の俗字

【賈】シ 賈の俗字  
【賈】シ 賈の俗字  
【賈】シ 賈の俗字

類語

恩賜オンミ 給賜キツミ 嘉賜カミ 天賜テンミ  
賞賜ショウミ 褒賜ホウミ 分賜ブンミ 特賜トクミ  
厚賜コウミ 勞賜ラウミ 贈賜ゾウミ 遺賜エイミ

激賞ゲキショウ 嗟賞サショウ 歎賞タンショウ 欣賞シンショウ  
爵賞ケツショウ 上賞ジョウショウ 懸賞ケンショウ 褒賞ホウショウ  
行賞コウショウ 妄賞オウショウ 濫賞ランショウ 幽賞ユウショウ

【賈】カウ 賈の俗字  
【賈】カウ 賈の俗字  
【賈】カウ 賈の俗字

【賈】カウ 賈の俗字  
【賈】カウ 賈の俗字  
【賈】カウ 賈の俗字

【賈】ケン 賈の俗字  
【賈】ケン 賈の俗字  
【賈】ケン 賈の俗字

【賈】ケン 賈の俗字  
【賈】ケン 賈の俗字  
【賈】ケン 賈の俗字

【賈】ケン 賈の俗字  
【賈】ケン 賈の俗字  
【賈】ケン 賈の俗字

【賈】ケン 賈の俗字  
【賈】ケン 賈の俗字  
【賈】ケン 賈の俗字

【敬稱】ケレボ かしこき母、又他人の母の敬稱。  
 【賢母】ケレボ かしこき母、又他人の母の敬稱。  
 【賢主】ケンシユ 賢明なる君主。  
 【賢臣】ケンシユ かしこき家來。  
 【賢明】ケンメイ 物事の理にあきらかにしてかしこし、又その人。  
 【賢命】ケンメイ 長上の命令の敬稱。  
 【賢弟】ケンテイ 他人の弟を稱する敬語、又目下の男子に對する敬稱。  
 【賢後】ケンシユ 人よりまさる、又その人。  
 【賢相】ケンシヤウ すぐれたる大臣、かしこき宰相。  
 【賢妻】ケンサイ かしこき妻、人の妻の敬稱。  
 【賢者】ケンシヤ かしこき人。  
 【賢彦】ケンゲン すぐれたる士。  
 【賢哲】ケンテツ 賢くしてさとい、又其人。  
 【賢胤】ケンイン かしこくすぐれたる子孫。  
 【賢能】ケンノウ 賢くしてはたらしきあると、又その人。  
 【賢英】ケンエイ かしこくすぐれたる者。  
 【賢勞】ケンラウ 人よりすぐれたる爲に公事に使役せられ疲勞すること。  
 【賢息】ケンシツ 他人の子息の敬語。  
 【賢淑】ケンシユク かしこくして善し。  
 【賢婦】ケンフ かしこき婦人、賢女。

【賢資】ケンシ かしこき生れつき。  
 【賢智】ケンチ かしこくてちゑのあると、又其人。  
 【賢愚】ケンダ かしこきとおろか、賢者と愚者。  
 【賢豪】ケンカウ さとくすぐれたる者。  
 【賢聖】ケンセイ すぐれてかしこし、又其人。  
 【賢徳】ケンタク すぐれたる徳。  
 【賢慮】ケンリョ おぼしめし、おかんがへ。  
 【賢路】ケンロ 賢者の立身出世すべき道。  
 【賢察】ケンサツ 人の察することの敬稱。  
 【賢輔】ケンボ 賢相に同じ。  
 【賢所】ケンショ 宮中に在りて神鏡を奉安する所、内侍所又温明殿ともいふ。  
 【賢夫人】ケンフジン 他人の夫人の敬稱。  
 【賢良方正】ケンリヤウハウセイ 官吏登用試験の科目の一にして漢の文帝の時に始まりしもの。  
 【賢聖障子】ケンセイシャウジ 紫宸殿内にある障子にして東西各四間に支那の三代より唐代までの賢聖名臣三十人の像をなす。  
 【賢母良妻主義】ケンボリヤウサイニシキ 家族主義なる日本の家庭に適する穩健なる婦人を養成し又はそれを理想とする主義。

【賣】バイ メ 賣る、ひさぐ、あきなふ、あざむく(欺)てらふ(術)もとめる(求)うらぎり(欺)味方の内情を敵に知らす。  
 【賣下】バイゲク ト占を業とすること。  
 【賣女】バイメウ 色を賣る女、女郎、遊女。  
 【賣文】バイブン 文章を作り其報酬にて生活すること。  
 【賣主】バイシユ 売りて、うりぬし。  
 【賣弄】バイロウ てらふ、ほこりしめす。  
 【賣御】バイケツ 賣り拂ふ、賣りこかす。  
 【賣品】バイヒン 賣る品、うりもの。  
 【賣官】バイクワン 金銭を取つて官位を授けること。  
 【賣貨】バイカワ 賣りしる、うりもの。  
 【賣物】バイブツ 物をうる、又うりもの。  
 【賣淫】バイイン 女子が報酬を得て淫をひさぐこと。  
 【賣價】バイカ かりね、うりねだん。  
 【賣買】バイバイ かりかひす、あきなひ。

【賣業】バイヤク ①薬をうる、又其くすり②豫め調合しておきて一般に賣る業。  
 【賣信】マイシツ 利のためにこびへつらふ僧。  
 【賣立】ウリタテ 所藏の骨董・書畫等を入札公賣すること。  
 【賣明】ウリアカ 手元に現品なくして賣ること。  
 【賣口】ウリクチ 賣りつける所、又賣ること。  
 【賣店】ウリミセ ①物を賣る店②うる店、ゆづりみせ。  
 【賣捌】ウリサバキ かりひろめ、うりはらふ。  
 【賣渡】ウリワタシ 賣買契約によりて賣主が買主に物品を引渡すこと。  
 【賣崩】ウリクズレ 相場用語、高く賣出して人に買はしめ後下落した時買戻してその差額を利すること。  
 【賣笑婦】バイセウフ 淫賣婦、賣春婦、女郎。  
 【賣春婦】バイシュンフ 前に同じ。  
 【賣國奴】バイコクド 私利の爲に敵國に内通して味方の様子を知らす者。  
 【賣言葉】ウリコトバ いひかける言葉、主として争ひの場合にいふ(例)賣言葉に買言葉。  
 【賣値段】ウリネダン 品物を賣るあたひ。  
 【賣上勘定】ウリアゲカンジヤウ ①商品の賣上高を勘定すること及び其科目②商品を借受けて賣上つた丈勘定を支拂ふこと

【賣上勘定書】ウリアゲカンジヤウショ 賣りだる商品の明細書。  
 【賣上手数料】ウリアゲテスウレウ 委託品を販賣したる時間屋が賣主より報酬として受取る手数料。  
 類語 高賣バウ、沽賣バウ、販賣バウ、略賣バウ、專賣バウ、發賣バウ、競賣バウ、需賣バウ

【賤】セン ①いやし、等級が低い、身分がひくい、ねがやすい、おとる、又それ等のもの②いやしむ、あなどる(侮)かるんず(輕)

【賤子】センシ 自己の謙稱。  
 【賤工】センコウ いやしき職人。  
 【賤内】センナイ 己の妻を謙稱していふ語。  
 【賤劣】センレツ 人におとりていやし。  
 【賤臣】センシン 君主に對する臣下の謙稱。  
 【賤奴】センド いやしきしもべ。  
 【賤技】センギ いやしきわざ②自分のはたらきの謙稱。  
 【賤民】センミン いやしき民、下賤の民。  
 【賤妾】センセツ ①賤しき召使の女②夫に對する妻の謙辭。

【賤老】センラウ 年老いたる人の謙稱、賤しき老人。  
 【賤室】センシツ 賤内に同じ。  
 【賤侮】センブ いやしめあなどる。  
 【賤事】センジ 自分のしごとの謙辭。  
 【賤俗】センゾク いやしき風俗。  
 【賤易】センイ いやしめ侮る、輕蔑す。  
 【賤卑】センヒ いやしきこと。  
 【賤俘】センブ いやしきとりこ。  
 【賤陋】センロウ ①いやし、下賤②才徳の劣れること。  
 【賤息】センシツ 自分の子の謙稱。  
 【賤買】センバイ 安價に賣買すること。  
 【賤家】センカ いやしきいへがら。  
 【賤族】センゾク 身分のいやしき家がら。  
 【賤微】センビ 身分賤しく地位ひくし。  
 【賤惡】センアク 侮りにくむこと。  
 【賤業】センゲツ いやしき生業、又は仕事。  
 【賤質】センシツ いやしきうまれつき。  
 【賤隸】センレイ しもべ、卑しき召使。  
 【賤軀】センク 自己の謙稱。  
 【賤職】センシツ 地位のひくき役。  
 【賤丈夫】センヂヤウフ 身分のいやしき男。  
 【賤業婦】センゲツフ 淫賣婦、娼妓、醜業婦。



死者の家族を弔ふために金品をおくる又その金品

【購弔】フナフ 貨財を贈りて喪事をたすけること。

【購祭】フナフ 祭祀料を贈つて死者を弔ふ

【購儀】フナフ 死者を弔ひ贈る物。

【購喪】フナフ 尊き人から賜はりし香奠。

【購財】フナフ 死者に贈り弔ふもの、金品を贈といひ車馬を贈といふ。

類語

弔購フナフ 助購フナフ 法購フナフ 給購フナフ 賞購フナフ 薄購フナフ 贈購フナフ

購

コウ ①あがなふ、もとめる、買ふ。②賞を求めて募る。③古く講に通ず

【購入】コウニフ 買入れ、かひいれること。

【購求】コウニフ 買ふ、あがなひもとめる

②賞金をかけてさがし求める。

【購客】コウニフ かひて、物をかふ人。

【購捕】コウニフ 賞品を懸けて人をとらへる

【購得】コウニフ 購ひとる。

【購問】コウニフ 賞金をかけて尋ね問ふ。

【購買】コウニフ かふ、あがなふ。

【購讀】コウニフ 書籍などを買求めてよむと

賽

サイ ①おれいまり、願の叶ひたる御禮として神佛に参り又祭をすること。②雙六又は賭博に用ゐる立方形の具、さいころ、骰子。③轉じて勝負優劣を争ふこと

【賽日】サイニチ 數入に闖麗に参る日。

【賽客】サイニチ 参詣人、おまゐりする人。

【賽馬】サイバ 金銭をかけて行ふ競馬。

【賽詣】サイキ 社寺に参詣すること、おれいまり。

【賽神】サイシン 神に捧げる御禮祭。

【賽銭】サイゼン 参詣人が神佛に奉る金銭。

【賽河原】サイカハラ 冥土にある濱にして十歳未満の小兒の亡者が此所に至り磔をつみて遊び居る處なりといふ。

【類語】告賽コウニフ 祈賽サイ 秋賽サイ 春賽サイ 答賽サイ 報賽サイ 副賽サイ 齋賽サイ

饋

サク おくぶかし、幽玄の眞理

【類語】幽饋サイク 奥饋サイク 幾饋サイク 玄饋サイク 冥饋サイク 精饋サイク 至饋サイク

十一畫

贊

シ ①(古代面會のとき身分に應じて相手方へ差し出したる禮物)仕官をする時や教を乞ふ時にも行ふ、みやげもの

【贊禮】シレイ 初會の時に出す祝儀。

【訓讀】贊を委す 委贊シをナ 次と同じ。

【贊を執る】執贊シをナ 面謁又は入門の禮として贈る逸物。

【類語】交贊シ 委贊シ 珪贊シ 執贊シ 琛贊シ 嘉贊シ

贅

セイ 文章。

【贅同】サンニフ 次と同じ。

【贅成】サンセイ 同意して賛助す。

【贅決】サンケツ 助けて取りきめること。

【贅助】サンジュ わきより力を添へる。

【贅佐】サンサ たすけること。

【贅否】サンヒ 贊成と不贊成。

【贊美】サンビ ほめる、稱贊。

【贊述】サンジュツ ほめあらはす。

【贊畫】サンクワ 助けはかる。

【贊稱】サンショウ ほめたまへる、稱贊。

【贊導】サンダウ 助けみちびくこと。

【贊嘆】サンタン 感心してほめる。

【贊襄】サンジャウ 助力して成しとげる。

【贊翼】サンヨク 賛助に同じ。

【贊辭】サンジ ほめことば、讚辭。

【贊慶】サンキョウ 神をまつる祝辭。

【類語】光贊サンクワ 勳贊サンクワン 天贊サンテン 参贊サンサン 扶贊サンフ 攝贊サンセツ 協贊サンキョウ 自贊サンジ

贗

ウ 贗の偽字

十三畫

【類語】贗の偽字

贇

イン よし(美)美好

贈

ソウ ヌウ ①おくる、やる、おくり與へる。②言辭を言ひやる、死後に朝廷から官位を賜

①むだ、よけいなもの。②無用のことを云爲すること。③こぶ(瘤)④むこ(婿)いりむこ⑤あつまる(業)あつまる

【贅肉】ゼイニク むだな肉、こぶ。

【贅言】ゼイヤン 無用の言、よけいなことば。

【贅物】ゼイブツ 無用なるもの。

【贅疣】ゼイウ 無用なるもの。

【贅瘡】ゼイソウ こぶ、贅肉。

【贅垢】ゼイコウ いらむこ、入夫。

【贅旋】ゼイセン 緩旋の⑤に同じ。

【贅澤】ゼイタク 無用のおごり。

【贅虧】ゼイキ 餘分になる、缺損する。

【贅辯】ゼイベン むだくち、むだこと。

【類語】疣贅ゼイウ 句贅ゼイウ 附贅ゼイ 出贅ゼイユツ

十二畫

贊

サン ①ほむ、賞揚す。②ほめことば(讚)③たすく(助)④漢文の一體、又書畫の傍に書く詞、歴史の記事に添へる議論

【贊文】サンブン 功德などをほめそやしたる

【類語】奇贈ソウ 持贈ソウ 追贈ソウ 遠贈ソウ



贍

セン

①たる(足)富む、ゆたかである、十分である。②たす、加へる。

- 【贍富】セシヨク 十分になること。
- 【贍殖】セシヨク 十分にふえる。
- 【贍給】セシヨク たし與へる。
- 【贍賑】セシヨク ほどこしすくふ。
- 【贍麗】セシヨク ゆたかにして美しく。
- 【贍濟】セシヨク すくひ恵む。

類語

- 優贍 セシヨク 雄贍 セシヨク 豐贍 セシヨク
- 該贍 セシヨク 饒贍 セシヨク 賑贍 セシヨク
- 貨贍 セシヨク 妍贍 セシヨク 辯贍 セシヨク
- 雅贍 セシヨク 流贍 セシヨク 通贍 セシヨク 敏贍 セシヨク
- 明贍 セシヨク

贏

エイ

①あます、あまる、まうかる、まうける。②あまり、まうけ。③つむむ(包)のぶ(伸)ゆるむ。④うく(受)。⑤かち、勝利。【贏者】エイシヤ 勝利者、かちたる者。【贏細】エイチユツ あまること、うちむこと

類語

- 華贍 セシヨク 雄贍 セシヨク 豐贍 セシヨク
- 清贍 セシヨク 饒贍 セシヨク 賑贍 セシヨク
- 美贍 セシヨク 妍贍 セシヨク 辯贍 セシヨク
- 流贍 セシヨク 通贍 セシヨク 敏贍 セシヨク

【贏餘】エイヨク よぶん、あまり。【贏輸】エイシユ かちとまけ。【贏縮】エイシユク のびるとちむむ、有餘と不足。【贏擔】エイタン になふこと、負擔。【贏得】カチエタリ 先づこれだけは利得であるの意に用ゐる語。

- 薄贏 セシヨク 輸贏 セシヨク 餘贏 セシヨク 豐贏 セシヨク

十四畫

贖

ジン

①はなむけ、餞別。②はなむけをおくる、はなむけす。【贖行】ジンカウ 旅立のはなむけ、餞別。【贖送】ジンソウ かどてをおくる。【贖儀】ジンギ はなむけに贈る金品。【贖銭】ジンゼン はなむけ。

贖

サウ

不正の方法で物品をわが所有とする

こと、又その物品。③賄賂をとる。④盗品を隠すこと。【贖吏】ゴウリ 賄賂をむさぼる役人。【贖物】ゴウブツ 次に同じ。【贖品】ゴウヒン 不正の手段にて得たる物品。【贖盜】ゴウタン 賄賂を貪り不正をはたらく。【贖塞】ゴウソク 賄賂をむさぼる不正なる者。

- 最贖 ヒ

贖

ヒ

①最贖は大いに力を出す。②最贖は特に目をかけてひきたてる、又偏怙、えこひいき。【最怒】ヒド いかる、主として水勢のほげしきにいふ。【最贖】ヒイキ 助くること、力をそへる。

十五—十七畫

贖

シヨク

あがなふ、金品を出して罪を免る、又貿易すること。【贖金】シヨクキン つぐなひの金。【贖刑】シヨクケイ 罪を免れしめる爲め金銭

を出させること、罰金。

贖

【贖罪】シヨクザイ 財物を出して罪を差引く類語

贖

助贖 セシヨク 厚贖 セシヨク 重贖 セシヨク 救贖 セシヨク

贖

にせもの、にせ、偽物

- 【贖札】ゴンサツ 偽造紙幣、にせのさつ。
- 【贖作】ゴンサツ 贗造に同じ。
- 【贖物】ゴンブツ まやかしもの、にせもの。
- 【贗造】ゴンサツ ほんものに似せて造る、又其にせもの。
- 【贗金】ガンキン にせがね。

贖

コウ

贖

おろか

赤部

赤

セキ シヤク

①あか、朱色。②あかし、まごころがある。③あかくす、赤色にする。④空しい、か

ら、何物もない。②ありのまゝ、はだか、むきだし。③露西亞勞農政府派の徽章の色に因み過激思想の意。

- 【赤子】セキシ 赤ちゃん、嬰兒。
- 【赤土】セキド 不毛の地、草木の生えぬ地。
- 【赤手】セキテ 手からで、すて、空拳。
- 【赤弁】セキベン とんぼの異名。
- 【赤心】セキシン ①まごころ。②果物等の赤きなにかみ。
- 【赤衣】セキイ ①太史の官が著る赤の衣服。②罪人のきる赤のきもの、又囚人。③昔五位以上の者の着用したる緋の袍。
- 【赤化】セキカ 穩健なる思想の人が過激な思想に變化すること。
- 【赤芒】セキマウ あかきひかり。
- 【赤地】セキチ 赤土に同じ。
- 【赤血】セキケツ なま／＼しき血しほ。
- 【赤足】セキソク はだし、すあし。
- 【赤身】セキシン 丸裸、赤はだか、赤裸々。
- 【赤帝】セキテイ 夏を司る神、轉じて夏。
- 【赤砂】セキサ 金剛砂、あかざな。
- 【赤星】セキセイ 金星の別名。
- 【赤面】セキメン 恥ぢて顔をあかくすること。
- 【赤貧】セキヒン 貧乏の甚しきをいふ。
- 【赤脚】セキキョク はぎをあらはす、すあし。
- 【赤族】セキゾク 一族のこらず殺されること。

【赤志】セキシ 赤かきあざ。

- 【赤道】セキダウ 地球に直交して地球の兩極より九十度の距離にある大圓。
- 【赤楊】セキヤウ 樺の木の名。
- 【赤黍】セキシ 黍の事。
- 【赤靴】セキカウ 赤い靴。
- 【赤菜】セキサイ 菜の一種、あかな。
- 【赤裸】セキカ 赤身に同じ。
- 【赤飯】セキハン こはめし、あづきめし。
- 【赤誠】セキセイ まごころ、赤心。
- 【赤塵】セキチン 朱塵、しゆずみ。
- 【赤幟】セキシ 赤き旗。
- 【赤鷄】セキキ 太陽の異名。
- 【赤堙】セキチ 朱ぬりのきざはしのある庭。
- 【赤宮】セキキウ 赤宮。
- 【赤壁】セキヘキ 支那の地名にして東漢の末に吳の周瑜が曹操の大軍を破りし所。
- 【赤燐】セキリン 赤褐色の燐にて黄燐より變化したるもの。
- 【赤龍】セキリウ ミヅの異名。
- 【赤箭】セキゼン 藥草の名。
- 【赤繩】セキジヨウ 夫婦のえにし。
- 【赤本】セキホン 一七九三年ロイド組合に反對の船主が刊行せる新船目録、我が國の草双紙の古名、轉じて低級なる書物。
- 【赤味】セキミ 赤い色、又その色の部分。

【赤恥】アカハチ あらはなる恥辱、甚しき恥。  
 【赤腹】アカハラ 鶯の異名、もりの異稱。  
 【赤鯛】アカイワシ しほづけにしたる鯛、鈍刀のさびたるに喩へていふ。  
 【赤門】アカモン 東京帝國大學の異名。  
 【赤瓦】アカガハラ 噴合式のセメント製の瓦にてゲアンガロー式住宅に用ふ、轉じて安價なる文化生活。  
 【赤札】アカフダ ①文部省主催の美術展覧會にて落選せしものに貼る札 ②寫眞感光度の早き種板が赤紙に包まれるよりその種板のことをいふ。  
 【赤繪】アカエ 陶器に描く赤色の模様。  
 【赤鷲】アカヒゲ ①外國人をいやしめていふ語 ②琉球産の胸鳥の一種。  
 【赤電】アカデン 新聞社の外國電報受信が赤色の用紙を用ふるよりその電報をいふ  
 【赤銅】シヤクドウ 銅百分と金一乃至十分から成る紫黑色の合金。  
 【赤血球】セキケツクウ 高等動物の血液中にある扁圓形の小球にて紅色の色素を有す  
 【赤子心】セキシノココロ 純一にして偽りなき心。  
 【赤松子】セキショウシ 古の仙人の名。  
 【赤帝子】セキテイノコ 漢の高祖の異名。  
 【赤條々】セキヂョウヂョウ 赤身に同じ。

【赤眼魚】セキガンギョ 鱒の異名。  
 【赤衛軍】セキエイグン 露國の革命當時現はれたる戦闘部隊の稱。  
 【赤痢病】セキリビヤウ 傳染病の一、あかはら。赤道祭(セキドウサイ)赤道直下を通過する時艦船の行ふまつり。  
 【赤裸々】セキラウラウ 赤身に同じ ②あからさま、ありのまま。  
 【赤錦袍】セキキンハウ 赤地の錦の陣羽織。  
 【赤羅刹】セキラスヤク 羅刹は梵語(Rakshasa)の宛字にして人を食ふ魔物、赤鬼。  
 【赤月毛】アカツキゲ 馬の毛色、赤みを帯びたる月毛。  
 【赤鹿毛】アカカゲ 馬の毛色、鹿毛の赤みを帯びたるもの。  
 【赤絲威】アカイトラシ 體のかさねを赤き絲にておどしたるもの。  
 【赤葦毛】アカアシゲ 馬の毛色、葦毛に赤みあるもの。  
 【赤毛布】アカカワツ 田舎者の異稱、おのぼりさん。  
 【赤行囊】アカカウナウ 金錢又は貴重品を入れる郵便用の赤袋。  
 【赤門派】アカモンハ 東京帝國大學の卒業業者又は關係者の一團。  
 【赤新聞】アカシンブン 低級なる悪徳新聞の異名。

【赤電車】アカデンシャ 東京市内にて終電車の異名。  
 【赤十字社】セキジフジシヤ 博愛同仁の趣旨により交戦中は敵味方とも互に患者・負傷者等を救護すべしとの約束によつて設立せられたる世界公共の社團。  
 【赤子之心】セキシノシン 自然にして飾りいつはらざる心。  
 【赤化運動】セキカウドウ 過激思想を増長延蔓せしめんとする運動。  
 【赤脚大仙】セキキョウタイセン 道教の神、すあしの仙人。  
 【赤化防止】セキカフバリ 過激思想のはびこることを防ぐこと。  
 【赤道直下】セキドウチョウカ 赤道線のました。  
 【赤縣神州】セキケンショウ 支那の異稱。  
 【赤荷證書】アカニシヨウシヨ 船荷證書の一種にして朱字を以て印刷せるにより名づく  
 【赤道無風帶】セキドウムフウタイ 赤道の南北に起る兩貿易風の下層流が赤道地方にて會する時大氣が概して靜穩なるよりいふ。  
 【訓讀】  
 【赤心】赤心を推して人の腹中に置く 推ニ赤心一置ニ人腹中一 せきしんを押ししてひとのふくもらうに置く

類語

まことの心を以て人に交はること。  
 六赤リク 丹赤セキ 紅赤コウ 赧赤セキ

四一五畫

救

シヤ 救

①ゆるす(宥免) ②ゆるし、寛假  
 【救免】シヤマン 罪をゆるす。  
 【救例】シヤレイ 特典によりて罪をゆるしたるためし。  
 【救宥】シヤウ 救免に同じ。  
 【救原】シヤゲン 同上。  
 【救貸】シヤタイ 罪あるものをゆるす。

類語

大赦ダイ 三赦サン 曲赦キョク 免赦メン  
 放赦ハウ 特赦トウ 恩赦オン 誅救チウ  
 寛赦カン

赧

タン 赧

①はちて顔を赤くする、赤面 ②はちる  
 貌 ③周代最後の王の名  
 【赧面】タンメン 面を赤くすること、はちる

類語

【赧々】タンタン 顔ちて面の赤き貌。  
 【赧愧】タンキ ちて顔を赤くすること。  
 【赧然】タンゼン 恥ぢるさま。  
 【赧顔】タンガン 赤面に同じ。  
 【赧獻】タンケン 周の赧王と後漢の獻帝、共に暗愚にして權臣に制せられ國を亡ぼしたる者。  
 【赧々然】タンタンゼン さまりわるく思ふ貌、はちいるさま。

七一九畫

赫

カク 赫

①赤き貌 ②ひかる(光)かやく(耀) ③明らかに著しきさま ④勢ひの盛んなるさま ⑤怒る貌  
 【赫火】カクカ 盛んなる火。  
 【赫如】カクジョ かやく、又明らかなること。  
 【赫灼】カクシャク ①光りかやく貌 ②熱きことの形容。  
 【赫奕】カクニキ 光りかやく貌。  
 【赫明】カクメイ かやくてあきらかなり。  
 【赫炳】カクヘイ 赫灼に同じ。  
 【赫威】カクキ 威勢のはげしきこと。

類語

【赫怒】カクド 大いに怒るさま。  
 【赫煇】カクケン 勢のさかんなるさま。  
 【赫焉】カクエン ①かやくさま ②著明なること。  
 【赫然】カクゼン ①いかる、むつとするさま ②屍體の手足のはなれる貌。  
 【赫陽】カクヤウ 日のひかりかやくこと。  
 【赫々】カクカク ①夏の日の暑氣の甚しきをいふ ②火の燃えること ③光りかやくさま、又著明なる貌。  
 【赫耀】カクヨウ ひかりかやくこと。

類語

炎赫エン 光赫クワツ 丕赫ヒ 翕赫カフ  
 煥赫カクワン 震赫シン 洪赫コウ 電赫カデン  
 隆赫リョウ 輝赫カク 扇赫セン 顯赫ケン

赧

チイ 赧

①赤色の土、あかつち、轉じて禿山 ②あか、あかし、二度染の赤色  
 【赧文】チイブン 赤色のあや。  
 【赧屑】チイセン 赤色のくちびる。  
 【赧膚】チイフ 赤色のはだへ。  
 【赧】チヤ

【赤土】アカド あか、あかし(赤)赤土の色。  
 【赤山】アカヤマ 草木のなき山、はげやま。  
 【赤衣】アカイ 赤色の衣服、罪人の著物。  
 【赤汗】アカカン 名馬の汗、血の様なあせ。  
 【赤面】アカメン あからがほ、あかづら。  
 【赤壁】アカキ 赤は赤、壁は白、壁を塗りたる色。  
 【赤白馬】アカハクバ 赤黒色をさした白馬、つきげの馬。

走部

【走】ソウ 走部

【走】ソウ 走部  
 ① 走る、はしる、かける、逃れる、敗北する。② つく、おもむく(赴)③ はしらす、かけらす、おひはらふ④ 小使、めしつかひ、又自己の謙稱⑤ すべて地上をはしるもの  
 【走肉】ソウニク 生きてゐながら生きがひのなき者を嘲る語。  
 【走卒】ソウソツ めしつかひ、こもの。  
 【走使】ソウシ 急ぎの使ひ、はしりつかひ。  
 【走狗】ソウコ 狩獵等に使はれる犬、轉じて人の手先となる者。

て人の手先となる者。  
 【走浪】ソウラウ 水勢のはやきなみ。  
 【走書】ソウショ 是しりがき、急ぎで文字をかくこと。  
 【走船】ソウセン 次に同じ。  
 【走詞】ソウジ はやふね、輕舸。  
 【走集】ソウシツ 變事ある時兵卒がはしり集る義にて國境のとりで。  
 【走漏】ソウロウ 秘密の他にもれること。  
 【走獸】ソウジュ 獸類の總稱。  
 【走路】ソウロ 血路、にげみち。  
 【走湯】ソウトウ いてゆ、温泉。  
 【走百病】ソウヒヤクヘイ 正月十六日のよひ寺觀に遊び百病を驅除するといふ年中行事にして我國のやぶいりに相當す。  
 【走馬燈】ソウマトウ まはりどうろう、轉じて物事の急變なることに譬へる。  
 【走禽類】ソウキンレイ 駝鳥の如く翼が不完全で飛翔することができず疾走する鳥類  
 【走戸行肉】ソウコウニク 肉體が生きてゐるといふのみにて生きがひなき者。

類語

【下走】ソウカ 疾走ソウカ 奔走ソウカ  
 【遠走】ソウエン 逐走ソウク 驚走ソウキ 迅走ソウジン  
 【遁走】ソウテン 亡走ソウボウ 歩走ソウボ 馳走ソウチ

赴

二畫

【赴】キウ 狂走ソウキウ 競走ソウキウ 敗走ソウバイ 跣走ソウセン 走に同じ

赴

フ

赴

【赴】キウ 赴部  
 ① おもむく、至る、行く、向ふ、投ず② 應ず、したがふ③ つぐ(告)おもむき告げる、死去をつけ知らす、又そのこと  
 【赴任】フニン 官吏などが任地におもむく  
 【赴至】フシ おもむきいたる。  
 【赴告】フコク 死去をつけ知らす。  
 【赴趨】フリュ すみやかに行くこと。  
 【赴闕】フケツ 王宮にいたること。  
 【赴救】オモムキケツ 往きて助ける。

類語

【速赴】ソウキウ 奔走ソウキウ 掩赴ソウケン 電赴ソウデン

三畫

起 赴

起に同じ

起

【起】キ 起部  
 ① おこす、立たせる、縦にする、建築す② はじめる、盛んにひらく(開)悟らしめる、目を覚ませる③ 又人を擧用す④ おこる、はじまる⑤ おこり、もと、はじめ⑥ たつ(立)おきる、おこす、目がさめる、奮發す⑦ 生きて活動すること  
 【起工】キコウ 土木工事をはじめ起す。  
 【起句】キク 詩の第一句の稱。  
 【起用】キヨウ 人を官職に擧用すること、休職者・免職者等を再び登用すること。  
 【起立】キリツ 座席よりたちあがる。  
 【起因】キイン 始まり、おこり。  
 【起伏】キフク おこること、ふすこと。  
 【起居】キキョ ① たちあふるまひ、舉動② おきふし、起臥③ 安否、きげん等の意。  
 【起死】キシ 一度死したるものを再び蘇生せしむること。  
 【起初】キショ 最初、はじまり。  
 【起牀】キシヤウ ねどこよりおき出ること。  
 【起臥】キダウ おきふし。  
 【起首】キシュ おこり、物事のはじまり。

【起原】キゲン もと、はじまり、起源、原因。  
 【起家】キカ 一度おとろへし家を再びおこすこと。  
 【起草】キソウ 詩文又は議案などの草稿を書きはじめること。  
 【起訴】キソ 訴訟をおこすこと。  
 【起復】キフク 荷おろし、荷あげ。  
 【起程】キテイ 旅に出かける、發程。  
 【起碇】キテイ 碇をあげる、ふなで。  
 【起債】キサイ ① 國家又は自治團體が公債を募集しはじめること② 金をかりる。  
 【起業】キゲウ 事業をはじめること。  
 【起滅】キメツ おこること、ほろびること、盛衰。  
 【起端】キタン 事のおこりはじめ。  
 【起算】キサン かぞへはじめ。  
 【起請】キセイウ ① 約束書② 神佛にちかひて記す誓約文。  
 【起稿】キコウ 文の草稿を書き初める。  
 【起頭】キトウ はじめ、おこり。  
 【起點】キテン 物事のはじまりの所。  
 【起算日】キサンビ 期間計算の起點たるべき第一日。  
 【起重機】キヂユウキ 重き物を動かし又はあ

類語

【起承轉結】キショウテンケツ 起とは詩の第一句にして詩意を起し、承とは第二句にして之をうけつぎ、第三句の轉となり意を轉じて別境を開き、結とは第四句にして全體をむすぶこと。  
 【晏起】キアン 蜂起キアン 驚起キイ 早起キソウ  
 【蚤起】キソウ 累起キルキ 隆起キリュウ 紛起キン  
 【睡起】キスイ 曉起キョウ 晨起キシン 坐起キザ  
 【勃起】キボツ 飛起キヒ 奮起キブン 重起キチヨウ  
 【峻起】キジュン 屈起キクツ 緣起キエン 喚起キワク  
 【起】キ 起部  
 【起】キ 起部

はれる、をどる、跳躍

五畫

趁

チン

おふ(逐)おつかける

【趁社】チンシヤ 人々が會衆に赴くこと。

【趁趕】チンカン おひかける、おひまはる。

越

シヨツ

超

テウ

越超は行きなやむさま、うろつくさま

超

テウ

①こゆ、こす、とびこす。②まさる、すぐれる、又順序によらずに進む、又餘計になる。③こゑる貌、すぐれるさま

【超人】テウジン 性質が普通人の能力又は行為を超絶せること、又その者。

【超凡】テウフン 超倫に同じ。

【超世】テウセ ①一世にすぐれる。②世俗とかけはなれる。

【超越】テウエツ ①すぐれる、まさる。②世俗をはなれこえる。③とびこえる。

【超遠】テウエン はなれて遠きこと。

【超逸】テウイツ まさる、ぬけ出る。

【超階】テウカイ 超遷に同じ。

【超過】テウワウ ①普通よりすぐれる。②或數量が他の數量よりも多きこと。

【超群】テウケン 超倫に同じ。

【超歳】テウサイ 新年を迎へる、年をこす。

【超遷】テウセン 順序によらず一足とびに上の官位に進む。

【超擢】テウタク 他人をとびこえて高き地位に引き上げられる。

【超騰】テウトウ をどりこえる。

【超邁】テウマイ まさりすぐれること。

【超自然】テウゼン 自然の作用にては有り得ざること、自然法にて説明出来ぬと。

【超然内閣】テウゼンナイカク 政黨に實權關係をもたぬ内閣。

【超弩級艦】テウドクキフカン 弩級艦以上の巨艦にして十六吋砲を主砲とす、轉じて大人物のこと。

越

エツ ヲチ

①こゆ、こす、過ぐ、度をすこす、通

越

【越】エツ ヲチ

【越】エツ ヲチ

【越】エツ ヲチ

【越】エツ ヲチ

【越】エツ ヲチ

【越】エツ ヲチ

【越】エツ ヲチ

【越】エツ ヲチ

【越】エツ ヲチ

【越】エツ ヲチ

【越】エツ ヲチ

【越】エツ ヲチ

【越】エツ ヲチ

【越】エツ ヲチ

【越】エツ ヲチ

【越】エツ ヲチ

【越】エツ ヲチ

【越】エツ ヲチ

【越】エツ ヲチ

【越】エツ ヲチ

【越】エツ ヲチ

【越】エツ ヲチ

【越】エツ ヲチ

【越】エツ ヲチ

【越】エツ ヲチ

【越】エツ ヲチ

【越】エツ ヲチ

【越】エツ ヲチ

【越】エツ ヲチ

【越】エツ ヲチ

【越】エツ ヲチ

【越】エツ ヲチ

【越】エツ ヲチ

【越】エツ ヲチ

【越】エツ ヲチ

【越】エツ ヲチ

【越】エツ ヲチ

【越】エツ ヲチ

【越】エツ ヲチ

【越】エツ ヲチ

【越】エツ ヲチ

【越】エツ ヲチ

【越】エツ ヲチ

【越】エツ ヲチ

【越】エツ ヲチ

【越】エツ ヲチ

【越】エツ ヲチ

【越】エツ ヲチ

【越】エツ ヲチ

越

シユ ソク

【越】シユ ソク

【越】シユ ソク

【越】シユ ソク

【越】シユ ソク

【越】シユ ソク

【越】シユ ソク

【越】シユ ソク

【越】シユ ソク

【越】シユ ソク

【越】シユ ソク

【越】シユ ソク

【越】シユ ソク

【越】シユ ソク

越

趙

テウ

【趙】テウ

【趙】テウ

【趙】テウ

【趙】テウ

【趙】テウ

【趙】テウ

【趙】テウ

【趙】テウ

【趙】テウ

【趙】テウ

【趙】テウ

【趙】テウ

【趙】テウ

【趙】テウ

【趙】テウ

【趙】テウ

【趙】テウ

【趙】テウ

【趙】テウ

【趙】テウ

【趙】テウ

【趙】テウ

【趙】テウ

【趙】テウ

【趙】テウ

【趙】テウ

【趙】テウ

【趙】テウ

【趙】テウ

【趙】テウ

【趙】テウ

【趙】テウ